

令和5年度 老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業

外国人介護福祉士の活動実態に関する
調査研究事業
報 告 書

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

令和6年（2024年）3月

目次

I.	事業概要	
1	背景	1
2	目的	1
3	プロジェクトアプローチ	2
4	本事業で使用する用語の整理	2
5	倫理的配慮	3
6	実施概要	3
7	実施体制	4
II.	外国人介護福祉士の基本情報	
1	外国人介護福祉士の基本情報	6
2	外国人介護福祉士を取り巻く状況	11
3	外国人介護福祉士に関して公開されている統計情報	13
4	外国人介護福祉士に関する調査研究事業等	13
III.	アンケート調査の設計	
1	設計にあたっての準備	16
2	ヒアリング調査の実施	17
IV.	アンケート調査結果	
1	アンケート調査結果概要	19
2	アンケート調査結果	21
①	基本情報	21
②	介護福祉士国家試験の受験状況	30
③	家族の状況	39
④	生活の状況	44
⑤	就労の状況	48
⑥	転職の状況	85
⑦	国外（日本にはいない方）の状況	92
V.	まとめ・考察	
1	基本情報	94
2	就労・転職の状況	94
3	生活・家族の状況	97
4	介護福祉士国家試験の受験状況	98
5	日本語能力	98
6	将来の意向	99
VI.	本調査を通して見えてきた課題と今後の展望	
1.	実態把握に関する課題	100

2.	外国人介護福祉士の活躍のために必要な支援等	101
3.	今後の展望	103
VII. 参考資料		
1	アンケート調査票依頼状	106
2	アンケート調査票本文	107
3	アンケート調査結果	138

I. 事業概要

1 背景

介護現場における外国人介護人材については、平成 20（2008）年から経済連携協定（E P A）に基づく介護福祉士候補者（以下、E P A介護福祉士候補者という。）の受入れから始まり、平成 29（2017）年 9 月には在留資格「介護」、同年 11 月には「技能実習」、平成 31 年 4 月に「特定技能」が創設されたことにより、現在、4 つのルートから受け入れている。その中でも、介護福祉士国家試験に合格した者は介護福祉士として就労しており、E P A介護福祉士（「特定活動」）と在留資格「介護」の 2 つに大別される。E P A介護福祉士候補者から介護福祉士国家試験に合格した者が E P A介護福祉士であり、留学生（介護福祉士養成施設の卒業者）や「技能実習（介護）」、「特定技能（介護）」として入国して 3 年以上の実務経験を経て介護福祉士国家試験に合格した者が在留資格「介護」である。

また、在留資格「介護」の在留者数は、制度創設時（平成 29（2017）年）には 18 人だったが、令和 5（2023）年 6 月末時点では 8,093 人と大幅に増加しており、今後もさらに増加することが予想される。「留学」や「技能実習」、「特定技能」による介護福祉士の取得ルートが拡大し、介護福祉士として就労する外国人介護人材が増加している一方、外国人介護福祉士全体の実態は定かではない。

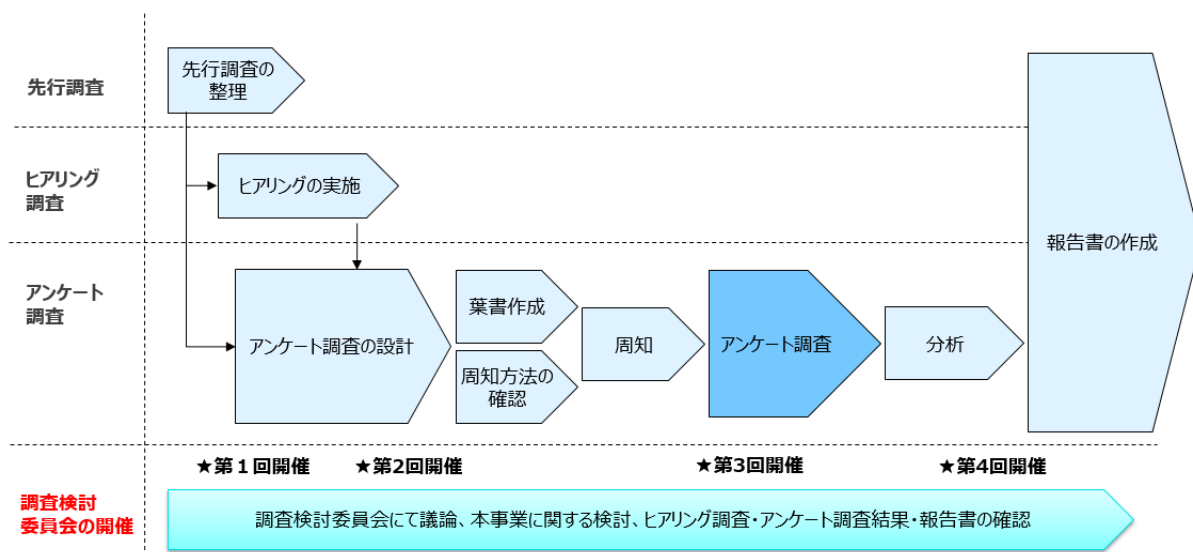
2 目的

日本の介護現場において中長期的な人材確保を図る上で、「特定活動（E P A）」、「介護」、「技能実習」、「特定技能」の外国人介護人材の受入れ、特に高い専門性を有し長く在留できる外国人介護福祉士の存在は重要である。本事業は、介護福祉士として登録している外国籍の者を対象にアンケート調査を行い、外国人介護福祉士が介護福祉士登録に至る経緯、日本での生活や就労等の実態を把握することで、今後の外国人介護人材の受入れや環境整備、定着に向けた支援等、外国人介護人材に係る施策の検討に資する基礎材料の作成を目的として実施した。

3 プロジェクトアプローチ

本事業では、介護福祉士国家試験合格者の情報を管理している公益財団法人社会福祉振興・試験センター（以下、試験センターという。）に協力いただき、介護福祉士として登録している外国籍の方を対象に、アンケート調査を行った。アンケート調査の設計にあたっては、先行調査の整理および外国人介護福祉士に登録する外国籍の方にヒアリング調査を実施し、調査項目や選択肢の検討を行った。

図表 1 プロジェクトアプローチ



4 本事業で使用する用語の整理

本事業において頻出する用語について、先行調査、国の資料での掲載内容、本事業で明らかにしたいことを踏まえ、以下の通り、定義の整理を行った。なお、在留資格は、原則として鍵括弧（「」）にて表記する。

<外国人介護福祉士>

公益財団法人社会福祉振興・試験センターに登録している介護福祉士のうち、外国籍の方。「特定活動（E P A）」及び在留資格「介護」に加え、すでに永住権を取得している者や「日本人の配偶者等」の身分・地位に関わる在留資格も含まれる。

<外国人介護人材>

上記、外国人介護福祉士に加え、介護福祉士には登録していなくても介護職として就労している者を含む、外国籍の方。

<4 制度>

平成 20（2008）年以降創設された介護職として就労するための 4 つの在留資格（「特定活動（E P

A)」、「介護」、「技能実習」、「特定技能」) のこと。本事業では、「4 制度」と記載する。

<身分・地位>

身分・地位に基づく在留資格（「永住者」、「日本人の配偶者等」、「永住者の配偶者等」、「定住者」）のうち、介護福祉士に登録している方。また、「特別永住者」に関しては、「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格ではないものの、身分・地位に基づく在留資格とサービス等の利用可否等の権利が変わらないこと等をふまえ、本事業では、身分・地位に基づく在留資格に含めて考察する。本事業では、「身分・地位」と記載する。

5 倫理的配慮

本事業では、外国人介護福祉士の就労や生活の実態を明らかにすることを目的としているため、アンケート調査項目については、在留資格の変遷、現在の収入、転職回数、今後の意向等、個人のプライバシーに関わる内容が含まれる。このため、個人情報収集せず、匿名回答でデータを収集した。また、事前の調査項目・選択肢の精査のために、外国人介護人材にヒアリングを行っているが、事業の趣旨を説明し、同意を得た上で事業を実施した。

6 実施概要

アンケート調査概要は下記の通り。

① 調査対象

- ・ 試験センターに登録している介護福祉士のうち、外国籍の方を対象とした。

② 有効回答者数／回答率

調査対象者数	有効回答数	回答率	調査票発送数（返送分除く）
18,915	2,089	14.3%	14,615

- ・ 令和5（2023）年8月末時点で、試験センターに登録している外国籍の介護福祉士は18,915名であった。
- ・ 調査票の送付に当たっては、下記対象者は調査票の送付が困難であることから、送付対象者から除外し、16,725名に対して調査票を発送した。

【送付除外者】

- 国外居住者：20名
- 令和2（2020）年度に試験センターが実施した「就労状況調査」にて宛先不明で返送された者且つその後も住所変更手続きのない者：2,170名
- ・ 調査票発送後、宛先不明で返送された者は2,110名であった。
- ・ アンケートは、途中保存を含め合計で2,715件の回答があった。回答完了した2,126件を対象に、帰化した者を除き、回答の確認、データクリーニングを実施した結果、有効回答数は2,089であった。回答の内訳は下記の通りである。

【回答の内訳】

- 途中保存：589
- 回答完了：2,126

③ 調査方法

- ・ 試験センターが委託している会社より調査協力依頼文（葉書）を郵送し、オンライン（WEB 調査システム）により回答を回収
- ・ 調査票はルビ付き日本語で表記

④ 調査期間

- ・ 令和 5（2023）年 9 月 25 日（月）～10 月 24 日（火）

7 実施体制

➤ 調査検討委員会の設置

本調査研究を効果的に実施するため、外国人介護福祉士に精通する学識者、有識者等による調査検討委員会を設置した。

図表 2 調査検討委員会 委員

氏名	所属先
伊藤 優子	龍谷大学 短期大学部 社会福祉学科 教授
井之上 芳雄	公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 副会長
今村 文典	公益社団法人 日本介護福祉士会 副会長
片岡 佳和	公益社団法人 国際厚生事業団 理事
◎川井 太加子	桃山学院大学 社会学部 教授
鈴木 俊文	静岡県立大学短期大学部 社会福祉学科 教授

（計 6 名 敬称略、五十音順、◎委員長）

図表 3 オブザーバー

氏名	所属先
須田 哲	公益財団法人 社会福祉振興・試験センター 試験室 登録部 部長
南谷 毅	公益財団法人 社会福祉振興・試験センター 試験室 登録部 登録課 課長代理
本間 隆	厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室室長補佐
武井 栄衛	厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 外国人介護福祉士支援係長 係長
前川 葵	厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室

（敬称略、五十音順）

図表 4 運営事務局

氏名	所属先
奈良 夕貴	先端技術戦略ユニット マネージャー
保坂 真名	先端技術戦略ユニット コンサルタント

➤ 調査検討委員会の開催

- ・ 第1回 令和5年（2023年）7月28日
- ・ 第2回 令和5年（2023年）8月31日
- ・ 第3回 令和5年（2023年）11月28日
- ・ 第4回 令和6年（2024年）2月9日

II. 外国人介護福祉士の基本情報

1 外国人介護福祉士の基本情報

① 在留資格の種類

出入国管理および難民認定法に定める在留資格一覧は以下の通りである。このうち、介護職として就労することを認められた在留資格は「介護」、「特定技能」、「技能実習」、「特定活動（E P A）」であるが、身分・地位に基づく在留資格は活動制限がないことから、自分の意志で介護職として就労することが可能である。また、「家族滞在」も実務経験を経て介護福祉士を受験することが可能である。

図表 5 「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格一覧

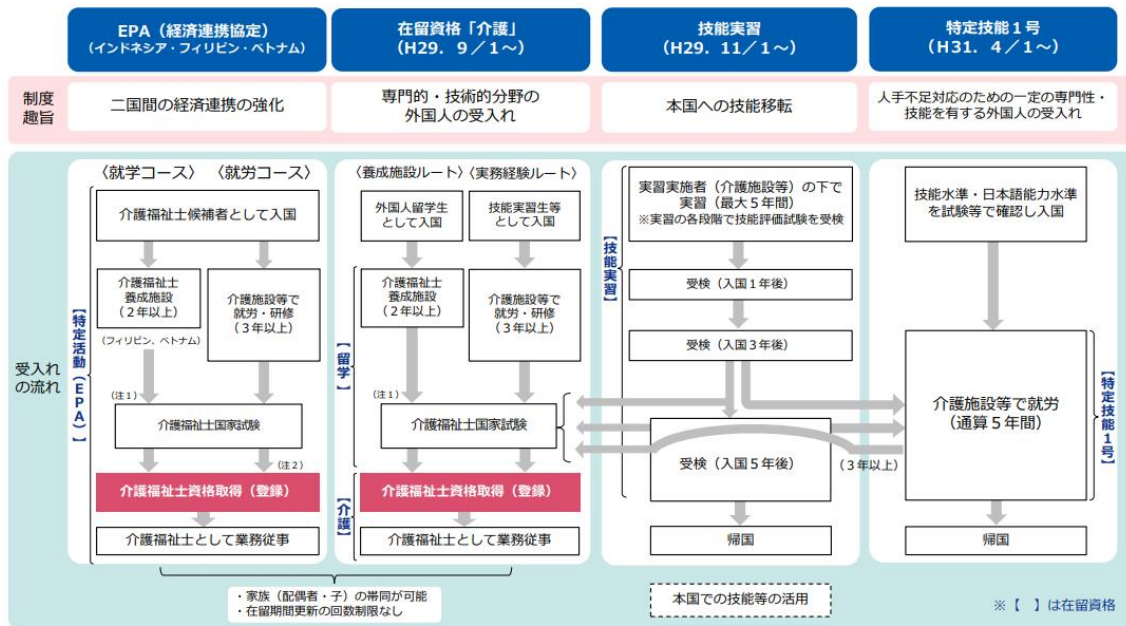
【就労が認められる在留資格（活動制限あり）】		【身分・地位に基づく在留資格（活動制限なし）】	
外交	外国政府の大使、公使等及びその家族	永住者	永住許可を受けた者
公用	外国政府等の公務に従事する者及びその家族	日本人の配偶者等	日本人の配偶者・実子・特別養子
教授	大学教授等	永住者の配偶者等	永住者・特別永住者の配偶者、我が国で出生し引き続き在留している実子
芸術	作曲家、画家、作家等	定住者	日系3世、外国人配偶者の連れ子等
宗教	外国の宗教団体から派遣される宣教師等	【就労の可否は指定される活動によるもの】	
報道	外国の報道機関の記者、カメラマン等	特定活動	経済連携協定に基づく外国人看護師・介護福祉士候補等、外交官等の家事使用人、ワーキングホリデー等
高度専門職（1号・2号）	ポイント制による高度人材	【就労が認められない在留資格】※	
経営・管理	企業等の経営者・管理者等	文化活動	日本文化の研究者等
法律・会計業務	弁護士・公認会計士等	短期滞在	観光客、会議参加者等
医療	医師、歯科医師、看護師等	留学	大学、専門学校、日本語学校等の学生
研究	政府関係機関や企業等の研究者等	研修	研修生
教育	高等学校・中学校等の語学教師等	家族滞在	就労資格等で在留する外国人の配偶者・子
技術・人文知識・国際業務	機械工学等の技術者、通訳、デザイナー、語学講師等	※資格外活動許可を受けた場合は、一定の範囲内で就労が認められる。	
企業内転勤	外国の事務所からの転勤者		
介護	介護福祉士		
興行	俳優、歌手、プロスポーツ選手等		
技能	外国料理の調理師、スポーツ指導者等		
特定技能（1号・2号）	特定産業分野の各業務従事者		
技能実習（1号・2号・3号）	技能実習生		

出典：出入国在留管理庁「在留資格一覧表」を加工 <https://www.moj.go.jp/isa/applications/guide/qaq5.html>

② 外国人介護人材（4制度）の受入れルート

現在、身分・地位の在留資格を除き、介護職として就労するための在留資格（「特定活動（E P A）」、「介護」、「技能実習」、「特定技能」）は4つある。令和2（2020）年4月1日より、在留資格「介護」に実務経験ルートが加わったことにより、日本では期限付きの就労である「技能実習」や「特定技能」の在留資格でも、介護福祉士国家試験を受験し、合格することで、引き続き日本に在留することができるようになった。なお、介護福祉士国家試験に合格後も、「技能実習」や「特定技能」の場合、在留期限が残っていれば在留資格を変更せずに在留することが可能であるが、多くは、在留資格を「介護」に変更していると思われる。なお、E P A介護福祉士候補者が介護福祉士国家試験に合格後も同様であり、E P A介護福祉士（在留資格は「特定活動（E P A）」）として在留することができるが、在留資格を「介護」に変更することも可能である。

図表 6 外国人介護人材受入れの仕組み



（注1）平成29年度より、養成施設卒業生も国家試験合格が必要となった。ただし、令和8年度までの卒業生には卒業後5年間の経過措置が設けられている。

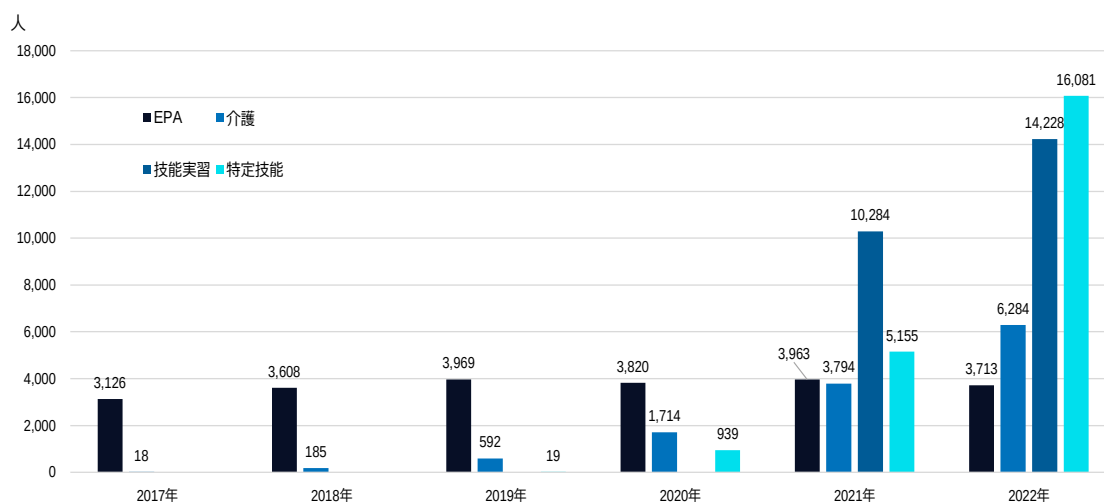
（注2）4年間にわたりEPA介護福祉士候補者として就労・研修に適切に従事したと認められる者については、「特定技能1号」への移行に当たり、技能試験及び日本語試験等を免除。

出典：厚生労働省 HP <https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/000994004.pdf> を一部加工

③ 介護職として働く外国人の推移

「特定活動（E P A）」以外は平成 29（2017）年以降創設された仕組みであるが、在留者数は年々増加傾向にある。「特定活動（E P A）」は、国内労働市場への影響等を考慮して、現在最大人数は各国 300 人としており、在留者数の伸び率は大きくないが、それ以外の在留資格の人数は、制度創設以降に大きく増加し、「技能実習」と「特定技能」の在留者数はどちらも 10,000 人を超えている。図表 7 のグラフには含まれないものの、すでに日本に在留している「永住者」や「日本人の配偶者等」の介護職を加えると、さらに多くの外国人が介護職として就労していることが明らかである。

図表 7 外国人介護人材（在留資格別）の推移



出典：EPA、在留資格「介護」は「在留外国人統計」（出入国在留管理庁）、技能実習は「職種・作業別 在留資格「技能実習」に係る在留者数」（法務省）、特定技能は「特定技能在留外国人数」（出入国在留管理庁）より

注

- ・ 「在留外国人統計」は 12 月末時点の数値である。
- ・ 「技能実習」の「職種・作業別 在留資格「技能実習」に係る在留者数」は、12 月末時点の数値である。令和 2（2020）年度以前は職種別の在留者数が明らかではないことから空欄としている。
- ・ 「特定技能」は 12 月末時点の数値である（出入国在留管理庁が「特定技能在留外国人数 第 4 表」として公表。
- ・ 「EPA」は、EPA 介護福祉士候補者と EPA 介護福祉士、EPA 看護師候補者と EPA 看護師の総数である。なお、EPA の家族帯同者は 454 名である。

④ E P Aの合格者数の推移、合格率の推移

入国年度別のE P A介護福祉士候補者の累計合格率の推移は下記の通りである。ベトナムの合格率は、介護福祉士国家試験の全体の合格率よりも高く、ほとんどの候補者が合格している。

図表 8 EPA 介護福祉士 入国年度別候補者の累積合格率

【入国年度別候補者の累積合格率】

		受験者数 (人)	累積 合格者(人)	(内訳)												累積 合格率(%)
				第24回	第25回	第26回	第27回	第28回	第29回	第30回	第31回	第32回	第33回	第34回	第35回	
				H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	
インドネシア	第1陣(H20年度入国)	94	50	35	10	1				1					3	53.2
	第2陣(H21年度入国)	165	88	-	75	5	2			1		2	1		2	53.3
	第3陣(H22年度入国)	71	55	-	1	40	1	2							1	77.5
	第4陣(H23年度入国)	52	40	-	-	-	34	4		1	1					76.9
	第5陣(H24年度入国)	65	51	-	-	-	-	42	6		1			2		78.5
	第6陣(H25年度入国)	99	69	-	-	-	-	-	62	5	1			1		69.7
	第7陣(H26年度入国)	124	77	-	-	-	-	-	-	54	9	4	1	2	7	62.1
	第8陣(H27年度入国)	189	113	-	-	-	-	-	-	-	65	19	11	4	14	59.8
	第9陣(H28年度入国)	210	123	-	-	-	-	-	-	-	1	82	25	7	10	58.6
	第10陣(H29年度入国)	265	151	-	-	-	-	-	-	-	-	-	108	17	26	57.0
	第11陣(H30年度入国)	275	178	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	89	88	64.7
	第12陣(R元年度入国)	284	192	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	191	67.6
	第13陣(R2年度入国)	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	100.0
フィリピン	第1陣(H21年度入国)	139	57	1	40	6	3		1	3	1				2	41.0
	第2陣(H22年度入国)	52	35	-	1	26	5			1	1					67.3
	第3陣(H23年度入国)	51	27	-	1	-	20	6								52.9
	第4陣(H24年度入国)	56	34	-	-	-	1	24								60.7
	第5陣(H25年度入国)	67	40	-	-	-	1	4	25	7	1				2	59.7
	第6陣(H26年度入国)	122	69	-	-	-	-	-		48	11	5			4	56.6
	第7陣(H27年度入国)	170	108	-	-	-	-	-	1	1	78	11	9	3	4	63.5
	第8陣(H28年度入国)	221	128	-	-	-	-	-	-	-	1	73	35	3	16	57.9
	第9陣(H29年度入国)	228	133	-	-	-	-	-	-	-	1	2	83	17	29	58.3
	第10陣(H30年度入国)	211	128	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	73	51	60.7
	第11陣(R元年度入国)	220	126	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	126	57.3
	第12陣(R2年度入国)	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	100.0
ベトナム	第1陣(H26年度入国)	96	91	-	-	-	-	-	-	89	2					94.8
	第2陣(H27年度入国)	103	101	-	-	-	-	-	-	-	91	4	1		1	98.1
	第3陣(H28年度入国)	141	137	-	-	-	-	-	-	-	-	130	6		1	97.2
	第4陣(H29年度入国)	169	165	-	-	-	-	-	-	-	-	-	157	4	4	97.6
	第5陣(H30年度入国)	174	167	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	152	15	96.0
	第6陣(R元年度入国)	157	152	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	152	96.8
合計		4,275	2,890	36	128	78	78	82	104	213	266	337	440	374	754	67.6

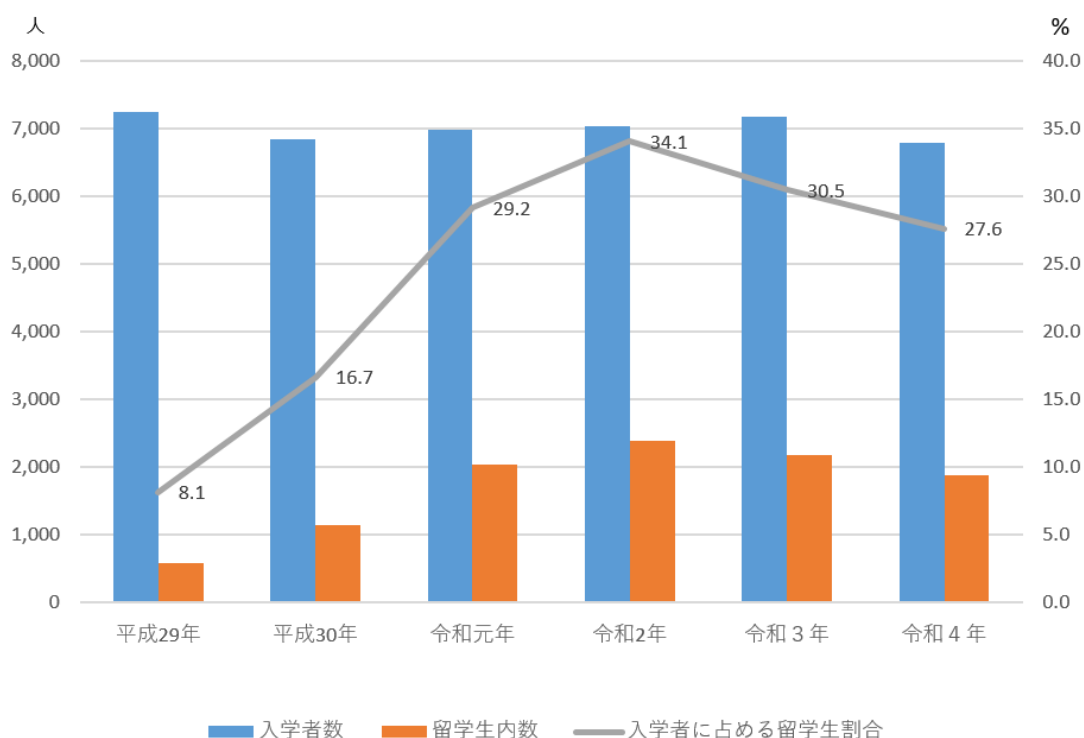
■…本来の受験年度の者 ▨…再受験年度の者 ▩…その他

出典：厚生労働省 HP <https://www.mhlw.go.jp/content/12004000/001075864.pdf>

⑤ 養成施設における留学生数の推移

現在、在留資格「介護」の大半を占めるルートは介護福祉士養成施設（以下、養成施設）を卒業する養成施設ルートである。養成施設の入学者の内、平成 29（2017）年以降、留学生は増加傾向にあり、現在は養成施設の入学者の約3割を留学生が占めている。「介護福祉士養成施設における外国人留学生受入数の推移等」（公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会）によると、令和4年度の留学生の出身国は22か国に及び、様々な国から留学生が日本に学びに来ていることがわかる。

図表 9 養成施設における留学生の受入れ人数の推移



出典：日本介護福祉士養成施設協会介護福祉士養成施設における外国人留学生受入れ数の推移等
(https://kaiyokyo.net/news/r3_foreign_students.pdf) より作成

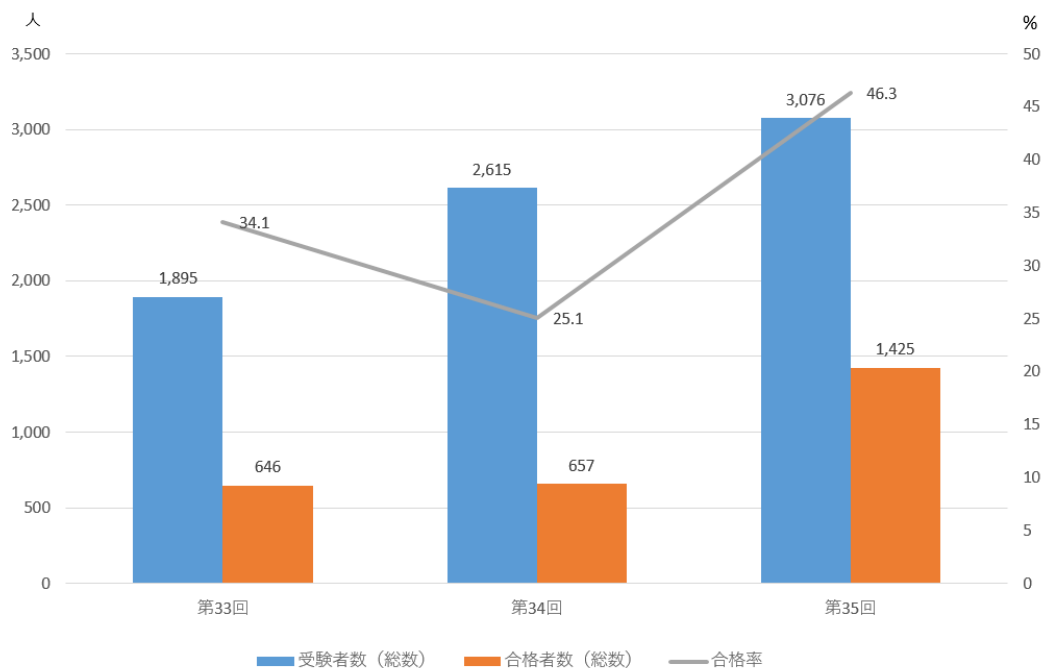
また、養成施設ルートでの留学生の受験者数、合格者数も年々増加傾向にある。

図表 10 養成施設ルート（留学生受験者）の受験者数・合格者数・合格率

		総数			新卒			既卒			学校数
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第 33 回	R3. 1. 31	1, 895	646	34. 1	1, 652	606	36. 7	243	40	16. 5	167 校
第 34 回	R4. 1. 30	2, 615	657	25. 1	2, 053	616	30. 0	562	41	7. 3	186 校
第 35 回	R5. 1. 29	3, 076	1, 425	46. 3	2, 151	1, 083	50. 3	925	342	37. 0	188 校

出典：第 33～35 回介護福祉士国家試験養成施設等別合格率（厚生労働省）

図表 11 養成施設ルート（留学生受験者）総数の受験者数・合格者数・合格率



出典：第 35 回介護福祉士国家試験 養成施設等別合格率、第 34 回介護福祉士国家試験 養成施設等別合格率、第 33 回介護福祉士国家試験 養成施設等別合格率 より作成

2 外国人介護福祉士を取り巻く状況

① 介護福祉士国家試験における配慮

介護福祉士国家試験については、平成 22（2010）年 6 月 18 日閣議決定の「規制・制度改革に係る対処方針」の中で、国家試験における「E P Aに基づく看護師、介護福祉士候補者への配慮」が規制改革事項として挙げられ、平成 22（2010）年度中に措置されることになった。

また、「東アジア共同体構想に関する今後の取組について」（平成 22（2010）年 6 月 1 日政府とりまとめ）及び「新成長戦略について」（平成 22（2010）年 6 月 18 日 閣議決定）においても、看護師国家試験及び介護福祉士国家試験のあり方に関して検討、あるいは見直しを行うこととされ、平成 23（2011）年度介護福祉士国家試験より、試験問題中で使用する用語について、外国人に配慮し、わかりやすい表現になるよう問題を作成している。

さらに、平成 24（2012）年度介護福祉士国家試験からは、E P A介護福祉士候補者については、全ての漢字にふりがなを付した試験問題を配付し、筆記試験の時間を通常 210 分（3 時間 30 分）から 315 分（5 時間 15 分）に延長している。E P A介護福祉士候補者以外の外国の国籍を有する方または日本に帰化された方についても、平成 27（2015）年度介護福祉士国家試験から、受験申込時の申請により、E P A介護福祉士候補者と同様の配慮を行っている。

② 介護福祉士養成施設卒業者に対する国家試験義務付けの経過措置

国家資格は、基本的には国家試験に合格することで取得できるものであるが、現在、介護福祉士に関しては、介護福祉士養成施設出身者の国家試験の義務化は令和 9（2027）年度を予定している。

経過措置はあくまでも暫定的なものであり、この間に、養成施設の教育の質を上げ、国家試験合格率を高めていくことが必要であるが、経過措置期間内（令和 9（2027）年 3 月 31 日）までに卒業した者については、介護福祉士国家試験に合格しなくても（不合格又は受験しなかった者）、卒業年度の翌年度から 5 年間は介護福祉士となる資格を有する者とする経過措置が設けられている。

「学校種別 令和 4 年度介護福祉士国家試験受験率及び合格率（留学生）」では、卒業生 2,217 名のうち 2,108 名が受験（受験率 95.1%）しており、合格者は 1,085 名（合格率 51.5%）であった。本事業のアンケート調査結果からは、介護福祉士を（再）受験しない理由として「5 年間就労すればよい」という回答があり、今後、経過措置期間が終了した場合には、在留資格「介護」の在留者数等に影響することも想定される。

図表 12 学校種別 令和 4 年度介護福祉士国家試験受験率及び合格率（留学生）

	卒業生	入学した年度の 入学者数	受験者数	合格者数	受験率	合格率
令和 4 年度	2,217	2,465	2,108	1,085	95.1%	51.5%

出典：厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/001220074.pdf>

図表 13 国家試験義務付けの経過措置の経緯

- ・ **昭和 62（1987）年** 国家資格として介護福祉士が制定
- ・ **平成 19（2007）年** 「社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律」の改正により、国家試験が義務化
 - 養成施設卒業者は国家試験を受験しなくても、介護福祉士を取得できる仕組みとなっていたが、養成課程を修了するだけで国家資格を取得できるのは少数に限られていること、養成施設によって修了者のレベルにばらつきがあること等の課題が指摘されていた。
 - 5 年間の経過措置を置き、平成 24（2012）年度から国家試験の義務化を実施する予定となった。
- ・ **平成 23（2011）年** 「介護サービスの基盤強化のための介護保険等の一部改正をする法律」により、施行を 3 年間延期、平成 27（2015）年となった。
- ・ **平成 26（2014）年** 「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律（医療・介護総合確保推進法）」が成立し、施行は平成 28（2016）年度に 1 年延期された。
- ・ **平成 28（2016）年** 「社会福祉士法等の一部を改正する法律」により、平成 29（2017）年度～令和 3（2021）年度までに養成施設を卒業した人については、卒業した日の属する年度の翌年度 4 月 1 日から 5 年間、暫定的に介護福祉士を付与するという特例を設けた。
- ・ **令和 2（2020）年** 「社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律」の改正により、暫定的な特例を令和 8（2026）年度卒業までとした。

3 外国人介護福祉士に関して公開されている統計情報

外国人介護福祉士に関して、現在公開されている統計情報は下記の通りとなっている。

外国人介護福祉士としてとりまとめられた情報は公開されておらず、在留資格別に一部公開されている。

図表 14 外国人介護福祉士に関して公開されている統計情報

	法人名	データ名 1	データ名 2	内容	集計時期
1	出入国在留管理庁	在留外国人統計	第 1 表 国籍・地域別 在留資格 (在留目的) 別 在留外国人	在留資格別 (介護) × 国籍	6 末 / 12 末
2	出入国在留管理庁	在留外国人統計	第 3 表の 2 市区町村別 在留資格別 在留外国人	在留資格別 (介護) × 市町村	6 末 / 12 末
3	厚生労働省	E P A 介護福祉士候補者の試験結果	介護福祉士国家試験結果	初受験者、再受験者	3 末
4	厚生労働省	E P A 介護福祉士候補者の試験結果	介護福祉士国家試験の内訳・入国 年度別候補者の累積合格率	入国年度 × 合格年度	3 末
5	厚生労働省	E P A 介護福祉士候補者の試験結果	外国人介護福祉士候補者の受入れ施設名等	都道府県別受入れ施設名	3 末
6	厚生労働省	介護福祉士国家試験合格発表	(参考資料) 介護福祉士国家試験 養成施設等別合格率	養成施設 (留学生) の合格者数 (新卒・既卒)	3 末
7	日本介護福祉士養成施設協会	卒業生 進路調査報告	—	卒業生の進路	9 月
8	日本介護福祉士養成施設協会	介護福祉士養成施設への入学生 の定員充足状況等に関する調査結果	介護福祉士養成施設への入学者 数と外国人留学生	外国人留学生の入学者数	9 月
9	日本介護福祉士養成施設協会	—	外国人留学生受入数の推移等	外国人留学生の受入れ人数の推移	9 月

出典：各種統計情報を参考に作成

4 外国人介護福祉士に関する調査研究事業等

外国人介護福祉士の実態に関する調査研究は実施されていないものの、介護福祉士を目指す外国人介護人材の学習支援や活躍・定着等に関する調査研究は複数実施されている。

令和元 (2019) 年以前は、外国人介護人材の受入れの実態調査が中心だったが、在留資格の拡大により外国人介護人材の受入れが進んだこともあり、介護福祉士取得に向けた学習支援に関する調査、外国人介護人材及び外国人介護福祉士の活躍支援に着目した調査等、テーマが広がっている。

図表 15 外国人介護福祉士等に関する先行調査

◆ 令和4年度

事業・団体名	概要	調査対象
EPA に基づく外国人介護福祉士候補者が受入れ施設で習得する介護技術の統一的な評価方法を確立するための調査研究事業（公益社団法人国際厚生事業団）	・EPA 介護福祉士候補者の介護技術習得に向けた研修について、受入れ施設の指導体制、研修および評価方法、研修を実施するうえでの課題等の実態を把握するため、受入れ施設を対象としたアンケートおよびヒアリング調査を実施 ・介護導入研修テキストを補完する目的として、「EPA 介護福祉士候補者が介護過程を理解するための手引き」を作成	施設事業所
外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業（公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会）	留学生が、日ごろの授業での取り組む姿勢や態度を含む国家試験に向けた学習方法について参考にできるよう、養成校に在籍する留学生へのアンケート調査、現役で国家試験に合格した現在介護施設に従事する元留学生へのヒアリング調査等を実施し、それらの結果等をふまえて「留学生に向けた学習ハンドブック」（別冊）を作成	外国人介護人材養成施設
外国人介護人材の介護福祉士取得に向けた調査研究事業（三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社）	外国人介護人材の介護福祉士国家資格取得に関する現状と課題を把握・整理し、引き続き在留を希望する外国人介護人材のための制度的な検討を含めた支援策や外国人介護人材のキャリア支援のあり方等について検討することを目的とし、関係団体等からの意見聴取および検討委員会での議論等を実施	施設・事業所 監理団体 登録支援機関
在留資格「介護」の実態把握及び活躍支援に向けた調査研究事業（公益社団法人日本介護福祉士会）	在留資格「介護」で就労する外国人介護職員の一層の活躍支援に向けた方策を検討するため、外国人介護職員及び施設・事業所にアンケート調査、ヒアリング調査を実施し、就労の実態把握を行うとともに、その結果を踏まえ、事例集を作成	施設・事業所 外国人介護人材

◆ 令和3年度

事業・団体名	概要	調査対象
外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業（公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会）	・留学生だけでなく EPA 介護福祉士候補者も含めた外国人介護人材への国家試験対策における指導の在り方や方策について検討するため、先行研究・調査の分析、介護福祉士養成施設の主に教員（講師）を対象としたアンケート調査、ヒアリング調査、授業参観・教員研修会の実施 ・上記調査結果等を踏まえ「介護福祉士国家資格取得に向けた指導のポイント」（別冊）を作成	外国人介護人材養成施設

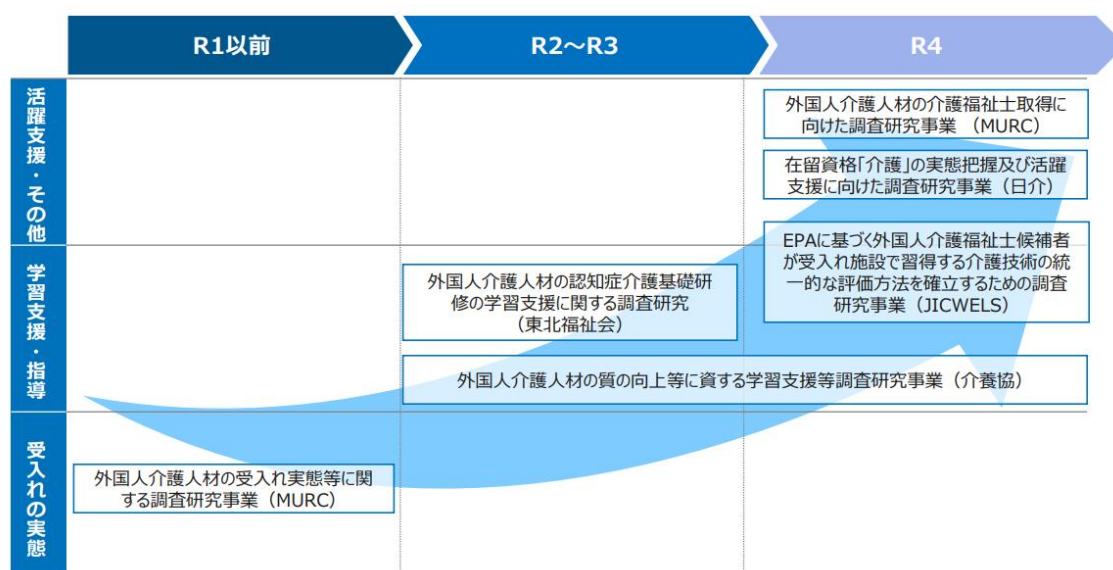
◆ 令和2年度

事業・団体名	概要	調査対象
外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業（公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会）	介護福祉士国家試験における留学生の合格率が低いことから、先行研究・調査分析、留学生・介護福祉士養成施設へのアンケート調査、ヒアリング調査、試行試験・模擬試験を実施し、その調査結果を踏まえ、養成校教員（講師）を対象とした「介護福祉士国家資格取得に向けた留学生指導についてのガイドライン」（別冊）を作成	外国人介護人材養成施設

◆ 令和元年度

事業・団体名	概要	調査対象
外国人介護人材の受入れ実態等に関する調査研究事業（三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社）	外国人介護職員の育成やキャリア支援の実態や課題等を把握するとともに、外国人介護職員がキャリアアップして（介護福祉士の資格を取得等）地域に定着した事例等を収集することによって、外国人介護職員の受入れ及び定着促進を図ることを目的とし、アンケート調査、ヒアリング調査を実施し、ガイドブックを作成	施設・事業所 外国人介護人材

図表 16 外国人介護福祉士等に関する先行調査の広がりイメージ



出典：厚生労働省の採択事業をもとに作成

III. アンケート調査の設計

1 設計にあたっての準備

① 参考にした先行研究

調査票の項目・設問・選択肢の検討にあたっては、以下の調査を参考にした。

- ・ 令和元年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業 「外国人介護人材の受入れ実態等に関する調査研究事業」（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング）
- ・ 令和2年度「介護福祉士就労状況調査」（公益財団法人 社会福祉振興・試験センター）
- ・ 令和4年度「在留外国人に対する基礎調査」（出入国在留管理庁）
- ・ 令和4年度「外国人介護福祉士候補者受入れ施設巡回訪問実施結果」（公益社団法人国際厚生事業団）
- ・ 厚生労働省 令和4年度 社会福祉推進事業「在留資格「介護」の実態把握及び活躍支援に向けた調査研究事業」（公益社団法人日本介護福祉士会）
- ・ 厚生労働省 令和4年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「外国人高齢者に対する効果的なケアのために外国人介護人材が果たす役割に関する調査研究事業」（株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所）

「国籍」の調査項目については以下を参照した。

- ・ 国籍：在留外国人統計（出入国在留管理庁）

② 倫理的配慮

本アンケート調査は、外国人介護福祉士の就労や生活の実態を明らかにすることを目的としているため、アンケート調査項目については、在留資格の変遷、現在の収入、転職回数、今後の意向等個人のプライバシーに関わる内容も設定している。このため、個人情報収集せず、匿名回答でデータを収集した。また、事前の調査項目・選択肢の精査のために、外国人介護人材にヒアリングを行っているが、事業の趣旨を説明し、同意を得た上で事業を実施した。

③ 本事業の限界

本来であれば、試験センターに登録している外国籍の介護福祉士全体のデータ（国籍、人数、在留資格等）の分析を踏まえて、本アンケート調査結果の分析・考察をすることが望ましいが、試験センターと登録者の間で交わされている個人情報保護に関する取扱い等の観点から、本事業では元データの取扱い（開示・分析）はできないという制約がある。このため、アンケート回答者より収集できたデータの中での傾向の分析、考察に留まらざるを得ないという限界がある。

2 ヒアリング調査の実施

① 調査目的

アンケート調査票の設問・選択肢の内容や日本語で設問・選択肢の意図が伝わるかどうかを確認するため、複数の在留資格・ルート別の外国人介護福祉士を対象に、ヒアリング調査を実施した。

② 調査対象

ヒアリング対象者は、以下の通り。調査対象の選定にあたっては、本事業の委員からの紹介により選定した。在留資格や国籍によって求める支援や困りごとは異なる可能性があるため、できる限り、多様なルート、国籍の外国人介護人材にヒアリングを行った。

図表 17 ヒアリング対象者

	在留資格の変遷	年代	国籍	サービス種別
A	「留学」→「技術・人文知識・国際業務」→「永住者」	30代	中国	居宅介護支援事業所（介護支援専門員として勤務）
B	「留学」→在留資格「介護」（国家試験：不合格）	30代	ベトナム	サービス付き高齢者住宅（訪問介護）
C	「技能実習」（3年）→「特定技能」（国家試験：2023年に合格）	20代	ミャンマー	特別養護老人ホーム
D	「特定活動（EPA）」→在留資格「介護」（国家試験：2021年に合格）	30代	インドネシア	特別養護老人ホーム
E	「技能実習」（3年）→「特定技能」（国家試験：2023年に合格）→在留資格「介護」	30代	ミャンマー	特別養護老人ホーム

③ 調査方法

オンラインで30分から1時間程度で実施した。

ヒアリングでは、検討段階のアンケート調査票を用いて、設問を実際に口頭で読み上げ質問をしながら、該当する選択肢の回答可能かどうか、日本語の表現が分かりやすいか等の視点から意見を伺った。あわせて、各設問について追加の質問も行い、選択の理由や背景等についても確認をした。

④ 調査結果

ヒアリングでは、対象者が概ねの設問・選択肢を問題なく回答できることを確認した。一方、いくつかの設問は、ヒアリング調査の結果を踏まえ、日本語表記の見直し、選択肢の追加を行った。

ヒアリング調査を踏まえて追加した選択肢は、主に以下となっている。

【外国人の知り合い】

- これまで困ったことがあったときは、市役所に確認して、解決できていた。現在居住する市には外国人が多いと聞かすが、会ったことはない。外国人の知り合いができると良い。（B）
⇒問41（今後も働くうえで必要な配慮）に「地域の外国人との交流支援」を追記

【家賃に関する補助】

- ・ 今支援が欲しいのは、家賃に関する補助。E P A候補者の時はアパートの家賃は半分会社が払ってくれたが、介護福祉士（正社員）になると全部払わなければいけない。アパートの家賃等、家賃の支援があるとよい。（D）
- ・ 家賃が高い。家賃の補助を十分にしてほしい。あとは特にはない。半分会社が払っているとしても、電気代もあるから、だいぶかかる。日本は税金もたくさん引かれる。（E）
⇒問 42（生活で困っていること）の選択肢に「家賃が高い」を追記

【日本語の勉強に関する支援】

- ・ 介護の言葉はまだわからない言葉がある。（B）
- ・ 日本語の勉強会があったら、役に立つと思う。候補者の時は、先生と一緒に勉強をする時間があったが、正社員になると勉強の時間がない。正社員になった後も、日本語についてまだ悩んでいる外国人は多い。日本語の勉強会があったいいなと思う。（D）
⇒問 41（今後も働くうえで必要な配慮）に「日本語習得のための支援」の選択肢あり

【介護技術の学習機会】

- ・ 介護福祉士に合格するために、丸暗記だったから、実際にはわからないことも多い。そこを教えてほしい。（E）
⇒問 41（今後も働くうえで必要な配慮）に「介護の知識・技能の習得のための支援」の選択肢あり

IV. アンケート調査結果

1 アンケート調査結果概要

① 調査対象

- ・ 試験センターに登録している介護福祉士のうち、外国籍の方を対象とした。

② 有効回答者数／回答率

図表 18 有効回答者数／回答率

調査対象者数	有効回答数	回答率	調査票発送数（返送分除く）
18,915	2,089	14.3%	14,615

- ・ 令和5（2023）年8月末時点で、試験センターに登録している外国籍の介護福祉士は18,915名であった。
- ・ 調査票の送付に当たっては、下記対象者は調査票の送付が困難であることから、送付対象者から除外し、16,725名に対して調査票を発送した。

【送付除外者】

- 国外居住者：20名
- 令和2（2020）年度に試験センターが実施した「就労状況調査」にて宛先不明で返送された者且つその後も住所変更手続きのない者：2,170名
- ・ 調査票発送後、宛先不明で返送された者は2,110名であった。
- ・ アンケートは、途中保存を含め合計で2,715件の回答があった。回答完了した2,126件を対象に、帰化した者を除き、回答の確認、データクリーニングを実施した結果、有効回答数は2,089であった。回答の内訳は下記の通りである。

【回答の内訳】

- 途中保存：589
 - 回答完了：2,126
- #### ③ 調査方法
- ・ 試験センターが委託している会社より調査協力依頼文（葉書）を郵送し、オンライン（WEB調査システム）により回答を回収
 - ・ 調査票はルビ付き日本語で表記
- #### ④ 調査期間
- ・ 令和5（2023）年9月25日（月）～10月24日（火）
- #### ⑤ 周知方法
- ・ 回答率を上げるため、業界団体等を通じて、調査の周知・依頼を行った。
 - 公益社団法人 介護福祉士養成施設協会：会員校にメール配信
 - 公益社団法人 国際厚生事業団 J I C W E L S ：会員宛のEPA便りに掲載、EPA介護福祉士受入施設にメール配信
 - 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会：HPに掲載
 - 公益社団法人 全国老人保健施設協会：HPに掲載
 - 公益社団法人 日本介護福祉士会：X（旧Twitter）で周知

- 中央法規出版株式会社：『おはよう 21』令和 5（2023）年 11 月号のインフォメーションに掲載

⑥ 調査結果を見る上での留意事項

- ・ 本文、図表等に使われる「n」は、特に断りがない場合は、各設問に対する回答者数を指す。
- ・ 百分率（％）の計算は、小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位まで表示している。したがって、四捨五入の影響で、％を足し合わせて 100.0％にならない場合がある。
- ・ 本文中の％の小計は、各項目の表章数値を足し合わせている。
- ・ 本文、図表は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。正確な表現はⅦのアンケート調査票本文（ウェブ画面）を参照のこと。
- ・ 設問ごとに回答条件が異なっている。詳細についてはⅦのアンケート設問（回答対象者）を参照のこと。
- ・ 本調査においては、在留資格制度上及び本調査の設問の設定上想定し難い回答結果も一部見受けられたが、明らかに回答が不自然なものを除き、項目によって回答不明として処理している。
- ・ 外国籍の介護福祉士は、各人の国籍やルーツ、在留資格、来日時期や経緯等により状況も多様である。特に、「特定活動（E P A）」、「介護」、「技能実習」、「特定技能」の在留資格の方と、「永住者」、「定住者」等の身分・地位に基づく在留資格の方では、過去・現在の状況や条件等が大きく異なることが考えられる。そのため、身分・地位に基づく在留資格の方は、本調査の設問で設ける選択肢において、回答が困難な箇所があった可能性も考えられる。その点に留意し、調査結果を参照されたい。
- ・ クロス表において複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0％を超える場合がある。
- ・ クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがある。
- ・ 調査結果については、国籍や現在の在留資格、介護福祉士国家試験の合格の有無、外国人職員の有無等、複数の変数でクロス集計を行ったが、顕著な差があったクロス表のみを本文に掲載している。

2 アンケート調査結果

① 基本情報

(1) Q2. 在留資格

本調査は、外国籍の方全員を対象とした調査であるが、いわゆる外国人介護人材と呼ばれる介護職として就労するための在留資格と、身分・地域に基づく在留資格では日本への来日・在留理由や就労理由は異なることから、以下3つの視点で結果を示している。

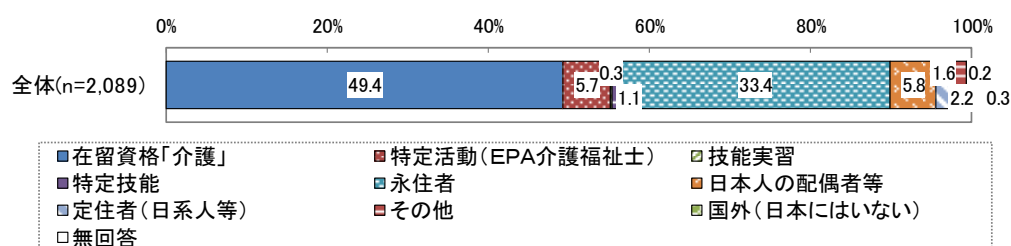
図表 19 表記方法

表記	内容	含まれる在留資格	回答数	割合
全体	全在留資格	全在留資格（回答者全員） ※4制度、身分・地位に当てはまらない在留資格も含まれる	2,089	100.0%
4制度	介護職として就労するための在留資格	在留資格「介護」、「特定活動（EPA介護福祉士）」、「技能実習」、「特定技能」	1,181	56.5%
身分・地位	身分・地位に基づく在留資格	「永住者」、「日本人の配偶者等」、「永住者の配偶者等」、「定住者」、「特別永住者」	883	42.3%

回答者の全体の在留資格は「在留資格「介護」」が49.4%と最も多く、「永住者」が33.4%、「日本人の配偶者等」が5.8%、「特定活動（EPA介護福祉士）」が5.7%、「定住者（日系人等）」が1.6%、「特別永住者」が1.3%、「特定技能」が1.1%、「技能実習」が0.3%、「永住者の配偶者等」が0.1%となっている。また「国外（日本にはいない）」が0.2%となっている。

「その他」には、「技術・人文知識・国際業務」、「家族滞在」、「特定活動」、「経営・管理」が含まれる。

図表 20 Q2. 現在の在留資格



回答者の国籍、現在の在留資格の内訳は下記の通りであった。

図表 21 Q1. 国籍 × Q2. 現在の在留資格

	全体	在留資格 「介護」	特定活動 (EPA介 護福祉 士)	技能実習	特定技能	永住者	日本人の 配偶者等	定住者 (日系人 等)	その他	国外(日 本にはい ない)	不明
全体	2089 100%	1031 49.4%	119 5.7%	7 0.3%	24 1.1%	697 33.4%	122 5.8%	33 1.6%	45 2.2%	4 0.2%	7 0.3%
中国	499 100%	146 29.3%	-	1 0.2%	8 1.6%	270 54.1%	49 9.8%	13 2.6%	6 1.2%	2 0.4%	4 0.8%
韓国	373 100%	19 5.1%	-	-	-	293 78.6%	26 7.0%	7 1.9%	27 7.2%	-	1 0.3%
ベトナム	371 100%	337 90.8%	11 3.0%	2 0.5%	7 1.9%	5 1.3%	6 1.6%	-	3 0.8%	-	-
フィリピン	246 100%	122 49.6%	68 27.6%	1 0.4%	-	34 13.8%	14 5.7%	3 1.2%	2 0.8%	1 0.4%	1 0.4%
インドネシア	187 100%	128 68.4%	40 21.4%	2 1.1%	3 1.6%	6 3.2%	6 3.2%	1 0.5%	-	1 0.5%	-
ネパール	152 100%	150 98.7%	-	-	1 0.7%	1 0.7%	-	-	-	-	-
ミャンマー	54 100%	45 83.3%	-	-	3 5.6%	2 3.7%	2 3.7%	2 3.7%	-	-	-
台湾	43 100%	10 23.3%	-	-	1 2.3%	18 41.9%	10 23.3%	2 4.7%	2 4.7%	-	-
ブラジル	30 100%	-	-	-	-	23 76.7%	4 13.3%	3 10.0%	-	-	-
その他	134 100%	74 55.2%	-	1 0.7%	1 0.7%	45 33.6%	5 3.7%	2 1.5%	5 3.7%	-	1 0.7%

(2) Q1. 国籍・地域

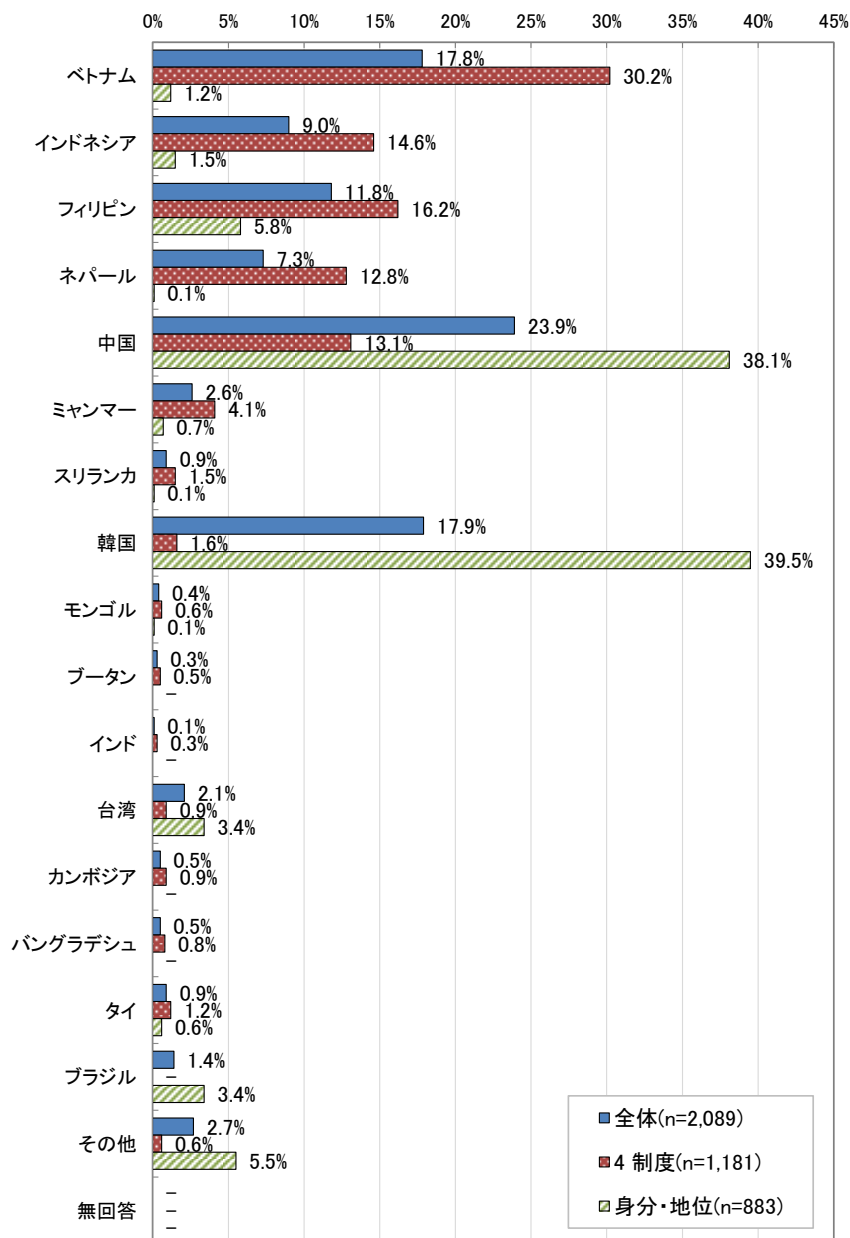
全体では、「中国」が 23.9%と最も多く、「韓国」が 17.9%、「ベトナム」が 17.8%、「フィリピン」が 11.8%、「インドネシア」が 9.0%となっている。

その他には、アメリカ、アルゼンチン、イギリス、イラン、ウクライナ、ウズベキスタン、エジプト、ガーナ、スイス、セネガル、チュニジア、ネパール、パラグアイ、ブータン、ペルー、マレーシア、メキシコ、ルーマニア、ロシア、朝鮮が含まれる。

4 制度では、「ベトナム」が 30.2%と最も多く、「フィリピン」が 16.2%、「インドネシア」が 14.6%、「中国」が 13.1%、「ネパール」が 12.8%となっている。

身分・地位では、「韓国」が 39.5%と最も多く、「中国」が 38.1%、「フィリピン」が 5.8%、「台湾」が 3.4%、「ブラジル」が 3.4%となっている。

図表 22 Q1. 国籍・地域



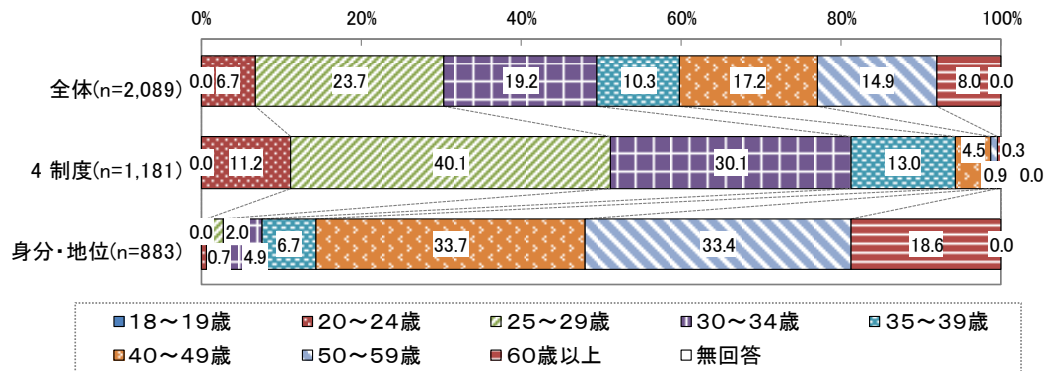
(3) Q3. 年齢（9月1日時点）

全体では、「25～29 歳」が 23.7%と最も多く、「30～34 歳」が 19.2%、「40～49 歳」が 17.2%となっている。

4 制度では、「25～29 歳」が 40.1%と最も多く、20 代は 51.3%、30 代は 43.1%と 30 代以下が大半を占めている。

一方、身分・地位では、40 代が 33.7%、50 代が 33.4%と 40 代以上が 85.7%を占めており、年代の分布は真逆の状況である。

図表 23 Q3. 年齢（9月1日時点）



回答者の年齢は、ベトナム国籍の方は71.2%、ネパールは62.5%と半数以上、インドネシア、ミャンマー国籍の方も半数近くが20代であった。一方で、韓国、台湾、ブラジルは、最も多い回答者の年齢層は50代の方であった。

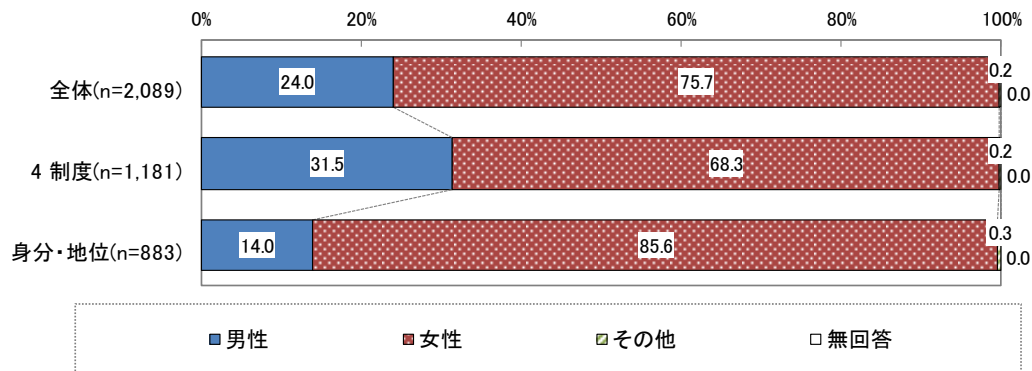
図表 24 Q1. 国籍 × Q3. 年齢

	全体	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不明
全体	2089	—	139	495	402	215	359	311	168	—
	100%	—	6.7%	23.7%	19.2%	10.3%	17.2%	14.9%	8.0%	—
中国	499	—	18	43	54	71	191	101	21	—
	100%	—	3.6%	8.6%	10.8%	14.2%	38.3%	20.2%	4.2%	—
韓国	373	—	—	4	17	14	74	139	125	—
	100%	—	—	1.1%	4.6%	3.8%	19.8%	37.3%	33.5%	—
ベトナム	371	—	69	195	81	19	6	—	1	—
	100%	—	18.6%	52.6%	21.8%	5.1%	1.6%	—	0.3%	—
フィリピン	246	—	8	29	87	61	39	20	2	—
	100%	—	3.3%	11.8%	35.4%	24.8%	15.9%	8.1%	0.8%	—
インドネシア	187	—	15	77	74	14	5	2	—	—
	100%	—	8.0%	41.2%	39.6%	7.5%	2.7%	1.1%	—	—
ネパール	152	—	17	78	47	6	2	2	—	—
	100%	—	11.2%	51.3%	30.9%	3.9%	1.3%	1.3%	—	—
ミャンマー	54	—	3	23	12	10	1	4	1	—
	100%	—	5.6%	42.6%	22.2%	18.5%	1.9%	7.4%	1.9%	—
台湾	43	—	—	3	2	4	9	19	6	—
	100%	—	—	7.0%	4.7%	9.3%	20.9%	44.2%	14.0%	—
ブラジル	30	—	4	2	2	3	7	8	4	—
	100%	—	13.3%	6.7%	6.7%	10.0%	23.3%	26.7%	13.3%	—
その他	134	—	5	41	26	13	25	16	8	—
	100%	—	3.7%	30.6%	19.4%	9.7%	18.7%	11.9%	6.0%	—

(4) Q4. 性別

全体では、「男性」が24.0%、「女性」が75.7%であった。

図表 25 Q4. 性別



(5) Q5. 都道府県

都道府県別の介護福祉士の数は以下の通りである。

図表 26 Q5. 都道府県

	全体	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
全体	2078	26	3	15	33	8	15	7	25	33	35
	100%	1.3%	0.1%	0.7%	1.6%	0.4%	0.7%	0.3%	1.2%	1.6%	1.7%
4 制度	1181	24	2	7	20	—	1	3	17	23	26
	100%	2.0%	0.2%	0.6%	1.7%	—	0.1%	0.3%	1.4%	1.9%	2.2%
身分・地位	883	2	1	8	13	8	14	4	7	10	9
	100%	0.2%	0.1%	0.9%	1.5%	0.9%	1.6%	0.5%	0.8%	1.1%	1.0%

	全体	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
全体	2078	111	114	254	168	26	15	9	23	15	26
	100%	5.3%	5.5%	12.2%	8.1%	1.3%	0.7%	0.4%	1.1%	0.7%	1.3%
4 制度	1181	49	73	132	79	15	6	4	11	6	9
	100%	4.1%	6.2%	11.2%	6.7%	1.3%	0.5%	0.3%	0.9%	0.5%	0.8%
身分・地位	883	61	39	120	85	11	9	5	12	9	17
	100%	6.9%	4.4%	13.6%	9.6%	1.2%	1.0%	0.6%	1.4%	1.0%	1.9%

	全体	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
全体	2078	41	35	138	42	19	45	300	119	32	18
	100%	2.0%	1.7%	6.6%	2.0%	0.9%	2.2%	14.4%	5.7%	1.5%	0.9%
4 制度	1181	22	19	72	30	8	15	180	71	25	14
	100%	1.9%	1.6%	6.1%	2.5%	0.7%	1.3%	15.2%	6.0%	2.1%	1.2%
身分・地位	883	19	16	66	11	11	30	118	47	7	4
	100%	2.2%	1.8%	7.5%	1.2%	1.2%	3.4%	13.4%	5.3%	0.8%	0.5%

	全体	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
全体	2078	4	3	40	36	21	17	20	10	6	78
	100%	0.2%	0.1%	1.9%	1.7%	1.0%	0.8%	1.0%	0.5%	0.3%	3.8%
4 制度	1181	1	2	25	18	13	8	14	8	1	57
	100%	0.1%	0.2%	2.1%	1.5%	1.1%	0.7%	1.2%	0.7%	0.1%	4.8%
身分・地位	883	3	1	15	18	8	9	6	2	5	21
	100%	0.3%	0.1%	1.7%	2.0%	0.9%	1.0%	0.7%	0.2%	0.6%	2.4%

	全体	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	無回答
全体	2078	21	17	17	9	6	3	20	—
	100%	1.0%	0.8%	0.8%	0.4%	0.3%	0.1%	1.0%	—
4 制度	1181	20	12	11	2	6	3	17	—
	100%	1.7%	1.0%	0.9%	0.2%	0.5%	0.3%	1.4%	—
身分・地位	883	1	5	6	7	—	—	3	—
	100%	0.1%	0.6%	0.7%	0.8%	—	—	0.3%	—

各都道府県の在留資格別の人数は次の通りである。

図表 27 Q2. 現在の在留資格 × Q5. 都道府県

	全体	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
全体	2078 100%	26 1.3%	3 0.1%	15 0.7%	33 1.6%	8 0.4%	15 0.7%	7 0.3%	25 1.2%	33 1.6%	35 1.7%
在留資格「介護」	1031 100%	23 2.2%	2 0.2%	6 0.6%	19 1.8%	—	1 0.1%	3 0.3%	14 1.4%	21 2.0%	23 2.2%
特定活動(EPA 介護福祉士)	119 100%	—	—	—	1 0.8%	—	—	—	2 1.7%	2 1.7%	1 0.8%
技能実習	7 100%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 14.3%
特定技能	24 100%	1 4.2%	—	1 4.2%	—	—	—	—	1 4.2%	—	1 4.2%
永住者	697 100%	2 0.3%	—	7 1.0%	8 1.1%	5 0.7%	11 1.6%	2 0.3%	4 0.6%	9 1.3%	4 0.6%
日本人の配偶者 等	122 100%	—	1 0.8%	1 0.8%	4 3.3%	3 2.5%	3 2.5%	2 1.6%	1 0.8%	1 0.8%	5 4.1%
定住者(日系人 等)	33 100%	—	—	—	—	—	—	—	2 6.1%	—	—
その他	45 100%	—	—	—	1 2.2%	—	—	—	1 2.2%	—	—

	全体	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
全体	2078 100%	111 5.3%	114 5.5%	254 12.2%	168 8.1%	26 1.3%	15 0.7%	9 0.4%	23 1.1%	15 0.7%	26 1.3%
在留資格「介護」	1031 100%	44 4.3%	65 6.3%	119 11.5%	61 5.9%	15 1.5%	4 0.4%	4 0.4%	10 1.0%	4 0.4%	8 0.8%
特定活動(EPA 介護福祉士)	119 100%	4 3.4%	8 6.7%	7 5.9%	17 14.3%	—	2 1.7%	—	1 0.8%	1 0.8%	1 0.8%
技能実習	7 100%	—	—	1 14.3%	1 14.3%	—	—	—	—	—	—
特定技能	24 100%	1 4.2%	—	5 20.8%	—	—	—	—	—	1 4.2%	—
永住者	697 100%	45 6.5%	31 4.4%	90 12.9%	64 9.2%	5 0.7%	7 1.0%	3 0.4%	8 1.1%	8 1.1%	12 1.7%
日本人の配偶者 等	122 100%	9 7.4%	6 4.9%	16 13.1%	13 10.7%	6 4.9%	2 1.6%	1 0.8%	3 2.5%	—	5 4.1%
定住者(日系人 等)	33 100%	2 6.1%	1 3.0%	8 24.2%	5 15.2%	—	—	1 3.0%	—	—	—
その他	45 100%	6 13.3%	3 6.7%	8 17.8%	7 15.6%	—	—	—	1 2.2%	1 2.2%	—

	全体	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
全体	2078 100%	41 2.0%	35 1.7%	138 6.6%	42 2.0%	19 0.9%	45 2.2%	300 14.4%	119 5.7%	32 1.5%	18 0.9%
在留資格「介護」	1031 100%	12 1.2%	10 1.0%	49 4.8%	30 2.9%	7 0.7%	14 1.4%	171 16.6%	66 6.4%	23 2.2%	14 1.4%
特定活動(EPA 介護福祉士)	119 100%	7 5.9%	8 6.7%	19 16.0%	—	—	1 0.8%	7 5.9%	4 3.4%	—	—
技能実習	7 100%	—	—	3 42.9%	—	—	—	—	—	—	—
特定技能	24 100%	3 12.5%	1 4.2%	1 4.2%	—	1 4.2%	—	2 8.3%	1 4.2%	2 8.3%	—
永住者	697 100%	17 2.4%	13 1.9%	56 8.0%	9 1.3%	9 1.3%	28 4.0%	106 15.2%	36 5.2%	6 0.9%	4 0.6%
日本人の配偶者 等	122 100%	2 1.6%	2 1.6%	4 3.3%	1 0.8%	1 0.8%	1 0.8%	6 4.9%	4 3.3%	1 0.8%	—
定住者(日系人 等)	33 100%	—	1 3.0%	4 12.1%	1 3.0%	—	1 3.0%	2 6.1%	3 9.1%	—	—
その他	45 100%	—	—	2 4.4%	1 2.2%	1 2.2%	—	6 13.3%	5 11.1%	—	—

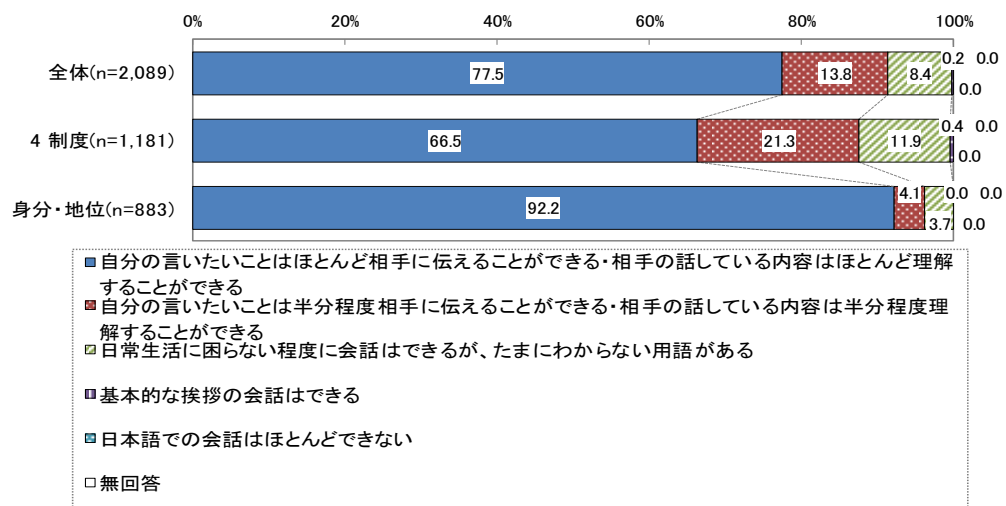
	全体	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
全体	2078 100%	4 0.2%	3 0.1%	40 1.9%	36 1.7%	21 1.0%	17 0.8%	20 1.0%	10 0.5%	6 0.3%	78 3.8%
在留資格「介護」	1031 100%	1 0.1%	2 0.2%	17 1.6%	14 1.4%	9 0.9%	8 0.8%	12 1.2%	6 0.6%	1 0.1%	51 4.9%
特定活動(EPA 介護福祉士)	119 100%	— —	— —	8 6.7%	4 3.4%	2 1.7%	— —	2 1.7%	2 1.7%	— —	6 5.0%
技能実習	7 100%	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
特定技能	24 100%	— —	— —	— —	— —	2 8.3%	— —	— —	— —	— —	— —
永住者	697 100%	2 0.3%	— —	12 1.7%	14 2.0%	7 1.0%	7 1.0%	4 0.6%	2 0.3%	5 0.7%	17 2.4%
日本人の配偶者 等	122 100%	1 0.8%	1 0.8%	1 0.8%	3 2.5%	1 0.8%	2 1.6%	2 1.6%	— —	— —	4 3.3%
定住者(日系人 等)	33 100%	— —	— —	— —	1 3.0%	— —	— —	— —	— —	— —	— —
その他	45 100%	— —	— —	2 4.4%	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —

	全体	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
全体	2078 100%	21 1.0%	17 0.8%	17 0.8%	9 0.4%	6 0.3%	3 0.1%	20 1.0%
在留資格「介護」	1031 100%	20 1.9%	12 1.2%	11 1.1%	1 0.1%	6 0.6%	3 0.3%	15 1.5%
特定活動(EPA 介護福祉士)	119 100%	— —	— —	— —	— —	— —	— —	2 1.7%
技能実習	7 100%	— —	— —	— —	1 14.3%	— —	— —	— —
特定技能	24 100%	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
永住者	697 100%	1 0.1%	5 0.7%	5 0.7%	4 0.6%	— —	— —	3 0.4%
日本人の配偶者 等	122 100%	— —	— —	1 0.8%	2 1.6%	— —	— —	— —
定住者(日系人 等)	33 100%	— —	— —	— —	1 3.0%	— —	— —	— —
その他	45 100%	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —

(6) Q6. 現在の日本語での会話力

ほとんどの方は、日本語での会話に支障がないと回答している。一方で、身分・地位に比べて、4制度は「自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・相手の話している内容はほとんど理解することができる」が66.5%と割合が低くなる。

図表 28 Q6. 現在の日本語での会話力

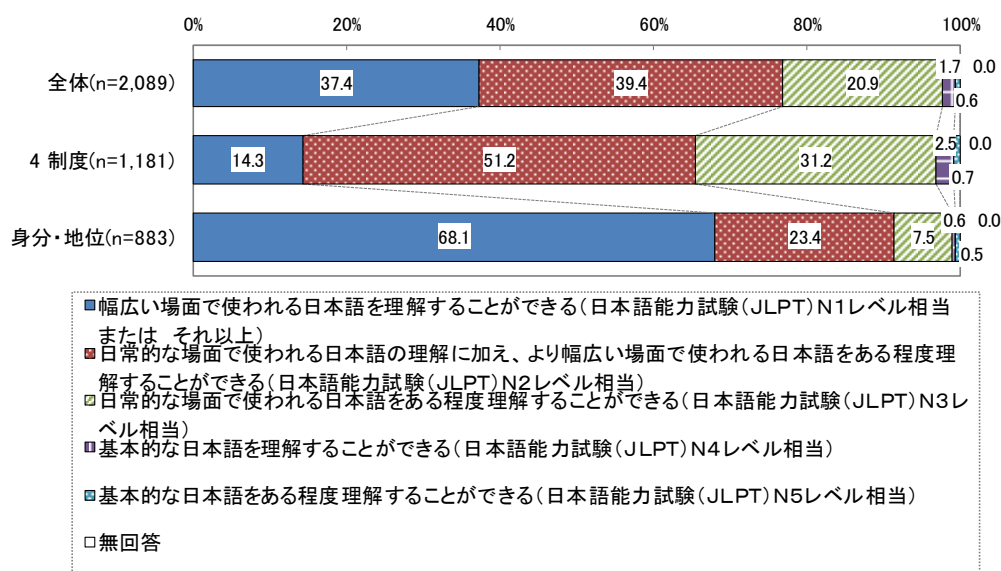


(7) Q7. 現在の日本語での文章力

4 制度では、「日本語能力試験（JLPT）N 1 レベル相当またはそれ以上」は 14.3%であり、「N 2 レベル相当」が 51.2%と最も多い結果となった。

一方、身分・地位では、「N 1 レベル相当またはそれ以上」が大半であるが、「N 3 レベル相当」以下も 1 割程度いることがわかった。

図表 29 Q7. 現在の日本語の文章力

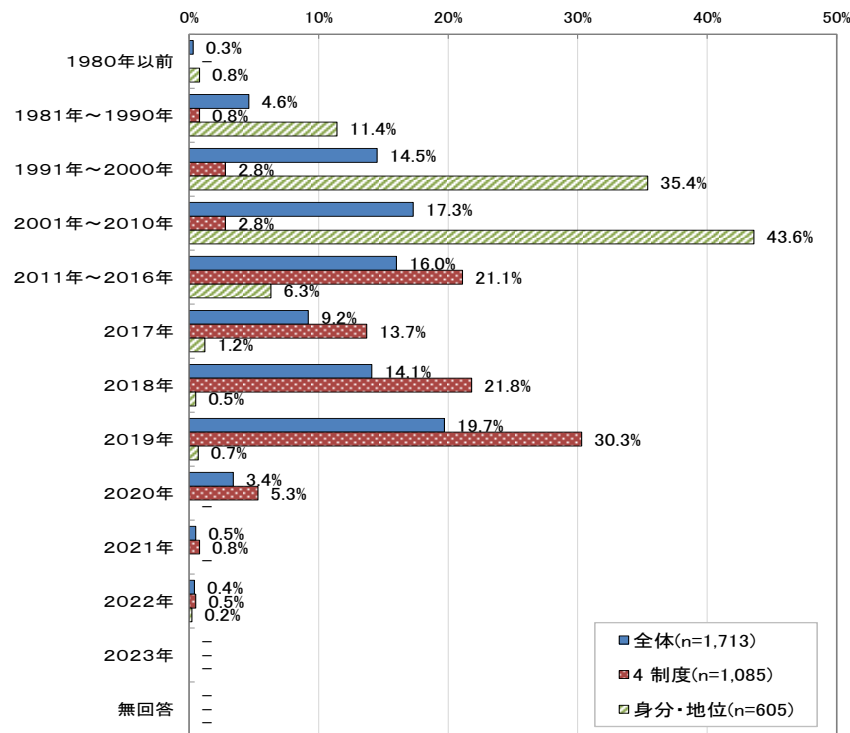


(8) Q8. 最初に来日した年

最初に来日した年が「わかる」と回答した 82.0%のうち、来日した年は以下の通りである。

4 制度は 2019 年が最も多いが、身分・地位では 2000 年代、1990 年代が最も多い。

図表 30 Q8-2. 最初に来日した年



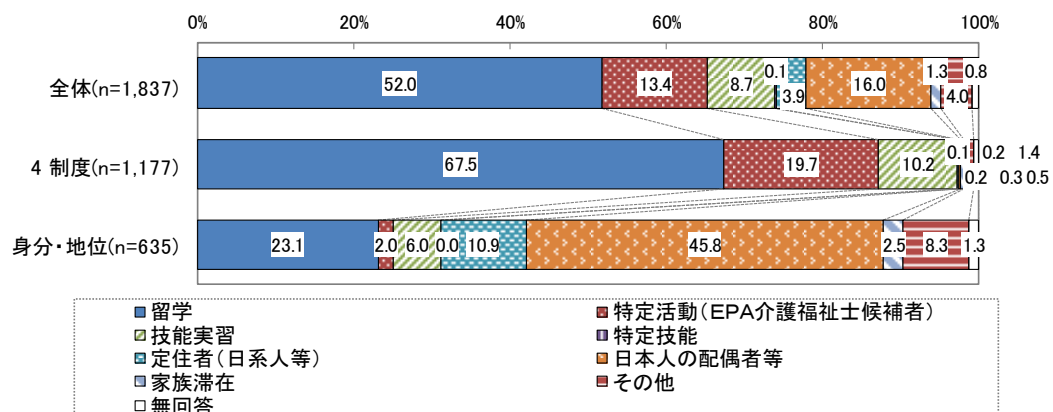
(9) Q9. 最初に来日したときの在留資格

全体では、「留学」が52.0%と最も多く、「日本人の配偶者等」が16.0%、「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」が13.4%、「技能実習」が8.7%、「定住者（日系人等）」が3.9%、「特定技能」が0.1%となっている。

4制度では、「留学」が67.5%と最も多く、「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」が19.7%、「技能実習」が10.2%となっている。

身分・地位では、「日本人の配偶者等」が45.8%と最も多く、「留学」が23.1%、「定住者（日系人等）」が10.9%、「技能実習」が6.0%、「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」が2.0%となっている。EPA介護福祉士候補者として来日した方も「永住者」となっていることがわかった。

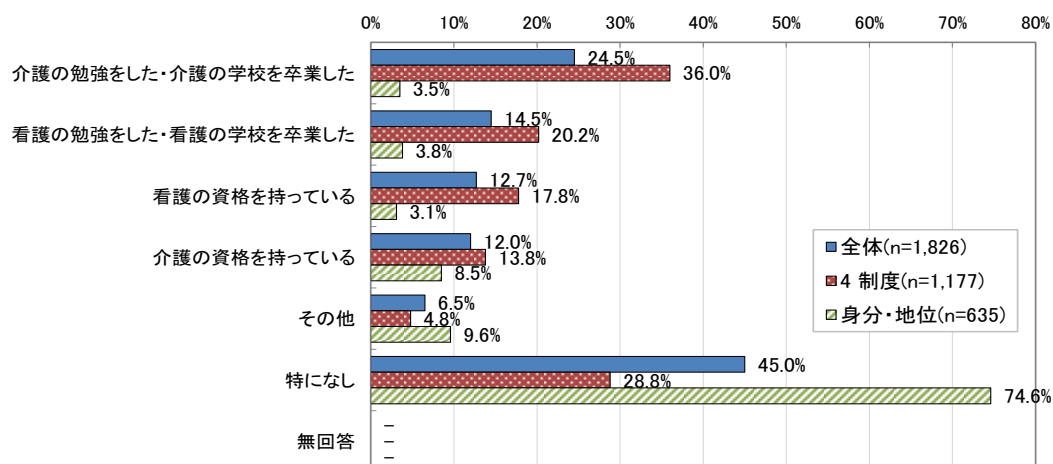
図表 31 Q9. 最初に来日したときの在留資格



(10) Q21. 来日前に保有していた福祉・介護関係の資格等（複数選択）

4 制度では、「介護の勉強をした・介護の学校を卒業した」が 36.0%と最も多く、「看護の勉強をした・看護の学校を卒業した」が 20.2%、「看護の資格を持っている」が 17.8%、「介護の資格を持っている」が 13.8%となっている。

図表 32 Q21. 来日前に保有していた福祉・介護関係の資格等（複数選択）

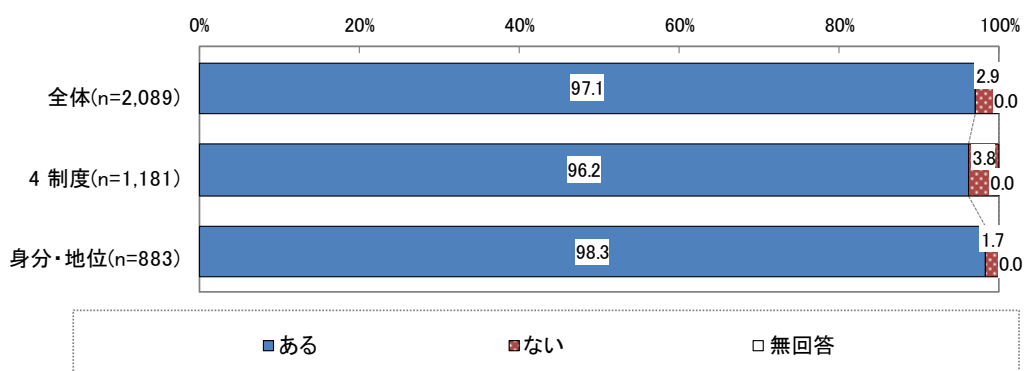


② 介護福祉士国家試験の受験状況

(11) Q10. 受験有無

全体では、「ある」が 97.1%、「ない」が 2.9%であった。

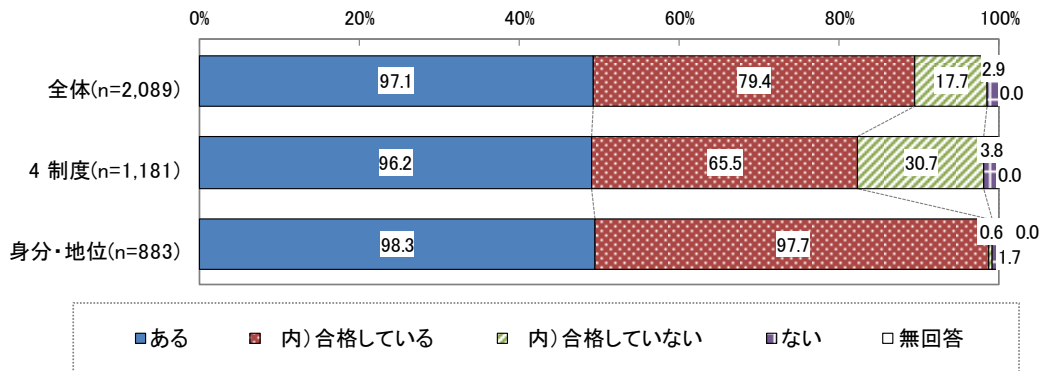
図表 33 Q10. 受験有無



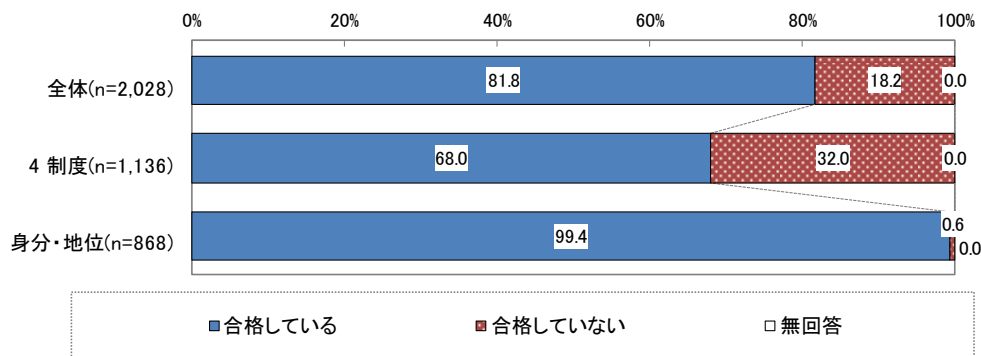
(12) Q10. 合格有無

全体では、「ある」が 97.1%、「ない」が 2.9%となっている。4 制度では、「ある」が 96.2%、身分・地位では 98.3%となっている。その内合格している割合は、4 制度は 65.5%、身分・地位は 97.7%と 4 制度のほうが低かった。

図表 34 Q10. 合格有無

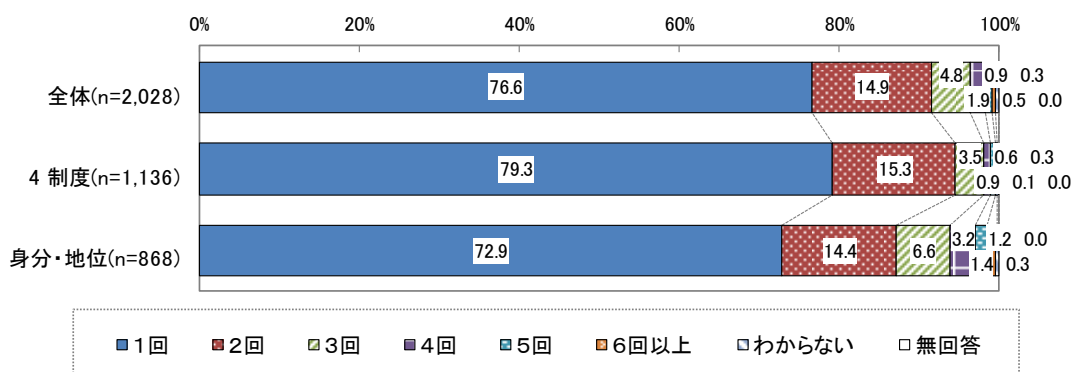


図表 35 Q10-1-2. 【合格者】合格有無



(13) Q10-1-1. 受験回数

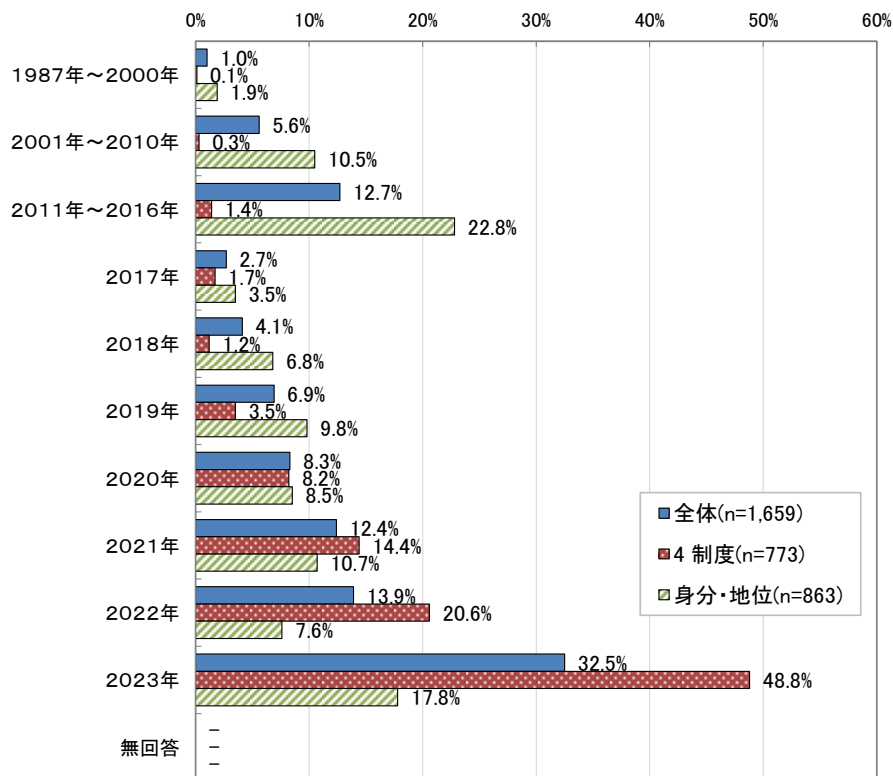
図表 36 Q10-1-1. 受験回数



(14) Q10-1-3. 【合格者】合格・登録した年

全体では、「2023 年」が 32.5%と最も高い。4 制度は年々増加傾向にあり、約半数は「2023 年」に合格・登録している。

図表 37 Q10-1-3. 【合格者】合格・登録した年

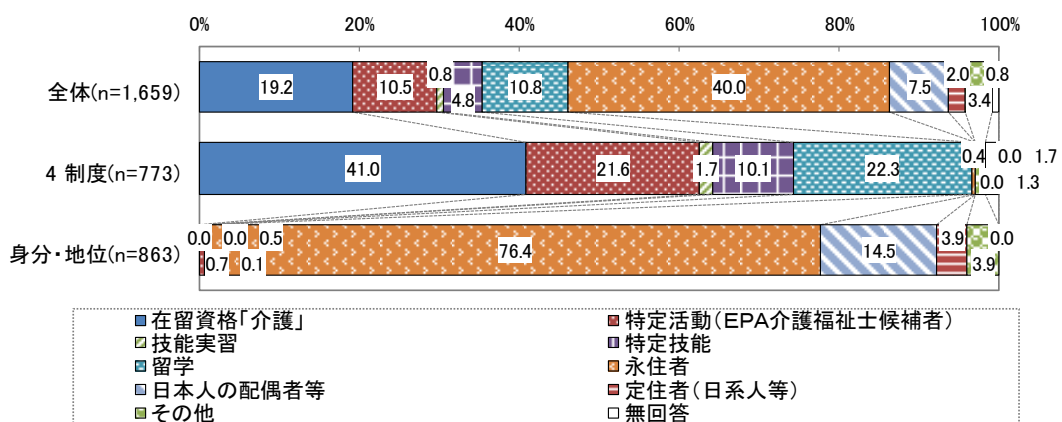


(15) Q10-1-4. 【合格者】合格時の在留資格

4 制度では、「在留資格「介護」」が 41.0%と最も多く、「留学」が 22.3%、「特定活動（E P A介護福祉士候補者）」が 21.6%、「特定技能」が 10.1%、「技能実習」が 1.7%となっている。

※注意：合格時の在留資格が「介護」の場合、再受験者のことを指す。4 制度の 41.0%が全員再受験とは考えにくいため、多くの方が、登録時の在留資格を記載している可能性がある。

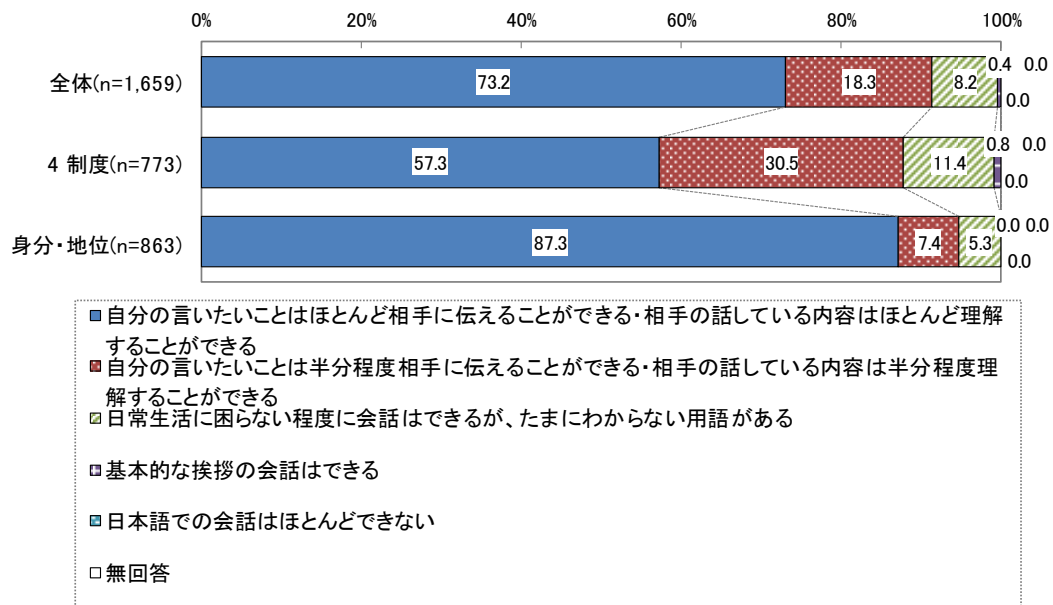
図表 38 Q10-1-4. 【合格者】合格時の在留資格



(16) Q10-1-5. 【合格者】合格・登録時の日本語での会話力

ほとんどの方は、日本語での会話に支障がないと回答している。一方で、身分・地位に比べて、4制度は「自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・相手の話している内容はほとんど理解することができる」が57.3%と割合が低くなる。

図表 39 Q10-1-5. 【合格者】合格・登録時の日本語での会話力

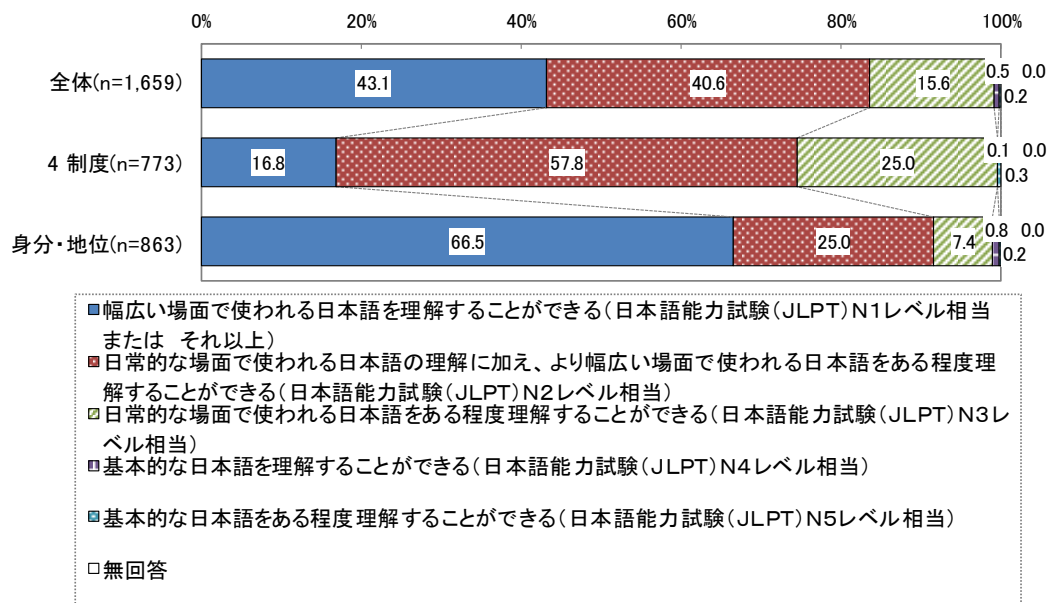


(17) Q10-1-6. 【合格者】合格・登録時の日本語の文章力

4制度では、「日本語能力試験（JLPT）N1レベル相当またはそれ以上」は16.8%であり、「N2レベル相当」が57.8%と最も多い結果となった。

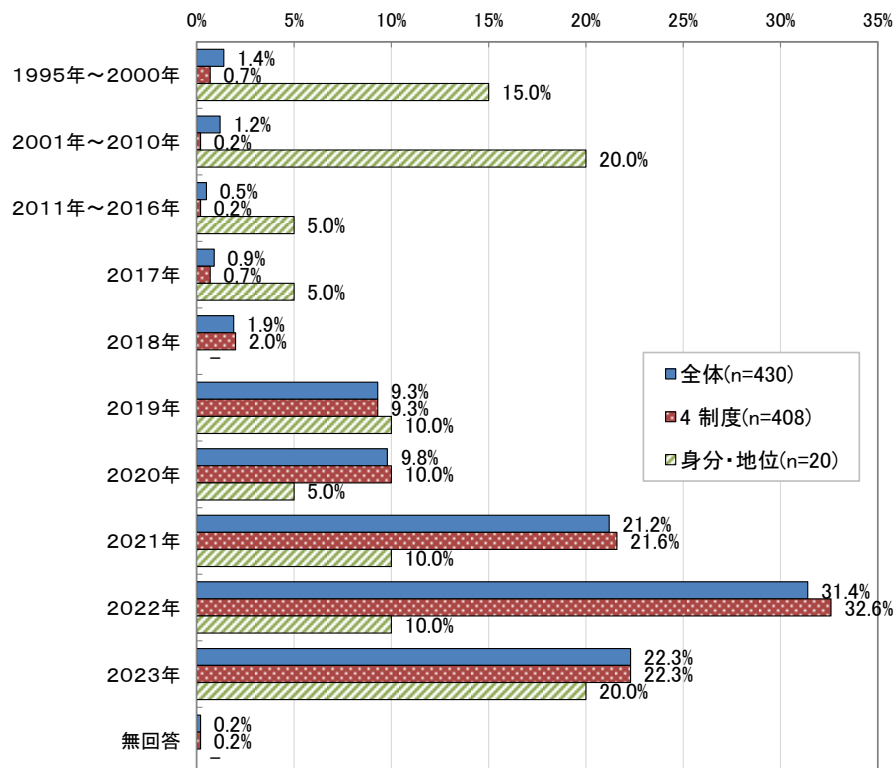
一方、身分・地位では、「N1レベル相当またはそれ以上」が大半であるが、「N3レベル相当」以下も1割程度いることがわかった。

図表 40 Q10-1-6. 【合格者】合格・登録時の日本語の文章力



(18) Q10-2-1. 【未受験・不合格者】登録年

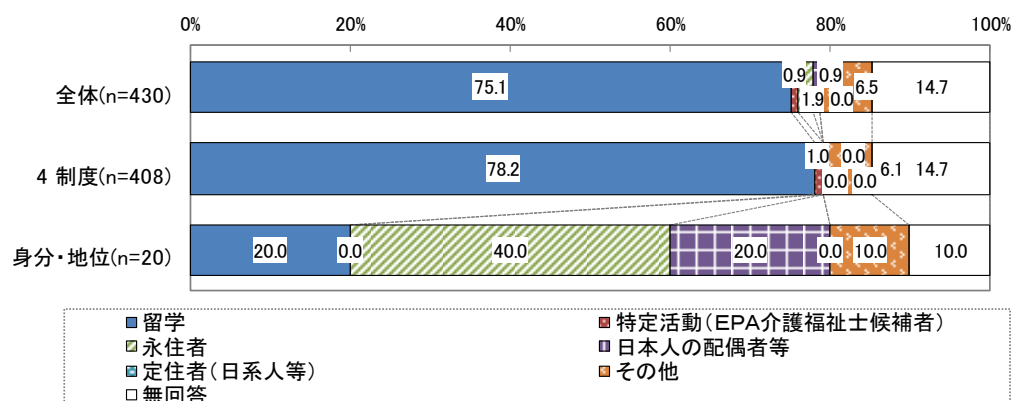
図表 41 Q10-2-1. 【未受験・不合格者】登録年



(19) Q10-2-2. 【未受験・不合格者】登録時の在留資格

※注意：養成施設の場合、卒業後の登録となることから、多くの方が、受験時の在留資格を記載している可能性がある。

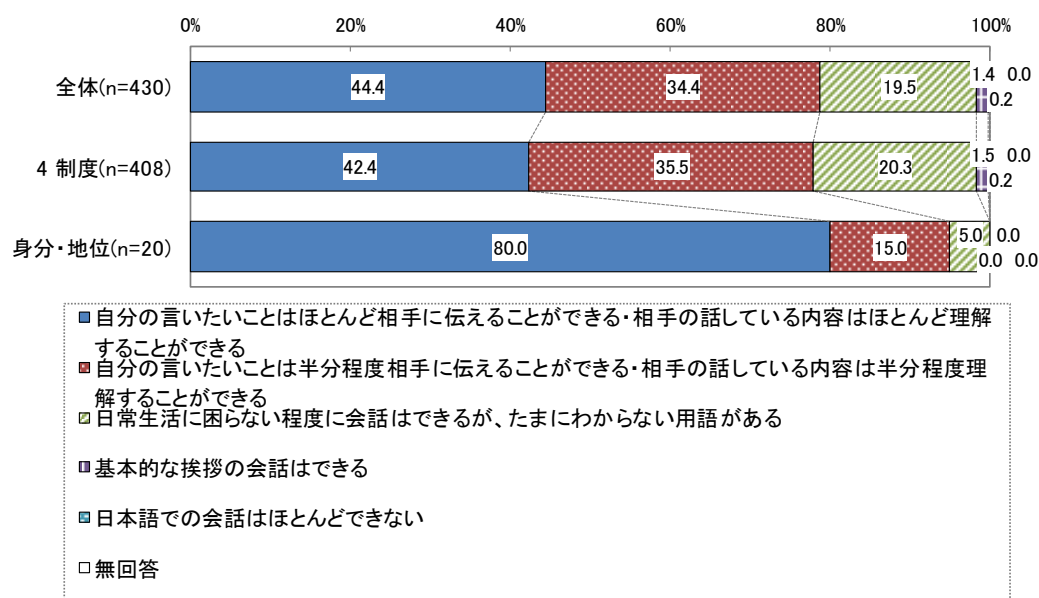
図表 42 Q10-2-2. 【未受験・不合格者】登録時の在留資格



(20) Q10-2-3. 【未受験・不合格者】登録時の日本語での会話力

身分・地位の場合、「自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・相手の話している内容はほとんど理解することができる」が 80.0%に対し、4 制度の場合 42.4%と割合が低くなる。

図表 43 Q10-2-3. 【未受験・不合格者】登録時の日本語での会話力



(21) Q10-2-4. 【未受験・不合格者】登録時の日本語の文章力

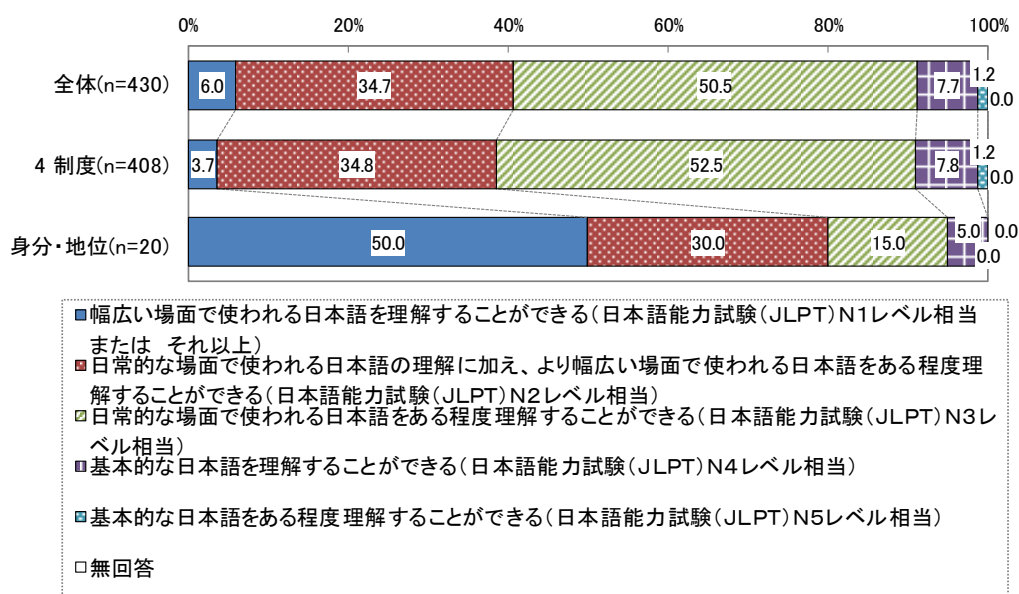
4 制度では、「日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる（日本語能力試験（JLPT）N 3 レベル相当）」が 52.5%と最も多く、「N 2 レベル相当」が 34.8%、「N 4 レベル相当」が

7.8%となっている。

身分・地位では、「N1レベル相当またはそれ以上」は50.0%と最も多く、「N2レベル相当」が30.0%、「N3レベル相当」が15.0%となっている。

「N1レベル相当」でも合格していない方がいることがわかった。

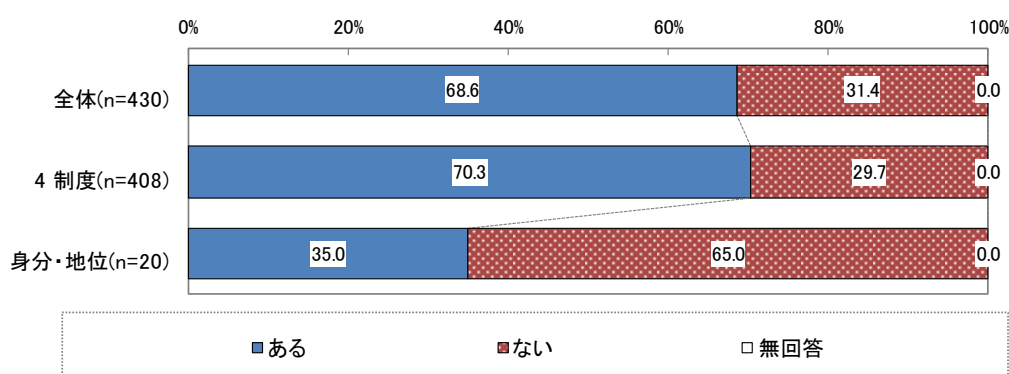
図表 44 Q10-2-4. 【未受験・不合格者】登録時の日本語の文章力



(22) Q10-2-5. 【未受験・不合格者】今後の受験予定

全体では、「ある」が68.6%、「ない」が31.4%であった。

図表 45 Q10-2-5. 【未受験・不合格者】今後の受験予定



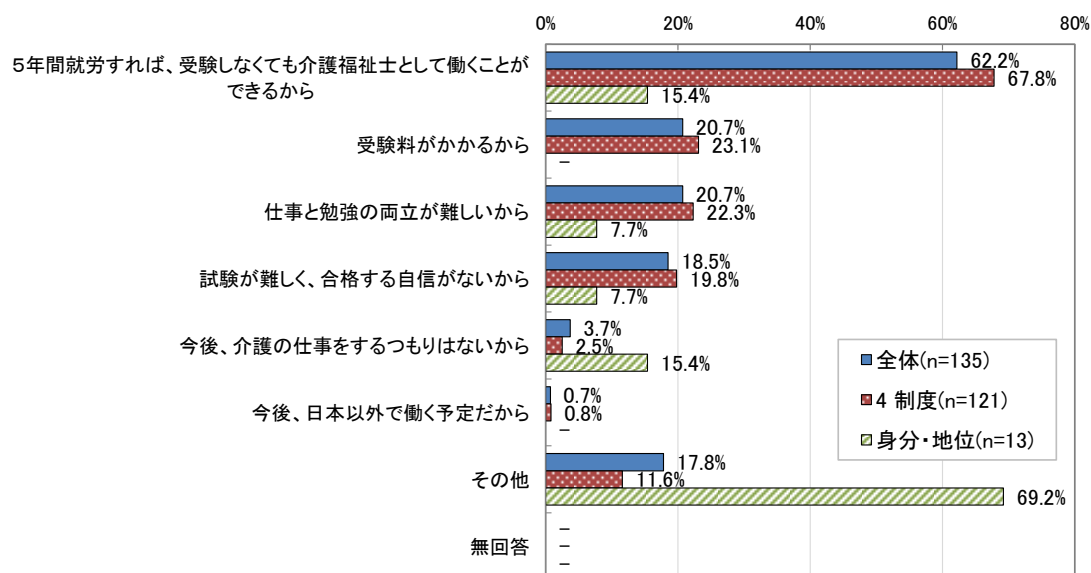
(23) Q10-2-6. 【未受験・不合格者】受験しない理由(複数選択)

今後受験予定がない方の理由は、全体では、「5年間就労すれば、受験しなくても介護福祉士として働くことができるから」が62.2%と最も多く、「受験料がかかるから」が20.7%、「仕事と勉強の両立が難しいから」が20.7%、「試験が難しく、合格する自信がないから」が18.5%となっている。「そ

の他」の回答は以下の通りである。

※注意：「その他」の回答の中には、「養成施設を卒業しているため、介護福祉士である」、「資格を取得している」との回答もあり、経過措置を合格として認識している可能性がある。

図表 46 Q10-2-6. 【未受験・不合格者】受験しない理由（複数選択）



<その他の回答>

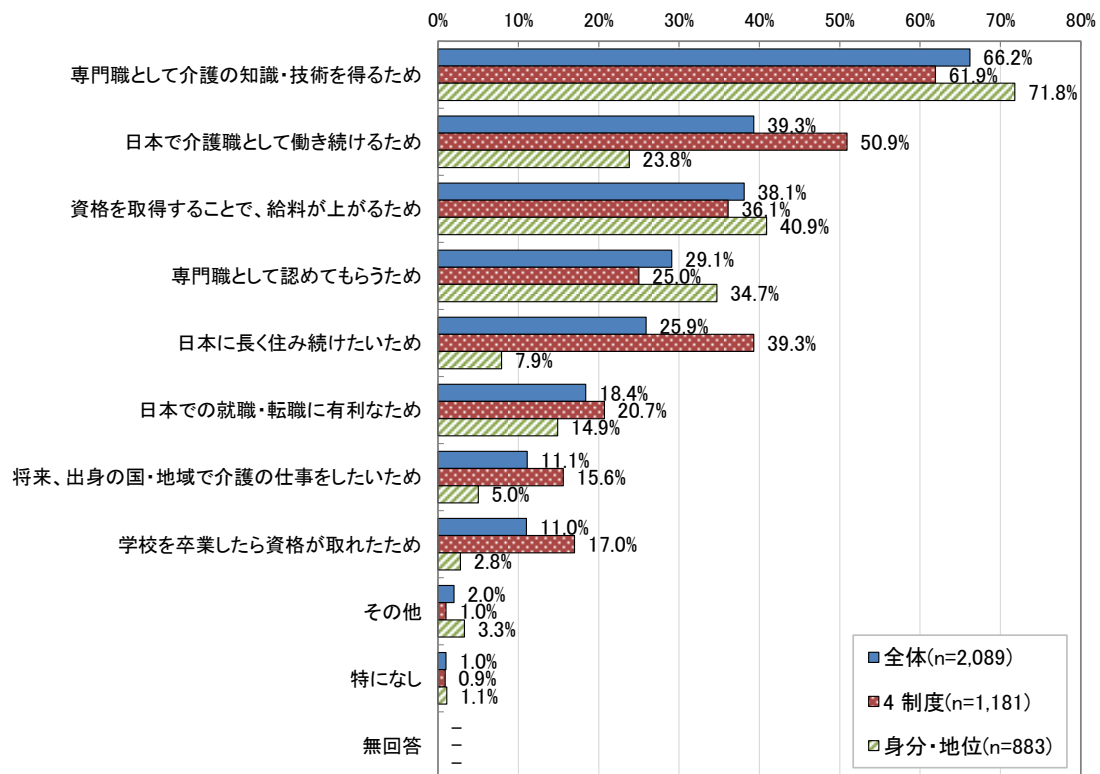
- ・ 給料が少ないから
- ・ ケアマネジャーの資格と介護講師の資格をとりたい
- ・ 赤ちゃんが生まれたばかりなので受験できない
- ・ 妊娠

(24) Q11. 介護福祉士の受験または登録のきっかけ（複数選択）

全体では、「専門職として介護の知識・技術を得るため」が 66.2%と最も多く、「日本で介護職として働き続けるため」が 39.3%、「資格を取得することで、給料が上がるため」が 38.1%、「専門職として認めてもらうため」が 29.1%、「日本に長く住み続けたいため」が 25.9%となっている。

身分・地位に比べ、4制度では、「日本で介護職として働き続けるため」、「日本に長く住み続けたいため」が多くなる。

図表 47 Q11. 介護福祉士の受験または登録のきっかけ（複数選択）



<その他の回答>

- ・ 自分の目標達成のため
- ・ 自己能力を確かめるため
- ・ この年齢でも役立つ事を学ぶため
- ・ 学びを深めたいため
- ・ 家族の介護に役立つため
- ・ 職場の人に勧められたため
- ・ 家族に勧められたため
- ・ 外国人でも努力すると資格が取れることを認めてもらいたかった
- ・ 周りの日本人がほとんど介護福祉士資格持っているから
- ・ 生活のため
- ・ 子供達とずっと一緒に住むため
- ・ 金を稼ぐため
- ・ 家族の仕送りため
- ・ 奨学金をもらったため

在留資格別の介護福祉士の受験または登録のきっかけは、以下の通りである。

図表 48 Q2. 現在の在留資格 × Q11. 介護福祉士の受験または登録のきっかけ
(複数選択)

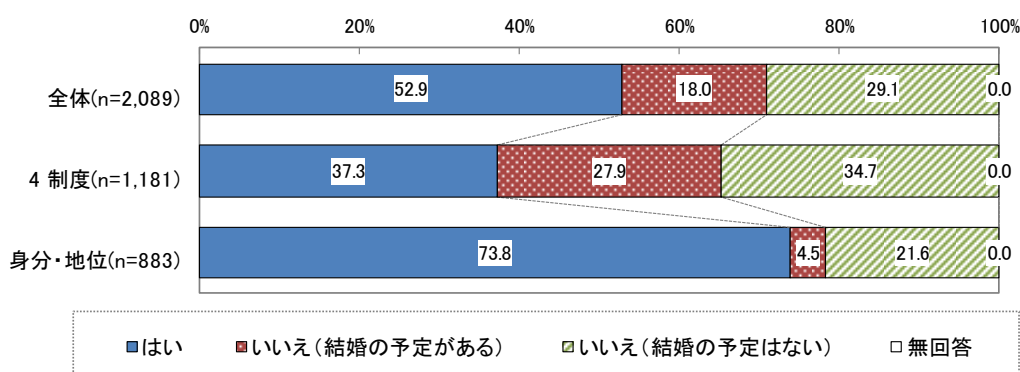
	全体	専門職として介護の知識・技術を得るため	専門職として認めてもらうため	資格を取得することで、給料が上がるため	学校を卒業したら資格が取れたため	日本で介護職として働き続けるため	日本での就職・転職に有利なため	日本に長く住み続けたいため	将来、自身の国・地域で介護の仕事をしたいため	その他	特になし
全体	2089 100%	1382 66.2%	608 29.1%	796 38.1%	229 11.0%	820 39.3%	384 18.4%	542 25.9%	232 11.1%	42 2.0%	21 1.0%
在留資格「介護」	1031 100%	639 62.0%	252 24.4%	332 32.2%	197 19.1%	505 49.0%	208 20.2%	386 37.4%	163 15.8%	9 0.9%	11 1.1%
特定活動(EPA介護福祉士)	119 100%	74 62.2%	34 28.6%	81 68.1%	3 2.5%	79 66.4%	32 26.9%	70 58.8%	15 12.6%	2 1.7%	-
技能実習	7 100%	4 57.1%	-	1 14.3%	-	5 71.4%	-	2 28.6%	-	1 14.3%	-
特定技能	24 100%	14 58.3%	9 37.5%	12 50.0%	1 4.2%	12 50.0%	5 20.8%	6 25.0%	6 25.0%	-	-
永住者	697 100%	506 72.6%	246 35.3%	295 42.3%	20 2.9%	160 23.0%	100 14.3%	46 6.6%	35 5.0%	20 2.9%	7 1.0%
日本人の配偶者等	122 100%	82 67.2%	41 33.6%	43 35.2%	3 2.5%	34 27.9%	20 16.4%	13 10.7%	6 4.9%	5 4.1%	2 1.6%
定住者(日系人等)	33 100%	25 75.8%	11 33.3%	12 36.4%	-	14 42.4%	9 27.3%	10 30.3%	3 9.1%	2 6.1%	-
その他	45 100%	30 66.7%	12 26.7%	17 37.8%	2 4.4%	7 15.6%	7 15.6%	6 13.3%	2 4.4%	3 6.7%	1 2.2%
国外(日本にはいない)	4 100%	3 75.0%	2 50.0%	2 50.0%	2 50.0%	3 75.0%	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	-	-

③ 家族の状況

(25) Q12. 結婚の有無 (9月1日時点)

4制度では、「はい」が37.3%、「いいえ(結婚の予定がある)」が27.9%、「いいえ(結婚の予定はない)」が34.7%であった。

図表 49 Q12. 結婚の有無 (9月1日時点)

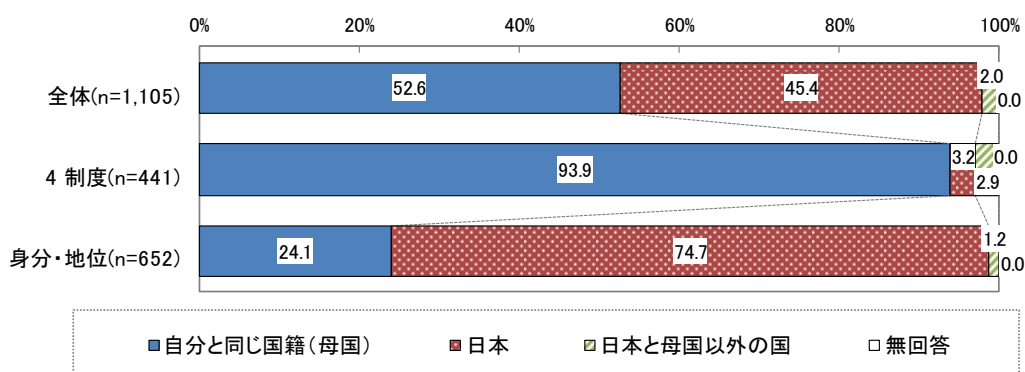


(26) Q13-1. 配偶者の国籍

4制度では、「自分と同じ国籍(母国)」が93.9%と最も多く、「日本」が3.2%、「日本と母国以外の

国」が2.9%となっている。身分・地位は「日本」が最も多い。

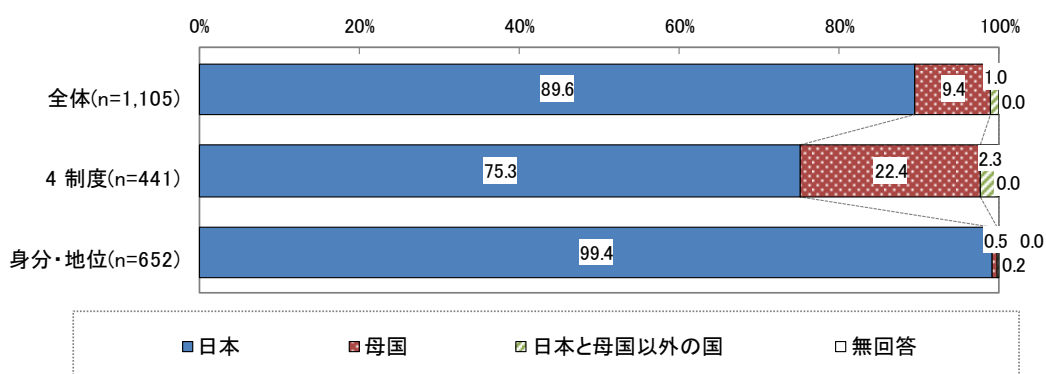
図表 50 Q13-1. 配偶者の国籍



(27) Q13-2. 配偶者の住まい

身分・地位では、ほとんどの方が日本で生活しているが、4制度では、「日本」が75.3%、「母国」が22.4%、「日本と母国以外の国」が2.3%であった。

図表 51 Q13-2. 配偶者の住まい

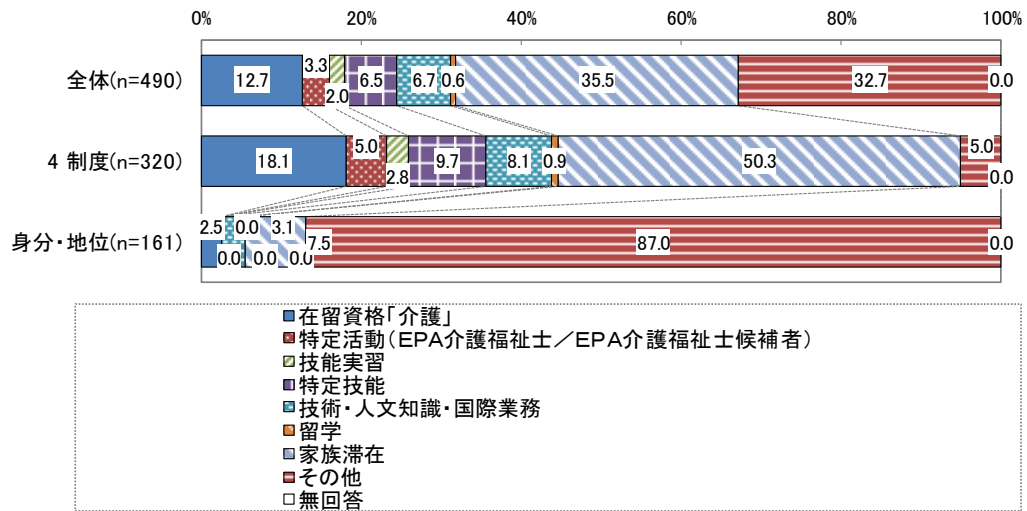


(28) Q13-3. 配偶者の在留資格

4制度では、「家族滞在」が50.3%と最も多く、「在留資格「介護」」が18.1%、「特定技能」が9.7%、「技術・人文知識・国際業務」が8.1%、「特定活動（EPA介護福祉士／EPA介護福祉士候補者）」が5.0%となっている。「その他」には、「永住者」、「EPA看護師」等が含まれる。

身分・地位では、「家族滞在」は7.5%であり、「特定活動（EPA介護福祉士／EPA介護福祉士候補者）」、「技能実習」、「特定技能」、「留学」を配偶者に持つ者はいなかった。「その他」には「永住者」、「永住者の配偶者等」、「特別永住者」が含まれる。「永住者」は全体の24.8%であった。

図表 52 Q13-3. 配偶者の在留資格

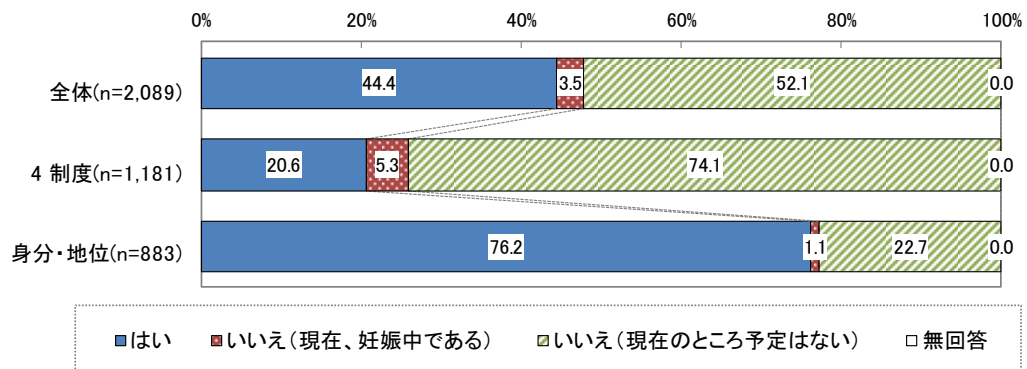


(29) Q14. 子どもの有無 (9月1日時点)

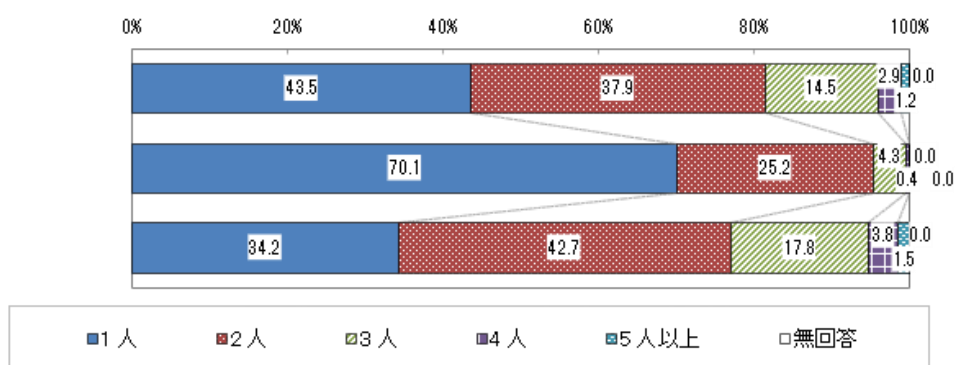
4 制度では、「はい」が 20.6%、「いいえ (現在、妊娠中である)」が 5.3%、「いいえ (現在のところ予定はない)」が 74.1%であった。身分・地位では、「はい」が 76.2%であった。

子どもの人数は、4 制度は「1 人」が 70.1%であった。

図表 53 Q14. 子どもの有無 (9月1日時点)



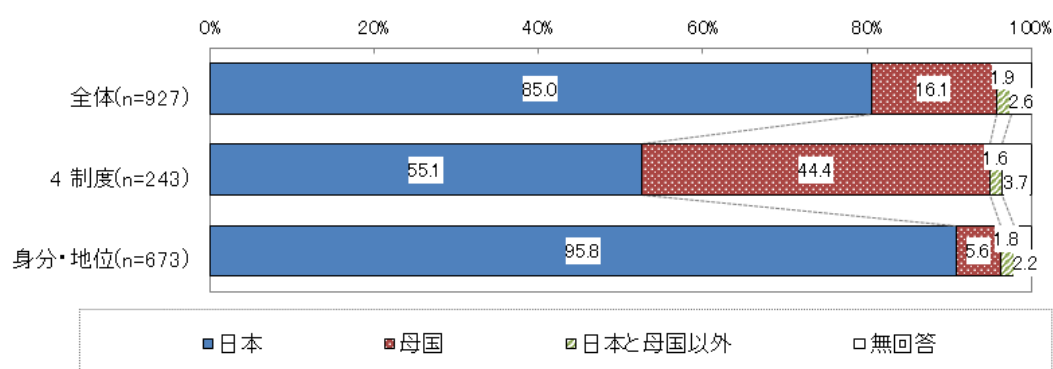
図表 54 Q15. 子どもの人数



(30) Q15-1. 子どもの住まい（重複回答）

子どもがいるかどうか「はい」と回答した方のうち、「日本」に住んでいるのは 85.0%、「母国」に住んでいるのは 16.1%、「日本と母国以外」は 1.9%であった。身分・地位では、ほとんどが「日本」である一方、4制度では、「日本」は 55.1%、「母国」は 44.4%、「日本と母国以外」は 1.6%と、子どもと離れて暮らしている方が半数近くいる。

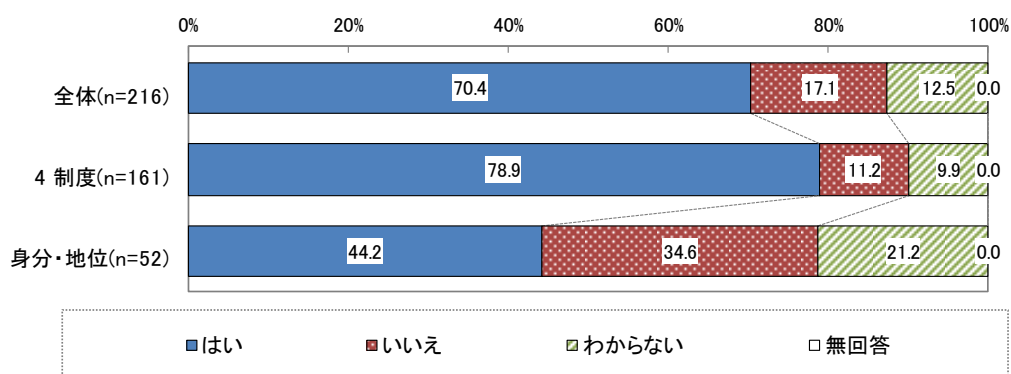
図表 55 Q15-1. 子どもの住まい



(31) Q15-2. 【有配偶者・有子者で生活を共にしていない方】家族の呼び寄せ希望

全体では、「はい」が 70.4%、「いいえ」が 17.1%、「わからない」が 12.5%であった。4制度では、「はい」が 78.9%、「いいえ」が 11.2%、「わからない」が 9.9%であった。身分・地位では、「はい」が 44.2%であり、家族を日本に呼び寄せない層が一定数いた。

図表 56 Q15-2. 【有配偶者・有子者で生活を共にしていない方】家族の呼び寄せ希望

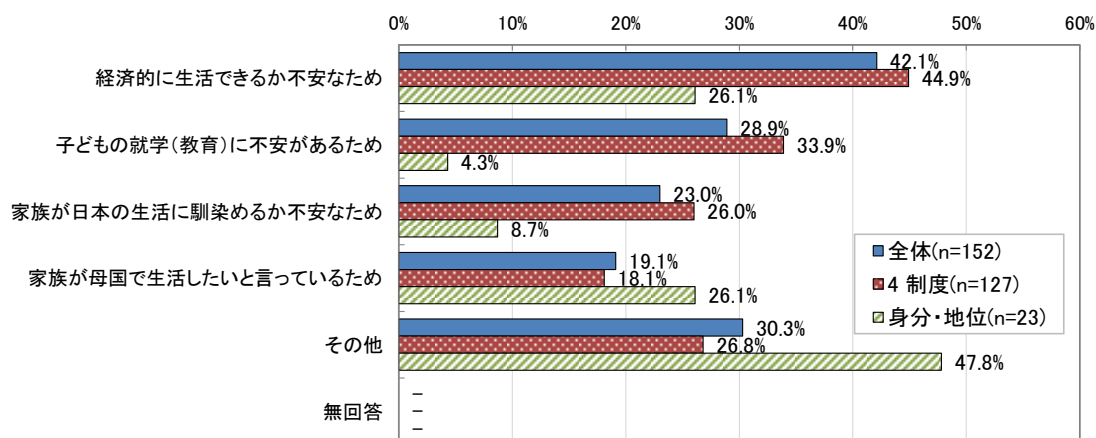


(32) Q15-3. 【有配偶者・有子者で生活を共にしていない方】家族の呼び寄せることができない理由 (複数選択)

4 制度では、「経済的に生活できるか不安なため」が 44.9%と最も多く、「子どもの就学（教育）に不安があるため」が 33.9%、「家族が日本の生活に馴染めるか不安なため」が 26.0%、「家族が母国で生活したいと言っているため」が 18.1%となっている。

身分・地位では、「経済的に生活できるか不安なため」が 26.1%と最も多く、「家族が母国で生活したいと言っているため」が 26.1%、「家族が日本の生活に馴染めるか不安なため」が 8.7%、「子どもの就学（教育）に不安があるため」が 4.3%となっている。

図表 57 Q15-3. 【有配偶者・有子者で生活を共にしていない方】家族の呼び寄せることができない理由 (複数選択)



<その他の回答>

4 制度

- ・ 言葉が通じないため
- ・ 子どもが1歳未満のため
- ・ 祖母、祖父の世話をしているため
- ・ 日本の制度制限のため、「介護」資格でなければ家族を呼んでくることができないため

- ・ 在留資格を切り替えないため
- ・ 申し込み中

身分・地位

- ・ 母国で仕事があるため
- ・ 子どもが就学中であるため
- ・ 子どもが成人のため

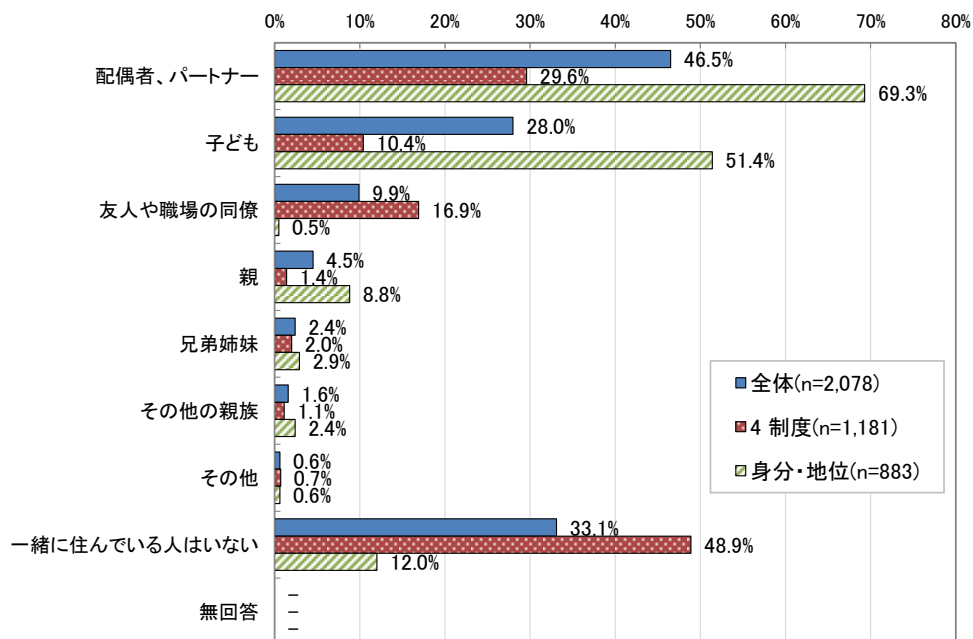
④ 生活の状況

(33) Q16. 同居人（複数選択）

全体では、「配偶者、パートナー」が46.5%と最も多く、「子ども」が28.0%、「友人や職場の同僚」が9.9%、「親」が4.5%、「兄弟姉妹」が2.4%、「その他の親族」が1.6%となっている。また「一緒に住んでいる人はいない」は33.1%である。

4制度では、半数近くが「一緒に住んでいる人はいない」状況であり、「友人や職場の同僚」と住んでいる人も16.9%いる。

図表 58 Q16. 同居人（複数選択）

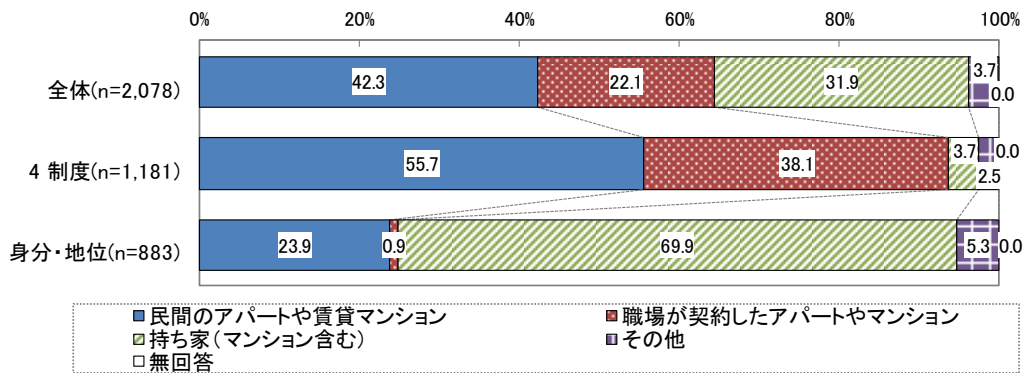


(34) Q17. 現在の住まい

4制度では、「民間のアパートや賃貸マンション」が55.7%と最も多く、「職場が契約したアパートやマンション」が38.1%、「持ち家（マンション含む）」が3.7%となっている。

身分・地位では、「持ち家（マンション含む）」が69.9%と最も高い。

図表 59 Q17. 現在の住まい



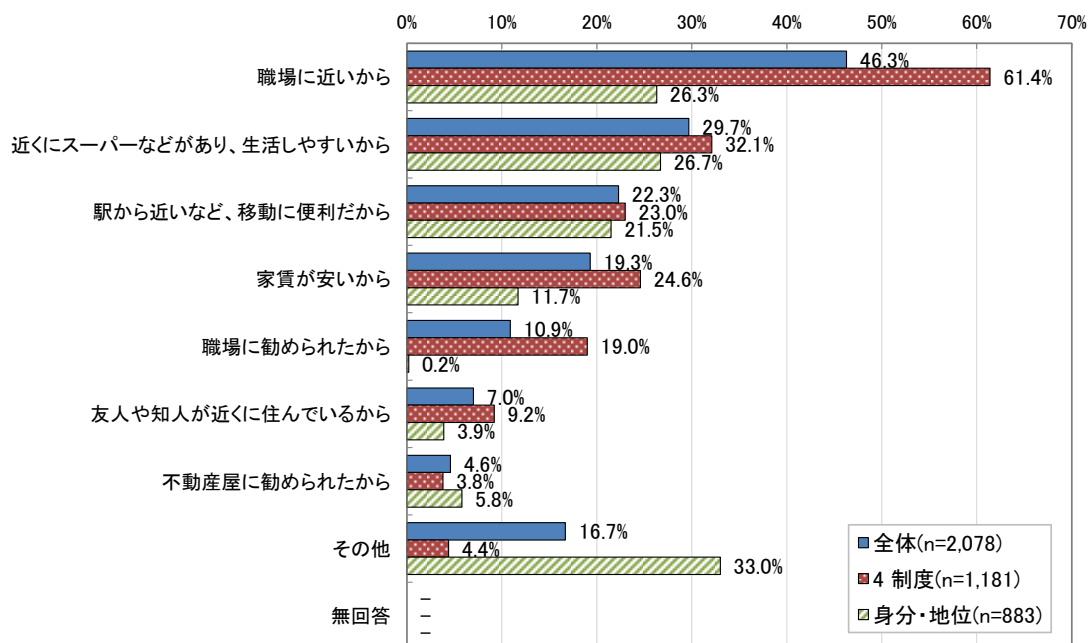
(35) Q18. 現在の住まいを選んだ理由（複数選択）

4 制度では、「職場に近いから」が 61.4%と最も多く、「近くにスーパーなどがあり、生活しやすいから」が 32.1%、「家賃が安いから」が 24.6%、「駅から近いなど、移動に便利だから」が 23.0%、「職場に勧められたから」が 19.0%となっている。

身分・地位では、「近くにスーパーなどがあり、生活しやすいから」が 26.7%と最も多く、「職場に近いから」が 26.3%、「駅から近いなど、移動に便利だから」が 21.5%、「家賃が安いから」が 11.7%、「不動産屋に勧められたから」が 5.8%となっている。

「その他」には、持ち家、配偶者の家、親の住まい等の回答が多く含まれる。

図表 60 Q18. 現在の住まいを選んだ理由（複数選択）



(36) Q41. 生活で困っていること（3つまで選択）

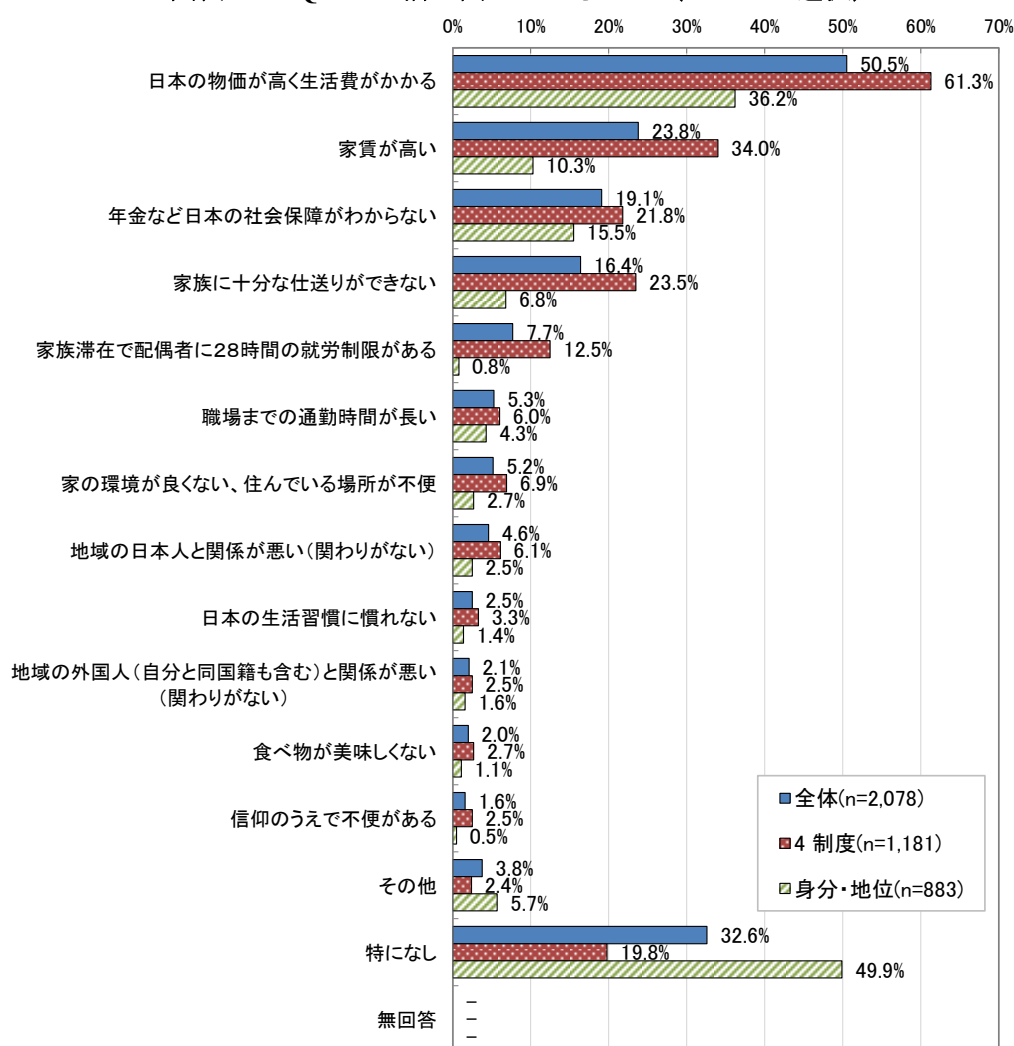
全体では、「日本の物価が多く生活費がかかる」が 50.5%と最も多く、「家賃が高い」が 23.8%、「年

金など日本の社会保障がわからない」が 19.1%、「家族に十分な仕送りができない」が 16.4%、「家族滞在で配偶者に 28 時間の就労制限がある」が 7.7%となっている。

4 制度では、「日本の物価が多く生活費がかかる」が 61.3%と最も多く、「家賃が高い」が 34.0%、「家族に十分な仕送りができない」が 23.5%と、金銭面での困りごとが上位にあがっている。また、「家族滞在で配偶者に 28 時間の就労制限がある」も 12.5%いる。

身分・地位では、「日本の物価が多く生活費がかかる」が 36.2%と最も多く、次に「年金など日本の社会保障がわからない」が 15.5%となっている。また、半数近くは、「特になし」である。

図表 61 Q41. 生活で困っていること（3つまで選択）



<その他>

4 制度

【金銭面】

- ・ 給料、資格手当、ボーナスが少ない
- ・ 円安

【待遇面】

- ・ 休みなのに会社が強制的に会社の PR のため参加させる。サービス残業
- ・ 1 ヶ月の間に、有給含めて 10 日間しか休みをとることができない
- ・ 家族呼び寄せ支援（相談支援等）をもらいたい

【立地面】

- ・ 離島に住んでいるため、旅することがしにくくなった
- ・ スーパーが遠いため買い物は困っている
- ・ 自転車しか持っていないから不便
- ・ ハラル食べ物あまりない。イスラムのお祈り場所がない
- ・ 同国籍の方が少ない

【行政手続き面】

- ・ 親族訪問の手続きが難しい
- ・ 税金の仕組みがわからない
- ・ 配偶者の在留資格を家族滞在から変更したい
- ・ 永住権がなかなか取れない。日本に長くいても保証人がいないと永住権がもらえない

【その他】

- ・ スーパーなどで差別されていることで嫌な気持ちを感じている
- ・ 言葉の壁 不便がある
- ・ 孤独
- ・ 日本人と仲良くしようと思っているができない
- ・ 子供の保育園のバスがあれば、助かる。車がないから。4 歳になったが、まだ保育園入っていない。配布者の日本語ができない。仕事の時に誰も迎えに行くことができない
- ・ 家で同僚と一緒に住んでいるので生活を自由に出来ない

身分・地位

【金銭面】

- ・ 年金が少ない、年金だけで生活できない
- ・ 給料が低い（退職金がない・少ない、ボーナスが低い、最低賃金等）
- ・ 引越したいけど費用が高い
- ・ 物価が高い
- ・ 子どもの教育費が高い税金が高くて働いても生活が良くならない

【待遇面】

- ・ 副業ができない

- ・ コロナ渦で5類になったとはいえ、福祉関係の仕事の為、一時帰国などがしづらい。他の職種より感染予防等、制限される事が多い

【立地面】

- ・ 遠方への移動手段がない
- ・ 地域との交流パイプが無い/分からない

【その他】

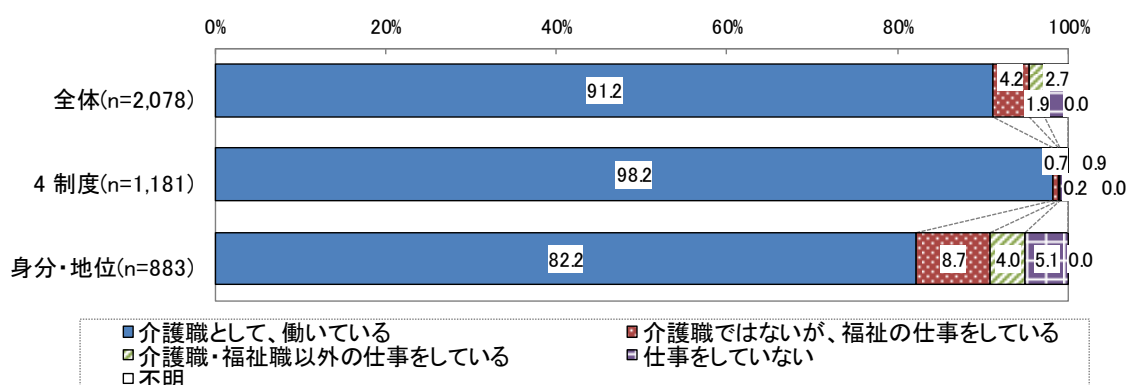
- ・ 選挙権がない
- ・ 家のローンが厳しい
- ・ 仕事時に子供を見てくれる人がいない
- ・ 日本の国民は外国人に対しての差別と軽蔑止めてほしい
- ・ 在日である事がバレたらやはり嫌なので偏見が心配
- ・ 住みやすい国であるが、外国人がリーダーになると発語の悪さを指摘されることがある
- ・ 情報がない

⑤ 就労の状況

(37) Q19. 介護職として収入を伴う仕事の有無

4制度では、「介護職として、働いている」が98.2%、「介護職ではないが、福祉の仕事をしている」が0.7%、「介護職・福祉職以外の仕事をしている」が0.2%、「仕事をしていない」が0.9%であった。身分・地位では、介護職以外の仕事の割合が増える。

図表 62 Q19. 介護職として収入を伴う仕事の有無

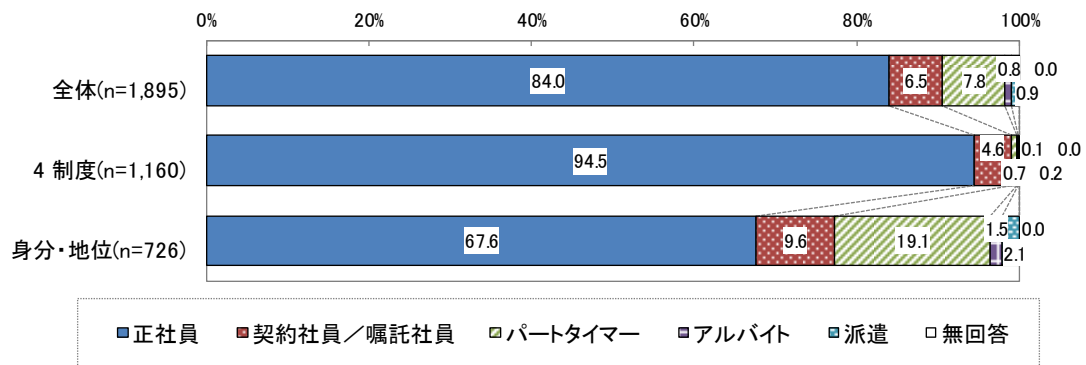


(38) Q20-1-1. 【介護職】現在の雇用形態

4制度では、「正社員」が94.5%と最も多く、「契約社員／嘱託社員」が4.6%、「パートタイマー」が0.7%、「派遣」が0.2%、「アルバイト」が0.1%となっている。

身分・地位では、「正社員」が67.6%と、4制度に比べて低くなっている。

図表 63 Q20-1-1. 【介護職】現在の雇用形態



介護福祉士国家試験の受験・合格有無で見ると、「正社員」は、「介護福祉士国家試験を受験したことがあるが、合格していない」不合格者が 95.8%となっており、合格者、未受験者よりも割合が高い。

図表 64 Q10. 国家試験の受験有無・Q. 10-1-2 国家試験の合否 × Q20-1-1. 【介護職】現在の雇用形態

	全体	正社員	契約社員／嘱託社員	パートタイマー	アルバイト	派遣
全体	1895 100%	1592 84.0%	123 6.5%	148 7.8%	15 0.8%	17 0.9%
ある	1839 100%	1542 83.8%	119 6.5%	146 7.9%	15 0.8%	17 0.9%
内) 合格している	1481 100%	1199 81.0%	108 7.3%	144 9.7%	14 0.9%	16 1.1%
内) 合格していない	358 100%	343 95.8%	11 3.1%	2 0.6%	1 0.3%	1 0.3%
ない	56 100%	50 89.3%	4 7.1%	2 3.6%	－	－

(39) Q20-1-2. 【介護職】就労地域

図表 65 Q20-1-2. 【介護職】就労地域

	全体	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
全体	1895 100%	26 1.4%	3 0.2%	15 0.8%	32 1.7%	7 0.4%	14 0.7%	7 0.4%	23 1.2%	30 1.6%	34 1.8%
4 制度	1160 100%	24 2.1%	2 0.2%	7 0.6%	20 1.7%	— —	1 0.1%	3 0.3%	18 1.6%	23 2.0%	24 2.1%
身分・地位	726 100%	2 0.3%	1 0.1%	8 1.1%	12 1.7%	7 1.0%	13 1.8%	4 0.6%	5 0.7%	7 1.0%	10 1.4%

	全体	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
全体	1895 100%	88 4.6%	93 4.9%	261 13.8%	152 8.0%	25 1.3%	15 0.8%	8 0.4%	22 1.2%	14 0.7%	24 1.3%
4 制度	1160 100%	46 4.0%	62 5.3%	143 12.3%	77 6.6%	15 1.3%	6 0.5%	4 0.3%	11 0.9%	6 0.5%	9 0.8%
身分・地位	726 100%	41 5.6%	29 4.0%	117 16.1%	72 9.9%	10 1.4%	9 1.2%	4 0.6%	11 1.5%	8 1.1%	15 2.1%

	全体	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
全体	1895 100%	37 2.0%	32 1.7%	116 6.1%	39 2.1%	17 0.9%	40 2.1%	266 14.0%	110 5.8%	30 1.6%	18 0.9%
4 制度	1160 100%	23 2.0%	19 1.6%	70 6.0%	30 2.6%	8 0.7%	14 1.2%	170 14.7%	75 6.5%	25 2.2%	14 1.2%
身分・地位	726 100%	14 1.9%	13 1.8%	46 6.3%	8 1.1%	9 1.2%	26 3.6%	95 13.1%	35 4.8%	5 0.7%	4 0.6%

	全体	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
全体	1895 100%	4 0.2%	3 0.2%	36 1.9%	34 1.8%	18 0.9%	16 0.8%	18 0.9%	10 0.5%	4 0.2%	66 3.5%
4 制度	1160 100%	1 0.1%	2 0.2%	25 2.2%	18 1.6%	13 1.1%	8 0.7%	13 1.1%	8 0.7%	1 0.1%	54 4.7%
身分・地位	726 100%	3 0.4%	1 0.1%	11 1.5%	16 2.2%	5 0.7%	8 1.1%	5 0.7%	2 0.3%	3 0.4%	12 1.7%

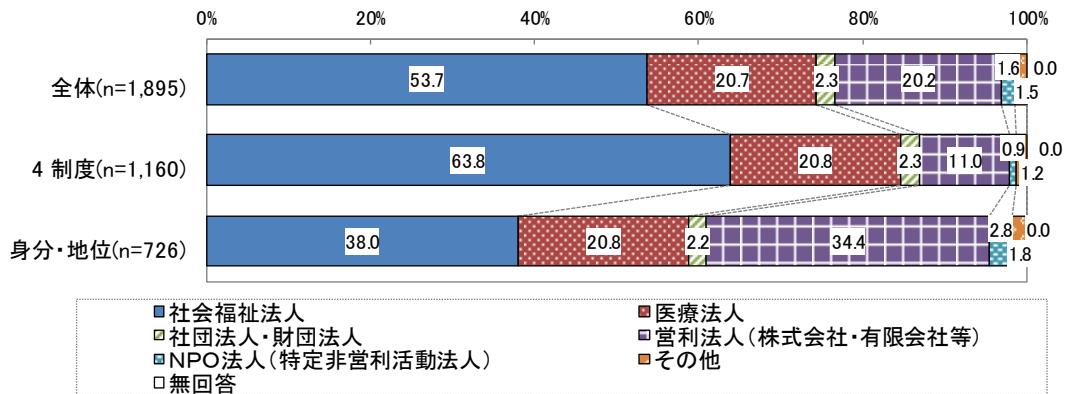
	全体	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
全体	1895 100%	21 1.1%	15 0.8%	16 0.8%	9 0.5%	5 0.3%	3 0.2%	19 1.0%
4 制度	1160 100%	20 1.7%	11 0.9%	11 0.9%	2 0.2%	5 0.4%	3 0.3%	16 1.4%
身分・地位	726 100%	1 0.1%	4 0.6%	5 0.7%	7 1.0%	— —	— —	3 0.4%

(40) Q20-1-3. 【介護職】職場の法人格

全体では、「社会福祉法人」が 53.7%と最も多く、「医療法人」が 20.7%、「営利法人（株式会社・有限会社等）」が 20.2%、「社団法人・財団法人」が 2.3%、「NPO 法人（特定非営利活動法人）」が 1.6%となっている。「その他」には、学校法人、宗教法人、独立行政法人、合同会社等が含まれる。

4 制度でも身分・地域でも、「社会福祉法人」が最も多いが、4 制度では「社会福祉法人」が 6 割を占めるのに対し、身分・地位では 4 割以下で、「営利法人」の割合が多い。

図表 66 Q20-1-3. 【介護職】職場の法人格

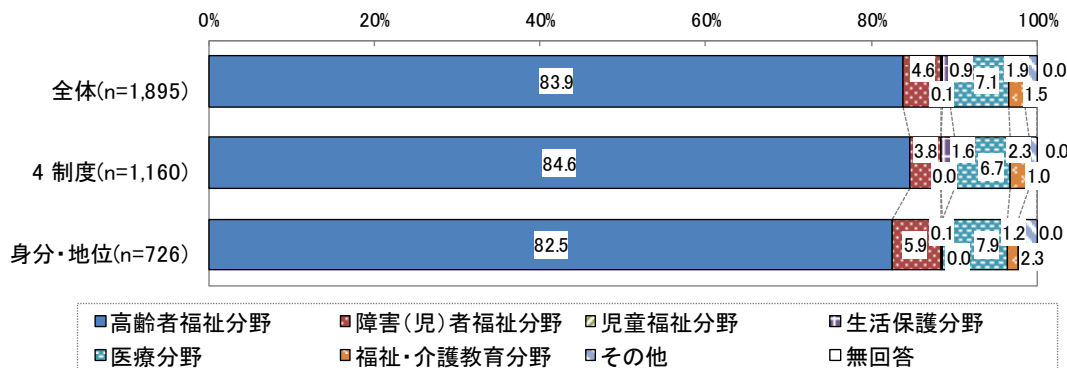


(41) Q20-1-4. 【介護職】職場の分野

全体では、「高齢者福祉分野」が 83.9%と最も多く、「医療分野」が 7.1%、「障害（児）者福祉分野」が 4.6%、「福祉・介護教育分野」が 1.9%、「生活保護分野」が 0.9%、「児童福祉分野」が 0.1%となっている。

4制度に比べ、身分・地位では「医療分野」と「障害（児）者福祉分野」が多い。

図表 67 Q20-1-4. 【介護職】職場の分野



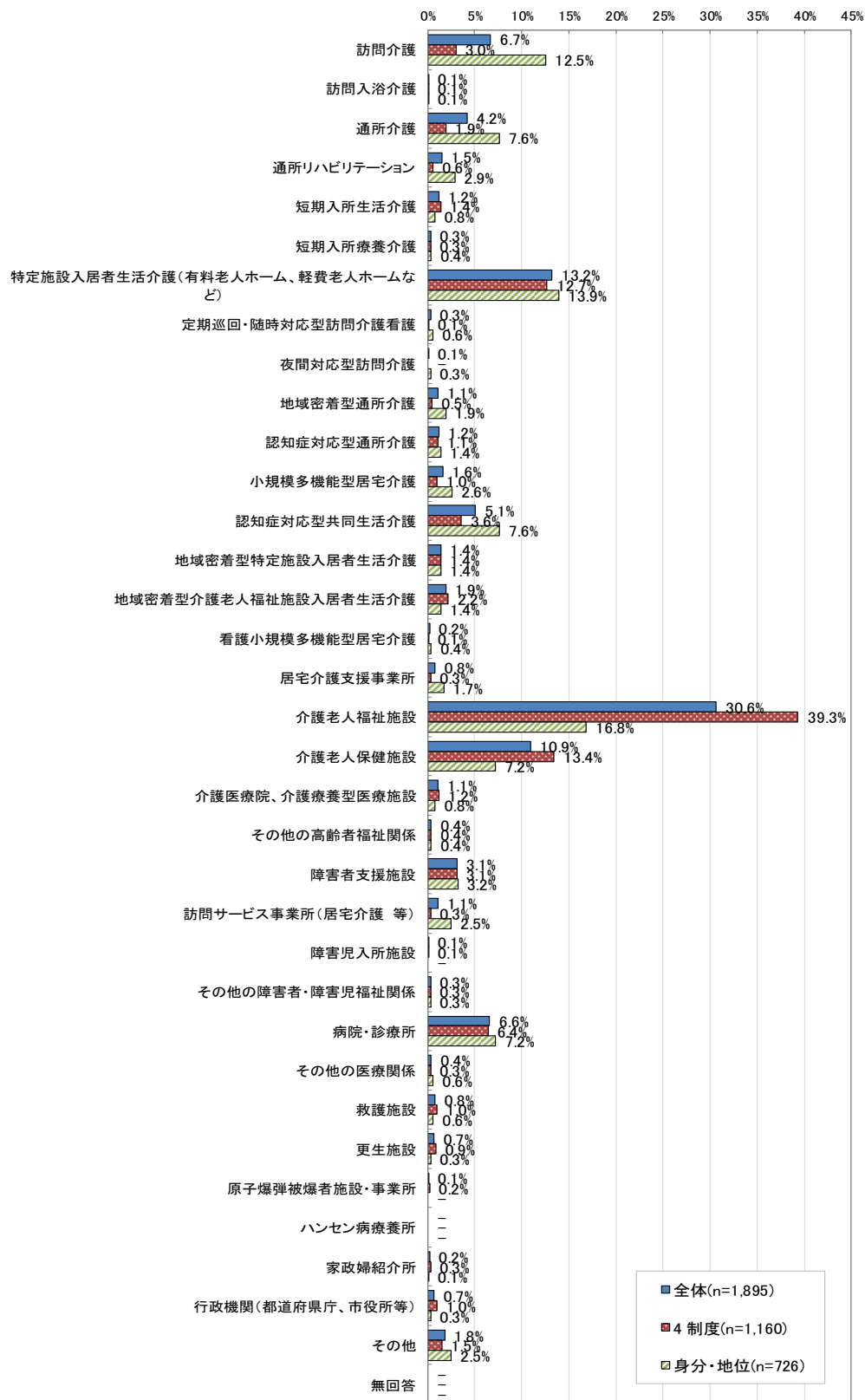
(42) Q20-1-5. 【介護職】事業内容（サービス種別）

全体では、「介護老人福祉施設」が 30.6%と最も多く、「特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、軽費老人ホームなど）」が 13.2%、「介護老人保健施設」が 10.9%、「訪問介護」が 6.7%、「病院・診療所」が 6.6%となっている。

4制度では、「介護老人福祉施設」が 39.3%と最も多い。4制度と比較し、身分・地位では、「訪問介護」や「通所介護」の割合が多い。

「訪問介護」と「訪問入浴」に従事する4制度の人数は37人だが、来日時の在留資格別にみると、「留学」が33人、「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」が3人、「技能実習」が1人である。

図表 68 Q20-1-5. 【介護職】事業内容（サービス種別）

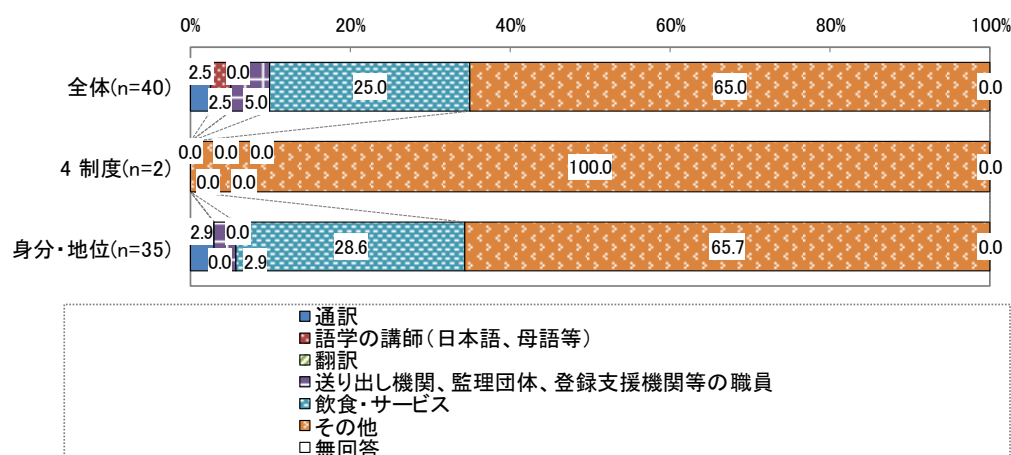


(43) Q20-1-6. 【介護職・福祉職以外】現在の主な仕事

全体では、「飲食・サービス」が 25.0%と最も多く、「送り出し機関、監理団体、登録支援機関等の職員」が 5.0%、「通訳」が 2.5%、「語学の講師（日本語、母語等）」が 2.5%となっている。「その他」には、建設業、製造業、映像編集、団体職員、清掃員等が含まれる。

※注意：4 制度では、「その他」として「事務」等が含まれるが、4 制度は介護職として就労するための在留資格のため、回答者の認識誤りの可能性がある。

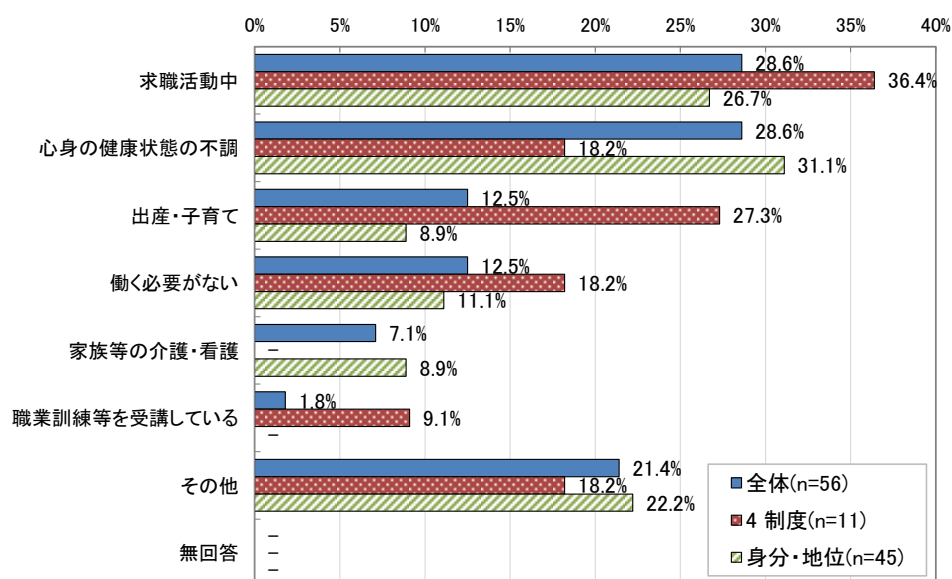
図表 69 Q20-1-6. 【介護職・福祉職以外】現在の主な仕事



(44) Q20-2-1. 【非就労者】仕事をしていない理由（複数選択）

全体では、「求職活動中」が 28.6%と最も多く、「心身の健康状態の不調」が 28.6%、「出産・子育て」が 12.5%、「働く必要がない」が 12.5%、「家族等の介護・看護」が 7.1%となっている。「その他」には、定年、学校に通う等が含まれる。

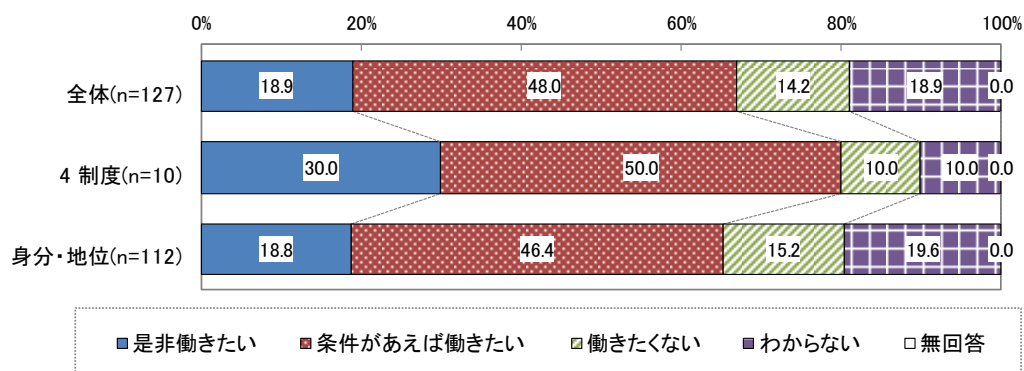
図表 70 Q20-2-1. 【非就労者】仕事をしていない理由（複数選択）



(45) Q20-2-2. 【介護職以外】介護職としての就労希望

全体では、「是非働きたい」が 18.9%、「条件があれば働きたい」が 48.0%、「働きたくない」が 14.2%、「わからない」が 18.9%であった。

図表 71 Q20-2-2. 【介護職以外】介護職としての就労希望

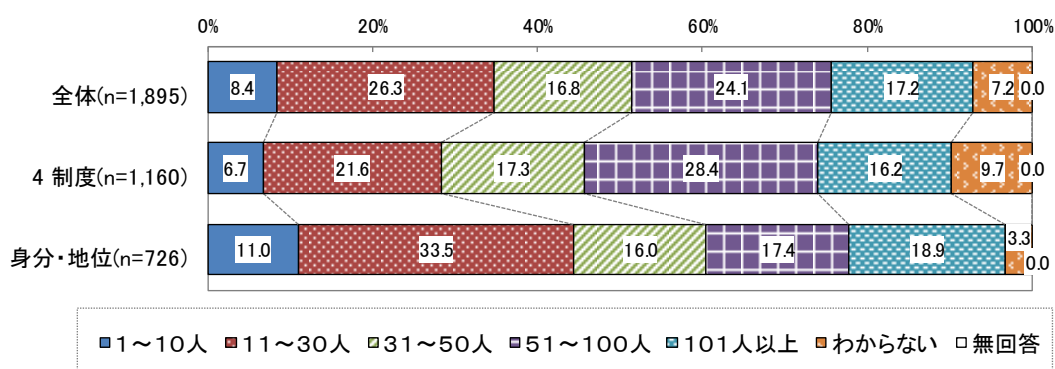


(46) Q22. 【介護職】現在働いている職場（施設・事業所等）の従業員数

全体では、「11～30 人」が 26.3%と最も多く、「51～100 人」が 24.1%、「101 人以上」が 17.2%、「31～50 人」が 16.8%、「1～10 人」が 8.4%となっている。

4 制度では、「51 人以上」が約半数を占める。一方、身分・地位は「11～30 人」が 33.5%を占め、4 制度と比較して従業員数が少ない。

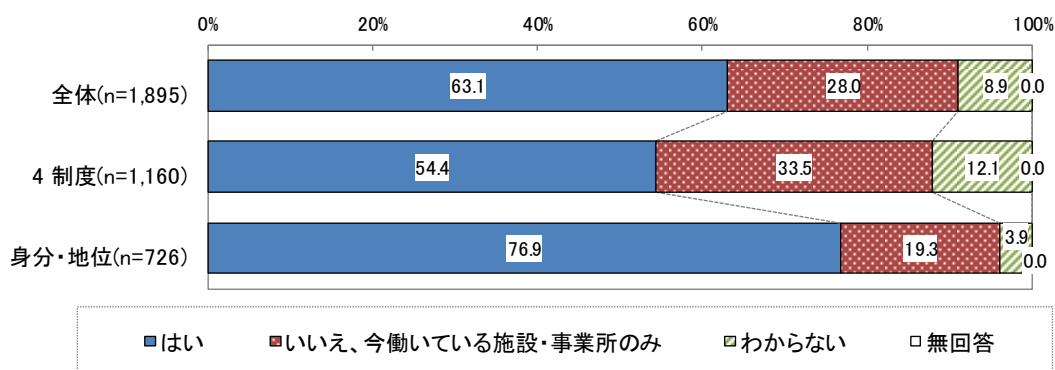
図表 72 Q22. 【介護職】現在働いている職場（施設・事業所等）の従業員数



(47) Q23. 【介護職】現在働いている職場（法人）での他の施設・事業所の有無

全体では、「はい」が 63.1%、「いいえ、今働いている施設・事業所のみ」が 28.0%、「わからない」が 8.9%であった。身分・地位に比べ、4 制度は単独事業所の割合が多い。

図表 73 Q23. 【介護職】現在働いている職場（法人）での他の施設・事業所の有無

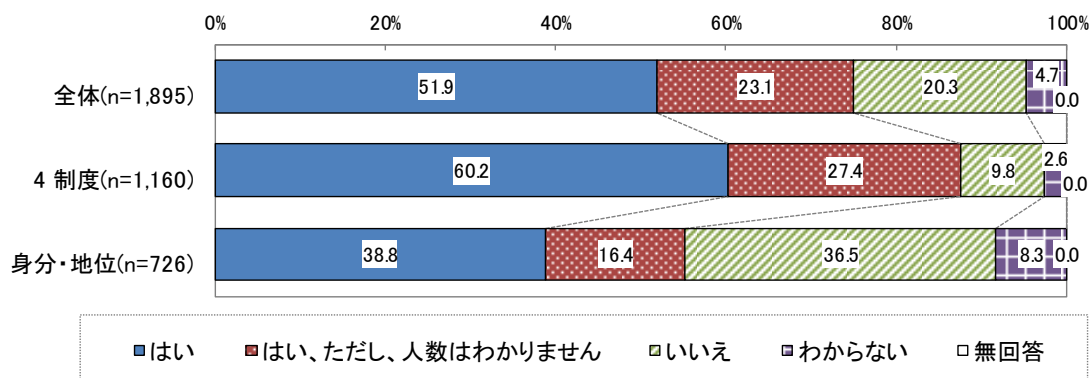


(48) Q24. 【介護職】職場（施設・事業所）内の外国人職員の有無

全体では、「はい」が 51.9%と最も多く、「はい、ただし、人数はわかりません」が 23.1%、「いいえ」が 20.3%、「わからない」が 4.7%となっている。

身分・地位と比較して、4 制度では「はい」が 87.6%と多く、ほとんどの職場が複数人の外国人職員を受け入れている。

図表 74 Q24. 【介護職】職場（施設・事業所）内の外国人職員の有無



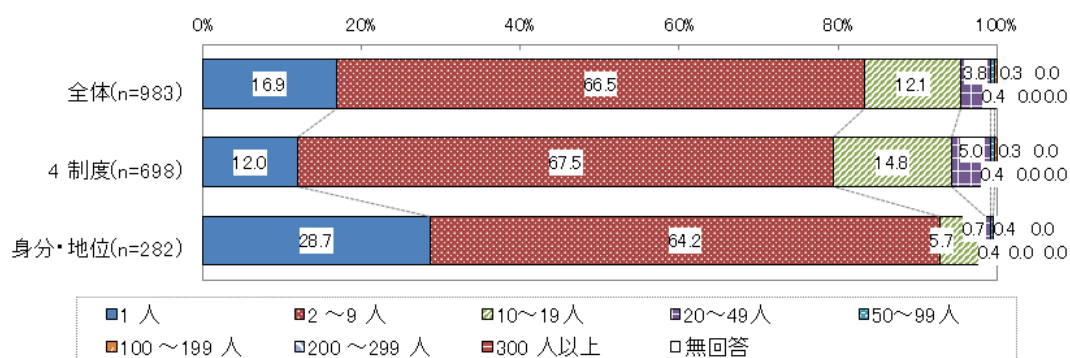
「はい」と回答した方の外国人職員数は、全体では、「2～9 人」が 66.5%と最も多かった。「平均」が 6.1 人、「中央値」が 4.0 人、「最小値」が 1 人、「最大値」が 150 人であった。

サービス種別ごとの職場（施設・事業所）の外国人職員の有無は次の通りとなっている。

図表 75 Q20-1-5. 事業内容（サービス種別） × Q24. 【介護職】職場（施設・事業所）内の外国人職員の有無

	全体	はい	はい、ただし、人数はわかりません	いいえ	わからない	無回答
全体	1895 100%	983 51.9%	438 23.1%	384 20.3%	90 4.7%	-
訪問介護	127 100%	35 27.6%	22 17.3%	54 42.5%	16 12.6%	-
訪問入浴介護	2 100%	1 50.0%	1 50.0%	-	-	-
通所介護	80 100%	31 38.8%	13 16.3%	34 42.5%	2 2.5%	-
通所リハビリテーション	28 100%	10 35.7%	5 17.9%	12 42.9%	1 3.6%	-
短期入所生活介護	23 100%	16 69.6%	4 17.4%	2 8.7%	1 4.3%	-
短期入所療養介護	6 100%	4 66.7%	1 16.7%	1 16.7%	-	-
特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、軽費老人ホームなど）	250 100%	142 56.8%	52 20.8%	46 18.4%	10 4.0%	-
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	5 100%	3 60.0%	-	2 40.0%	-	-
夜間対応型訪問介護	2 100%	1 50.0%	1 50.0%	-	-	-
地域密着型通所介護	20 100%	10 50.0%	2 10.0%	8 40.0%	-	-
認知症対応型通所介護	23 100%	11 47.8%	4 17.4%	5 21.7%	3 13.0%	-
小規模多機能型居宅介護	31 100%	7 22.6%	6 19.4%	16 51.6%	2 6.5%	-
認知症対応型共同生活介護	97 100%	46 47.4%	15 15.5%	32 33.0%	4 4.1%	-
地域密着型特定施設入居者生活介護	26 100%	11 42.3%	10 38.5%	4 15.4%	1 3.8%	-
地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護	36 100%	21 58.3%	6 16.7%	7 19.4%	2 5.6%	-
看護小規模多機能型居宅介護	4 100%	2 50.0%	-	2 50.0%	-	-
居宅介護支援事業所	16 100%	7 43.8%	2 12.5%	7 43.8%	-	-
介護老人福祉施設	579 100%	335 57.9%	174 30.1%	53 9.2%	17 2.9%	-
介護老人保健施設	207 100%	134 64.7%	42 20.3%	23 11.1%	8 3.9%	-
介護医療院、介護療養型医療施設	20 100%	10 50.0%	6 30.0%	3 15.0%	1 5.0%	-
その他の高齢者福祉関係	8 100%	5 62.5%	1 12.5%	2 25.0%	-	-
障害者支援施設	59 100%	31 52.5%	8 13.6%	19 32.2%	1 1.7%	-
訪問サービス事業所（居宅介護等）	21 100%	9 42.9%	5 23.8%	4 19.0%	3 14.3%	-
障害児入所施設	1 100%	1 100.0%	-	-	-	-
その他の障害者・障害児福祉関係	6 100%	2 33.3%	1 16.7%	3 50.0%	-	-
病院・診療所	126 100%	54 42.9%	37 29.4%	25 19.8%	10 7.9%	-
その他の医療関係	8 100%	2 25.0%	2 25.0%	2 25.0%	2 25.0%	-
救護施設	16 100%	8 50.0%	4 25.0%	4 25.0%	-	-
更生施設	13 100%	8 61.5%	3 23.1%	2 15.4%	-	-
原子爆弾被爆者施設・事業所	2 100%	2 100.0%	-	-	-	-
ハンセン病療養所	-	-	-	-	-	-
家政婦紹介所	4 100%	2 50.0%	-	-	2 50.0%	-
行政機関（都道府県庁、市役所等）	14 100%	9 64.3%	4 28.6%	1 7.1%	-	-
その他	35 100%	13 37.1%	7 20.0%	11 31.4%	4 11.4%	-

図表 76 Q24.1. 【介護職】自分以外の外国人職員の数：職場（施設・事業所）

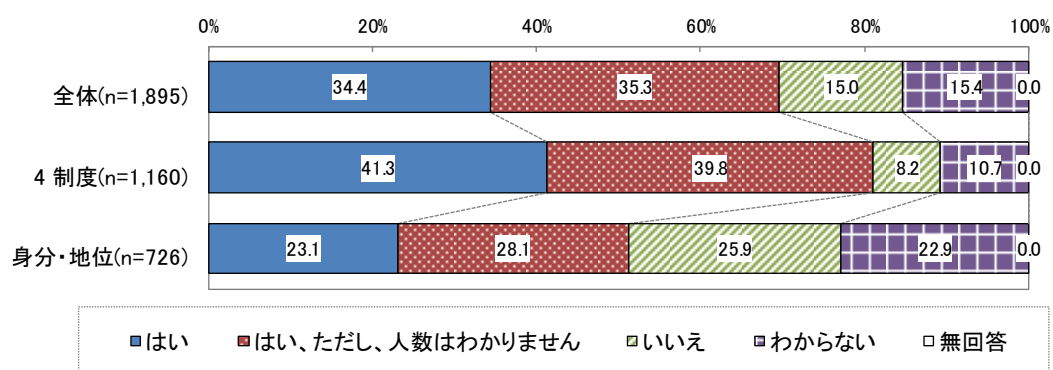


(49) Q25. 【介護職】職場（法人）内の外国人職員の有無

全体では、「はい」が 34.4%、「はい、ただし、人数はわかりません」が 35.3%、「いいえ」が 15.0%、「わからない」が 15.4%であった。

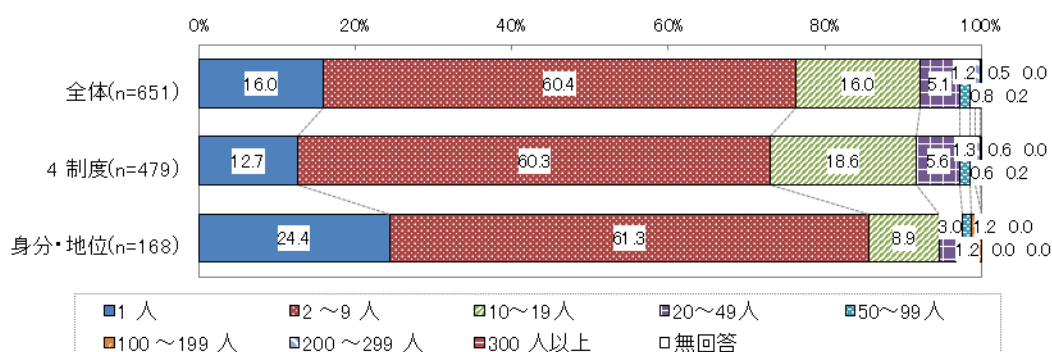
身分・地位と比較して、4 制度では「はい」が 81.1%と多く、8 割以上の職場が外国人職員を受け入れている。

図表 77 Q25. 【介護職】職場（法人）内の外国人職員の有無



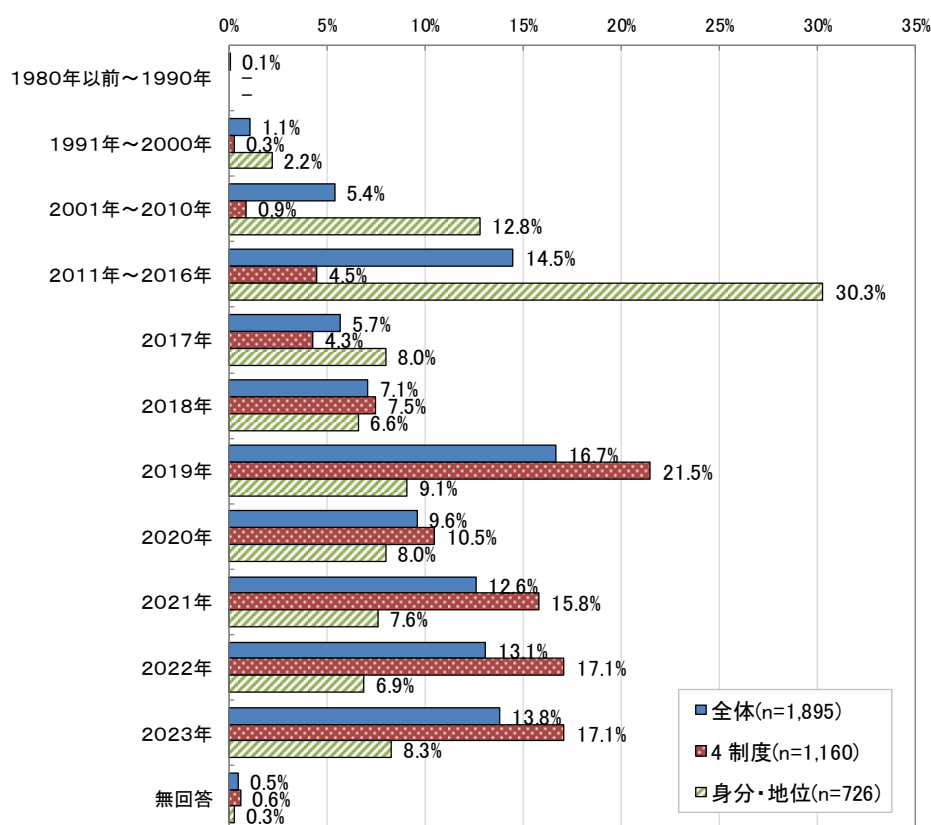
「はい」と回答した方の外国人職員数は、全体では、「2～9 人」が 60.6%と最も多かった。「平均」が 9.0 人、「中央値」が 4.0 人、「最小値」が 1 人、「最大値」が 300 人であった。

図表 78 Q25.1. 【介護職】自分以外の外国人職員の数：職場（法人）内



(50) Q26. 【介護職】現在の職場で働き始めた年

図表 79 Q26. 【介護職】現在の職場で働き始めた年

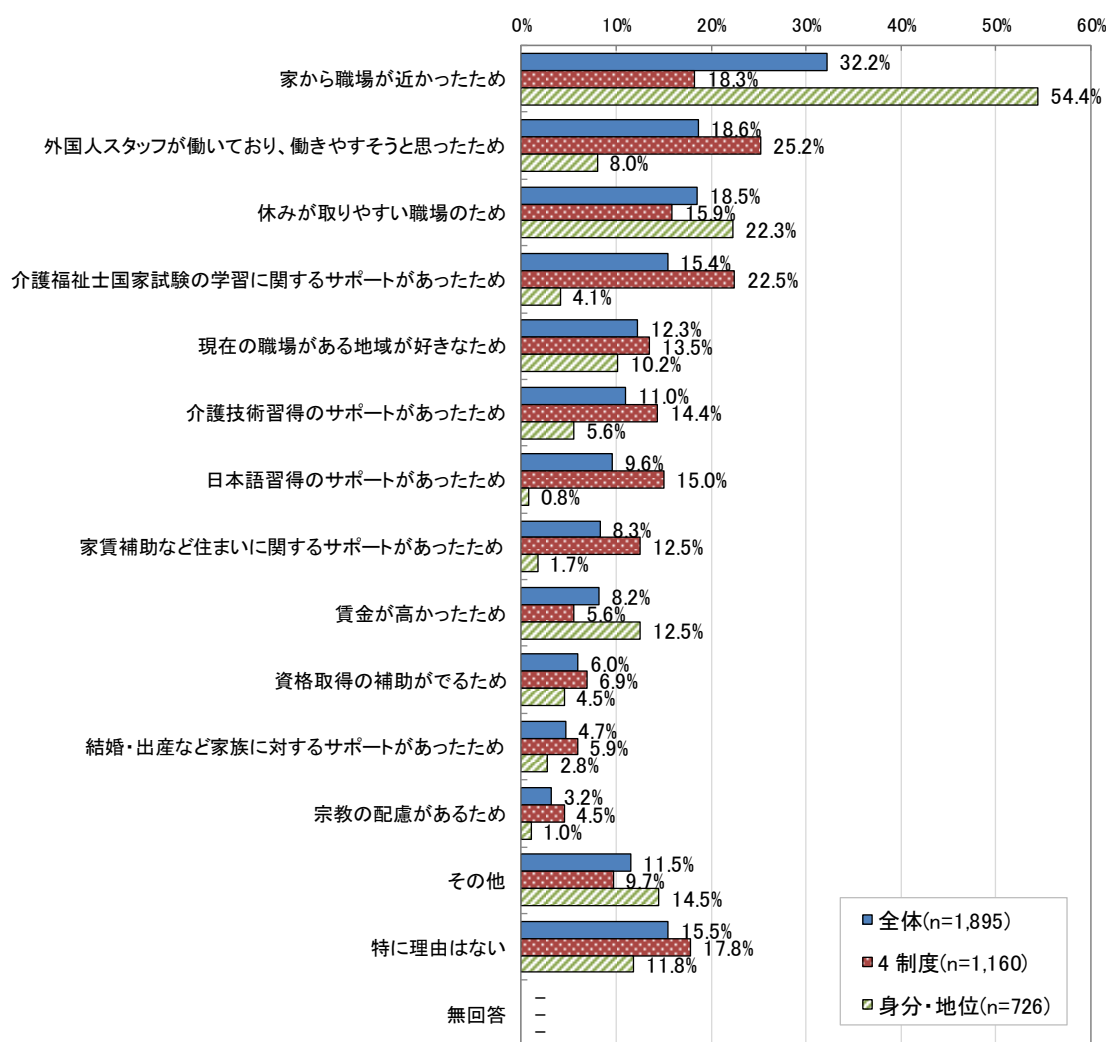


(51) Q27. 【介護職】現在の職場を選んだ理由（3つまで選択）

全体では、「家から職場が近かったため」が 32.2%と最も多く、「外国人スタッフが働いており、働きやすそうと思ったため」が 18.6%、「休みが取りやすい職場のため」が 18.5%、「介護福祉士国家試験の学習に関するサポートがあったため」が 15.4%、「現在の職場がある地域が好きなため」が 12.3%となっている。また「特に理由はない」は 15.5%となっている。

身分・地位では、半数以上が「家から職場が近かったため」を選択しているが、4制度では18.3%であった。4制度で多い回答は、「外国人スタッフが働いており、働きやすそうと思ったため」が25.2%、「介護福祉士国家試験の学習に関するサポートがあったため」が22.5%となっている。

図表 80 Q27. 【介護職】現在の職場を選んだ理由（3つまで選択）



<その他の回答>

4制度

- ・ 紹介（知人、学校、親戚等）
- ・ 友人と一緒に働きたいため
- ・ 奨学金をもらっているため、法人が保証人のため
- ・ E P A介護福祉士候補者、アルバイト時から就労しているため
- ・ 外国人職員がいなかったため
- ・ 山も綺麗、稲の香りも良いから、今の職場を選んだ
- ・ 派遣スタッフのため派遣先を選べない

身分・地位

- ・ 起業、自営業、家族経営等
- ・ 娘と同じ障害を持っている方のサポートができるため
- ・ 利用者が遠慮無くキムチを食べられるため
- ・ 言語を活かすため
- ・ 福利厚生がしっかりしていたため
- ・ 定年が65歳で賞与もあったため
- ・ 歴史があるため

図表 81 Q27. 来日時の在留資格×【介護職】現在の職場を選んだ理由（3つまで選択）

	全体	休みが取りやすい職場のため	宗教の配慮があるため	外国人スタッフが働いており、働きやすそうだったため	賃金が高かったため	日本語習得のサポートがあったため	介護技術習得のサポートがあったため	介護福祉士国家試験の学習に関するサポートがあったため	資格取得の補助がでるため	家から職場が近かったため	家賃補助など住まいに関するサポートがあったため
全体	1156 100%	185 16.0%	52 4.5%	292 25.3%	65 5.6%	173 15.0%	167 14.4%	260 22.5%	79 6.8%	210 18.2%	145 12.5%
留学	777 100%	104 13.4%	22 2.8%	189 24.3%	40 5.1%	94 12.1%	114 14.7%	149 19.2%	50 6.4%	148 19.0%	82 10.6%
内) 留学【在留資格「介護」】	766 100%	104 13.6%	22 2.9%	187 24.4%	39 5.1%	91 11.9%	112 14.6%	144 18.8%	49 6.4%	146 19.1%	79 10.3%
特定活動(EPA介護福祉士候補者)	229 100%	59 25.8%	25 10.9%	72 31.4%	22 9.6%	55 24.0%	22 9.6%	85 37.1%	14 6.1%	31 13.5%	45 19.7%
技能実習	119 100%	17 14.3%	4 3.4%	26 21.8%	-	22 18.5%	26 21.8%	23 19.3%	10 8.4%	21 17.6%	13 10.9%
特定技能	1 100%	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0%	1 100.0%
定住者(日系人等)	2 100%	-	-	-	-	1 50.0%	-	-	-	-	-
日本人の配偶者等	2 100%	-	-	-	-	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	-	1 50.0%	-
その他	20 100%	3 15.0%	1 5.0%	3 15.0%	2 10.0%	-	4 20.0%	2 10.0%	5 25.0%	6 30.0%	1 5.0%

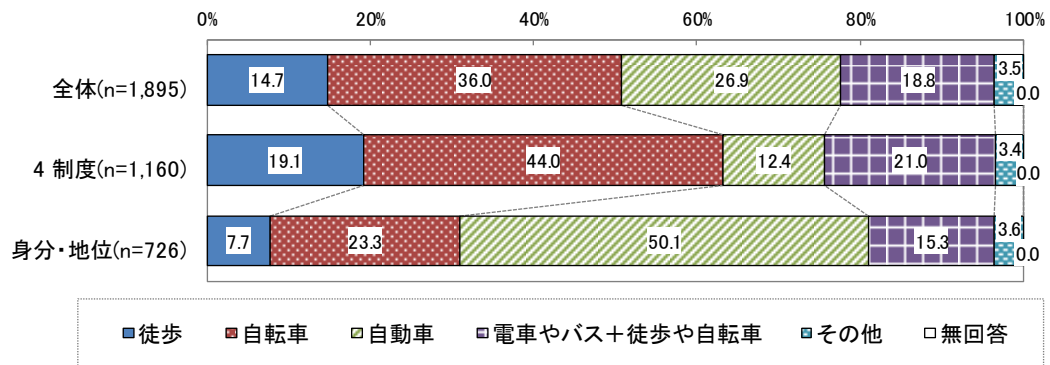
	全体	結婚・出産など家族に対するサポートがあったため	現在の職場がある地域が好きのため	その他	特に理由はない
全体	1156 100%	69 6.0%	157 13.6%	111 9.6%	207 17.9%
留学	777 100%	37 4.8%	112 14.4%	87 11.2%	159 20.5%
内) 留学【在留資格「介護」】	766 100%	37 4.8%	110 14.4%	86 11.2%	157 20.5%
特定活動(EPA介護福祉士候補者)	229 100%	26 11.4%	24 10.5%	8 3.5%	20 8.7%
技能実習	119 100%	6 5.0%	17 14.3%	14 11.8%	25 21.0%
特定技能	1 100%	-	1 100.0%	-	-
定住者(日系人等)	2 100%	-	-	-	1 50.0%
日本人の配偶者等	2 100%	-	-	-	-
その他	20 100%	-	2 10.0%	2 10.0%	2 10.0%

(52) Q28. 【介護職】職場までの交通手段

4 制度では、「自転車」が 44.0%と最も多く、「電車やバス＋徒歩や自転車」が 21.0%、「徒歩」が 19.2%、「自動車」が 12.4%、「バイク」が 2.2%となっている。

身分・地位では、「自動車」が 50.1%と最も多くなっている。

図表 82 Q28. 【介護職】 職場までの交通手段

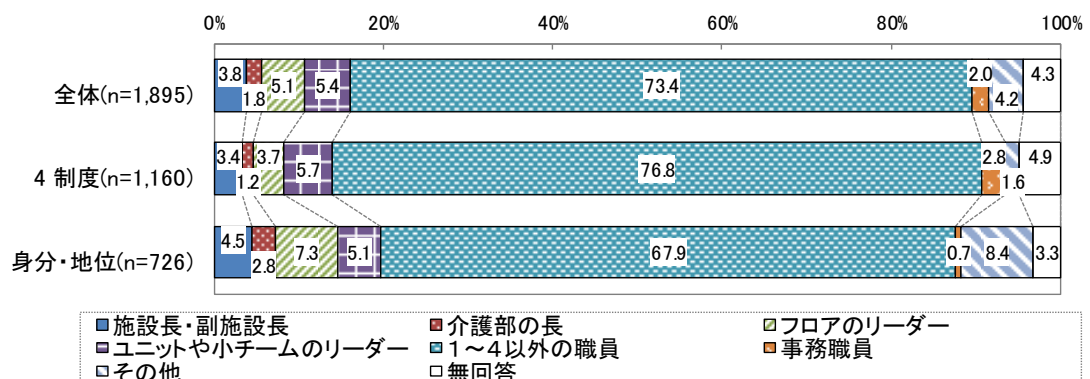


(53) Q29. 【介護職】 職場での立場

全体では、「一般の介護職員」が 73.4%と最も多く、「ユニットや小チームのリーダー」が 5.4%、「フロアのリーダー」が 5.1%、「施設長・副施設長」が 3.8%、「事務職員」が 2.0%、「介護部の長」が 1.8%となっている。

4 制度では、身分・地位に比べると「一般の介護職員」の割合が多くなっている。

図表 83 Q29. 【介護職】 職場での立場



介護福祉士国家試験の受験、合格の有無で見ると、「施設長・副施設長」は、「介護福祉士国家試験を受験したことがあるが、合格していない」不合格者が 7.0%となっており、合格者、未受験者よりも割合が高い。

図表 84 Q10. 国家試験の受験有無・Q10-1-2. 国家試験の可否 ×

Q29. 【介護職】職場での立場

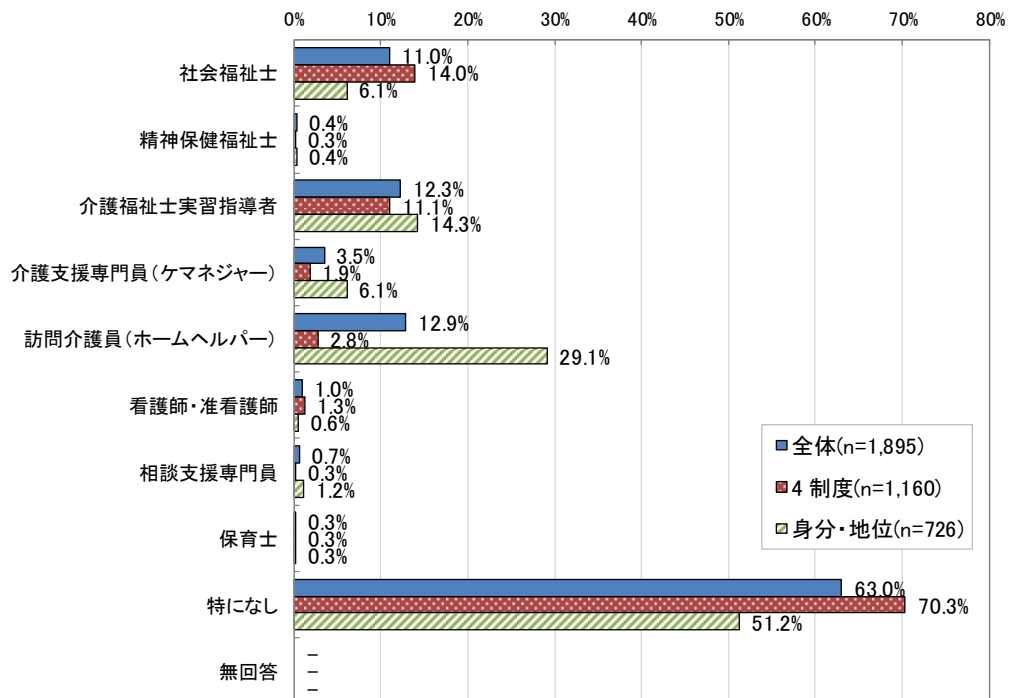
	全体	施設長・副施設長	介護部の長	フロアのリーダー	ユニットや小チームのリーダー	1～4以外の職員	事務職員	その他	不明
全体	1895 100%	72 3.8%	35 1.8%	96 5.1%	103 5.4%	1391 73.4%	37 2.0%	80 4.2%	81 4.3%
ある	1839 100%	70 3.8%	32 1.7%	94 5.1%	99 5.4%	1350 73.4%	36 2.0%	80 4.4%	78 4.2%
内)合格している	1481 100%	45 3.0%	25 1.7%	78 5.3%	81 5.5%	1096 74.0%	25 1.7%	75 5.1%	56 3.8%
内)合格していない	358 100%	25 7.0%	7 2.0%	16 4.5%	18 5.0%	254 70.9%	11 3.1%	5 1.4%	22 6.1%
ない	56 100%	2 3.6%	3 5.4%	2 3.6%	4 7.1%	41 73.2%	1 1.8%	—	3 5.4%

(54) Q30. 【介護職】保有資格（複数選択）

全体では、「特になし」が 63.0%と最も多く、「訪問介護員（ホームヘルパー）」が 12.9%、「介護福祉士実習指導者」が 12.3%、「社会福祉士」が 11.0%、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が 3.5%となっている。

4 制度では、「社会福祉士」の保有者が 14.0%いる。「訪問介護員（ホームヘルパー）」は 2.8%に対し、身分・地位は 29.1%と 1/4 以上が保有している。

図表 85 Q30. 【介護職】保有資格（複数選択）



不合格者の 69.6%が母国で「介護の勉強をした・介護の学校を卒業した」と回答していた。

図表 86 Q10. 国家試験の受験有無・Q10-1-2. 国家試験の合否× Q30 . 保有資格

	全体	介護の勉強をした・介護の学校を卒業した	介護の資格を持っている	看護の勉強をした・看護の学校を卒業した	看護の資格を持っている	その他	特になし
全体	1826 100%	447 24.5%	220 12.0%	264 14.5%	231 12.7%	118 6.5%	821 45.0%
ある	1772 100%	420 23.7%	213 12.0%	260 14.7%	230 13.0%	115 6.5%	800 45.1%
内)合格している	1403 100%	163 11.6%	179 12.8%	239 17.0%	216 15.4%	103 7.3%	727 51.8%
内)合格していない	369 100%	257 69.6%	34 9.2%	21 5.7%	14 3.8%	12 3.3%	73 19.8%
ない	54 100%	27 50.0%	7 13.0%	4 7.4%	1 1.9%	3 5.6%	21 38.9%

施設長・副施設長の半数以上が、来日前に介護の勉強・介護の学校の卒業経験があった。

図表 87 Q29. 職場での立場 × Q30 . 保有資格

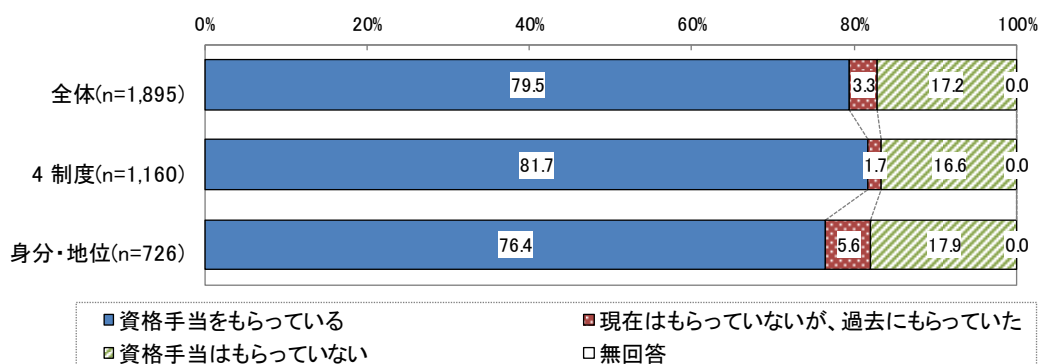
	全体	介護の勉強をした・介護の学校を卒業した	介護の資格を持っている	看護の勉強をした・看護の学校を卒業した	看護の資格を持っている	その他	特になし
全体	1717 100%	437 25.5%	212 12.3%	258 15.0%	224 13.0%	107 6.2%	749 43.6%
施設長・副施設長	53 100%	27 50.9%	6 11.3%	5 9.4%	4 7.5%	4 7.5%	13 24.5%
介護部の長	24 100%	9 37.5%	6 25.0%	1 4.2%	3 12.5%	2 8.3%	7 29.2%
フロアのリーダー	85 100%	19 22.4%	11 12.9%	5 5.9%	11 12.9%	8 9.4%	36 42.4%
ユニットや小チームのリーダー	99 100%	23 23.2%	13 13.1%	20 20.2%	16 16.2%	7 7.1%	42 42.4%
1～4以外の職員	1289 100%	308 23.9%	150 11.6%	208 16.1%	175 13.6%	74 5.7%	581 45.1%
事務職員	36 100%	15 41.7%	3 8.3%	4 11.1%	4 11.1%	1 2.8%	13 36.1%
その他	54 100%	10 18.5%	10 18.5%	6 11.1%	5 9.3%	7 13.0%	28 51.9%

(55) Q31. 【介護職】「介護福祉士」資格手当の支給の有無

全体では、「資格手当をもらっている」が 79.5%、「現在はもらっていないが、過去にもらっていた」が 3.3%、「資格手当はもらっていない」が 17.2%であった。

身分・地位と比較して4制度は、「資格手当をもらっている」割合が多い。

図表 88 Q31. 【介護職】「介護福祉士」資格手当の支給の有無



「介護福祉士」資格取得の支給の有無と職場での立場については、下記の通りとなっている。

図表 89 Q31. 【介護職】「介護福祉士」資格手当の支給の有無 × Q29. 職場での立場

	全体	施設長・副施設長	介護部の長	フロアのリーダー	ユニットや小チームのリーダー	1～4以外の職員
全体	1895	3.8%	1.8%	5.1%	5.4%	73.4%
資格手当をもらっている	1507	3.6%	2.0%	5.3%	5.8%	74.4%
現在はもらっていないが、過去にもらっていた	62	6.5%	3.2%	4.8%	3.2%	62.9%
資格手当はもらっていない	326	4.3%	0.9%	4.0%	4.3%	70.9%

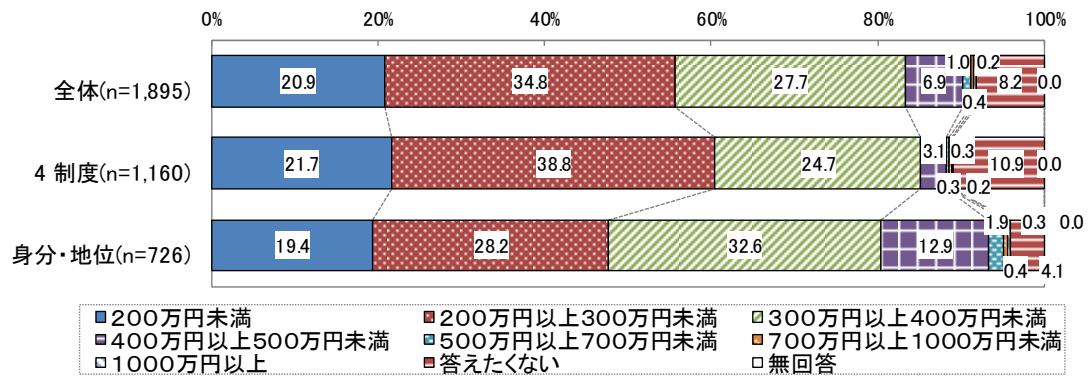
	全体	事務職員	その他	無回答
全体	1895	2.0%	4.2%	4.3%
資格手当をもらっている	1507	1.7%	3.1%	4.1%
現在はもらっていないが、過去にもらっていた	62	1.6%	14.5%	3.2%
資格手当はもらっていない	326	3.1%	7.4%	5.2%

(56) Q32. 【介護職】 1年間の収入 (2022 年)

全体では、「200 万円以上 300 万円未満」が 34.8%と最も多く、「300 万円以上 400 万円未満」が 27.7%、「200 万円未満」が 20.9%、「400 万円以上 500 万円未満」が 6.9%となっている。

4 制度に比べて身分・地位は、収入が高い傾向にある。

図表 90 Q32. 【介護職】 1年間の収入（2022 年）



図表 91 Q32. 【介護職】 現在の役職 × 1年間の収入（2022 年）

	全体	200万円未満	200万円以上300万円未満	300万円以上400万円未満	400万円以上500万円未満	500万円以上700万円未満	700万円以上1000万円未満	1000万円以上	答えたくない
全体	1895	396	659	524	130	19	7	4	156
	100%	20.9%	34.8%	27.7%	6.9%	1.0%	0.4%	0.2%	8.2%
施設長・副施設長	72	10	24	15	13	2	1	1	6
	100%	13.9%	33.3%	20.8%	18.1%	2.8%	1.4%	1.4%	8.3%
介護部の長	35	5	4	13	8	3	—	—	2
	100%	14.3%	11.4%	37.1%	22.9%	8.6%	—	—	5.7%
フロアのリーダー	96	9	26	30	20	2	—	—	9
	100%	9.4%	27.1%	31.3%	20.8%	2.1%	—	—	9.4%
ユニットや小チームのリーダー	103	16	34	32	11	3	—	—	7
	100%	15.5%	33.0%	31.1%	10.7%	2.9%	—	—	6.8%
1～4以外の職員	1391	311	503	389	65	4	5	3	111
	100%	22.4%	36.2%	28.0%	4.7%	0.3%	0.4%	0.2%	8.0%
事務職員	37	9	12	7	2	—	—	—	7
	100%	24.3%	32.4%	18.9%	5.4%	—	—	—	18.9%
その他	80	14	24	25	7	5	1	—	4
	100%	17.5%	30.0%	31.3%	8.8%	6.3%	1.3%	—	5.0%

図表 92 Q32. 【介護職】 4 制度来日年 × 1 年間の収入 (2022 年)

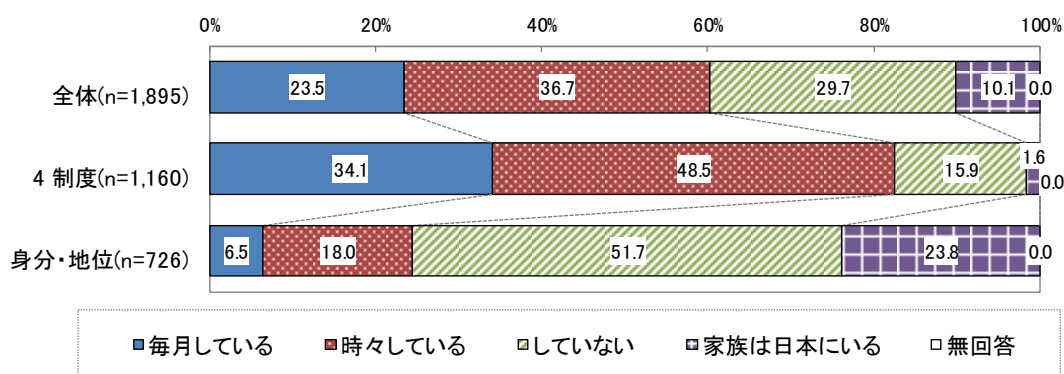
	全体	200万円未満	200万円以上300万円未満	300万円以上400万円未満	400万円以上500万円未満	500万円以上700万円未満	700万円以上1000万円未満	1000万円以上	答えたくない
全体	1160	252	450	286	36	4	4	2	126
	100%	21.7%	38.8%	24.7%	3.1%	0.3%	0.3%	0.2%	10.9%
1991年～2000年	4	2	1	—	—	—	—	—	1
	100%	50.0%	25.0%	—	—	—	—	—	25.0%
2001年～2010年	10	3	2	4	1	—	—	—	—
	100%	30.0%	20.0%	40.0%	10.0%	—	—	—	—
2011年～2016年	52	6	20	17	6	1	—	—	2
	100%	11.5%	38.5%	32.7%	11.5%	1.9%	—	—	3.8%
2017年	50	5	11	26	3	—	—	—	5
	100%	10.0%	22.0%	52.0%	6.0%	—	—	—	10.0%
2018年	87	8	33	32	4	1	—	—	9
	100%	9.2%	37.9%	36.8%	4.6%	1.1%	—	—	10.3%
2019年	249	56	105	58	6	1	1	—	22
	100%	22.5%	42.2%	23.3%	2.4%	0.4%	0.4%	—	8.8%
2020年	122	28	48	35	6	—	—	—	5
	100%	23.0%	39.3%	28.7%	4.9%	—	—	—	4.1%
2021年	183	35	68	50	7	—	2	1	20
	100%	19.1%	37.2%	27.3%	3.8%	—	1.1%	0.5%	10.9%
2022年	198	43	101	38	1	1	1	1	12
	100%	21.7%	51.0%	19.2%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	6.1%
2023年	198	65	57	26	2	—	—	—	48
	100%	32.8%	28.8%	13.1%	1.0%	—	—	—	24.2%

(57) Q33. 【介護職】 母国の家族への仕送り有無

4 制度では、「毎月している」が 34.1%、「時々している」が 48.5%、「していない」が 15.9%であった。

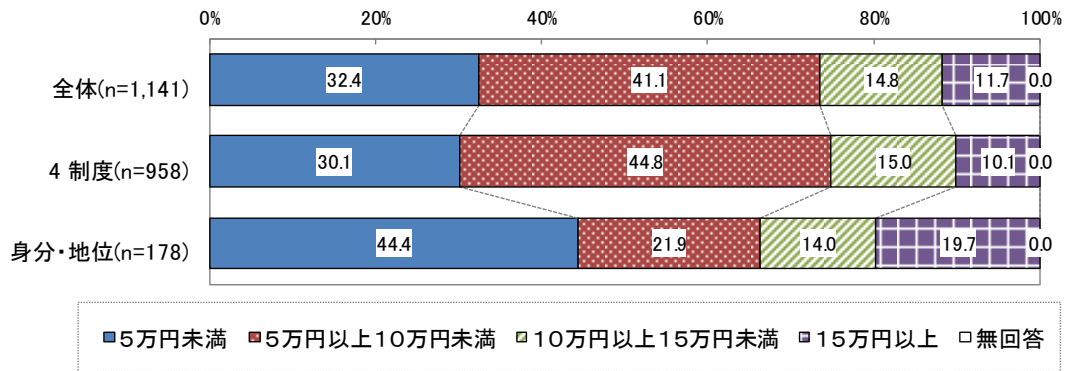
身分・地位では、「毎月している」、「時々している」をあわせても 24.5%であり、「していない」、「家族は日本にいる」の割合が多くなっている。

図表 93 Q33-1. 【介護職】 母国の家族への仕送り有無



仕送りを「毎月している」、「時々している」と回答した方の内、4 制度では、「5 万円以上 10 万円未満」が 44.8%と最も多く、「5 万円未満」が 30.1%、「10 万円以上 15 万円未満」が 15.0%、「15 万円以上」が 10.1%となっている。

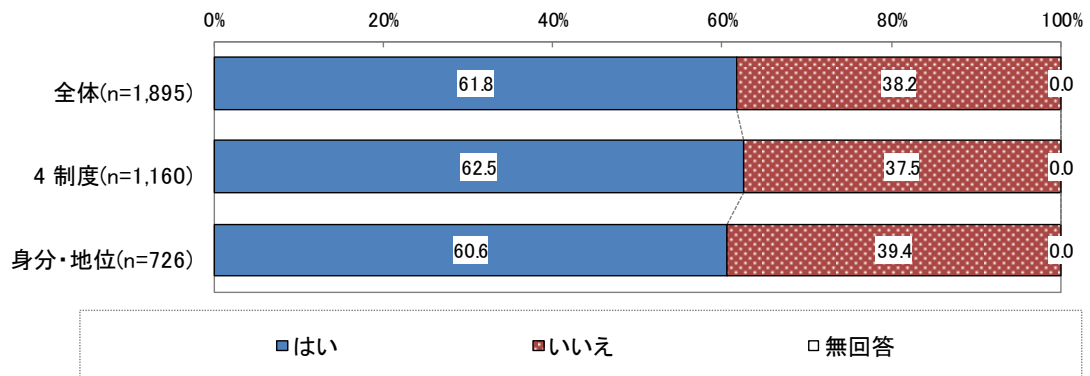
図表 94 Q33-2. 1回あたり平均仕送り（送金）金額



(58) Q34. 【介護職】 職場の満足度

職場に満足しているか否かについては、全体では、「はい（満足している）」が61.8%、「いいえ（満足していない）」が38.2%であった。

図表 95 Q34-1. 【介護職】 職場の満足有無

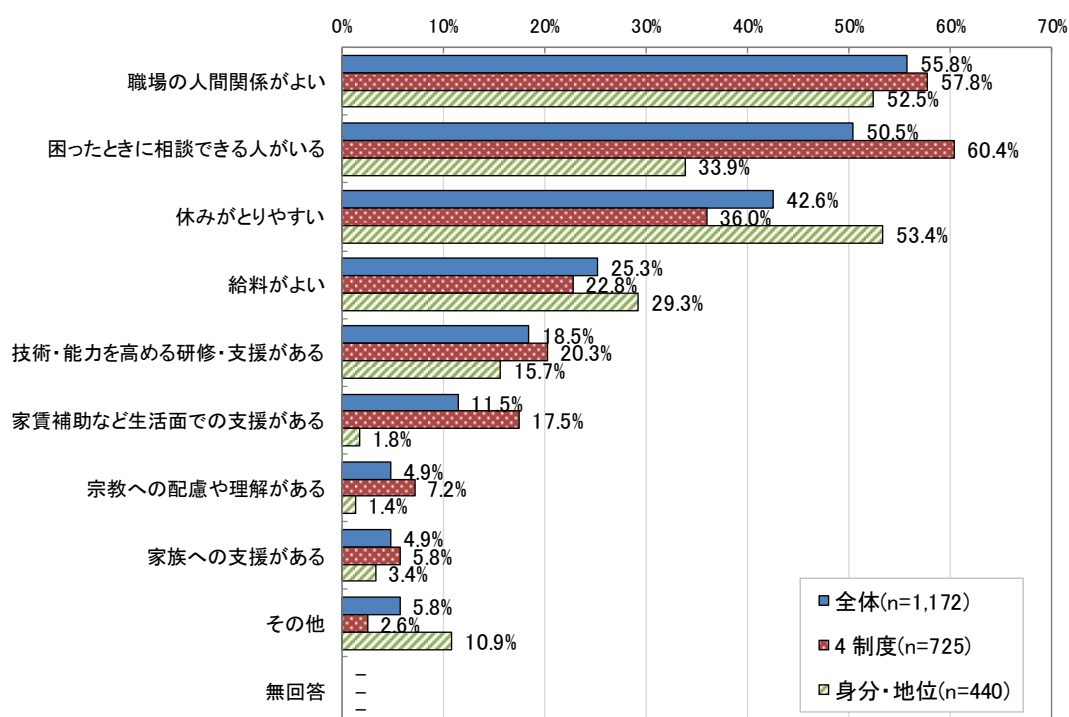


職場に満足しているかに「はい」と回答した方の理由は、全体では、「職場の人間関係がよい」が55.8%と最も多く、「困ったときに相談できる人がいる」が50.5%、「休みがとりやすい」が42.6%、「給料がよい」が25.3%、「技術・能力を高める研修・支援がある」が18.5%となっている。

4制度では、「困ったときに相談できる人がいる」が60.4%と最も多く、「職場の人間関係がよい」が57.8%、「休みがとりやすい」が36.0%となっている。

一方、身分・地位では、「休みがとりやすい」が53.4%と最も多く、「職場の人間関係がよい」が52.5%、「困ったときに相談できる人がいる」が33.9%となっている。

図表 96 Q34-2. 【介護職】満足理由（3つまで選択）



<その他の回答>

4 制度

- ・ 自宅から近い
- ・ 外国人の職員がいなく、比較的偏見を持たずに接してもらえる
- ・ 前のところより給料が高い
- ・ 利用者との人間関係がよい
- ・ 慣れている
- ・ 外国人職員向けのサポートがある

身分・地位

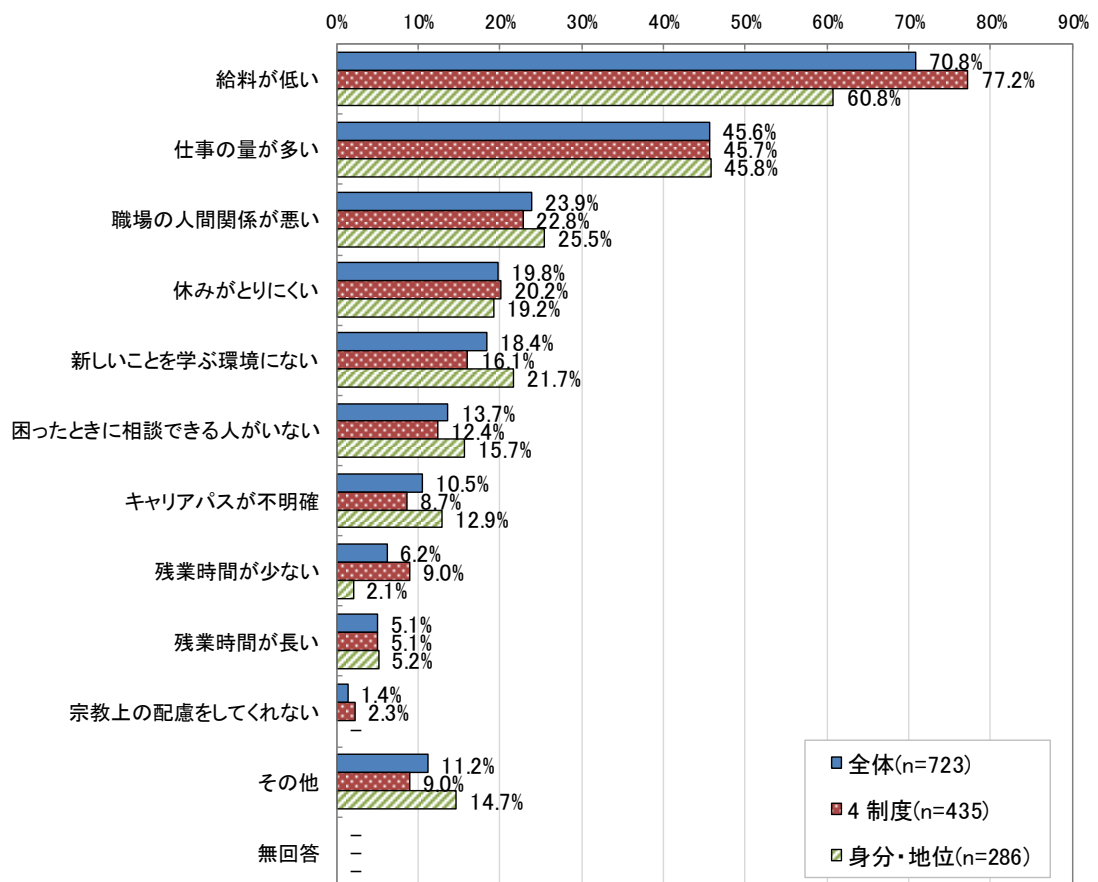
- ・ 経営者のため（自身の会社だから等）
- ・ 自宅から近い（家から5分、通勤時間が短い等）
- ・ 給与は低いがかくストレスを感じない
- ・ 自由度がある
- ・ 身内が通所介護を利用している
- ・ 業務内容があっている
- ・ ひとりでできる
- ・ 短時間勤務が可能である
- ・ 利用者等が好きなため（年寄が好きだから、患者さん達好きだから等）
- ・ 住み慣れた地域で、働き慣れた職場である
- ・ 勉強できる
- ・ 色々な方々と出会いが有り、楽しい

- ・ 他に選択肢がないから
- ・ どこもそんな変わりがない

職場に満足しているかに「いいえ」と回答した方の理由は、全体では、「給料が低い」が70.8%と最も多く、「仕事の量が多い」が45.6%、「職場の人間関係が悪い」が23.9%、「休みがとりにくい」が19.8%、「新しいことを学ぶ環境にない」が18.4%となっている。

4制度は、身分・地位に比べ、「給料が低い」と感じている方の割合が多い。

図表 97 Q34-3. 【介護職】満足していない理由（3つまで選択）



<その他の回答>

4制度

【金銭的な理由】

- ・ ボーナスが無い、少ない

【働き方の理由】

- ・ 夜勤の時間が長い
- ・ 職場で忙しくて、不適切なケアに対応することがあった場合
- ・ 辞める人が多い
- ・ 仕事時間前に来てくださいと言われる

- ・ 会社の PR のため我々の休み時間を使っている（サービス残業）

【外国人と日本人の待遇の違い】

- ・ ボーナスの違い

【職員のレベル】

- ・ 丁寧な介護をしていない職員が多い
- ・ 思いやり、臨機応変、向上心等が欠けている

【人間関係】

- ・ 先輩からのパワハラ
- ・ 職場でパートの方が多い。日本人のパート方の声掛けがきつい

【仕事内容】

- ・ 相談員の仕事なのに、介護職員に任せる（ケアプラン作る、利用者家族連絡全部フロア職員がする）
- ・ 利用者からの暴言、暴力を受けている時に相談できる人はいるが、アドバイスは役に立たない
- ・ 問題解決してくれそうもない

【その他】

- ・ 自分の日本語の能力は足りないので、同僚達との会話・コミュニケーションが難しい

身分・地位

【金銭的な理由】

- ・ ボーナスが無い、少ない
- ・ 資格手当がない（30 時間以上働かないと、資格手当がない等）
- ・ 給料が上がらない
- ・ サービス残業
- ・ 1 分遅刻したら 2 万円引かれる
- ・ 給料規定が変わっているのに規定に準じた基本給になっていない
- ・ 残業手当が 30 分単位のためサービス残業みたいな感じが受け入れ難い
- ・ 退職金、ボーナス、年に 2 回の処遇改善まだ昇給金額にも能力関係なく人によって違う

【働き方の理由】

- ・ 副業禁止
- ・ 通勤が大変、移動が多い
- ・ 人手不足（新人が入らない、スタッフが少ない等）

【外国人と日本人の待遇の違い】

- ・ 日本人より働いても、認めてくれない

【職員のレベル】

- ・ 職員のレベルが低い。介護だけでなく IT、介護福祉に関する知識、介助技術、コミュニケーションスキル等
- ・ 日本人が日本語をまともに使えない
- ・ 入居者の事をあまり考えてない

- ・ 上司を含め、全体的にスタッフの質が低い

【人間関係】

- ・ 自分の意見を信用してくれない
- ・ 直接の上司の言うことがコロコロ変わる
- ・ 仕事ができないと判断された職員には仕事は与えられず、ただ喋っているだけ。下手だからこそ教育されないといけないのに、高い給料をもらっているのが不平等だと思っている。管理者に相談したが、所長が決めたことで管理者も対応出来なかった
- ・ 人間関係はそこまで悪くないが役職のある上の人間の性格が皆強いので萎縮してしまう
- ・ パワハラがある
- ・ 職場でパートの方が多い。日本人のパート方の声掛けがきつい

【仕事内容】

- ・ 介護福祉士の仕事ではない
- ・ チャレンジする職場ではない。毎日ただただ働くみたいな職場。職員の文句が多く解決しないままです
- ・ 相手都合により不安定過ぎる

【その他】

- ・ 将来がない

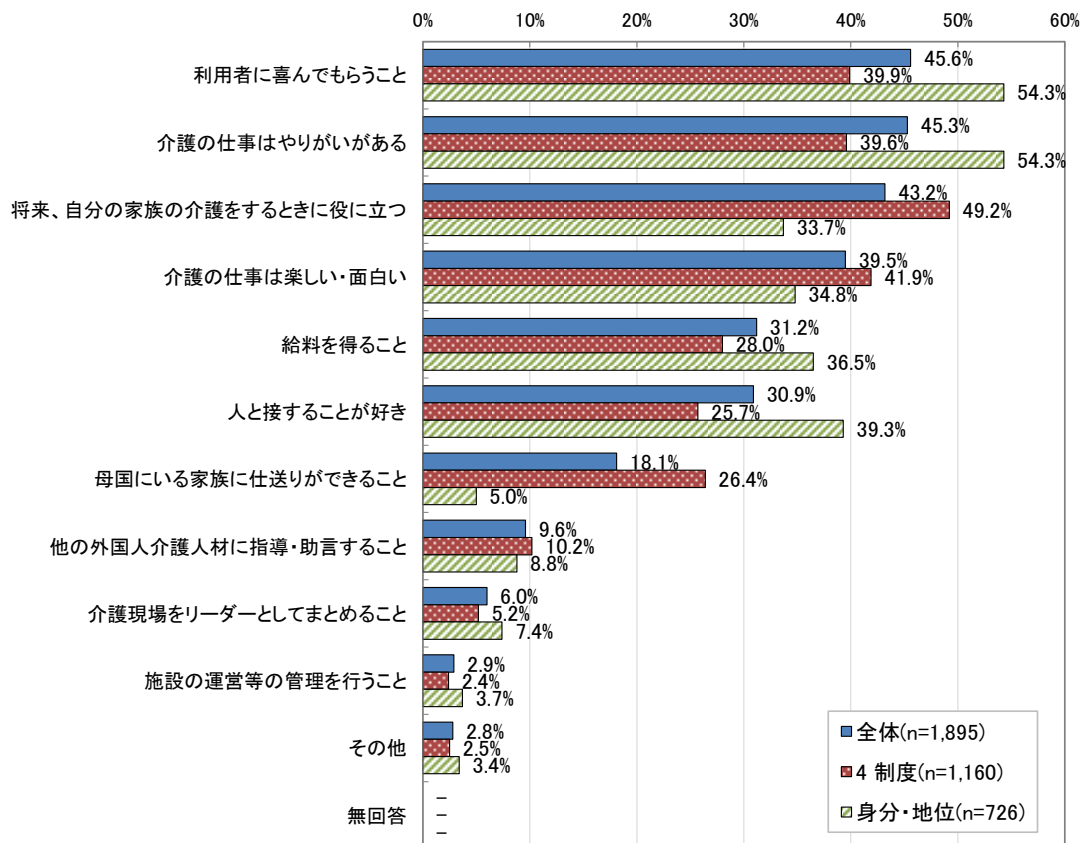
(59) Q35. 【介護職】 介護福祉士として働く上でのモチベーション（複数選択）

全体では、「利用者に喜んでもらうこと」が 45.6%と最も多く、「介護の仕事はやりがいがある」が 45.3%、「将来、自分の家族の介護をするときに役に立つ」が 43.2%、「介護の仕事は楽しい・面白い」が 39.5%、「給料を得ること」が 31.2%となっている。

4 制度では、「将来、自分の家族の介護をするときに役に立つ」が 49.2%と最も多く、「介護の仕事は楽しい・面白い」が 41.9%、「利用者に喜んでもらうこと」が 39.9%、「介護の仕事はやりがいがある」が 39.6%と上位となっている。

身分・地位では、「介護の仕事はやりがいがある」が 54.3%と最も多く、「利用者に喜んでもらうこと」が 54.3%、「人と接することが好き」が 39.3%、「給料を得ること」が 36.5%、「介護の仕事は楽しい・面白い」が 34.8%、「将来、自分の家族の介護をするときに役に立つ」が 33.7%と上位となっている。

図表 98 Q35. 【介護職】介護福祉士として働く上でのモチベーション（複数選択）



<その他の回答>

4 制度

- ・ おじいちゃん、おばあちゃんが好きだから
- ・ 日本人職員を指導（介護術、接遇、事務等）すること
- ・ 日本で家族と一緒に住みたいため
- ・ いろんなことを体験でき成長につながるため
- ・ 就職しやすいため
- ・ ビザ更新や転職が円滑であること
- ・ 人を支えることは向いている
- ・ 人のお世話をすると神様から認められる
- ・ 看護師の仕事をしたくない

身分・地位

- ・ 資格を持つため
- ・ 自分の家族のため
- ・ 趣味の時間や家族との時間（介護、子育て等含む）が取れるため
- ・ 利用者に快い気分で過ごしてもらいたいため
- ・ 生活のため
- ・ 自分や自分の家族をより客観的に理解できる視野を持てる

- ・ 起業する為のスキルを得ること
- ・ 上位資格を目指せること
- ・ 介護の仕事は好きではないが、生活のため

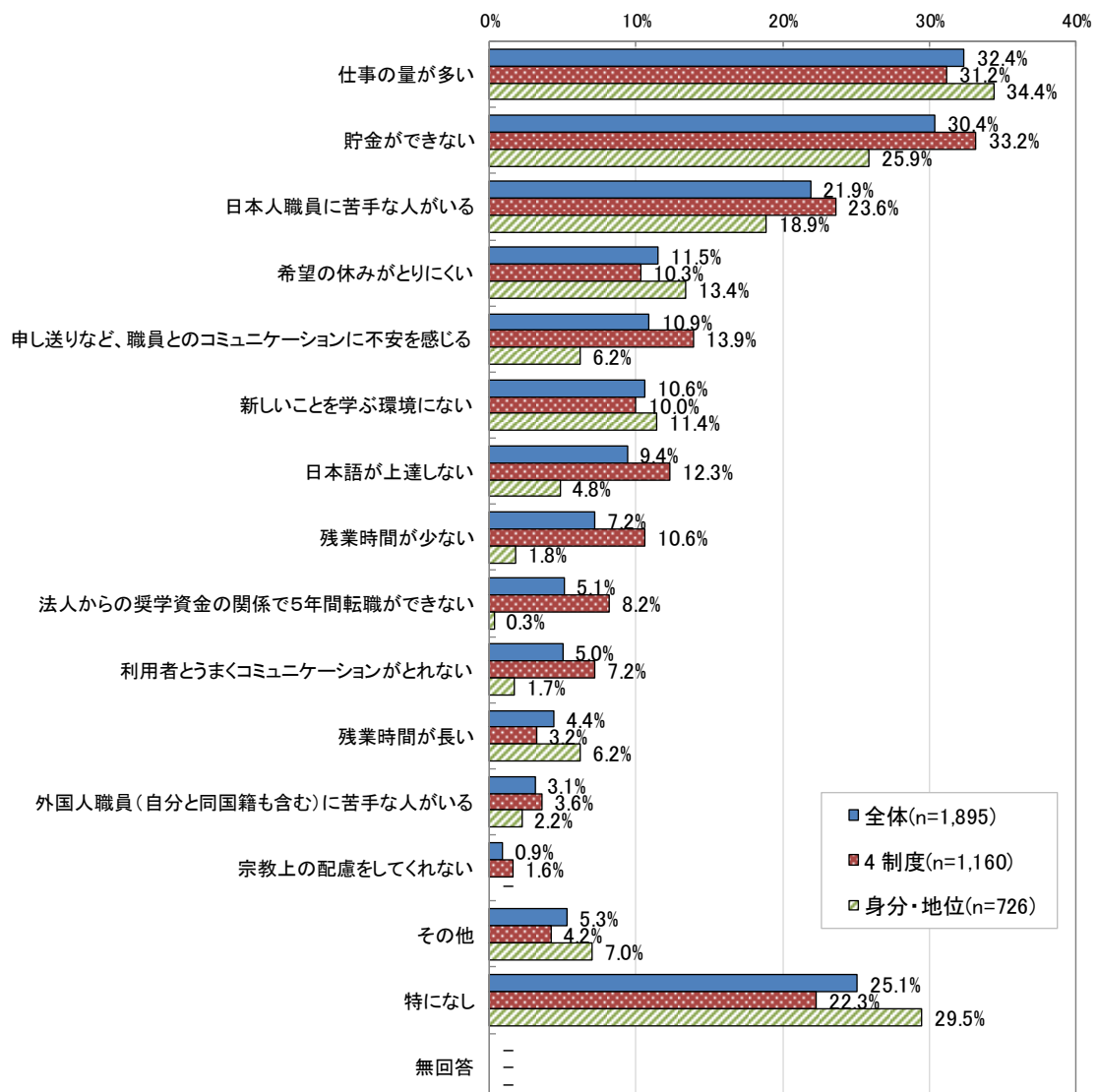
(60) Q36. 【介護職】 仕事で困っていること（複数選択）

全体では、「仕事の量が多い」が 32.4%と最も多く、「貯金ができない」が 30.4%、「日本人職員に苦手な人がいる」が 21.9%、「希望の休みがとりにくい」が 11.5%、「申し送りなど、職員とのコミュニケーションに不安を感じる」が 10.9%、「新しいことを学ぶ環境にない」が 10.6%となっている。また「特になし」は 25.1%である。

4 制度では、「貯金ができない」が 33.2%と最も多く、「仕事の量が多い」が 31.2%、「日本人職員に苦手な人がいる」が 23.6%と上位となっている。「申し送りなど、職員とのコミュニケーションに不安を感じる」(13.9%)、「日本語が上達しない」(12.3%)といった日本語面に関する不安も 1 割程度ある。また、「法人からの奨学資金の関係で 5 年間転職ができない」が 8.2%とある。

身分・地位では、「仕事の量が多い」が 34.4%と最も多く、「貯金ができない」が 25.9%と上位となっている。「特になし」の割合は身分・地位のほうが多い。

図表 99 Q36. 【介護職】 仕事で困っていること（複数選択）



<その他の回答>

4 制度

【金銭的な理由】

- ・ 給料が低い
- ・ 家賃手当てがない
- ・ ボーナスが低い
- ・ サービス残業

【働き方の理由】

- ・ 仕事前に来てくださいと言われる
- ・ 職員不足
- ・ 休暇が取りづらい（有給を自由に使えない、長期休暇が取れない、長期休暇の日数が少ない等）
- ・ 夜勤をしたくない

【外国人と日本人の待遇の違い】

- ・ 外国人と日本人で扱いが異なる

【職員のレベル】

- ・ 乱暴な介護をしている職員が多い
- ・ 適当にする職員がいる

【人間関係】

- ・ パワハラを受けた
- ・ 仕事を辞めたくても施設長に言いづらい
- ・ 職場にいる日本人のパートの方の振る舞い、声掛けなどがきつい
- ・ 外国人が好きではない職員と利用者がいる
- ・ 外国人だから～～と思っている日本人がいる

【仕事内容】

- ・ 移乗介助が多く身体が痛い

【その他】

- ・ 外国人職員が多すぎて、コミュニケーションが難しい
- ・ 日本人の性格が合わない
- ・ 奨学金の関係で 10 年間転職できない

身分・地位

【金銭的な理由】

- ・ 給料が低い、給料があがらない
- ・ 介護処遇改善手当金が少ない
- ・ 資格手当てがない
- ・ ボーナスが低い
- ・ サービス残業
- ・ 退職金がでない

【働き方の理由】

- ・ 副業ができない
- ・ 職員不足
- ・ 休暇が取りづらい

【外国人と日本人の待遇の違い】

- ・ 差別がある
- ・ 日本人は仕事ができない人間でも昇格させる

【職員のレベル】

- ・ 仕事は楽しいですが、やっぱりモラルの低い職員が多い
- ・ 日本人職員のレベルが低い。同じ研修を受けても理解の深さが明らかに違う。日本人に向上心がない
- ・ 資格を持っても仕事を任せることができなく、役に立たないと感じる

- ・ 介護現場で利用者達に丁寧な言葉遣いが出来ないのは日本人が多い

【人間関係】

- ・ 上司に差別されている、パワハラを受けている
- ・ 最近転職したが、留学生が自分に対して先輩気取りの言動をする

【仕事内容】

- ・ 体の負担が大きい（腰痛、腱鞘炎）
- ・ 看護師の指示が多くて看護師がしたくない事をさせられる
- ・ 介護拒否による関わりへの疲労
- ・ 勤務中の緊張感が抜けない。精神的に、肉体的に疲れる日がよくある
- ・ 何かあった時利用者の家族に電話連絡をしなきゃ行けないので苦手意識強い

【その他】

- ・ 介護士の地位の低さ
- ・ 専門用語や医療用語が難しすぎる

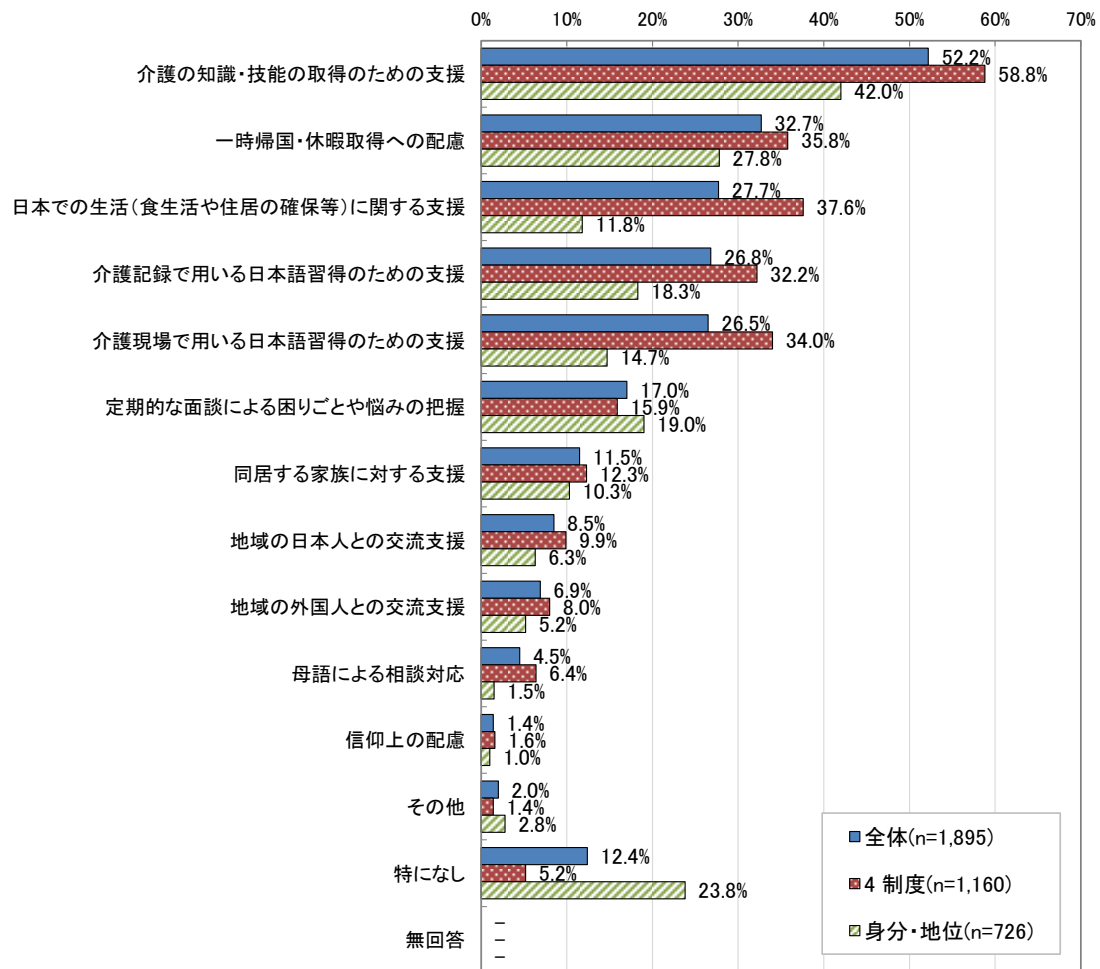
(61) Q40. 【介護職】 介護福祉士として今後も働く上で必要な支援（3つまで選択）

全体では、「介護の知識・技能の取得のための支援」が 52.2%と最も多く、「一時帰国・休暇取得への配慮」が 32.7%、「日本での生活（食生活や住居の確保等）に関する支援」が 27.7%、「介護記録で用いる日本語習得のための支援」が 26.8%、「介護現場で用いる日本語習得のための支援」が 26.5%となっている。

4 制度では、「介護の知識・技能の取得のための支援」が 58.8%と最も多く、「日本での生活（食生活や住居の確保等）に関する支援」が 37.6%、「一時帰国・休暇取得への配慮」が 35.8%、「介護現場で用いる日本語習得のための支援」が 34.0%、「介護記録で用いる日本語習得のための支援」が 32.2%となっている。

身分・地位では、「介護の知識・技能の取得のための支援」が 42.0%と最も多く、「一時帰国・休暇取得への配慮」が 27.8%、「定期的な面談による困りごとや悩みの把握」が 19.0%、「介護記録で用いる日本語習得のための支援」が 18.3%、「介護現場で用いる日本語習得のための支援」が 14.7%となっている。「特になし」の割合は身分・地位のほうが多い。

図表 100 Q40. 【介護職】介護福祉士として今後も働く上で必要な支援（3つまで選択）



図表 101 Q10. 国家試験の受験有無・Q10-1-2. 国家試験の合否× Q40. 【介護職】介護福祉士として今後も働く上で必要な支援（3つまで選択）

	全体	介護の知識・技能の取得のための支援	介護現場で用いる日本語習得のための支援	介護記録で用いる日本語習得のための支援	日本での生活（食生活や住居の確保等）に関する支援	定期的な面談による困りごとや悩みの把握	母語による相談対応	一時帰国・休暇取得への配慮	信仰上の配慮
全体	1895 100%	989 52.2%	503 26.5%	508 26.8%	525 27.7%	323 17.0%	85 4.5%	620 32.7%	26 1.4%
ある	1839 100%	963 52.4%	485 26.4%	491 26.7%	503 27.4%	315 17.1%	80 4.4%	604 32.8%	23 1.3%
内)合格している	1481 100%	713 48.1%	350 23.6%	360 24.3%	366 24.7%	262 17.7%	54 3.6%	534 36.1%	19 1.3%
内)合格していない	358 100%	250 69.8%	135 37.7%	131 36.6%	137 38.3%	53 14.8%	26 7.3%	70 19.6%	4 1.1%
ない	56 100%	26 46.4%	18 32.1%	17 30.4%	22 39.3%	8 14.3%	5 8.9%	16 28.6%	3 5.4%

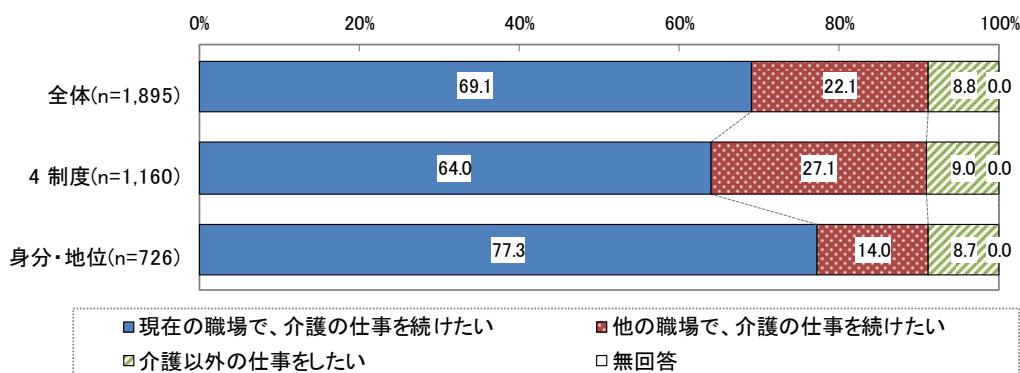
	全体	地域の日本人との交流支援	地域の外国人との交流支援	同居する家族に対する支援	その他	特になし
全体	1895 100%	161 8.5%	131 6.9%	218 11.5%	37 2.0%	235 12.4%
ある	1839 100%	159 8.6%	127 6.9%	206 11.2%	35 1.9%	231 12.6%
内)合格している	1481 100%	134 9.0%	100 6.8%	169 11.4%	34 2.3%	210 14.2%
内)合格していない	358 100%	25 7.0%	27 7.5%	37 10.3%	1 0.3%	21 5.9%
ない	56 100%	2 3.6%	4 7.1%	12 21.4%	2 3.6%	4 7.1%

(62) Q42. 【介護職】介護福祉士としての今後の就労希望

全体では、「現在の職場で、介護の仕事を続けたい」が69.1%と最も多く、「他の職場で、介護の仕事を続けたい」が22.1%、「介護以外の仕事をしたい」が8.8%となっている。

介護福祉士としての就労希望は、4制度と身分・地位で差はないが、身分・地位のほうが「現在の職場で、介護の仕事を続けたい」の割合が多い。

図表 102 Q42. 【介護職】介護福祉士としての今後の就労希望



配偶者が日本に住む場合の方が、そうでない場合よりも、介護福祉士としての今後の就労意向が高くなっている。

図表 103 Q13-2. 配偶者の住まい ×
Q42. 【介護職】介護福祉士としての今後の就労希望

	全体	現在の職場で、介護の仕事を続けたい	他の職場で、介護の仕事を続けたい	介護以外の仕事をしたい	無回答
全体	1160	64.0%	27.1%	9.0%	—
配偶者(日本)	327	71.6%	22.3%	6.1%	—
配偶者(日本以外)	106	61.3%	31.1%	7.5%	—
配偶者無し	727	60.9%	28.6%	10.5%	—

「介護以外の仕事をしたい」と回答した方の理由は、全体では、「賃金が安い」とが 53.9%と最も多く、「介護の仕事に疲れたため」が 51.5%、「キャリアアップが期待できないため」が 38.3%、「職場に相談できる人がいないため」が 4.8%となっている。

＜「介護以外の仕事をしたい」の具体的にしたい仕事＞

4 制度

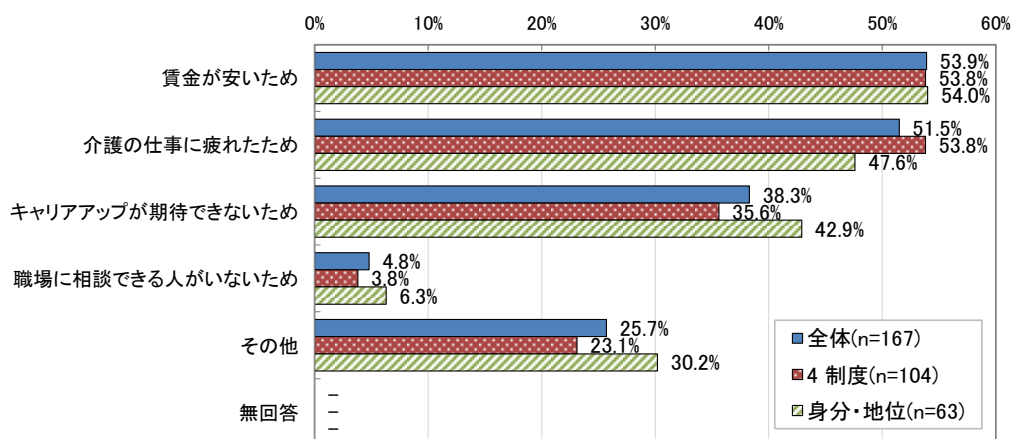
- ・ 外国人に介護を教える、サポートする仕事
- ・ 母国の人材を日本の養老施設に紹介する仕事
- ・ 翻訳、通訳
- ・ 看護師
- ・ 保育士
- ・ 作業療法士、理学療法士
- ・ 鍼灸師、按摩
- ・ 飲食店
- ・ 農業
- ・ 公認会計士、行政書士、宅建士
- ・ 教員
- ・ 相談業務
- ・ UX デザイナー
- ・ IT
- ・ ガイド
- ・ ホテルマン
- ・ 人材育成
- ・ 販売系

- ・ 工場労働者
- ・ 整備士
- ・ リハビリ
- ・ 経営に関する仕事

身分・地位

- ・ 外国人に介護を教える、サポートする仕事
- ・ 医療事務・介護事務
- ・ 翻訳、通訳
- ・ 看護師
- ・ 栄養士
- ・ 保育士
- ・ 作業療法士、理学療法士
- ・ 鍼灸師、按摩
- ・ 日本のインターナショナル企業で長く働きたい
- ・ 葬儀屋や納棺師の仕事
- ・ 飲食店、調理関係
- ・ 農業
- ・ 教員
- ・ 母国語を活かせる仕事
- ・ 相談業務
- ・ ガイド
- ・ 美容関係
- ・ 販売系
- ・ 貿易関係
- ・ 通関士

図表 104 Q43. 【介護職】 介護以外の仕事をしたい理由（複数選択）



<その他の回答>

4 制度

- ・ 人材育成に携わりたい
- ・ 母国に介護の仕事が少ないため
- ・ キャリアアップしたいため
- ・ もっと幅広くヘルスケア分野で仕事をしたい
- ・ 職員同僚が全然話にならないから、意地悪で偽善的
- ・ 自分には合わないと分かったから
- ・ 帰国の休みが短い
- ・ 介護教員として介護福祉士を目指している外国の方に分かりやすく介護の事を教えたい
- ・ 母国で看護師資格を持っているため
- ・ 精神的にも肉体的に負担が大きい
- ・ 職員が足りないため
- ・ 海外の介護のことを知りたいため
- ・ いろんな仕事に興味があるため

身分・地位

- ・ 介護職を5年続けているため、これ以上長く就く事に興味がない。日本の職業選択肢が多いため、いろんな仕事に興味があるため
- ・ 知識を高めたい
- ・ 現場での仕事に身体の限界
- ・ 利用者や利用者家族からの暴言暴力ハラスメントに耐えないとケアマネから仕事の依頼をもらえないから
- ・ 介護福祉士ではできない医療的ケアが必要な高齢者のケアにも関わるため
- ・ 経営者になりたい
- ・ キャリアアップ
- ・ 健康管理、自立支援、自己実現したいから
- ・ 職員が足りないため
- ・ 海外の介護のことを知りたいため

4 制度の在留資格の内訳をみると、在留資格「介護」、「特定活動（E P A介護福祉士）」はそれぞれ9割以上、「技能実習」も9割近くが介護の仕事を続けたいと回答していた。一方、「特定技能」は、介護以外の仕事を続けたい方も12.5%と全体の8.8%と比較して高くなっていた。

図表 105 Q2. 現在の在留資格 × Q42. 介護福祉士としての今後の就労希望

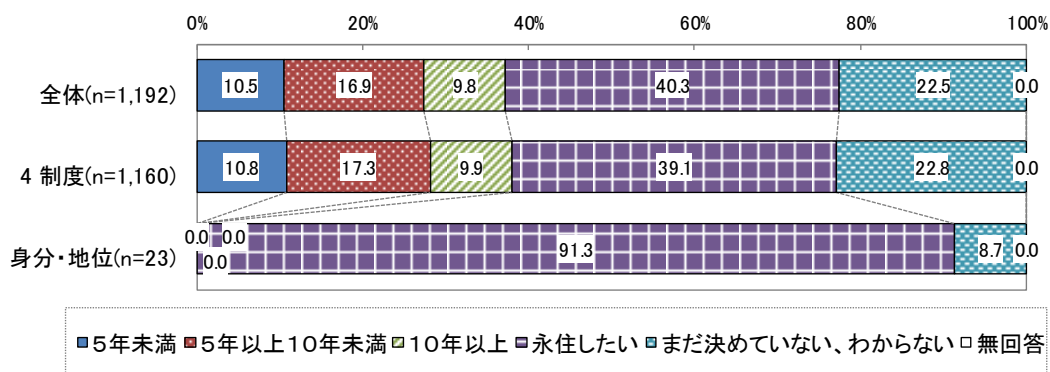
	全体	現在の職 場で、介 護の仕 事を続 けたい	他の職 場で、介 護の仕 事を続 けたい	介護以 外の仕 事を したい
全体	1895 100%	1310 69.1%	418 22.1%	167 8.8%
在留資格「介護」	1012 100%	657 64.9%	266 26.3%	89 8.8%
特定活動(EPA 介護福祉士)	117 100%	67 57.3%	39 33.3%	11 9.4%
技能実習	7 100%	5 71.4%	1 14.3%	1 14.3%
特定技能	24 100%	13 54.2%	8 33.3%	3 12.5%
永住者	570 100%	446 78.2%	76 13.3%	48 8.4%
日本人の配偶者 等	109 100%	80 73.4%	15 13.8%	14 12.8%
定住者(日系人 等)	24 100%	18 75.0%	5 20.8%	1 4.2%
その他	32 100%	24 75.0%	8 25.0%	— —

(63) Q44. 【介護職】日本での在留希望期間

4 制度では、「永住したい」が 39.1%と最も多く、「まだ決めていない、わからない」が 22.8%、「5 年以上 10 年未満」が 17.3%、「5 年未満」が 10.8%、「10 年以上」が 9.9%となっている。10 年以上希望する方は約半数いることになる。

身分・地位では、「永住したい」が 91.3%と最も多く、10 年未満を希望する方はいない。

図表 106 Q44. 【介護職】日本での在留希望期間



現在、4 制度で働く方の内、留学ルート、技能実習ルートでは 4 割以上に永住の希望があった。

図表 107 Q9. 最初に来日したときの在留資格 × Q39-2. Q44. 【介護職】日本での在留希望期間

	全体	5年未満	5年以上10年未満	10年以上	永住したい	まだ決めていない、わからない	無回答
全体	1156	10.8%	17.4%	9.9%	38.9%	22.9%	—
留学	777	9.0%	18.4%	9.7%	42.0%	21.0%	—
特定活動(EPA介護福祉士候補者)	229	14.0%	18.3%	9.6%	25.8%	32.3%	—
技能実習	119	14.3%	11.8%	12.6%	41.2%	20.2%	—
その他	25	20.0%	4.0%	8.0%	56.0%	12.0%	—

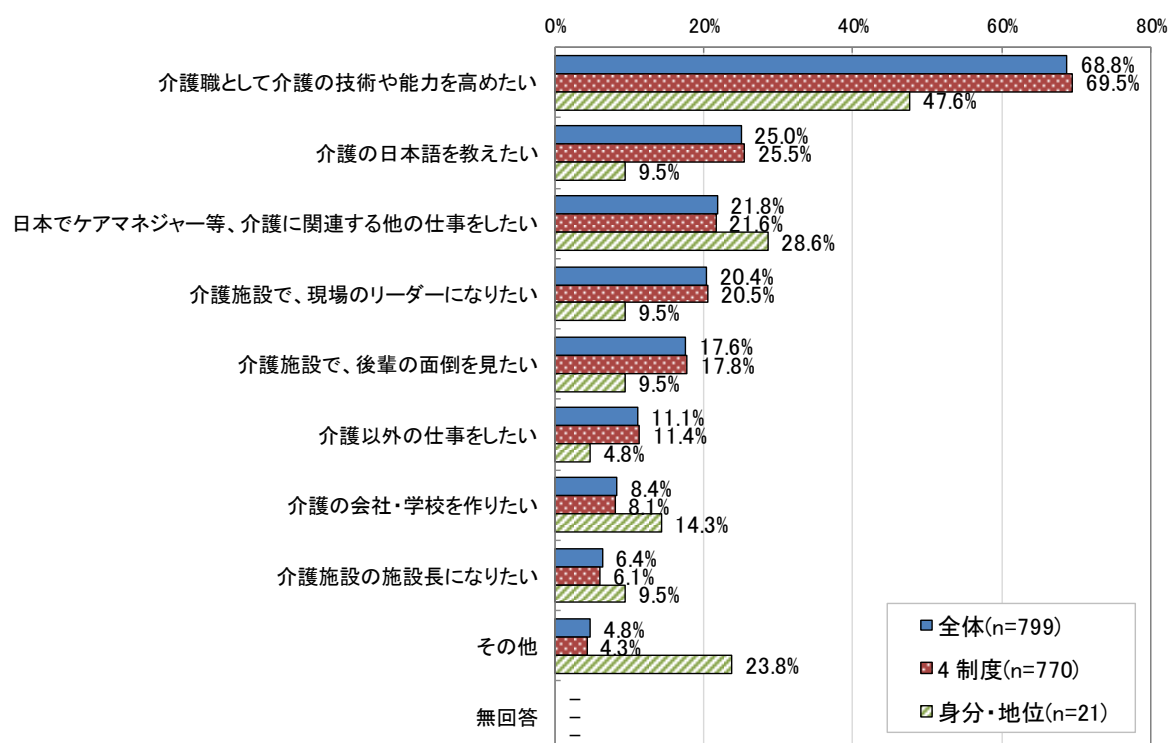
配偶者が日本にいる場合は、半数近くに永住希望があり、「10年以上」とあわせると約6割が日本に10年以上在留することを希望していた。

図表 108 【4制度・介護職】家族（配偶者・子ども）の状況×Q44. 日本での在留希望期間

	全体	5年未満	5年以上10年未満	10年以上	永住したい	まだ決めていない、わからない	無回答
全体	1160	10.8%	17.3%	9.9%	39.1%	22.8%	—
配偶者(日本)	327	6.4%	18.3%	12.8%	47.4%	15.0%	—
配偶者(日本以外)	106	10.4%	16.0%	11.3%	43.4%	18.9%	—
配偶者無し	727	12.8%	17.1%	8.4%	34.8%	27.0%	—

5年以上在留したいと回答した方の5年後の希望する仕事内容は、全体では、「介護職として介護の技術や能力を高めたい」が68.8%と最も多く、「介護の日本語を教えたい」が25.0%、「日本でケアマネジャー等、介護に関連する他の仕事をしたい」が21.8%、「介護施設で、現場のリーダーになりたい」が20.4%、「介護施設で、後輩の面倒を見たい」が17.6%となっている。

図表 109 Q45-1. 【介護職】 5年以上在留を希望する方の5年後に希望する仕事内容（複数選択）



<その他の回答>

4制度

- ・ 理事会に入りたい
- ・ 大学の教員になりたい
- ・ 介護現場での偏見や古い知識を再教育したい
- ・ 自分の国へ 介護の会社、学校を作りたい
- ・ 日本語を深く学んで、ヘルスケアに関わる仕事を続ける。
- ・ 看護師
- ・ 日本語教師
- ・ ホテルのフロント
- ・ ケアマネジャー
- ・ 医療通訳者
- ・ 作業療法士

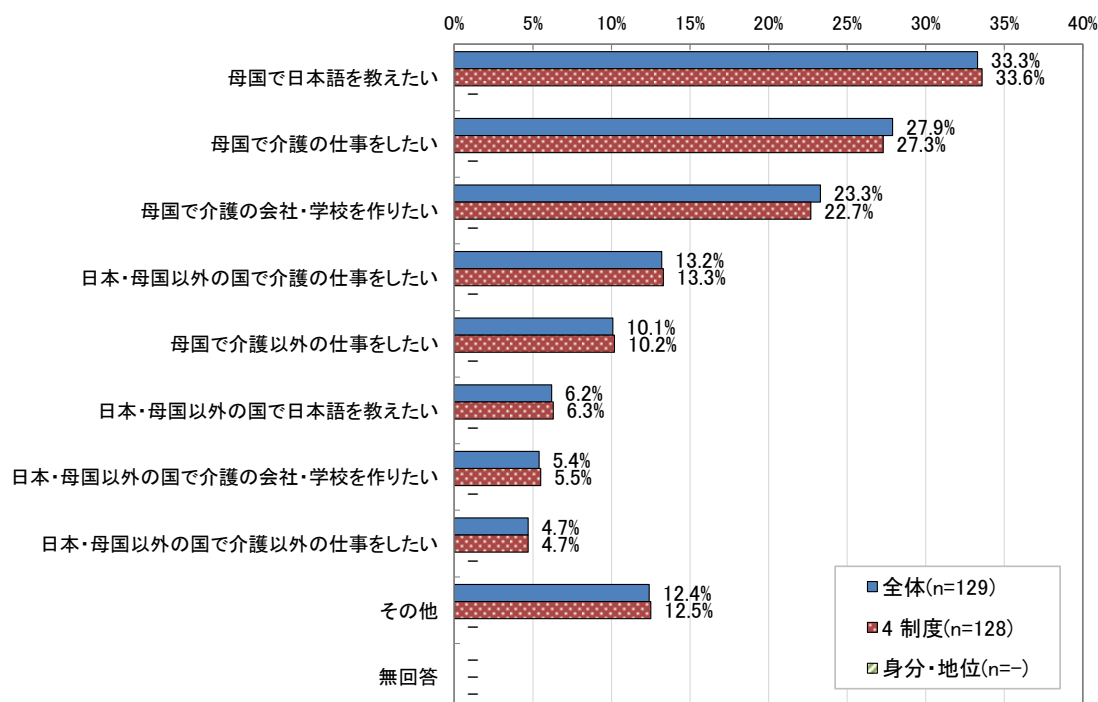
身分・地位

- ・ 介護現場での偏見、古い知識や低レベルの職員を再教育又は一掃したい
- ・ 介護で起業する
- ・ 働きたくない
- ・ 健康であればケアマネジャー

5年未満在留したいと回答した方の5年後の希望する仕事内容は、4制度では、「母国で日本語を

「教えたい」が33.6%と最も多く、「母国で介護の仕事をしたい」が27.3%、「母国で介護の会社・学校を作りたい」が22.7%、「日本・母国以外の国で介護の仕事をしたい」が13.3%、「母国で介護以外の仕事をしたい」が10.2%となっている。

図表 110 Q45-2. 【介護職】 5年未満在留を希望する方の5年後に希望する仕事内容（複数選択）
（複数選択）



<その他の回答>

- ・ 日本もしくは、母国で会社を作りたい
- ・ 大学院に入学したい
- ・ 日本で看護の仕事をしたい
- ・ 病院で看護の仕事をしたい
- ・ 他の国で看護師仕事したい

⑥ 転職の状況

(64) Q37. 就労場所の数

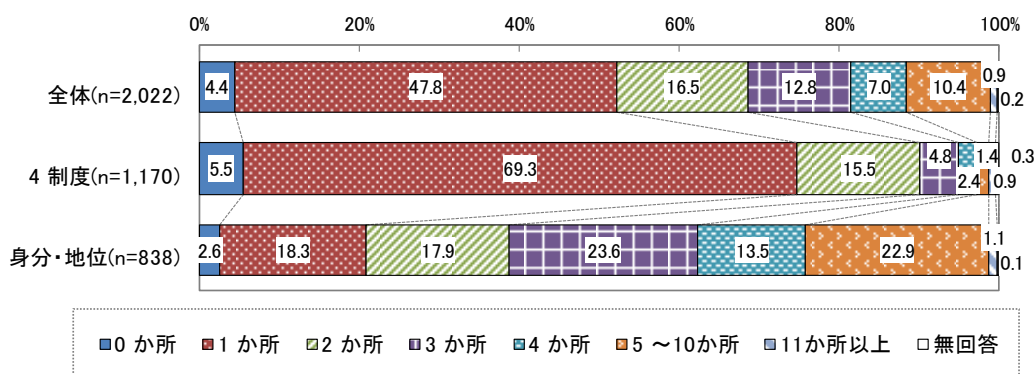
全体では、「1か所」が47.8%と最も多く、「2か所」が16.5%、「3か所」が12.8%となっている。

4制度では、「1か所」が69.3%と最も多く、「平均」が1.6か所であった。

身分・地位では、「3か所」が23.6%と最も多く、「平均」が3.4か所であった。

※注意：回答者によっては、母国での就労場所、法人内の異動が含まれる場合がある。

図表 111 Q37. 就労場所の数

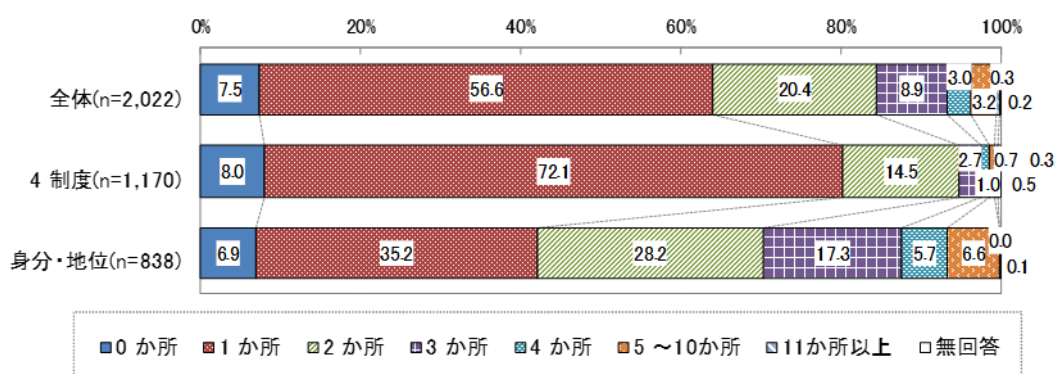


	全体	平均	中央値	最小値	最大値
全体	2017 100%	2.4	1.0	0	59
4 制度	1166 58%	1.6	1.0	0	59
身分・地位	837 42%	3.4	3.0	0	20

(65) Q38. 介護職としての就労場所の数

全体では、「1 か所」が 56.6%と最も多く、「2 か所」が 20.4%、「3 か所」が 8.9%となっている。
 4 制度では、「1 か所」が 72.1%と最も多く、「平均」が 1.3 か所であった。
 身分・地位では、「1 か所」が 35.2%と最も多く、「平均」が 2.1 か所であった。

図表 112 Q38. 介護職としての就労場所の数



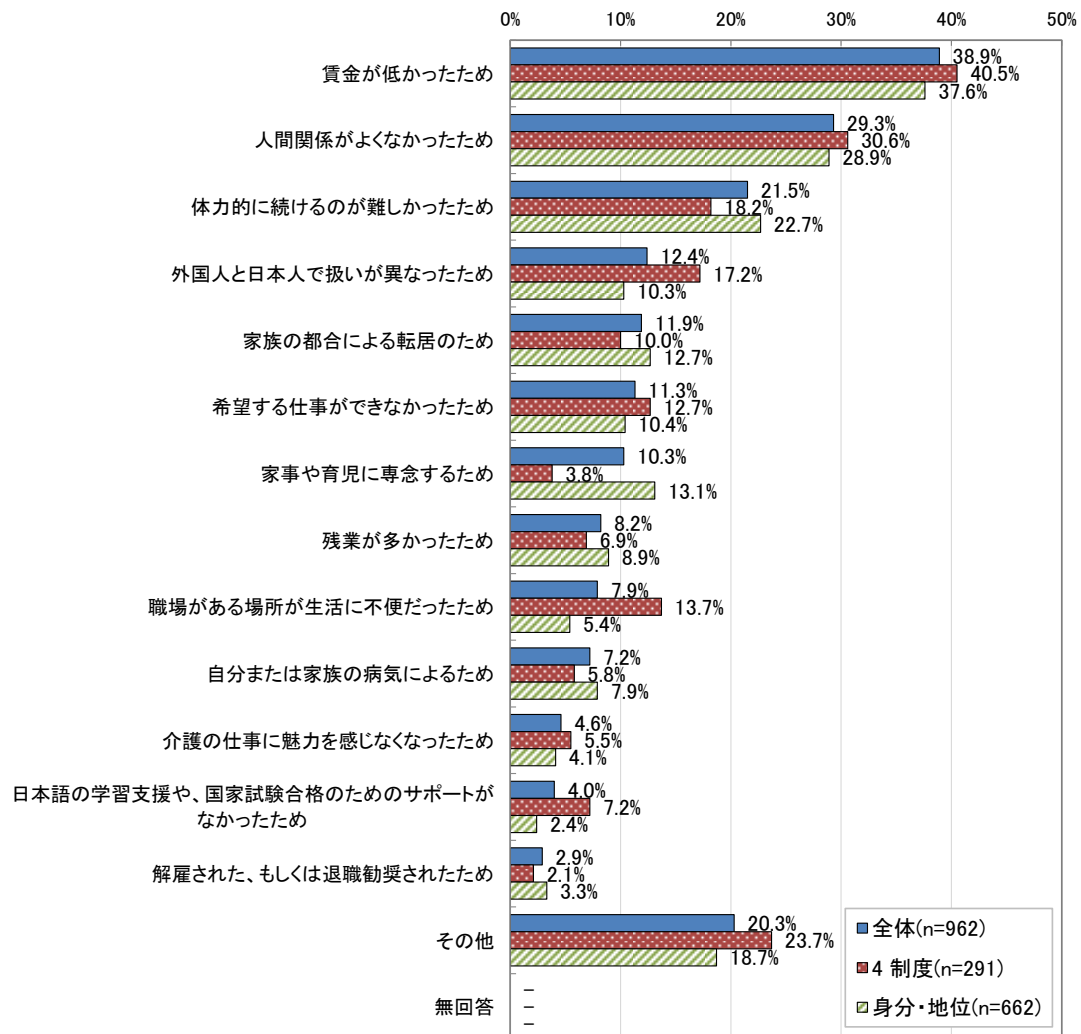
	全体	平均	中央値	最小値	最大値
全体	2017 100%	1.6	1.0	0	52
4 制度	1166 58%	1.3	1.0	0	52
身分・地位	837 42%	2.1	2.0	0	10

(66) Q39-1. 就労先を退職した理由（3つまで選択）

全体では、「賃金が低かったため」が38.9%と最も多く、「人間関係がよくなかったため」が29.3%、「体力的に続けるのが難しかったため」が21.5%、「外国人と日本人で扱いが異なったため」が12.4%、「家族の都合による転居のため」が11.9%となっている。

「職場がある場所が生活に不便だったため」は、身分・地位は5.4%に対し、4制度は13.7%であった。一方、「家事や育児に専念するため」は、身分・地位は13.1%に対し、4制度は3.8%であった。

図表 113 Q39-1. 就労先を退職した理由（3つまで選択）



<その他の回答>

4 制度

- ・ キャリアアップのため
- ・ 違う施設も体験してみたかったため
- ・ 法人内の異動のため
- ・ 帰国したため
- ・ 専門学校に入り直したため

- ・ 休みがとりづらい
- ・ 職員の半数近くが技能実習生で、既存職員のストレスがすごく、きつい仕事は技能実習生にさせればよくて、彼女らは行き場がなく辞めることができないと思われていた。外国人に対しての認識がとても悪く、いられない環境であった。
- ・ コロナのせいで、仕事が減り、給料も削られた
- ・ 自宅から遠いため

身分・地位

- ・ 違う施設も見て体験してみたかったため
- ・ 他にしたい仕事ができたら
- ・ ヘッドハンティング
- ・ スキルアップのため
- ・ 正社員になるため
- ・ 開業するため
- ・ 会社が倒産
- ・ 会社が売買され雇用引き継ぎがなかった
- ・ 派遣社員のため
- ・ リーマンショックで契約が打ち切りになった
- ・ 妊娠
- ・ 結婚、離婚
- ・ 定年退職
- ・ 生活リズムが代わったため
- ・ 転勤が多かったため
- ・ パワハラ、いじめがあった
- ・ 理念が異なる
- ・ スキルアップしたくても支援がなかったため
- ・ 介護福祉士の業務がないため
- ・ その職場で頑張ってもやり甲斐感じられない
- ・ 同僚とのトラブル
- ・ 管理職として疲れたため
- ・ 海外での医師資格が日本で認められないため
- ・ ご利用者のご家族より日本語の言い回しの指摘を何度か続けて受け、精神的なストレスが多かったため

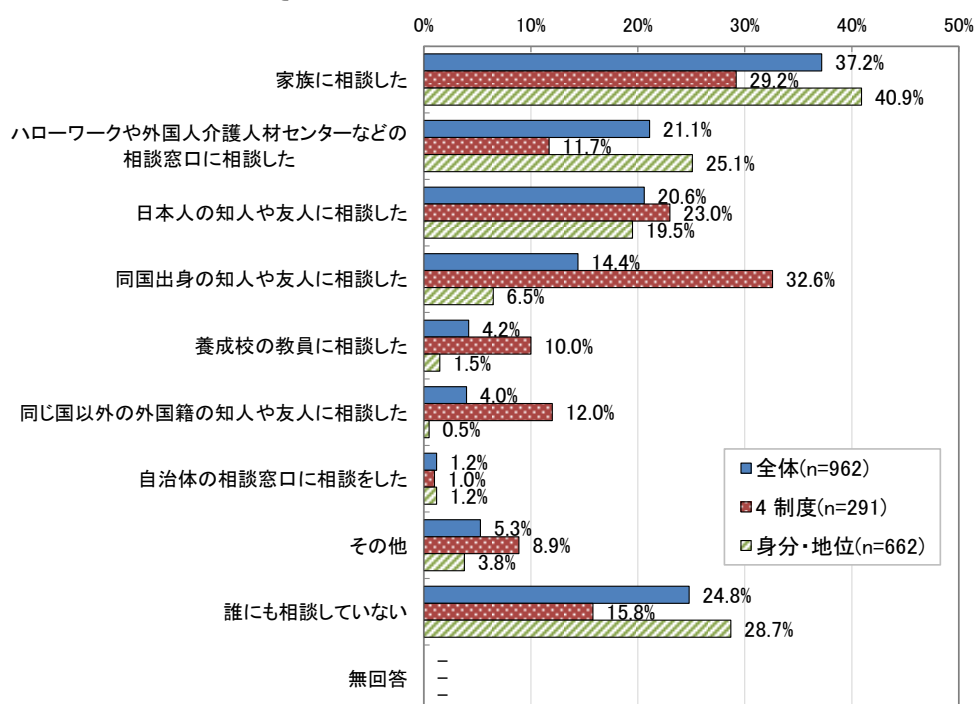
(67) Q39-2. 再就職するときの相談相手（複数選択）

4 制度では、「同国出身の知人や友人に相談した」が 32.6%と最も多く、「家族に相談した」が 29.2%、「日本人の知人や友人に相談した」が 23.0%、「同じ国以外の外国籍の知人や友人に相談した」が 12.0%、

「ハローワークや外国人介護人材センターなどの相談窓口相談した」が 11.7%、「養成校の教員に相談した」が 10.0%となっている。また「誰にも相談していない」が 15.8%である。

身分・地位では、「家族に相談した」が 40.9%と最も多く、「ハローワークや外国人介護人材センターなどの相談窓口相談した」が 25.1%、「日本人の知人や友人に相談した」が 19.5%となっている。また「誰にも相談していない」は、身分・地位のほうが割合は多い。

図表 114 Q39-2. 再就職するときの相談相手（複数選択）



<その他の回答>

4 制度

- ・ 職場の上司、同僚等
- ・ 元職場の上司、同僚等
- ・ 派遣会社
- ・ インターネット、ウェブサイト
- ・ 学校、学校の先生
- ・ J I C W E L S

身分・地位

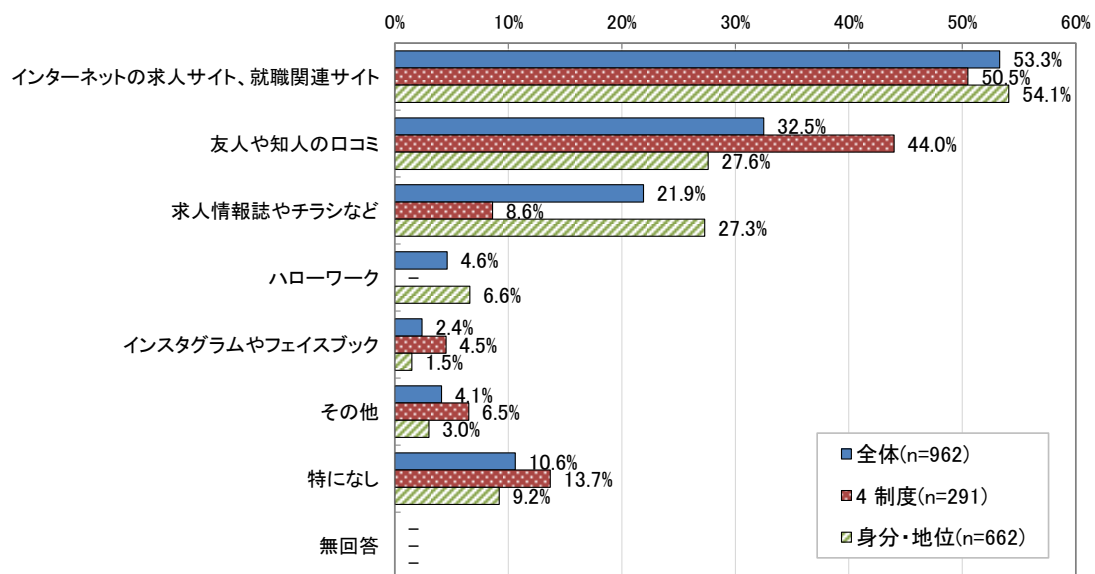
- ・ 職場の上司、同僚等
- ・ 元職場の上司、同僚等
- ・ 派遣会社
- ・ インターネット、ウェブサイト
- ・ 学校

(68) Q39-3. 仕事を探すために使用した手段（複数選択）

全体では、「インターネットの求人サイト、就職関連サイト」が 53.3%と最も多く、「友人や知人の口コミ」が 32.5%、「求人情報誌やチラシなど」が 21.9%、「ハローワーク」が 4.6%、「インスタグラムやフェイスブック」が 2.4%となっている。また「特になし」が 10.6%である。

4 制度では、「求人情報誌やチラシなど」は 8.6%である一方、身分・地位では 27.3%であった。

図表 115 Q39-3. 仕事を探すために使用した手段（複数選択）



<その他の回答>

4 制度

- ・ 職場・学校の紹介
- ・ 友人の紹介
- ・ 専門学校等に配置されている資料
- ・ YouTube

身分・地位

- ・ 友人・知人の紹介
- ・ 公民館長の推薦
- ・ 前の職場に戻った
- ・ 住まい団地案内書参考
- ・ 新聞広告
- ・ 派遣会社

現在、4制度で介護の仕事をする者のうち、EPAルートでは、「友人や知人の口コミ」が65.6%と他のルートと比較し高くなっていた。

図表 116 Q9. 最初に来日したときの在留資格 × Q39-2. 【介護職・4制度】仕事を探すために使用した手段（複数選択）

	全体	インター ネットの求 人サイト、 就職関連 サイト	求人情報 誌やチャ ンなど	インスタ グラムや フェイス ブック	友人や知 人の口コ ミ	ハロー ワーク	その他	特になし	無回答
全体	286	50.3%	8.7%	4.5%	44.8%	-	6.3%	13.6%	-
留学	166	56.0%	9.6%	4.2%	41.0%	-	5.4%	15.1%	-
特定活動(EPA介護福祉士候補者)	64	37.5%	4.7%	4.7%	65.6%	-	4.7%	6.3%	-
技能実習	49	44.9%	10.2%	6.1%	28.6%	-	10.2%	20.4%	-
その他	5	80.0%	20.0%	-	60.0%	-	20.0%	-	-

(69) Q39-4. 再就職するときに欲しかった支援

4制度

【金銭的な支援】

- ・ 引っ越し費用の補助
- ・ 金銭面の補助
- ・ 家賃補助
- ・ 奨学資金の支援

【手続き面での支援】

- ・ 転職の手続き
- ・ アパートの紹介・契約手続き
- ・ 在留期限の延長

【職場の情報開示】

- ・ 外国人の採用実績
- ・ 職場付近の情報
- ・ 宗教面の配慮
- ・ 休日の保証・実際の取得状況
- ・ 日本語能力を高める為のサポート
- ・ 介護福祉士国家試験の受験サポート
- ・ 賃金体系
- ・ キャリアアップや職員に対する制度に関する情報
- ・ 日本での生活（食生活や住居の確保等）に関する支援
- ・ 仕事と子育て両立出来る環境
- ・ 介護として技術勉強できる場所
- ・ 家族支援

【その他】

- ・ 職業訓練
- ・ 自分にあった職場選び
- ・ 求人情報の収集先
- ・ 職場の情報をわかりやすく説明してくれる人
- ・ 内定を取り消されないか不安

身分・地位

【金銭面での支援】

- ・ 就職するまで生活費の補助
- ・ 初回の給料支給までの生活費補助

【手続き面での支援】

- ・ 社会保険の仕組み
- ・ 子どもの保育所
- ・ 契約書内容が適切かどうか

【職場の情報開示】

- ・ 介護知識、技能の取得のための支援
- ・ 記録の仕方の指導
- ・ 休暇の取得状況、年に1回の帰国ができるか
- ・ 外国人職員の採用実績、相談体制
- ・ 実務者研修、資格取得等の費用補助
- ・ 書面で説明を受けることができるか
- ・ 職場の外部評価
- ・ 通勤手当（自家用車使用時のガソリン代）、資格手当等の有無

【その他】

- ・ 面接時の動向
- ・ 外国人就職を支援する窓口
- ・ 就職自体を相談できる人
- ・ 家族が付き添える説明会
- ・ 同業他事業所の情報
- ・ 外国人であることを理由に断られることがあった
- ・ ハローワークはあまり役に立たなかった
- ・ 職場体験
- ・ 適性検査
- ・ 差別のない職場

⑦ 国外（日本にはいない方）の状況

本調査で、現在「国外（日本にはいない）」と回答した方は4名いた。内訳は中国2名、インドネ

シア1名、フィリピン1名となっている。4名とも介護に関わる仕事はしていなかった。

V. まとめ・考察

現在、介護職として働いている方について、調査結果を概観し、考察を記述する。なお、身分・地位の方に関しては、日本での生活歴が長く、国籍の違いを除き、日本人と変わらない方も多いと考えられる。本事業においては、主に4制度の方を中心に考察し、身分・地位の方と大きく異なるところは追記している。

1 基本情報

➤ 在留資格

本アンケートに協力いただいた方は2,089人で、その内訳は、4制度1,181人(56.5%)、身分・地位883人(42.3%)、その他25人(1.2%)であった。元データの在留資格別は情報がないが、登録者18,915人の大まかな内訳もほぼ同様と考える。介護福祉士であることが確実である「特定活動(EPA)」の累積合格者数と在留資格「介護」の在留者数を純粋に足すと、登録者数の6割弱となるためである。帰国や死去等による登録解除や、「特定活動(EPA)」から「介護」に切り替えた場合も想定されるが、それを含めても5～6割の間と思われる、本調査結果とも大きな差はないと考える。

＜介護福祉士の数を示すデータ＞

- ◇ 「特定活動(EPA)」：令和4年度第35回試験までの累積合格者数は2,890人（出典：厚生労働省 第35回介護福祉士国家試験結果におけるEPA介護福祉士候補者の試験結果「第35回介護福祉士国家試験の内訳・入国年度別候補者の累積合格率」）
- ◇ 在留資格「介護」：令和5（2023）年6月末時点の在留者数は8,093人（出典：在留外国人統計）

➤ 来日前の保有資格

4制度の方では、36.0%が来日前に介護の勉強をした経験があった。また、そのうち半数が、看護の勉強をした経験があり、4制度の17.7%が看護の資格を持っていた。「特定技能」を対象にしたアンケート調査でも、約34%の方に介護や看護を学んだ経験があった（令和3年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「介護分野における特定技能制度の推進方策に関する調査研究」p73）。4制度で来日前から介護や看護の学習経験が多い背景には、EPA介護福祉士候補者の場合、要件として、政府による介護士の認定や、看護学校の卒業等が定められており、「技能実習」でも、団体監理型の場合、技能実習生は日本において従事しようとする業務と同種の業務において従事した経験を有することが要件として定められていることが考えられる。

2 就労・転職の状況

➤ 現在の職場

（雇用形態・就労先の分野、サービス種別、職員数等）

4制度では、98.2%とほとんどが現在、介護職として収入を伴う仕事をしていた。また、そのうちの94.5%が正社員であった。一方、身分・地位では、4制度よりも介護職ではない福祉の仕事をしている方の割合が高くなり、契約社員／嘱託職員、パートタイマー等の非正規雇用も32.4%と、4制度

と比べて高くなっていた。

就労先の分野は、4制度で84.6%、身分・地位で82.5%といずれも大半が高齢者福祉分野であった。就労先のサービス種別は、4制度は施設サービスが多く、身分・地位は居宅サービスが多い傾向があった。4制度の半数以上は、「介護老人福祉施設」もしくは「介護老人保健施設」に勤めており、居宅サービスは20.3%であった。また、そのうち「訪問介護」に従事している方は35名と少数であった。令和2年度の「介護福祉士就労状況調査」では、「介護老人福祉施設」の次に「訪問介護」に従事している人が多い結果であるが、4制度の外国人介護人材の場合、「特定活動（EPA）」の介護福祉士取得後及び在留資格「介護」以外の在留資格は「訪問介護」に従事できないことから、人数が少ないと考えられる。

介護職の方が現在働いている職場（施設・事業所）の人数は、4制度の方よりも、身分・地位の方が働いている職場の従業員数が少ない傾向があった。身分・地位では、居宅サービスが39.9%、地域密着型サービスも17.6%となっていることから、半数以上が施設サービスに従事している4制度よりも、小規模の施設・事業所に勤務する傾向があることが考えられる。また、4制度の87.6%の職場（施設・事業所）には、回答者のほかに外国人職員がいた一方で、身分・地位の方の職場では55.2%に留まっていた。外国人職員数も、4制度で平均6.9人のところ、身分・地位では4.1人となっており、4制度の方が外国人職員の多い環境で働いていると言える。

（現在の職場を選んだ理由）

現在の職場を選んだ理由は、4制度では「外国人スタッフが働いており、働きやすそうと思ったため」、「介護福祉士国家試験の学習に関するサポートがあったため」、「日本語習得のサポートがあったため」の選択肢において、特に身分・地位と比較し割合が高い。4制度の中でも、来日時の在留資格が「特定活動（EPA）」の場合、「介護福祉士国家試験の学習に関するサポートがあったため」が37.1%と最も高かった。「特定活動（EPA）」は養成施設とは異なり、経過措置期間がないことから（2回まで受験の機会がある）、介護福祉士取得に対するモチベーションが高いと考えられる。

一方で、「家から職場が近かったため」、「休みが取りやすい環境のため」、「賃金が高かったため」は、身分・地位の割合が高い。4制度では、職場選びにおいて、外国人職員がいることや、介護福祉士国家試験、日本語習得のサポートが重視されている一方、身分・地位では、職場の通いやすさや、休みの取りやすさ、賃金等、日本人と同様と思われる要件が重視されていると言える。

また、身分・地位は、職場を選んだ理由として「家から職場が近かったため」が他の理由と比べて特に高いが、4制度は、18.3%に留まっていた。なお、現在の住まいを決めた理由として、4制度では、61.4%が職場に近いことを選択しており、身分・地位と比較して特に高くなっていた。4制度の場合、在留資格は就労するためのものであり仕事が優先となるが、身分・地位の場合、生活の拠点が先にある。両者に差がでるのは、就労と生活どちらに基づく在留資格かによると考えられる。

➤ 職場の満足理由・モチベーション

4制度では62.5%、身分・地位では60.6%が現在の職場に満足していた。満足の理由は、4制度・身分共に「職場の人間関係がよい」は高かったが、最も回答が多かった選択肢は、4制度では「困ったときに相談できる人がいる」、身分・地位では、「休みが取りやすい」であった。また、「給料が良

い」は4制度よりも身分・地位の回答が高くなっていた。

介護福祉士として働くモチベーションについては、4制度で最も多い選択肢は「将来、自分の家族の介護をするときに役立つ」であったが、「利用者に喜んでもらうこと」、「介護の仕事はやりがいがある」、「介護の仕事は楽しい・面白い」もそれぞれ同程度の回答があり、介護の仕事そのものがモチベーションになっていると言える。「将来、自分の家族の介護をするときに役立つ」、「母国にいる家族に仕送りができること」は4制度の方が身分・地位よりも高くなっており、「将来、自分の家族の介護をするときに役立つ」は、4制度の中でも特に「技能実習」、「特定技能」で高くなっていた。4制度では、母国で介護技術を生かすこともモチベーションのひとつとなっていると言える。

➤ 仕事で困っていること・必要な支援

仕事での困りごとにおいて、4制度では、「貯金ができない」という金銭面での不安が最も高く、身分・地位では、「仕事の量が多い」が最も高かった。なお、「特になし」は4制度よりも身分・地位の方が高いものの、身分・地位でも29.5%にとどまっており、70.5%の方は仕事で何らかの困りごとを抱えていた。在留資格別にみると、「特定技能」で「日本語が上達しない」が他の在留資格と比較して高くなっており、「特定技能」の方は日本語の上達に課題を感じている方が多いと言える。

介護福祉士として今後も働く上で必要な支援に関しては、「特になし」は身分・地位で23.8%である一方、4制度では5.2%に留まり、4制度の方はほとんどの方が支援を必要としていた。4制度、身分・地位のいずれも、最も高いのは「介護の知識・技能の取得のための支援」であり、介護福祉士として働き続ける上では、まず介護の知識・技能の習得支援が重要であると言える。また、「日本での生活（食生活や住居の確保等）に関する支援」、「介護現場で用いる日本語習得のための支援」は、4制度の方が身分・地位よりも特に高くなっていた。在留資格別にみると、「特定技能」で45.8%が介護記録で用いる日本語、41.7%が介護現場で用いる日本語の支援が必要と回答しており、「特定技能」で特に日本語の支援にニーズがあると考えられる。また、介護福祉士国家試験の不合格の69.8%の方が「介護の知識・技能習得のための支援」が今後も働く上で必要な支援と回答しており、合格・未受験の方と比較して特に高くなっていた。

➤ 転職の状況

就労場所の数については、4制度の72.1%が1箇所と回答しており、転職経験がない方が多かった。一方で、身分・地位では、57.8%が2カ所以上と回答しており、多くの方に転職経験があった。なお、回答者のうち、4制度は20代が多いのに対し、身分・地位は40-50代が多いことから、年齢による就労経験の差も大きいと考えられた。退職理由については、4制度も身分・地位も上位2つは「賃金が低かったため」、「人間関係が良くなかったため」と金銭面、人間関係が選ばれ、同様の傾向を示していた。また、4制度では、身分・地位に比べ「職場がある場所が生活に不便だったため」が特に高くなっていた。4制度の場合、仲介機関等により先に就労場所が確定することが多いため、就労場所を中心として生活環境を選ぶことになる。また、「留学」のときは学校が決まっているため生活環境を変えることは難しく、「特定活動（EPA）」や「技能実習」についても特別な理由がない限り職場を変更することはない。このため、一般的には、転職は介護福祉士取得後の在留資格更新のタイミングと考えられる。一方、身分・地位では、「家事や育児に専念するため」が4制度と比較して特に高

くなっており、家事や育児等の家庭の事情により退職する傾向があった。

再就職するときの相談相手については、4制度では、「同国出身の知人や友人」が最も高くなっており、次に「家族」、「日本人の知人や友人」と続いた。一方、身分・地位では「家族」、「ハローワーク等の相談窓口」、と続く。また、身分・地位では誰にも相談していない方も28.7%いた。

再就職先を探す際に活用した方法については、4制度と身分・地位のどちらもインターネットの求人サイトや口コミを活用しているが、身分・地位はそれらに加え求人情報やハローワークも活用していた。4制度では、同国出身のネットワークが特に活用されている状況でと考えられる。なお、ルート別（来日時々の在留資格別）にみると、EPAルートは、他のルートと比較して、友人や知人の口コミの活用が特に高くなっていた。EPAは訪日後日本語等研修・介護導入研修等があり、ネットワークを形成しやすいことから、友人や知人同士での情報交換が活発に行われやすいと考えられる。

3 生活・家族の状況

➤ 結婚状況・家族の呼び寄せ

4制度では、37.3%が結婚しており、そのうち、93.9%の方が同じ国籍同士で結婚していた。また、結婚予定者も27.9%と多い傾向にあった。既婚者のうち、75.3%が配偶者も日本に住んでおり、配偶者の在留資格は半数以上が「家族滞在」であり、多くの方が家族を呼び寄せていた。4制度で子どもがいるのは20.6%であり、その内、70.1%が子どもの人数は1人であった。また、配偶者や子どもが日本以外に住む方の78.9%が家族の呼び寄せを希望していた。4制度では、すでに日本で家族を形成している方も一定数いるものの、これから結婚や家族の呼び寄せ、出産等が予定される方も多くおり、今後、現状から家族の状況に変化がある方が多いと言える。

なお、呼び寄せができない理由は、経済的な不安が44.9%と最も高く、子どもの就学への不安も33.9%となっていた。「その他」の回答には、4制度の方の回答で「介護」資格でなければ家族を呼んでくることができないため、「在留資格を切り替えないため」「切り替えないといけないため」と思われる）という在留資格に関する理由も挙げられていた。

➤ 生活で困っていること

身分・地位では、困っていることが「特にない」回答が49.9%に上るが、4制度の場合、「特にない」は19.8%にとどまり、多くの方が、生活に困りごとを感じていた。

4制度の困りごとの上位3つは、「日本の物価が高く生活費がかかる」、「家賃が高い」、「家族に十分な仕送りができない」となっており、金銭面に関する課題や不安が中心である。4制度の82.6%が仕送りをしており、そのうち69.9%が1回で5万円以上を仕送りしていることから、仕送りによる手元のお金の減少も大きく影響している可能性が考えられる。

なお、「年金などの日本の社会保障が分からない」は全体で19.1%であるが、身分・地位が15.5%に対し、4制度は21.8%と多い。幼少期から日本で生活していない場合、これまで自分が恩恵を受けてきた制度を理解しづらいと思われ、社会保障に関する情報提供や、母国語での解説サイトの案内等の支援も望まれると言える。

4 介護福祉士国家試験の受験状況

➤ 介護福祉士の受験または登録のきっかけ

4制度、身分・地位共に「専門職として介護の知識・技術を得るため」が最も高くなっているが、4制度では身分・地位と比較して、「日本で介護職として働き続けるため」、「日本に長く住み続けたため」が高くなる。また、身分・地位では、「資格を取得することで給料が上がるため」、「専門職として認めてもらうため」と続き、4制度よりも高くなっており、傾向に違いがある。4制度の場合、日本に在留するためには介護職の必要があるため、介護福祉士を受験・登録する理由に影響していると考えられる。

➤ 介護福祉士国家試験の受験状況

受験の有無については、4制度と身分・地位で大きな傾向の差はないが、4制度の方が合格している割合は低くなっており、4制度の32.0%が不合格の状況であった。4制度では年々合格・登録者は増加傾向にあり、回答者の約半数が2023年に合格・登録をしていた。

➤ 今後の受験予定

未受験・不合格者の今後の受験予定については、4制度の方が、身分・地位よりも今後の受験予定がある割合が高く、4制度の未受験・不合格者の70.3%が今後受験を予定していた。

受験しない理由については、4制度では「5年間就労すれば、受験しなくても介護福祉士として働くことができるから」が67.8%と最も高くなっており、介護福祉士の経過措置を活用していることが明らかとなった。また、経過措置に続いて「受験料がかかるから」が高くなっていて、4制度では生活で困っていることとして金銭面での困りごとが多く挙げられていたことから、金銭面での支援は受験を後押しする可能性がある。

なお、本アンケート調査結果からは、介護福祉士国家試験の受験・合格有無で、雇用形態や職場の立場に大きな違いはなかった。一部の施設・事業所では合格有無により手当に差をつけているところもあるが、多くの介護施設・事業所は受験や合否の有無に関わらず、介護福祉士としての立場を尊重していると考えられる。

5 日本語能力

➤ 現在の日本語能力

4制度の現在の日本語の会話力は、66.5%が「自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・相手の話している内容はほとんど理解することができる」と回答しており、日本語の会話に支障がない方も多いと言える。一方で、4制度の日本語の会話力は当然のことながら身分・地位よりも低くなっており、文章力では特に差が開いた。文章力が「N1レベル相当またはそれ以上」に該当する方は、身分・地位では68.1%のところ、4制度では14.3%に留まり、「日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる（日本語能力試験（JLPT）N3レベル相当）」も4制度の31.2%を占めている。4制度は、日本語の会話については支障がない方が大半であったが、日本語の読み書きや読解に課題がある方は多いと言える。

➤ 合格者と未受験者・不合格者の日本語能力

4制度、身分・地位共に、介護福祉士の合格者と未受験・不合格者では、合格者の方が合格・登録時の日本語能力が高い傾向であった。会話力については、4制度の合格者の57.3%が「自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・相手の話している内容はほとんど理解することができる」と回答しており、「日常生活に困らない程度に会話はできるが、たまにわからない用語がある」は11.4%であった。一方で、4制度の未受験・不合格者では、「自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・相手の話している内容はほとんど理解することができる」は42.4%と合格者と比較して低くなり、「日常生活に困らない程度に会話はできるが、たまにわからない用語がある」は20.3%と高くなっていた。

文章力については、4制度の合格者の74.6%が介護福祉士合格時、文章力が「日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる（日本語能力試験（JLPT）N2レベル相当）」以上と回答していたが、未受験・不合格者では61.5%がそれより低い「日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる（日本語能力試験（JLPT）N3レベル相当）」であった。未受験・不合格者は、合格者よりも日本語能力が低い傾向があり、特に文章力では大きな差があることが明らかとなった。

6 将来の意向

➤ 介護福祉士としての就労意向

4制度のうち、64.0%が「現在の職場で介護の仕事を続けること」、27.1%が、「他の職場で介護の仕事を続けること」を希望していた。4制度の91.1%が、引き続き介護の仕事を続ける意向があるものの、約3割に介護職での転職意向がある状況であった。「介護以外の仕事をしたい」と回答した方の理由は、4制度、身分・地位で傾向に大きな差はなく、「賃金が低いため」、「介護の仕事に疲れたため」、「キャリアアップが期待できないため」と続く。「その他」の回答では、4制度で「母国で看護師資格を持っているため」といった看護の仕事に関心があることがうかがえる内容や、「もっと幅広くヘルスケア分野で仕事をしたい」、「介護職として介護福祉士を目指している外国の方に分かりやすく介護のことを教えたい」といった、介護の関連領域でのキャリア形成を希望する声があった。

➤ 日本での在留希望期間

4制度の39.1%、身分・地位の91.3%が、永住を希望していた。また、4制度では「10年以上」と回答した方も9.9%おり、半数が10年以上の長期滞在を希望していた。ルート別にみると、留学ルートで42.0%、技能実習ルートで41.2%が永住を希望していた。介護職として就労できる4制度の方の多くが、日本での長期就労を希望していると言える。また、4制度のうち、配偶者が日本に住む場合、日本以外に住んでいる場合や独身の場合と比較して、10年以上の長期滞在を希望する回答が高かった。日本で家族を形成する場合、日本で長く在留を希望する傾向があると言える。

VI. 本調査を通して見えてきた課題と今後の展望

1. 実態把握に関する課題

本事業は、介護福祉士に登録する外国籍の方の生活や就労の実態を明らかにすることで、中長期的な人材確保・育成の参考となることを目指して、アンケート調査を実施した。V. まとめ・考察にも記載の通り、本調査結果の在留資格別内訳には登録者全体の内訳と大きな差はないと考えられ、登録者の傾向を一定示していると言える。しかしながら、以下の制約条件等から、外国人介護福祉士の実態把握には課題が残った。

➤ 登録者情報の取扱いに制限があった点

本事業では、試験センターと登録者の間で交わされている個人情報保護に関する取扱い等の観点から、外国籍の介護福祉士全体のデータ（国籍、人数、在留資格等）の取扱い（開示・分析）はできないという制約があった。本来であれば、それらの分析を踏まえて、本アンケート調査結果の分析・考察をすることで、回答結果の違いや傾向を把握することが可能となるが、その比較はできていない。在留資格「介護」や「特定活動（EPA）」の在留者数から、本調査結果の在留資格別内訳は登録者全体の内訳と大きな差はないと考えられるものの、本調査結果は外国人介護福祉士の実態把握とまでは言い切れない点には注意が必要である。

なお、試験センターに登録しているデータ（登録者情報）には、国籍の情報はあるものの、在留資格の情報はなく、介護福祉士取得ルートについてはもともと明らかにすることが難しい。

➤ 登録者の多くが登録者情報を更新していない点

登録者数 18,915 人のうち、宛先不明者は合計で 4,280 人（22.6%）いた。多くが帰国や転居によるものと推察するが、宛先不明者の人数は回答率に影響を及ぼしたと考える。

➤ 一部の回答者は在留資格や経過措置等に関して正しく理解できていない点

調査結果より、回答者の一部は、自身の在留資格や経過措置の考え方を正しく理解できていない可能性が考えられた。例えば、今回のアンケート調査では、在留資格は、来日当初、介護福祉士登録時、現在の計 3 回のタイミングを確認したが、『来日当初：「特定技能」、介護福祉士登録時：「特定活動（EPA）」、現在：「介護」』等、来日年や在留資格の変遷を踏まえると矛盾が生じると思われる回答が多くあった。本調査は、匿名で実施したこともあり、回答に矛盾が生じると思われる方については、原則無効とし、他の設問に影響を与えない場合は在留資格を不明にすることで処理した。

また、経過措置に関しては、回答者の中には、養成施設を卒業すれば自動的に介護福祉士が付与されると思っていることが伺える自由記述もあり、経過措置を認識していないと思われる方も多くいた。また、現在「留学」であると思われる方も複数回答しており、明らかに「留学」と思われる回答は無効とした。

現在、外国人介護人材にとって介護福祉士を取得するルートは様々であるため、仮にルートを示す場合は十数通りとなる。今後、経過措置期間が終了となった際には、在留資格と介護福祉士の関係性について混乱する方が一定数いると考えられる。なお、現在、不合格となった方は准介護福祉士に登

録するという仕組みはあるものの、4制度の外国人介護人材にとっては、准介護福祉士は在留資格の要件に認められておらず、在留することができない。

これらの課題を踏まえ、外国人介護人材及び外国人介護福祉士の実態把握のためには、登録者情報の最新化と定期的なデータの取得が重要と考える。現在、「特定活動（E P A）」、「技能実習」、「特定技能」、「留学」に関しては、それぞれを管轄・支援する団体等を通して、情報を把握することが可能である。一方、「介護」は、様々な在留資格から介護福祉士を取得した者が移行できる在留資格であり、その内訳を把握することができない。国としては「技能実習」や「特定技能」をはじめとする受入れ環境整備や学習支援等に取り組んでいるが、近年では介護福祉士資格取得支援に係る調査研究事業を実施しており、外国人介護人材の介護福祉士資格取得支援は重要な課題であると考えられる。中長期的な外国人介護人材の確保・定着においては、国籍や在留資格の情報把握、それによる支援方法の検討は必要となるだろう。

<今後必要になると考えられる対応>

◆ 登録者情報への在留資格項目の追加

現在、試験センターが管理する登録者情報には、国籍はあるが在留資格は無い。受験時に受験資格の要件としてルートは把握しているものの、介護福祉士取得後はルートによる違いが資格の保有に影響を及ぼさないこともあり、在留資格別の状況は把握することができない。今後、介護福祉士の取得者を増やすためには、在留資格別の課題に応じて支援を講じる必要があることから、受験時、登録時、登録事項の変更時には、在留資格を確認することで、在留資格の変遷やそれぞれの就労・生活状況による違いを把握する必要があると考える。

◆ 定期的なデータの取得

試験センターが実施している「就労状況調査」や本アンケート調査のような外国籍の介護福祉士の状況を把握する調査は複数年に1回であっても実施が必要と考える。外国人介護人材の受入れはまだ歴史が浅く、受入れの多い国や人数等は当初から変化している。外国人介護人材受入れの仕組みのモニタリングとしても、単に人数ではなく、介護福祉士として就労する方の就労状況や生活状況の把握は必要と考える。

2. 外国人介護福祉士の活躍のために必要な支援等

本アンケート調査の結果から、外国人介護福祉士が今後、一層活躍できるように必要な支援や配慮、整える環境整備等について、整理した。

<相談しやすい環境づくり>

4制度の方は、職場の満足理由では「困ったときに相談できる人がいる」が60.4%と最も高く、次いで、「職場の人間関係がよい」は57.8%であった。4制度の場合、職場で満足して働くためには、職場の人間関係も重要であるが、相談できる環境であることも同様に重要であるといえる。メンター

制度や定期的な面談等の実施により、外国人介護福祉士が相談しやすい環境を整えることが重要であると考えられる。

【参考になる資料等】

外国人介護職員に活躍してもらうためのポイントや実際の事例を紹介している。

■外国人介護職員の受入れと活躍支援に関するガイドブック（令和元年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業「外国人介護人材の受入れ実態等に関する調査研究事業」）

https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2022/11/houkatsu_07_1-02.pdf

国際厚生事業団において EPA 介護福祉士を受け入れている機関の事例を紹介している。

■EPA 受入れ事例

https://jicwels.or.jp/?page_id=25

＜介護の知識・技能の習得のための支援＞

「介護福祉士として今後も働く上で必要な支援」では、「介護の知識・技能取得のための支援」が最も高く、特に 4 制度で 58.8%と顕著であった。また、4 制度の職場の満足理由では、「給料がよい」が 22.8%のところ、「技術・能力を高める研修・支援がある」は 20.3%とほぼ同水準となっており、「家賃補助など生活面での支援がある」の 17.5%よりも高かった。介護職として、満足感を得て働き続けるためには、介護の技能や知識を習得できる環境であることが重要であるといえる。施設・事業所内での研修の機会や、外国人介護人材が自主的に外部の研修等に参加しやすくなるような環境整備等の支援が考えられる。

＜介護福祉士国家試験の対策に関する支援＞

4 制度の方は、仕送り等で経済的に余裕がない傾向があるものの、4 制度の現在の職場を選んだ理由では「外国人職員の有無」、「国家試験対策」が上位 2 つとなっており、必ずしも給料や休みの取りやすさだけを重視していないことが明らかとなった。また、国家試験不合格者の 70.2%に再受験の意向があることから、国家試験の対策に関する支援が重要であるといえる。

【参考になる資料等】

介護福祉士国家試験の留学生の合格率を上げるため、間違えやすい問題やその対策等について学習ハンドブックを作成。指導者向けガイドラインも用意されている。

■『介護福祉士国家資格取得に向けた留学生のための学習ハンドブック』

■『介護福祉士国家資格取得に向けた留学生指導についてのガイドライン改訂版』

（厚生労働省補助事業「外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業」）

<https://kaiyokyo.net/book/index.html>

＜日本語能力の強化に関する支援＞

ほとんどの方が日本語の会話力に問題はなかったが、4 制度では文章力に課題を感じている方が多く、特に介護福祉士国家試験の未受験・不合格者に顕著だった。普段の業務や日常生活では、日本語で問題なく会話できている場合でも、記録や長文の文書を読むことに課題を感じている方も多い

ことから、特に文章力の強化を含めた日本語の支援は引き続き重要である。

また、会話力においても、今後キャリアを積むうえでは、更なる習得が必要となる。現在、4制度の外国人介護人材の中には、管理職、フロアやユニットのリーダー、同国籍の後輩等の育成者や通訳者になる方が増えてきている。このような方々は業務上コミュニケーションに支障がなく、自身の考えを相手に誤解のないように伝えることは必要となることから、リーダーとなるための会話力等の研修等も今後必要になると考えられる。

【参考になる資料等】

日本語能力や介護技能を向上させる学習テキストや試験対策を提供している。

■日本介護福祉士会 にほんごをまなぼう

<https://aft.kaigo-nihongo.jp/rpv/>

< 帯同する家族に関する支援 >

外国人介護福祉士は、永住希望者が多く、日本での長期滞在を希望している方が多かった。一方で、4制度では未婚者が62.7%おり、子どもがいる場合であっても多くが1人である。このため、今後家族を形成する者や、子どもが増える等、家族の状況が変化する者も多くいることが予想され、家族形成の変化に伴い生活や就労の悩みも変化する可能性がある。日本で家族形成をする方は、そうでない方よりも長期滞在を希望する傾向があったことから、配偶者への日本語支援や、家族に関する困りごと等を相談しやすい環境づくりといった家族に関する支援が、今後より重要になると考えられる。

< 移動手段に関する支援 >

4制度の場合、就労を目的として来日していることから、職場を中心にして生活環境を選ぶ傾向がある。退職理由として「職場がある場所が生活に不便だったため」が高かったことから、職場が生活に不便な場所にある場合、生活環境に関する支援も重要であるといえる。特に、結婚等のライフステージの変化によって、住まいが変わる可能性が高くなる。4制度は、63.1%が徒歩又は自転車で通勤をしており、自動車利用は12.4%に留まる。一方で、地域によっては、自宅から職場までの距離が近くても、買い物や病院等において、バイクや車が無ければ不便な地域も多くある。運転免許証の資格取得支援や原付バイクの貸与等の交通手段に関する支援が、働きやすさにつながり、職場や地域への定着に影響する可能性があるといえる。

3. 今後の展望

本事業は、外国人介護福祉士の実態把握として、アンケート調査にて課題やニーズを把握した。外国人に限らず日本人にも共通する内容も多くあったが、外国人は在留資格によって日本に在留する権利が与えられていることから、日本人とは異なる環境に置かれていることは認識する必要がある。例えば、4制度の在留資格であれば介護職として就労することを目的としていることから、4制度の間は介護職として就労ができなくなれば、在留資格を失う可能性がある。また、母国の家族等のために来日している場合も多く、生活費の内訳も日本人とは異なることがある。

少子高齢化が進み、介護職が不足する日本にとって、外国人介護福祉士は介護の専門性を有する者として、貴重な存在である。現在、円安や他国との競争において、今後外国人介護人材の確保は困難を極めるとの見解がある。しかしながら、特に介護を目指す外国人は賃金だけではなく、人間関係の良さや専門性の獲得等を重視する傾向にあることが、本アンケート調査結果からも明らかとなっている。このため、今後の人材確保・定着においては、外国人介護人材が安心して働くことのできる環境、長く在留するために将来性のある環境作りは欠かせないと考えられる。

特に、資格取得後のキャリアパスを明確にすることは重要であると考え。現在、4制度の外国人介護人材の中には、管理職、フロアやユニットのリーダー、同国籍の後輩等の育成者や通訳者になる方が増えてきている。外国人介護人材にとって、介護福祉士取得は1つのゴールであるが、介護福祉士として活躍していくためには、資格取得後も知識や技術の研鑽、日本語能力のさらなる向上等を行っていき、キャリアアップを目指してもらうことが必要になる。外国人介護人材自身の努力も必要であるが、施設・事業所は資格取得後の研鑽の仕組みについて積極的に検討することが望まれる。例えば、研修等の自己研鑽の機会を設け、かつ参加しやすい状況を作ることは重要である。また、業界団体や自治体は、外国人介護人材でも参加しやすい研修を増やしていくことも考えられる。現在、外国人介護人材向けに初任者研修や実務者研修等を提供している法人は複数あるが、介護福祉士取得後のキャリアアップに関しては日本人と同様となっている場合が多いと思われる。今後は、職能団体での介護福祉士取得後の研修等の充実化を図りながら、外国人介護人材が職能団体に加入することで外国人介護人材の声を反映した取組を行うことも求められると考える。

また、本アンケート調査の自由記述からは、「日本人職員の言葉がきつい」、「モラルが低い」等の日本人職員への不満や質の低さに言及する内容が散見された。このような職場は今後、外国人介護人材に選ばれなくなるだけでなく、サービスの質の低下が懸念され、利用者や家族からも選ばれなくなる可能性が高い。施設・事業所には、外国人介護人材の受入れを通して見えてきた課題に真摯に向き合うことで、サービスや介護の質の向上にもつなげることができることを認識してもらいたい。施設・事業所に外国人介護人材が入職したことで、専門用語の統一を図り、介護記録の書き方や内容を見直し、施設・事業所全体の業務改善につながった事例も多くある。他にも、外国人介護人材にもわかるように伝えることで、介護の根拠を言語化する能力が培われ、指導力が上がったと話す日本人職員も多い。外国人介護人材が働きやすい職場は、日本人にとっても働きやすい職場といっても過言ではない。

本アンケート調査は、4制度と身分・地位に分別して分析した。4制度に関しては、受入れの環境整備に対して受入れ事業所等に補助が出る等、世間の関心が高い。一方で、身分・地位の在留資格の方に対しては、目立った補助や助成はなく、4制度と比較して支援が少ない状態にある。中には、日本で生まれ育った方もおり、国籍の違いだけで日本人と変わらない方も多いが、本アンケート調査結果からは、日本語や介護の知識・技術の面で一定支援を必要としていることも明らかとなった。令和4年度 厚生労働省 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「外国人高齢者に対する効果的なケアのために外国人介護人材が果たす役割に関する調査研究事業」でも、身分・地位の介護

職に対して、日本語や介護の勉強会を開き、意見交換する場を作っている事例が紹介されている。日本での生活歴が長く、今後も在留する意向のある身分・地位の方への支援も検討が必要と思われる。

最後に、本事業は、公益財団法人 社会福祉振興・試験センターの協力で実施することができた。課題は残ったものの、外国人介護福祉士の生活や就労の実態を把握した調査ははじめてであり、大変貴重な情報を収集することができた。中長期的な外国人介護人材の確保・定着においては、国籍や在留資格の変遷等を踏まえた情報の整理、それによる支援方法の検討が必要と考えられる。本報告が、国や業界団体等が今後の人材確保・定着に必要な支援を検討するうえで参考になれば幸いである。また、施設・事業所にとっても、全ての介護職員が働きやすい職場づくりの参考になることを願っている。

VII. 参考資料

1 アンケート調査票依頼状

令和5年度厚生労働省老人保健健康増進等事業
「外国人介護福祉士の活動実態に関する調査研究事業」
アンケート調査へのご協力をお願い

厚生労働省の補助事業にて、「外国人介護福祉士の活動実態に関する調査研究事業」（実施主体：NTTデータ経営研究所）を実施します。
この調査は、介護福祉士に登録している外国籍の方を対象にアンケート調査を実施し、現在の就労や生活の実態について把握することで、今後、介護福祉士を目指す外国籍の方が増えるように、またより一層活躍いただけるための検討材料とします。
外国籍の介護福祉士の皆様のご回答が、現状を把握する貴重なデータとなります。
つきましては、ご多用の折、大変恐れ入りますが、どうぞご協力いただけますようお願いいたします。

書記

1. 調査期間
2023年9月25日（月）～10月24日（火）

2. 調査対象者
介護福祉士の資格をお持ちの方／在留資格「介護」の方／EPA介護福祉士の方（候補生は対象外です）

※本調査は、公益財団法人社会福祉振興・試験センターに登録されている外国籍の介護福祉士の方が対象となります。9/25の週に、介護福祉士に登録時の宛先、宛名にアンケートのご案内の葉書をお送りしております。

※アンケートのご案内の葉書が届かない場合でも、対象の方はご回答いただけますようお願い申し上げます。

介護福祉士に登録時の住所の修正をご希望の場合は、以下よりお手続きをお願いいたします。

<住所変更手続き>

● 公益財団法人社会福祉振興・試験センター HP

現住所のみの変更手続き

https://www.sssc.or.jp/touroku/henkou_add.html

3. アンケートにつきまして

・本調査は、外国籍の方すべてを対象としていることから、ルビを付記しております。読みにくい場合に

つきましては、恐れ入りますがご了承をいただけますと幸いです。

・アンケートの内容は「こちら」より確認いただけます。回答者の在留資格や就労状況等によって、設問内容は異なります。

4. 問い合わせ先

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所先端技術戦略ユニット

担当者：山川、保坂、奈良

Mail：f@engs.jp

TEL：03-6261-4524（平日10:00-17:00）

※できるだけメールでのお問い合わせをお願いいたします。

2 アンケート調査票本文

<ウェブ画面>

*
あなたは下記に該当する方でよろしいでしょうか。該当する場合は、「はい」を選択して、「進む」をクリックしてください。
「いいえ」の場合は、このまま画面を閉じて、アンケートを終了してください。

介護福祉士の資格をお持ちの方／在留資格「介護」の方／EPA介護福祉士の方（候補生ではない）

☐ はい

*Q1.
あなたの国籍・地域を教えてください。（ひとつ選択）

<選択肢>

1. ベトナム(べとなむ)
2. インドネシア(いんどねしあ)
3. フィリピン(ふいりぴん)
4. ネパール(ねぱーる)
5. 中国(ちゅうごく)
6. ミャンマー(みゃんまー)
7. スリランカ(すりらんか)
8. 韓国(かんこく)
9. モンゴル(もんごる)
10. ブータン(ぶーたん)
11. インド(いんど)
12. 台湾(たいわん)
13. カンボジア(かんぼじあ)
14. バングラデシュ(ばんぐらでしゅ)
15. タイ(たい)
16. その他(そのた)

【16. その他(そのた)】を選択された場合は入力してください。

***Q2.**

あなたの現在の在留資格を教えてください。（ひとつ選択）
げんざい ざいりゅうしかく おし せんたく

☐	1. 在留資格「介護」 ざいりゅうしかく かいご
☐	2. 特定活動（EPA介護福祉士） とくていかつどう かいごふくしし
☐	3. 技能実習 ぎのうじっしゅう
☐	4. 特定技能 とくていぎのう
☐	5. 永住者 えいじゅうしゃ
☐	6. 日本人の配偶者等 にほんじん はいぐうしゃどう
☐	7. 定住者（日系人等） ていじゅうしゃ にっけいじんどう
☐	8. その他 た
☐	9. 国外（日本にはいない） こくがい にほん

***Q3.**

あなたの年齢を教えてください。（9月1日時点）（ひとつ選択）
ねんれい おし がつ にちじてん せんたく

☐	1. 18～19歳 さい
☐	2. 20～24歳 さい
☐	3. 25～29歳 さい
☐	4. 30～34歳 さい
☐	5. 35～39歳 さい
☐	6. 40～49歳 さい
☐	7. 50～59歳 さい
☐	8. 60歳以上 さいいじょう

***Q4.**

あなたの性別を教えてください。（9月1日時点）（ひとつ選択）
せいべつ おし がつ にちじてん せんたく

☐	1. 男性 だんせい
☐	2. 女性 じょせい
☐	3. その他 た

*Q5.

あなたが^す住んでいる^{とどうふけん おし}都道府県を教えてください。^{せんたく}(ひとつ選択)

<選択肢>

北海道(ほっかいどう)

青森県(あおもりけん)

岩手県(いわてけん)

宮城県(みやぎけん)

秋田県(あきたけん)

山形県(やまがたけん)

福島県(ふくしまけん)

茨城県(いばらきけん)

栃木県(とちぎけん)

群馬県(ぐんまけん)

埼玉県(さいたまけん)

千葉県(ちばけん)

東京都(とうきょうと)

神奈川県(かながわけん)

新潟県(にいがたけん)

富山県(とやまけん)

石川県(いしかわけん)

福井県(ふくいけん)

山梨県(やまなしけん)

長野県(ながのけん)

岐阜県(ぎふけん)

静岡県(しずおかけん)

愛知県(あいちけん)

三重県(みえけん)

滋賀県(しがけん)

京都府(きょうとふ)

大阪府(おおさかふ)

兵庫県(ひょうごけん)

奈良県(ならけん)

和歌山県(わかやまけん)

鳥取県(とっとりけん)

島根県(しまねけん)

岡山県(おかやまけん)

広島県(ひろしまけん)

山口県(やまぐちけん)

徳島県(とくしまけん)

香川県(かがわけん)

愛媛県(えひめけん)

高知県(こうちけん)

福岡県(ふくおかけん)

佐賀県(さがけん)

長崎県(ながさきけん)

熊本県(くまもとけん)

大分県(おおいたけん)

宮崎県(みやざきけん)

鹿児島県(かごしまけん)

沖縄県(おきなわけん)

***Q6.**
げんざい 現在、あなたは、にほんご 日本語でどの程度会話が出来ますか。(ひとつ選択)

☐	1. じぶん い 1. 自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・ あいて はな 相手の話している内 容はほとんど理解することができる
☐	2. じぶん い 2. 自分の言いたいことは半分程度相手に伝えることができる・ あいて はな 相手の話している内 容は半分程度理解することができる
☐	3. にちじょうせいかつ ごま ていど かいわ 3. 日 常 生 活に困らない程度に会話はできるが、たまにわからない用語がある
☐	4. きほんてき あいさつ かいわ 4. 基本的な挨拶の会話はできる
☐	5. にほんご かいわ 5. 日本語での会話はほとんどできない

***Q7.**
にほんご ぶんしょう あなたは日本語の文 章がどの程度読めますか。(ひとつ選択)

☐	1. はばひろ ばめん つか にほんご りかい 1. 幅 広い場面で使われる日本語を理解することができる にほんごのうりよくしけん いじょう (日本語能力試験 (J L P T) N 1レベル相当 または それ以上)
☐	2. にちじょうてき ばめん つか にほんご りかい くわ はばひろ ばめん つか にほんご ていどりかい 2. 日 常 的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅 広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる にほんごのうりよくしけん れべるそうどう (日本語能力試験 (J L P T) N 2レベル相当)
☐	3. にちじょうてき ばめん つか にほんご ていどりかい 3. 日 常 的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる にほんごのうりよくしけん れべるそうどう (日本語能力試験 (J L P T) N 3レベル相当)
☐	4. きほんてき にほんご りかい 4. 基本的な日本語を理解することができる にほんごのうりよくしけん れべるそうどう (日本語能力試験 (J L P T) N 4レベル相当)
☐	5. きほんてき にほんご ていどりかい 5. 基本的な日本語をある程度理解することができる にほんごのうりよくしけん れべるそうどう (日本語能力試験 (J L P T) N 5レベル相当)

***Q8-1.**
さいしょ らいにち とし 最初に来 日した年はわかりますか。(ひとつ選択)

☐	1. わかる
☐	2. わからない
☐	3. にほん う 日本で生まれた

***Q8-2.**

さいしよ らいにち とし おし りょこう ふく せんたく
最初に来日した年を教えてください。(旅行は含みません) (ひとつ選択)

＜選択肢＞

1980 年以前(いぜん)

1981 年

1982 年

1983 年

1984 年

1985 年

1986 年

1987 年

1988 年

1989 年

1990 年

1991 年

1992 年

1993 年

1994 年

1995 年

1996 年

1997 年

1998 年

1999 年

2000 年

2001 年

2002 年

2003 年

2004 年

2005 年

2006 年

2007 年

2008 年

2009 年

2010 年

2011 年

2012 年

2013 年

2014 年

2015 年

2016 年

2017 年

2018 年

2019 年

2020 年

2021 年

2022 年

2023 年

***Q9.**
さいしょ らいにち ざいりゅうしかく おし せんたく
 最初に来日したときの在留資格を教えてください。(ひとつ選択)

☐	1. 留 学 りゅうがく
☐	2. 特 定 活 動 (EPA介護福祉士候補者) とくていかつどう かいごふくししこうほしゃ
☐	3. 技 能 実 習 ぎのうじっしゅう
☐	4. 特 定 技 能 とくていきのう
☐	5. 定 住 者 (日系人等) ていじゅうしゃ にっけいじんとう
☐	6. 日本人の配偶者等 にほんじん はいぐうしゃとう
☐	7. その他 た

***Q10.**
かいごふくししこっかしけん じゅけん せんたく
 介護福祉士国家試験を受験したことがありますか。(ひとつ選択)

☐	1. ある
☐	2. ない

***Q10-1-1.**
かいごふくししこっかしけん なんかいじゅけん せんたく
 これまで介護福祉士国家試験を何回受験したことがありますか。(ひとつ選択)
かいごふくししこっかしけん そつぎょうしきようつうしけん ほこう さいしけん かく
 (介護福祉士養成施設での卒業時共通試験による補講、再試験は含みません)

☐	1. 1回 かい
☐	2. 2回 かい
☐	3. 3回 かい
☐	4. 4回 かい
☐	5. 5回 かい
☐	6. 6回以上 かいいいじょう
☐	7. わからない

***Q10-1-2.**
かいごふくししこっかしけん ごうかく せんたく
 介護福祉士国家試験に合格していますか。(ひとつ選択)

☐	1. 合 格 して いる ごうかく
☐	2. 合 格 して いない ごうかく

***Q10-1-3.**

かいこぶくししごっかしけん ごうかく どうろく とし おし せんたく
介護福祉士国家試験に合格・登録した年を教えてください。(ひとつ選択)

▼

＜選択肢＞

	1999 年	2012 年
1987 年	2000 年	2013 年
1988 年	2001 年	2014 年
1989 年	2002 年	2015 年
1990 年	2003 年	2016 年
1991 年	2004 年	2017 年
1992 年	2005 年	2018 年
1993 年	2006 年	2019 年
1994 年	2007 年	2020 年
1995 年	2008 年	2021 年
1996 年	2009 年	2022 年
1997 年	2010 年	2023 年
1998 年	2011 年	

***Q10-1-4.**

かいごふくししこっかしけん ごうかく ざいりゅうしかく おし せんたく
介護福祉士国家試験に合格したときの在留資格を教えてください。(ひとつ選択)

☐	ざいりゅうしかく かいご 1. 在留資格「介護」
☐	とくていかつどう かいごふくししこっかしけん 2. 特定活動 (EPA介護福祉士候補者)
☐	きのうじっしゅう 3. 技能実習
☐	とくていきのう 4. 特定技能
☐	りゅうがく 5. 留学
☐	えいじゅうしゃ 6. 永住者
☐	にほんじん はいぐうしゃとう 7. 日本人の配偶者等
☐	ていじゅうしゃ にっけいじんとう 8. 定住者 (日系人等)
☐	た 9. その他

***Q10-1-5.**

かいごふくししこっかしけん ごうかく どうろく にほんご ていどかいわ せんたく
介護福祉士国家試験に合格・登録したとき、日本語でどの程度会話ができていましたか。(ひとつ選択)

☐	じぶん い あいて つた あいて はな ないよう りかい 1. 自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・相手の話している内容はほとんど理解することができる
☐	じぶん い はんぶんていどあいて つた あいて はな ないよう はんぶんていどりかい 2. 自分の言いたいことは半分程度相手に伝えることができる・相手の話している内容は半分程度理解することができる
☐	にちじょうせいかつ こま ていど かいわ ようご 3. 日常生活に困らない程度に会話はできるが、たまにわからない用語がある
☐	きほんてき あいさつ かいわ 4. 基本的な挨拶の会話はできる
☐	にほんご かいわ 5. 日本語での会話はほとんどできない

***Q10-1-6.**

かいごふくししこっかしけん ごうかく どうろく にほんご ぶんしょう ていどよ せんたく
介護福祉士国家試験に合格・登録したとき、日本語の文章がどの程度読めましたか。(ひとつ選択)

☐	はばひろ ぼめん つか にほんご りかい 1. 幅広い場面で使われる日本語を理解することができる (日本語能力試験 (JLPT) N1レベル相当 または それ以上)
☐	はばひろ ぼめん つか にほんご ていどりかい 2. 日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる (日本語能力試験 (JLPT) N2レベル相当)
☐	にちじょうてき ぼめん つか にほんご ていどりかい 3. 日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる (日本語能力試験 (JLPT) N3レベル相当)
☐	きほんてき にほんご りかい 4. 基本的な日本語を理解することができる (日本語能力試験 (JLPT) N4レベル相当)
☐	きほんてき にほんご ていどりかい 5. 基本的な日本語をある程度理解することができる (日本語能力試験 (JLPT) N5レベル相当)

***Q10-2-1.**

かいごふくしし どうろく とし おし せんたく
介護福祉士に登録した年を教えてください。(ひとつ選択)



＜選択肢＞

	1999 年	2012 年
1987 年	2000 年	2013 年
1988 年	2001 年	2014 年
1989 年	2002 年	2015 年
1990 年	2003 年	2016 年
1991 年	2004 年	2017 年
1992 年	2005 年	2018 年
1993 年	2006 年	2019 年
1994 年	2007 年	2020 年
1995 年	2008 年	2021 年
1996 年	2009 年	2022 年
1997 年	2010 年	2023 年
1998 年	2011 年	

***Q10-2-2.**

かいごふくしし とうろく ざいりゅうしかく おし せんたく
介護福祉士に登録したときの在留資格を教えてください。(ひとつ選択)

☐	1. 留 学 りゅうがく
☐	2. 特 定 活 動 (EPA介護福祉士候補者) とくていかつどう かいごふくししこうほしや
☐	3. 永 住 者 えいじゅうしや
☐	4. 日本人の配偶者等 にほんじん はいぐうしやとう
☐	5. 定 住 者 (日系人等) ていじゅうしや にっけいじんとう
☐	6. その他 た

***Q10-2-3.**

かいごふくしし とうろく にほんご ていどかいわ せんたく
介護福祉士に登録したとき、日本語でどの程度会話ができていましたか。(ひとつ選択)

☐	1. 自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・相手の話している内容はほとんど理解することができる じぶん い ほとんど あいて つた あいて はな ないよう りかい
☐	2. 自分の言いたいことは半分程度相手に伝えることができる・相手の話している内容は半分程度理解することができる じぶん い はんぶんていどあいて つた あいて はな ないよう はんぶんていどりかい
☐	3. 日常生活に困らない程度に会話はできるが、たまにわからない用語がある にちじょうせいかつ こま ていど かいわ ようご
☐	4. 基本的な挨拶の会話はできる きほんてき あいさつ かいわ
☐	5. 日本語での会話はほとんどできない にほんご かいわ

***Q10-2-4.**

かいごふくしし とうろく にほんご ぶんしやう ていどよ せんたく
介護福祉士に登録したとき、日本語の文章がどの程度読めましたか。(ひとつ選択)

☐	1. 幅広い場面で使われる日本語を理解することができる (日本語能力試験(JLPT)N1レベル相当 または それ以上) はばひろ ばめん つか にほんご りかい
☐	2. 日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる (日本語能力試験(JLPT)N2レベル相当) にちじょうてき ばめん つか にほんご りかい くわ はばひろ ばめん つか にほんご ていどりかい
☐	3. 日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる (日本語能力試験(JLPT)N3レベル相当) にちじょうてき ばめん つか にほんご ていどりかい
☐	4. 基本的な日本語を理解することができる (日本語能力試験(JLPT)N4レベル相当) きほんてき にほんご りかい
☐	5. 基本的な日本語をある程度理解することができる (日本語能力試験(JLPT)N5レベル相当) きほんてき にほんご ていどりかい

***Q10-2-5.**

こんご かいごふくししこっかしけん じゅげん よてい せんたく
今後、介護福祉士国家試験を受験する予定はありますか。(ひとつ選択)

☐	1. ある
☐	2. ない

***Q10-2-6.**

こんご かいごふくしし じゅけん りゆう おし ふくすうせんたく
今後、介護福祉士国家試験を受験しない理由を教えてください。(複数選択)

☐	1. 5年 間 就 労すれば、受 験しなくても介護福祉士として働くことができるから
☐	2. 受 験 料がかかるから
☐	3. 試験が難しく、合 格する自信がないから
☐	4. 仕事と勉 強の両 立が難しいから
☐	5. こんご かいご しごと 今後、介護の仕事をするつもりはないから
☐	こんご にほんいがい はたら よてい 6. 今後、日本以外で働く予定だから
☐	7. その他

***Q11.**

かいごふくしし じゅけん どうろく おし ふくすうせんたく
介護福祉士の受験または登録のきっかけを教えてください。(複数選択)

☐	1. せんもんしよく かいご ちしき ぎじゅつ え 専 門 職として介護の知識・技 術を得るため
☐	2. せんもんしよく みと 専 門 職として認めてもらうため
☐	しかく しゅとく きゅうりょう あ 3. 資格を取 得することで、給 料が上がるため
☐	がっこう そつぎょう しかく と 4. 学 校を卒 業したら資格が取れたため
☐	にほん かいごしよく はたら つづ 5. 日本で介 護 職として働 き続けるため
☐	にほん しゅうしよく てんしよく ゆうり 6. 日本での就 職・転 職に有利なため
☐	にほん なが す つづ 7. 日本に長く住み続けたいため
☐	しょうらい しゅつしん くに ちいき かいご しごと 8. 将 来、出 身の国・地域で介護の仕事をしたいため
☐	9. その他
☐	10. とく 特になし

***Q12.**

けっこん がつ にちじてん せんたく
結 婚していますか。(9月1日時点) (ひとつ選択)

☐	1. はい
☐	2. いいえ (けっこん よてい) いいえ (結 婚の予定がある)
☐	3. いいえ (けっこん よてい) いいえ (結 婚の予定はない)

***Q13-1.**
はいぐうしゃ こくせき おし せんたく
配偶者の国籍を教えてください。(ひとつ選択)

☐	1. 自分と同じ国籍(母国)
☐	2. 日本
☐	3. 日本と母国以外の国

***Q13-2.**
はいぐうしゃ げんざい す せんたく
配偶者は現在どこに住んでいますか。(ひとつ選択)

☐	1. 日本
☐	2. 母国
☐	3. 日本と母国以外の国

***Q13-3.**
はいぐうしゃ ざいりゅうしかく おし せんたく
配偶者の在留資格を教えてください。(ひとつ選択)

☐	1. 在留資格「介護」
☐	2. 特定活動(EPA介護福祉士/EPA介護福祉士候補者)
☐	3. 技能実習
☐	4. 特定技能
☐	5. 技術・人文知識・国際業務
☐	6. 留学
☐	7. 家族滞在
☐	8. その他

***Q14.**
こ がつ にちじてん せんたく
子どもはいますか。(9月1日時点)(ひとつ選択)

☐	1. はい
☐	2. いいえ(現在、妊娠中である)
☐	3. いいえ(現在のところ予定はない)

Q15-1. こ げんざい す
子どもは現在、どこに住んでいますか。
※いない場合は0と入力してください。

* にほん 日本		にん 人
* ほこく 母国		にん 人
* にほん ほこく以外の国 日本と母国以外の国		にん 人

***Q15-2.**
 かぞく にほん よ いっしょ せいかつ せんたく
 家族を日本に呼んで一緒に生活したいですか。(ひとつ選択)

☐	1. はい
☐	2. いいえ
☐	3. わからない

***Q15-3.**
 かぞく よ りゆう なに ふくすうせんたく
 家族を呼べない理由は何ですか。(複数選択)

☐	1. 経 済 的に生 活できるか不安なため
☐	2. 家族が日本の生 活に馴染めるか不安なため
☐	3. 子どもの就 学(教 育)に不安があるため
☐	4. 家族が母国で生 活したいと言っているため
☐	5. その他

***Q16.**
 げんざい だれ いっしょ せいかつ ふくすうせんたく
 現 在、誰かと一 緒に生 活していますか。(複数選択)

☐	1. 友 人や職 場の同 僚
☐	2. 配 偶 者、パートナ－
☐	3. 子ども
☐	4. 親
☐	5. 兄 弟 姉 妹
☐	6. その他の親 族
☐	7. その他
☐	8. 一 緒に住んでいる人はいない

***Q17.**
 げんざい す おし せんたく
 現 在の住まいについて教えてください。(ひとつ選択)

☐	1. 民 間のアパートや賃貸マンション
☐	2. 職 場が契 約したアパートやマンション
☐	3. 持ち家 (マンション含む)
☐	4. その他

***Q18.** げんざい す えら りゆう おし ふくすうせんたく
 現在の住まいを選んだ理由を教えてください。(複数選択)

☐	1. 職場に近いから
☐	2. 近くにスーパーなどがあり、生活しやすいから
☐	3. 駅から近いなど、移動に便利だから
☐	4. 家賃が安いから
☐	5. 友人や知人が近くに住んでいるから
☐	6. 職場に勧められたから
☐	7. 不動産屋に勧められたから
☐	8. その他

***Q19.** げんざいかいごしよく しゅうにゅう とちな しごと せんたく
 あなたは現在介護職として、収入を伴う仕事をしていますか。(ひとつ選択)

☐	1. 介護職として、働いている
☐	2. 介護職ではないが、福祉の仕事をしている
☐	3. 1,2以外の仕事をしている
☐	4. 仕事をしていない

***Q20-1-1.**

げんざい こようけいたい おし せんたく
現在の雇用形態を教えてください。（ひとつ選択）

☐	1. 正社員 せいしやいん
☐	2. 契約社員／嘱託社員 けいやくしやいん しよくたくしやいん
☐	3. パートタイマー ぱーとたいまー
☐	4. アルバイト あるばいと
☐	5. 派遣 はけん

***Q20-1-2.**

げんざい はたら とどうふけん おし せんたく
現在あなたが働いている都道府県を教えてください。（ひとつ選択）

---	▼
-----	---

***Q20-1-3.**

げんざいはたら しょくば ほうじんかく おし せんたく
現在働いている職場の法人格を教えてください。（ひとつ選択）

☐	1. 社会福祉法人 しゃかいふくしほうじん
☐	2. 医療法人 いりょうほうじん
☐	3. 社団法人・財団法人 しゃだんほうじん さいだんほうじん
☐	4. 営利法人（株式会社・有限会社等） えいりほうじん かぶしきがいしゃ ゆうげんがいしゃどう
☐	5. NPO法人（特定非営利活動法人） ほうじん とくていひえいりかつどうほうじん
☐	6. その他 た

***Q20-1-4.**

げんざいはたら しょくば ぶんや おし せんたく
現在働いている職場の分野を教えてください。（ひとつ選択）

☐	1. 高齢者福祉分野 こうれいしやふくしぶんや
☐	2. 障害（児）者福祉分野 しょうがい じ しやふくしぶんや
☐	3. 児童福祉分野 じどうふくしぶんや
☐	4. 生活保護分野 せいかつほごぶんや
☐	5. 医療分野 いりょうぶんや
☐	6. 福祉・介護教育分野 ふくし かいごきょういくぶんや
☐	7. その他 た

***Q20-1-5.**

けんさいはたら 現 在 働いている施設の主な事業内容（サービス種別）を教えてください。（ひとつ選択）

こうれいしゃふくしぶんや
高齢者福祉分野

☐	1) 訪問介護 ほうもんかいご
☐	2) 訪問入浴介護 ほうもんにゅうよくかいご
☐	3) 通所介護 つうしょかいご
☐	4) 通所リハビリテーション つうしょりはびりてーしょん
☐	5) 短期入所生活介護 たんきにゅうしょせいかつかいご
☐	6) 短期入所療養介護 たんきにゅうしょりょうようかいご
☐	7) 特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、軽費老人ホームなど） とくていしせつにゅうきょしゃせいかつかいご ゆうりょうろうじんほーむ けいひろうじんほーむ
☐	8) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 ていきじゅんかい すいじたいおうがたほうもんかいごかんご
☐	9) 夜間対応型訪問介護 やかんたいおうがたほうもんかいご
☐	10) 地域密着型通所介護 ちいきみっちゃくがたつうしょかいご
☐	11) 認知症対応型通所介護 にんちしょうたいおうがたつうしょかいご
☐	12) 小規模多機能型居宅介護 しょうきぼたきのうがたきょたくかいご
☐	13) 認知症対応型共同生活介護 にんちしょうたいおうがたきょうどうせいかつかいご
☐	14) 地域密着型特定施設入居者生活介護 ちいきみっちゃくがたとくていしせつにゅうきょしゃせいかつかいご
☐	15) 地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護 ちいきみっちゃくがたかいごろうじんふくしせつにゅうきょしゃせいかつかいご
☐	16) 看護小規模多機能型居宅介護 かんごしょうきぼたきのうがたきょたくかいご
☐	17) 居宅介護支援事業所 きょたくかいごしえんじきようしょ
☐	18) 介護老人福祉施設 かいごろうじんふくしせつ
☐	19) 介護老人保健施設 かいごろうじんほけんしせつ
☐	20) 介護医療院、介護療養型医療施設 かいごいりょういん かいごりょうようがたいりょうしせつ
☐	21) その他の高齢者福祉関係 た こうれいしゃふくしかんけい

しょうがい じ しゃふくしぶんや
障害（児）者福祉分野

☐	1) 障害者支援施設 しょうがいしえんしせつ
☐	2) 訪問サービス事業所（居宅介護 等） ほうもんさーびすじきようしょ きょたくかいご とう
☐	3) 障害児入所施設 しょうがいじにゅうしょしせつ
☐	4) その他の障害者・障害児福祉関係 た しょうがいしゃ しょうがいじふくしかんけい

いりょうぶんや
医療分野

☐	1) 病院・診療所 びょういん しんりょうじょ
☐	2) その他の医療関係 た いりょうかんけい

た その他	
☐	きゅうごしせつ 1) 救護施設
☐	こうせいしせつ 2) 更生施設
☐	げんしぱくだんひばくしゃしせつ じぎょうしよ 3) 原子爆弾被爆者施設・事業所
☐	はんせんびょうりょうようじよ 4) ハンセン病療養所
☐	かせいふしやうかいじよ 5) 家政婦紹介所
☐	ぎやうせいきかん とうふけんちやう しやくしよとう 6) 行政機関（都道府県庁、市役所等）
☐	た 7) その他

*Q20-1-6.

げんざい おも しごと あ せんたく

現在の主な仕事はどれに当てはまりますか。（ひとつ選択）

☐	つうやく 1. 通訳
☐	ごがく ごうし にほんご ぼごとう 2. 語学の講師（日本語、母語等）
☐	ほんやく 3. 翻訳
☐	おく だ きかん かんりだんたい とうろくしえんきかんと しよくいん 4. 送り出し機関、監理団体、登録支援機関等の職員
☐	いんしよく さーびす 5. 飲食・サービス
☐	た 6. その他

***Q20-2-1.**

しごと りゆう おし ふくすうせんたく
仕事をしていない理由を教えてください。(複数選択)

☐	1. 求職活動中 きゅうしょくかつどうちゅう
☐	2. 職業訓練等を受講している しよくきょうくねんどうじゅこう
☐	3. 心身の健康状態の不調 しんしん けんこうじょうたい ふちょう
☐	4. 出産・子育て しゅっさん こそだ
☐	5. 家族等の介護・看護 かぞくどう かいご かんご
☐	6. 働く必要がない はたら ひつよう
☐	7. その他 た

***Q20-2-2.**

あなたは今後、介護職として働きたいと思いますか。(ひとつ選択)

☐	1. 是非働きたい ぜひはたら
☐	2. 条件があれば働きたい じょうけん はたら
☐	3. 働きたくない はたら
☐	4. わからない

***Q21.**

らいにちまえ ほゆう ふくし かいごかんけい しかく まな おし ふくすうせんたく
来日前に、保有していた福祉・介護関係の資格・または、学んだことについて教えてください。(複数選択)

☐	1. 介護の勉強をした・介護の学校を卒業した かいご べんきょう かいご がっこう そつぎょう
☐	2. 介護の資格を持っている かいご しかく ち
☐	3. 看護の勉強をした・看護の学校を卒業した かんご べんきょう かんご がっこう そつぎょう
☐	4. 看護の資格を持っている かんご しかく ち
☐	5. その他 た
☐	6. 特になし とく

***Q22.**

げんざいはたら しょくば しせつ じきょうしょうどう じゅうきょういんすう おし せんたく
現在働いている職場(施設・事業所等)の従業員数を教えてください。(ひとつ選択)
※法人全体ではありません

☐	1. 1～10人 にん
☐	2. 11～30人 にん
☐	3. 31～50人 にん
☐	4. 51～100人 にん
☐	5. 101人以上 にんいじょう
☐	6. わからない

***Q23.**
げんざいはたら 現在 しよくば 働いている職場（法人）には、他の施設や事業所せんたくはありますか。（ひとつ選択）

☐	1. はい
☐	2. いいえ、今 いまはたら 働いている施設・事業所 しせつ のみ
☐	3. わからない

***Q24.**
しよくば 職場（施設・事業所）内に、あなた以外に外国いがい人職員がいこくじんしよくいんはいますか。（ひとつ選択）

☐	1. はい わたしがい 私以外に にん 人います
☐	2. はい、ただし、人数 にんずう はわかりません
☐	3. いいえ
☐	4. わからない

***Q25.**
しよくば 職場（法人）内に、あなた以外に外国いがい人職員がいこくじんしよくいんはいますか。（ひとつ選択）

☐	1. はい わたしがい 私以外に にん 人います
☐	2. はい、ただし、人数 にんずう はわかりません
☐	3. いいえ
☐	4. わからない

***Q26.**
げんざい 現在の職場で働き始めた年を教えてください。（ひとつ選択）
ほっしんない ※法人内で異動があった場合は、就職した年を教えてください。

---	▼
-----	---

<選択肢>

1980 年以前(いぜん)	1995 年	2010 年
1981 年	1996 年	2011 年
1982 年	1997 年	2012 年
1983 年	1998 年	2013 年
1984 年	1999 年	2014 年
1985 年	2000 年	2015 年
1986 年	2001 年	2016 年
1987 年	2002 年	2017 年
1988 年	2003 年	2018 年
1989 年	2004 年	2019 年
1990 年	2005 年	2020 年
1991 年	2006 年	2021 年
1992 年	2007 年	2022 年
1993 年	2008 年	2023 年
1994 年	2009 年	

***Q27.**

げんざい しょくば えら りゆう えら せんたく
現在の職場を選んだ理由について、あてはまるものを3つまで選んでください。（3つまで選択）

☐	1. 休みが取りやすい職場のため
☐	2. 宗教の配慮があるため
☐	3. 外国人スタッフが働いており、働きやすそうと思ったため
☐	4. 賃金が高かったため
☐	5. 日本語習得のサポートがあったため
☐	6. 介護技術習得のサポートがあったため
☐	7. 介護福祉士国家試験の学習に関するサポートがあったため
☐	8. 資格取得の補助ができたため
☐	9. 家から職場が近かったため
☐	10. 家賃補助など住まいに関するサポートがあったため
☐	11. 結婚・出産など家族に対するサポートがあったため
☐	12. 現在の職場がある地域が好きなため
☐	13. その他
☐	14. 特に理由はない

***Q28.**

しょくば とうつうしゆだん おし せんたく
職場までの交通手段を教えてください。（ひとつ選択）

☐	1. 徒歩
☐	2. 自転車
☐	3. 自動車
☐	4. 電車やバス+徒歩や自転車
☐	5. その他

***Q29.**

げんざい しょくば たちば おし せんたく
現在の職場でのあなたの立場を教えてください。（ひとつ選択）

☐	1. 施設長・副施設長
☐	2. 介護部の長
☐	3. フロアのリーダー
☐	4. ユニットや小チームのリーダー
☐	5. 1～4以外の職員
☐	6. 事務職員
☐	7. その他

***Q30.**
げんざい ほゆう 現在、保有している資格を教えてください。しかく おし (複数選択)
にほんこくない みと (日本国内で認められている資格)

☐	1. しゃかいふくし 社会福祉士
☐	2. せいしんほけんふくし 精神保健福祉士
☐	3. かいごふくししじっしゅうしどうしゃ 介護福祉士実習指導者
☐	4. かいごしえんせんもんいん けあまねじゃー 介護支援専門員 (ケアマネジャー)
☐	5. ほうもんかいごいん ほーむへるばー 訪問介護員 (ホームヘルパー)
☐	6. かんごし じゅんかんごし 看護師・准看護師
☐	7. そうだんしえんせんもんいん 相談支援専門員
☐	8. ほいくし 保育士
☐	9. とく 特になし

***Q31.**
かいごふくし 「介護福祉士」の資格手当を支給されていますか。しかくてあて しきゅう (ひとつ選択)
せんたく

☐	1. しかくてあて 資格手当をもらっている
☐	2. げんざい 現在をもらっていないが、 かこ 過去にもらっていた
☐	3. しかくてあて 資格手当はもらっていない

***Q32.**
ねん あなたの2022年の1年間の収入を教えてください。ねんかん しゅうにゅう おし (ひとつ選択)
しゅうにゅう ※収入は、あなたが実際に受け取る金額ではなく、せいきん 税金、しゃかいほけんりょう 社会保険料、しゆくしゃりょう 宿舎料などが引かれる前の金額で回答してください。
けつぶん ※1か月分の収入しか分からない場合は、それを12倍してください。
ほーなす ※また、ボーナスがある場合はそれも加えた金額としてください。

☐	1. まんえんみまん 200万円未満
☐	2. まんえんいじょう 200万円以上300万円未満
☐	3. まんえんいじょう 300万円以上400万円未満
☐	4. まんえんいじょう 400万円以上500万円未満
☐	5. まんえんいじょう 500万円以上700万円未満
☐	6. まんえんいじょう 700万円以上1000万円未満
☐	7. まんえんいじょう 1000万円以上
☐	8. こた 答えたくない

***Q33-1.**
しゅうにゅう あなたの収入から、ぼこく かぞく 母国の家族などへの仕送り (送金) をしていますか。しおく そうきん (ひとつ選択)
せんたく

☐	1. まいつき 毎月している
☐	2. ときどき 時々している
☐	3. していない していない
☐	4. かぞく にほん 家族は日本にいる

***Q33-2.**

1回あたり平均していくら仕送り（送金）をしていますか。（ひとつ選択）
※日本円で回答してください。

☐	1. 5万円未満
☐	2. 5万円以上10万円未満
☐	3. 10万円以上15万円未満
☐	4. 15万円以上

***Q34-1.**

あなたは現在の職場に満足していますか。（ひとつ選択）

☐	1. はい
☐	2. いいえ

***Q34-2.**

満足している理由として、あてはまるものを3つまで選んでください。（3つまで選択）

☐	1. 給料がよい
☐	2. 休みがとりやすい
☐	3. 困ったときに相談できる人がいる
☐	4. 職場の人間関係がよい
☐	5. 宗教への配慮や理解がある
☐	6. 家賃補助など生活面での支援がある
☐	7. 家族への支援がある
☐	8. 技術・能力を高める研修・支援がある
☐	9. その他

***Q34-3.**

まんぞく りゆう えら せんたく
満足していない理由として、あてはまるものを3つまで選んでください。（3つまで選択）

☐	きゅうりょう ひく 1. 給料が低い
☐	しごと りょう おお 2. 仕事の量が多い
☐	ざんぎょうじかん なが 3. 残業時間が長い
☐	ざんぎょうじかん すく 4. 残業時間が少ない
☐	やす 5. 休みがとりにくい
☐	こま そうだん ひと 6. 困ったときに相談できる人がいない
☐	しょくば にんげんかんけい わる 7. 職場の人間関係が悪い
☐	あたらし まな かんきよう 8. 新しいことを学ぶ環境にない
☐	しゅうきようじよう はいりよ 9. 宗教上の配慮をしてくれない
☐	きやりあばす ふめいかく 10. キャリアパスが不明確
☐	た 11. その他

***Q35.**
かいごふくしし はたら うえ も ち べー し ょん おし ふくすうせんたく
 介護福祉士として働く上でのモチベーションを教えてください。(複数選択)

☐	1. 介護の仕事は楽しい・面白い かいご しごと たの おもしろ
☐	2. 介護の仕事はやりがいがある かいご しごと
☐	3. 将来、自分の家族の介護をするときに役に立つ しょうらい じぶん かぞく かいご やく た
☐	4. 人と接することが好き ひと せつ す
☐	5. 利用者に喜んでもらうこと りようしゃ よろこ
☐	6. 他の外国人介護人材に指導・助言すること ほか がいこくじんかいごじんざい しどう じょげん
☐	7. 介護現場をリーダーとしてまとめること かいごげんば りーだー
☐	8. 施設の運営等の管理を行うこと しせつ うんえいとう かんり おこな
☐	9. 給料を得ること きゅうりよう え
☐	10. 母国にいる家族に仕送りができること ぼこく かぞく しおく
☐	11. その他 た

***Q36.**
しごと こま ふくすうせんたく
 仕事で困っていることはありますか。(複数選択)

☐	1. 仕事の量が多い しごと りょう おお
☐	2. 残業時間が長い ざんぎょうじかん なが
☐	3. 残業時間が少ない ざんぎょうじかん すく
☐	4. 希望の休みがとりにくい きぼう やす
☐	5. 貯金ができない ちよきん
☐	6. 日本人職員に苦手な人がいる にほんじんしょくいん にがて ひと
☐	7. 外国人職員（自分と同国籍も含む）に苦手な人がいる がいこくじんしょくいん じぶん どうこくせき ふく にがて ひと
☐	8. 利用者とうまくコミュニケーションがとれない りようしゃ こみゆにけーしょん
☐	9. 申し送りなど、職員とのコミュニケーションに不安を感じる もう おく しょくいん こみゆにけーしょん ふあん かん
☐	10. 日本語が上達しない にほんご じょうたつ
☐	11. 新しいことを学ぶ環境にない あたらし まな かんきよう
☐	12. 宗教上の配慮をしてくれない しゅうきようじょう はいりょ
☐	13. 法人からの奨学資金の関係で5年間転職ができない ほうじん しょうがくしきん かんけい ねんかんてんしよく
☐	14. その他 た
☐	15. 特になし とく

*Q37. これまで、いくつの職^{しよくば}場^{はたら}で働いたことがありますか。※ いま しよくば ふく 今の職^{しよくば}場^{ふく}も含めてください。 ある はい と ふく ※アルバイトは含みません	しよ か所
*Q38. そのうち、介^{かい}護^ご職^{しよく}として働いたところはいくつあります か。 はたら	しよ か所

***Q39-1.**

これまでの就 労 先を退 職した理由について、あてはまるものを3つまで選んでください。（3つまで選 択）

☐	1. 人 間 関 係がよくなかったため
☐	2. 賃 金 低 かったため
☐	3. 残 業が多かったため
☐	4. 体 力 的に続けるのが難 しかったため
☐	5. 日本語の学 習 支 援や、国家試験合格のためのサポートがなかったため
☐	6. 外 国 人と日本人で扱いが異 なったため
☐	7. 希 望する仕事ができなかったため
☐	8. 職 場がある場所が生 活に不便だったため
☐	9. 介護の仕事に魅 力を感じなくなったため
☐	10. 家事や育児に専 念するため
☐	11. 家族の都合による転 居のため
☐	12. 自分または家族の病 気によるため
☐	13. 解雇された、もしくは退 職 勧 奨されたため
☐	14. その他

***Q39-2.**

再 就 職するとき、誰かに相 談しましたか。（複 数 選 択）

☐	1. 同 国 出 身の知人や友 人に相 談した
☐	2. 同じ国以外の外 国 籍の知人や友 人に相 談した
☐	3. 養 成 校の教 員に相 談した
☐	4. 日本人の知人や友 人に相 談した
☐	5. 家族に相 談した
☐	6. ハローワークや外国人介護人材センターなどの相 談 窓 口に相 談した
☐	7. 自治体の相 談 窓 口に相 談をした
☐	8. その他
☐	9. 誰にも相 談していない

***Q39-3.**

さいしゅうしよく しごと さが なに つか ふくすうせんたく
再 就 職するとき、仕事を探すために何を使いましたか。(複数選択)

☐	1. インターネットの求人サイト、就職関連サイト いん たーねっと きゅうじんさいと しゅうしょくかんれんさいと
☐	2. 求 人 情 報 誌やチラシなど きゅうじんじょうほうし ちらし
☐	3. インスタグラムやフェイスブック いんすたぐらむ ふえいすぶっく
☐	4. 友 人や知人の口コミ ゆうじん ちじん くちこみ
☐	5. その他
☐	6. 特になし とく

Q39-4.

さいしゅうしよく ほ しえん
再 就 職するとき欲しかった支援

***Q40.**

かいごふくしし ごんご はたら うえ ひつよう しえん えら せんたく
介護福祉士として今後も働く上で必要な支援を3つまで選んでください。(3つまで選択)

☐	1. 介護の知識・技能の取得のための支援 かいご ちしき きのう しゅとく しえん
☐	2. 介護現場で用いる日本語習得のための支援 かいごげんば もち にほんごしゅうとく しえん
☐	3. 介護記録で用いる日本語習得のための支援 かいごきろく もち にほんごしゅうとく しえん
☐	4. 日本での生活（食生活や住居の確保等）に関する支援 にほん せいかつ しょくせいかつ じゅうきょ かくほとう かん しえん
☐	5. 定期的な面談による困りごとや悩みの把握 ていきてき めんだん こま なや はあく
☐	6. 母語による相談対応 ぼ ご そうだんたいおう
☐	7. 一時帰国・休暇取得への配慮 いちじきこく きゅうかしゅとく はいりょ
☐	8. 信 仰 上 の配 慮 しんこうじょう はいりょ
☐	9. 地域の日本人との交流支援 ちいき にほんじん こうりゅうしえん
☐	10. 地域の外国人との交流支援 ちいき がいこくじん こうりゅうしえん
☐	11. 同居する家族に対する支援 どうきょ かぞく たい しえん
☐	12. その他
☐	13. 特になし とく

***Q41.**
 せいかつ こま
 生活で困っていることはありますか。3つまでえらんでください。（3つまでせんたく）

☐	1. ちいき にほんじん かんけい わる にか 地域の日本人と関係が悪い（関わりがない）
☐	2. ちいき がいこくじん じぶん どうこくせき ふく かんけい わる にか 地域の外国人（自分と同国籍も含む）と関係が悪い（関わりがない）
☐	3. しょくば つうきんじかん なが 職場までの通勤時間が長い
☐	4. いえ かんきょう よ す ばしょ ふべん 家の環境が良くない、住んでいる場所が不便
☐	5. にほん せいかつしゅうかん な 日本の生活習慣に慣れない
☐	6. しんごう ふべん 信仰のうえで不便がある
☐	7. た もの おい 食べ物が美味しくない
☐	8. ねんきん にほん しゃかいほしょう 年金など日本の社会保障がわからない
☐	9. かぞくたいざい はいくうしゃ じかん しゅうろうせいげん 家族滞在で配偶者に28時間の就労制限がある
☐	10. にほん ぶつか たか せいかつひ 日本の物価が高く生活費がかかる
☐	11. やちん たか 家賃が高い
☐	12. かぞく じゅうぶん しおく 家族に十分な仕送りができない
☐	13. た その他
☐	14. とく 特になし

***Q42.**
 かいごふくしし こんご はたら
 介護福祉士として今後も働いていきたいですか。（ひとつせんたく）

☐	1. げんざい しょくば かいご しごと つづ 現在の職場で、介護の仕事を続けたい
☐	2. ほか しょくば かいご しごと つづ 他の職場で、介護の仕事を続けたい
☐	3. かいごいがい しごと 介護以外の仕事をしたい ぐたいてき しごと 具体的にどんな仕事をしたいですか：

***Q43.**
 かいごいがい しごと りゆう おし ふくすうせんたく
 介護以外の仕事をしたい理由を教えてください。（複数せんたく）

☐	1. かいご しごと つか 介護の仕事を疲れたため
☐	2. ちんぎん やす 賃金が安いため
☐	3. しょくば そうだん ひと 職場に相談できる人がいないため
☐	4. きやりああっぷ きたい キャリアアップが期待できないため
☐	5. た その他

***Q44.**

今後どれくらい日本で生活をしたいですか。(ひとつ選択)

☐	1. 5年未満
☐	2. 5年以上10年未満
☐	3. 10年以上
☐	4. 永住したい
☐	5. まだ決めていない、わからない

***Q45-1.**

5年後は、日本でどのような仕事をしたいですか。(複数選択)

☐	1. 介護職として介護の技術や能力を高めたい
☐	2. 介護施設で、後輩の面倒を見たい
☐	3. 介護施設で、現場のリーダーになりたい
☐	4. 介護施設の施設長になりたい
☐	5. 介護の会社・学校を作りたい
☐	6. 介護の日本語を教えたい
☐	7. 日本でケアマネジャー等、介護に関連する他の仕事をしたい
☐	8. 介護以外の仕事をしたい
☐	9. その他

***Q45-2.**

5年後は、どこでどのような仕事をしたいですか。(複数選択)

☐	1. 母国で介護の仕事をしたい
☐	2. 母国で介護の会社・学校を作りたい
☐	3. 母国で日本語を教えたい
☐	4. 母国で介護以外の仕事をしたい
☐	5. 日本・母国以外の国で介護の仕事をしたい
☐	6. 日本・母国以外の国で介護の会社・学校を作りたい
☐	7. 日本・母国以外の国で日本語を教えたい
☐	8. 日本・母国以外の国で介護以外の仕事をしたい
☐	9. その他

***Q46-1.**

げんさい せいかつ くに せんたく
現在、あなたが生活している国はどこですか。（ひとつ選択）



＜選択肢＞

1. ベトナム(べとなむ)
2. インドネシア(いんどねしあ)
3. フィリピン(ふいりぴん)
4. ネパール(ねぱーる)
5. 中国(ちゅうごく)
6. ミャンマー(みゃんまー)
7. スリランカ(すりらんか)
8. 韓国(かんこく)
9. モンゴル(もんごる)
10. ブータン(ぶーたん)
11. インド(いんど)
12. 台湾(たいわん)
13. カンボジア(かんぼじあ)
14. バングラデシュ(ばんぐらでしゅ)
15. タイ(たい)
16. その他(そのた)

【16. その他（そのた）】を選択された場合は入力してください。

***Q46-2.**

げんざい かいご かか しごと しごとないよう おし せんたく
現在、介護に関わる仕事をしていますか。仕事内容について教えてください。（ひとつ選択）

☐	1. はい しごとないよう 仕事内容：
☐	2. いいえ しごとないよう 仕事内容：
☐	げんざい はたら 3. 現在は働いていない

***Q46-3.**

にほん はな りゆう おし
日本から離れた理由を教えてください。

しつもん いじょう お きょうりょく
質問は以上で終わります。ご協力ありがとうございました

さいご きにゅう かくにん
最後に記入もれがないかどうかの確認をしていただき、



くりっく
をクリックしてください。

<アンケート設問（回答対象者）>

項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
基本情報	1	全員	S	あなたの国籍・地域を教えてください。	ベトナム、インドネシア、フィリピン、ネパール、中国、ミャンマー、スリランカ、韓国、モンゴル、ブータン、インド、台湾、カンボジア、バングラデシュ、タイ、その他（ ）
基本情報	2	全員	S	あなたの現在の在留資格を教えてください。	1. 在留資格「介護」 2. 特定活動（EPA介護福祉士） 3. 技能実習 4. 特定技能 5. 永住者 6. 日本人の配偶者等 7. 定住者（日系人等） 8. その他（ ） 9. 国外（日本にはいない）
基本情報	3	全員	S	あなたの年齢を教えてください。（9月1日時点）	1. 18～19歳 2. 20～24歳 3. 25～29歳 4. 30～34歳 5. 35～39歳 6. 40～49歳 7. 50～59歳 8. 60歳以上
基本情報	4	全員	S	あなたの性別を教えてください。	1. 男性 2. 女性 3. その他
基本情報	5	設問2で1～8を選択した方	S	あなたが住んでいる都道府県を教えてください。	※47都道府県のプルダウン
基本情報	6	全員	S	現在、あなたは、日本語でどの程度会話ができますか。	1. 自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・相手の話している内容はほとんど理解することができる 2. 自分の言いたいことは半分程度相手に伝えることができる・相手の話している内容は半分程度理解することができる 3. 日常生活に困らない程度に会話はできるが、たまにわからない用語がある 4. 基本的な挨拶の会話はできる 5. 日本語での会話はほとんどできない
基本情報	7	全員	S	あなたは日本語の文章がどの程度読めますか。	1. 幅広い場面で使われる日本語を理解することができる（日本語能力試験（J L P T）N 1レベル相当 または それ以上） 2. 日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる（日本語能力試験（J L P T）N 2レベル相当） 3. 日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる（日本語能力試験（J L P T）N 3レベル相当） 4. 基本的な日本語を理解することができる（日本語能力試験（J L P T）N 4レベル相当） 5. 基本的な日本語をある程度理解することができる（日本語能力試験（J L P T）N 5レベル相当）
基本情報	8-1	全員	S	最初に来日した年はわかりますか。	1. わかる 2. わからない 3. 日本で生まれた
基本情報	8-2	設問8-1で1を選択	S	最初に来日した年を教えてください。（旅行は含みません）	1. プルダウン
基本情報	9	設問8-1で1or2を選択	S	最初に来日したときの在留資格を教えてください。	1. 留学 2. 特定活動（EPA介護福祉士候補者） 3. 技能実習 4. 特定技能 5. 定住者（日系人等） 6. 日本人の配偶者等 7. その他（ ）

項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
受験状況	10	全員	S	介護福祉士国家試験を受験したことがありますか。	1. ある 2. ない
受験状況	10-1-1	設問10で1を選択	S	これまで介護福祉士国家試験を何回受験したことがありますか。 (介護福祉士養成施設での卒業時共通試験による補講、再試験は含みません)	1. 1回 2. 2回 3. 3回 4. 4回 5. 5回 6. 6回以上 7. わからない
受験状況	10-1-2	設問10で1を選択	S	介護福祉士国家試験に合格していますか。	1. 合格している 2. 合格していない
受験状況	10-1-3	設問10-1-2で1を選択	S	介護福祉士国家試験に合格・登録した年を教えてください。	() 年
受験状況	10-1-4	設問10-1-2で1を選択	S	介護福祉士国家試験に合格したときの在留資格を教えてください。	1. 在留資格「介護」 2. 特定活動 (EPA介護福祉士候補者) 3. 技能実習 4. 特定技能 5. 留学 6. 永住者 7. 日本人の配偶者等 8. 定住者 (日系人等) 9. その他 ()
受験状況	10-1-5	設問10-1-2で1を選択	S	介護福祉士国家試験に合格・登録したとき、日本語でどの程度会話ができていましたか。	1. 自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・相手の話している内容はほとんど理解することができる 2. 自分の言いたいことは半分程度相手に伝えることができる・相手の話している内容は半分程度理解することができる 3. 日常生活に困らない程度に会話はできるが、たまにわからない用語がある 4. 基本的な挨拶の会話はできる 5. 日本語での会話はほとんどできない
基本情報	10-1-6	10-1-2で1を選択	S	介護福祉士国家試験に合格・登録したとき、日本語の文章がどの程度読みましたか。	1. 幅広い場面で使われる日本語を理解することができる (日本語能力試験 (J L P T) N 1レベル相当 または それ以上) 2. 日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる (日本語能力試験 (J L P T) N 2レベル相当) 3. 日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる (日本語能力試験 (J L P T) N 3レベル相当) 4. 基本的な日本語を理解することができる (日本語能力試験 (J L P T) N 4レベル相当) 5. 基本的な日本語をある程度理解することができる (日本語能力試験 (J L P T) N 5レベル相当)
受験状況	10-2-1	設問10で2 もしくは 設問10-1-2で2を選択	S	介護福祉士に登録した年を教えてください。	() 年
受験状況	10-2-2	設問10で2 もしくは 設問10-1-2で2を選択	S	介護福祉士に登録したときの在留資格を教えてください。	1. 留学 2. 特定活動 (EPA介護福祉士候補者) 3. 永住者 4. 日本人の配偶者等 5. 定住者 (日系人等) 6. その他 ()

項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
受験状況	10-2-3	設問10で2 もしくは 設問10-1-2で2を選択	S	介護福祉士に登録したとき、日本語でどの程度会話ができていましたか。	1. 自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・相手の話している内容はほとんど理解することができる 2. 自分の言いたいことは半分程度相手に伝えることができる・相手の話している内容は半分程度理解することができる 3. 日常生活に困らない程度に会話はできるが、たまにわからない用語がある 4. 基本的な挨拶の会話はできる 5. 日本語での会話はほとんどできない
受験状況	10-2-4	設問10で2 もしくは 設問10-1-2で2を選択	S	介護福祉士に登録したとき、日本語の文章がどの程度読みましたか。	1. 幅広い場面で使われる日本語を理解することができる (日本語能力試験 (J L P T) N 1レベル相当 または それ以上) 2. 日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる (日本語能力試験 (J L P T) N 2レベル相当) 3. 日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる (日本語能力試験 (J L P T) N 3レベル相当) 4. 基本的な日本語を理解することができる (日本語能力試験 (J L P T) N 4レベル相当) 5. 基本的な日本語をある程度理解することができる (日本語能力試験 (J L P T) N 5レベル相当)

項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
受験状況	10-2-5	設問10で2 もしくは 設問10-1-2で2を選択	S	今後、介護福祉士国家試験を受験する予定はありますか。	1. ある 2. ない
受験状況	10-2-6	設問10-2-5で2を選択	M	今後、介護福祉士国家試験を受験しない理由を教えてください。	1. 5年間就労すれば、受験しなくても介護福祉士として働くことができるから 2. 受験料がかかるから 3. 試験が難しく、合格する自信がないから 4. 仕事と勉強の両立が難しいから 5. 今後、介護の仕事をするつもりはないから 6. 今後、日本以外で働く予定だから 7. その他（ ）
在留資格の 変更	11	全員	M	介護福祉士の受験または登録のきっかけを教えてください。	1. 専門職として介護の知識・技術を得るため 2. 専門職として認めてもらうため 3. 資格を取得することで、給料が上がるため 4. 学校を卒業したら資格が取れたため 5. 日本で介護職として働き続けるため 6. 日本での就職・転職に有利なため 7. 日本に長く住み続けたいため 8. 将来、出身の国・地域で介護の仕事をしたいため 9. その他（ ） 10. 特になし
現在（2023年9月1日時点）の状況について、教えてください。					
生活状況	12	全員	S	結婚していますか。 ※9月1日時点	1. はい 2. いいえ（結婚の予定がある） 3. いいえ（結婚の予定はない）
生活状況	13-1	設問12で1を選択	S	配偶者の国籍を教えてください。	1. 自分と同じ国籍（母国） 2. 日本 3. 日本と母国以外の国
生活状況	13-2	設問12で1を選択	S	配偶者は現在どこに住んでいますか。	1. 日本 2. 母国 3. 日本と母国以外の国
生活状況	13-3	設問13-1で1or3を選択 且つ 設問13-2で1を選択	S	配偶者の在留資格を教えてください。	1. 在留資格「介護」 2. 特定活動（EPA介護福祉士/EPA介護福祉士候補者） 3. 技能実習 4. 特定技能 5. 技術・人文知識・国際業務 6. 留学 7. 家族滞在 8. その他（ ）
生活状況	14	全員	S	子どもはいますか。	1. はい 2. いいえ（現在、妊娠中である） 3. いいえ（現在のところ予定はない）
生活状況	15-1	設問14で1を選択	M	子どもは現在、どこに住んでいますか。 ※いない場合は0と入力してください。	1. 日本（ ）人 2. 母国（ ）人 3. 日本と母国以外の国（ ）人

項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
生活状況	15-2	設問2で1～8を選択 且つ 設問12で1を選択 且つ 設問13-2で2or3を選択 もしくは 設問2で1～8を選択 且つ 設問14で1を選択 且つ 設問15-1で母国に子どもが1人以上 もしくは 設問2で1～8を選択 且つ 設問14で1を選択 且つ 設問15-1で日本・母国以外に子どもが1人以上	S	家族を日本に呼んで一緒に生活したいですか。	1. はい 2. いいえ 3. わからない
生活状況	15-3	設問2で1～8を選択 且つ 設問15-2で1を選択	M	家族を呼べない理由は何ですか。	1. 経済的に生活できるか不安なため 2. 家族が日本の生活に馴染めるか不安なため 3. 子どもの就学（教育）に不安があるため 4. 家族が母国で生活したいと言っているため 5. その他（ ）
生活状況	16	設問2で1～8を選択	M	現在、誰かと一緒に生活していますか。	1. 友人や職場の同僚 2. 配偶者、パートナー 3. 子ども 4. 親 5. 兄弟姉妹 6. その他の親族 7. その他（ ） 8. 一緒に住んでいる人はいない

項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
生活状況	17	設問2で1～8を選択	S	現在の住まいについて教えてください。	1. 民間のアパートや賃貸マンション 2. 職場が契約したアパートやマンション 3. 持ち家（マンション含む） 4. その他（ ）
生活状況	18	設問2で1～8を選択	M	現在の住まいを選んだ理由を教えてください。	1. 職場に近いから 2. 近くにスーパーなどがあり、生活しやすいから 3. 駅から近いなど、移動に便利だから 4. 家賃が安いから 5. 友人や知人が近くに住んでいるから 6. 職場に勤められたから 7. 不動産屋に勤められたから 8. その他（ ）
就労状況	19	設問2で1～8を選択	S	あなたは現在介護職として、収入を伴う仕事をしていますか。	1. 介護職として、働いている 2. 介護職ではないが、福祉の仕事をしている 3. 1,2以外の仕事をしている 4. 仕事をしていない
就労状況	20-1-1	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～3を選択	S	現在の雇用形態を教えてください。	1. 正社員 2. 契約社員／嘱託社員 3. パートタイマー 4. アルバイト 5. 派遣
就労状況	20-1-2	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～3を選択	S	現在あなたが働いている都道府県を教えてください。	都道府県
就労状況	20-1-3	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～2を選択	S	現在働いている職場の法人格を教えてください。	1. 社会福祉法人 2. 医療法人 3. 社団法人・財団法人 4. 営利法人（株式会社・有限会社等） 5. NPO法人 6. その他（ ）
就労状況	20-1-4	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～2を選択	S	現在働いている職場の分野を教えてください。	1. 高齢者福祉分野 2. 障害（児）者福祉分野 3. 児童福祉分野 4. 生活保護分野 5. 医療分野 6. 福祉・介護教育分野 7. その他（ ）

項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
就労状況	20-1-5	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～2を選択	S	現在働いている施設の主な事業内容（サービス種別）を教えてください。	<高齢者福祉分野> 1. 訪問介護 2. 訪問入浴介護 3. 通所介護 4. 通所リハビリテーション 5. 短期入所生活介護 6. 短期入所療養介護 7. 特定施設入居者生活介護 8. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 9. 夜間対応型訪問介護 10. 地域密着型通所介護 11. 認知症対応型通所介護 12. 小規模多機能型居宅介護 13. 認知症対応型共同生活介護 14. 地域密着型特定施設入居者生活介護 15. 地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護 16. 看護小規模多機能型居宅介護 17. 居宅介護支援事業所 18. 介護老人福祉施設 19. 介護老人保健施設 20. 介護医療院、介護療養型医療施設 21. その他高齢者福祉関係（ ） <障害（児）者福祉分野> 1. 障害者支援施設 2. 訪問サービス事業所（居宅介護 等） 3. 障害児入所施設 4. その他の障害者・障害児福祉関係（ ） <医療分野> 1. 病院・診療所 2. その他の医療関係（ ） <その他> 1. 救護施設 2. 更生施設 3. 原子爆弾被爆者し説・事業所 4. ハンセン病療養所 5. 家政婦紹介所 6. 行政機関（都道府県庁、市役所等） 7. その他（ ）

項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
就労状況	20-1-6	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で3を選択	S	現在の主な仕事はどれに当てはまりますか。	1. 通訳 2. 語学の講師（日本語、母語等） 3. 翻訳 4. 送り出し機関、監理団体、登録支援機関等の職員 5. 飲食・サービス 6. その他（ ）
就労状況	20-2-1	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で4を選択	M	仕事をしていない理由を教えてください。	1. 求職活動中 2. 職業訓練等を受講している 3. 心身の健康状態の不調 4. 出産・子育て 5. 家族等の介護・看護 6. 働く必要がない 7. その他（ ）
就労状況	20-2-2	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で2～3を選択	S	あなたは今後、介護職として働きたいと思いますか。	1. 是非働きたい 2. 条件があれば働きたい 3. 働きたくない 4. わからない
就労状況	21	設問2で1～8を選択 且つ 設問8-1で1～2を選択	M	来日前に、保有していた福祉・介護関係の資格・または、学んだことについて教えてください。	1. 介護の勉強をした・介護の学校を卒業した 2. 介護の資格を持っている 3. 看護の勉強をした・看護の学校を卒業した 4. 看護の資格を持っている 5. その他（ ） 6. 特になし
現在、「介護職として働いている」・「介護職ではないが福祉の仕事している」と回答した場合					
職場状況	22	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～3を選択	S	現在働いている職場（施設・事業所等）の従業員数を教えてください。 ※法人全体ではありません	1. 1～10人 2. 11～30人 3. 31～50人 4. 51～100人 5. 101人以上 6. わからない
職場状況	23	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～2を選択	S	現在働いている職場（法人）には、他の施設や事業所はありますか。	1. はい 2. いいえ、今働いている施設・事業所のみ 3. わからない
職場状況	24	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～2を選択	S/N	職場（施設・事業所）内に、あなた以外に外国人職員はいますか。	1. はい、私以外に（ ）人います 2. はい、ただし、人数はわかりません 3. いいえ 4. わからない
職場状況	25	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～3を選択	S/N	職場（法人）内に、あなた以外に外国人職員はいますか。	1. はい、私以外に（ ）人います 2. はい、ただし、人数はわかりません 3. いいえ 4. わからない
職場状況	26	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～3を選択	S	現在の職場で働き始めた年を教えてください。 ※法人内で異動があった場合は、就職した年を答えてください。	（ ）年

項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
職場状況	27	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～3を選択	M	現在の職場を選んだ理由について、3つまで選んでください。	1. 休みが取りやすい職場のため 2. 宗教の配慮があるため 3. 外国人スタッフが働いており、働きやすそうと思ったため 4. 賃金が高かったため 5. 日本語習得のサポートがあったため 6. 介護技術習得のサポートがあったため 7. 介護福祉士国家試験の学習に関するサポートがあったため 8. 資格取得の補助がでるため 9. 家から職場が近かったため 10. 家賃補助など住まいに関するサポートがあったため 11. 結婚・出産など家族に対するサポートがあったため 12. 現在の職場がある地域が好きのため 13. その他（ ） 14. 特に理由はない
職場状況	28	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～3を選択	S	職場までの交通手段を教えてください。	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自動車 4. 電車やバス＋徒歩や自転車 5. その他（ ）
あなたの状況	29	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1を選択	S	現在の職場でのあなたの立場を教えてください。	1. 施設長・副施設長 2. 介護部の長 3. フロアのリーダー 4. ユニットや小チームのリーダー 5. 1～4以外の職員 6. 事務職員 7. その他（ ）

項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
あなたの状況	30	設問2で1～8を選択	M	現在、保有している資格を教えてください。(日本国内で認められている資格)	1. 社会福祉士 2. 精神保健福祉士 3. 介護福祉士実習指導者 4. 介護支援専門員(ケアマネジャー) 5. 訪問介護員(ホームヘルパー) 6. 看護師・准看護師 7. 相談支援専門員 8. 保育士 9. 特になし
あなたの状況	31	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～2を選択	S	「介護福祉士」の資格手当を支給されていますか。	1. 資格手当をもらっている 2. 現在はもらっていないが、過去にもらっていた 3. 資格手当はもらっていない
あなたの状況	32	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～3を選択	S	あなたの2022年の1年間の収入を教えてください ※収入は、あなたが実際に受け取る金額ではなく、税金、社会保険料、借入料などが引かれる前の金額で回答してください。 ※1か月分の収入しか分からない場合は、それを12倍してください。 ※また、ボーナスがある場合はそれも加えた金額としてください。	1. 200万円未満 2. 200万円以上300万円未満 3. 300万円以上400万円未満 4. 400万円以上500万円未満 5. 500万円以上700万円未満 6. 700万円以上1000万円未満 7. 1000万円以上 8. 答えたくない
あなたの状況	33-1	設問2で1～8を選択	S	あなたの収入から、母国の家族などへの仕送り(送金)をしていますか。	1. 毎月している 2. 時々している 3. していない 4. 家族は日本にいる
あなたの状況	33-2	設問33-1で1～2を選択	S	1回あたり平均していくら仕送り(送金)をしていますか。 ※日本円で回答してください。	1. 5万円未満 2. 5万円以上10万円未満 3. 10万円以上15万円未満 4. 15万円以上
あなたの状況	34-1	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～3を選択	S	あなたは現在の職場に満足していますか。	1. はい 2. いいえ
あなたの状況	34-2	設問34-1で1を選択	M	満足している理由として、最も当てはまる上位3つを選んでください。	1. 給料が良い 2. 休みがとやすい 3. 困ったときに相談できる人がいる 4. 職場の人間関係が良い 5. 宗教への配慮や理解がある 6. 家賃補助など生活面での支援がある 7. 家族への支援がある 8. 技術・能力を高める研修・支援がある 9. その他()
あなたの状況	34-3	設問34-1で2を選択	M	満足していない理由として、最も当てはまる上位3つを選んでください。	1. 給料が低い 2. 仕事の量が多い 3. 残業時間が長い 4. 残業時間が少ない 5. 休みがとりにくい 6. 困ったときに相談できる人がいない 7. 職場の人間関係が悪い 8. 新しいことを学ぶ環境にない 9. 宗教上の配慮をしていない 10. キャリアパスが不明確 11. その他()

項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
モチベーション	35	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1を選択	M	介護福祉士として働く上でのモチベーションを教えてください。	1. 介護の仕事は楽しい・面白い 2. 介護の仕事はやりがいがある 3. 将来、自分の家族の介護をするときに役に立つ 4. 人と接することが好き 5. 利用者に喜んでもらうこと 6. 他の外国人介護人材に指導・助言すること 7. 介護現場をリーダーとしてまとめること 8. 施設の運営等の管理を行うこと 9. 給料を得ること 10. 母国にいる家族に仕送りができること 11. その他()
あなたの状況	36	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～2を選択	M	仕事で困っていることはありますか。	1. 仕事の量が多い 2. 残業時間が長い 3. 残業時間が少ない 4. 希望の休みがとりにくい 5. 貯金ができない 6. 日本人職員に苦手な人がいる 7. 外国人職員(自分と同国籍も含む)に苦手な人がいる 8. 利用者とうまくコミュニケーションがとれない 9. 申し送りなど、職員とのコミュニケーションに不安を感じる 10. 日本語が上達しない 11. 新しいことを学ぶ環境にない 12. 宗教上の配慮をしていない 13. 法人からの奨学金の関係で5年間転職ができない 14. その他() 15. 特になし

項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
これまでの就労先の状況について					
就労先の変遷	37	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～3を選択	N	これまでに、いくつの職場で働いたことがありますか。 ※今の職場も含めてください。 ※アルバイトは含みません	() 箇所
就労先の変遷	38	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1～3を選択	N	そのうち、介護職として働いたところはいくつありますか。	() 箇所
就労先の変遷	39-1	設問37で2以上を選択	M	これまでの就労先を退職した理由について、上位3つまで教えてください。	1. 人間関係がよくなかったため 2. 賃金が低かったため 3. 残業が多かったため 4. 体力的に続けるのが難しかったため 5. 日本語の学習支援や、国家試験合格のためのサポートがなかったため 6. 外国人と日本人で扱いが異なったため 7. 希望する仕事ができなかったため 8. 職場がある場所が生活に不便だったため 9. 介護の仕事に魅力を感じなくなったため 10. 家事や育児に専念するため 11. 家族の都合による転居のため 12. 自分または家族の病気によるため 13. 解雇された、もしくは退職勧奨されたため 14. その他 ()
就労先の変遷	39-2	設問37で2以上を選択	M/F	再就職するときに、誰かに相談しましたか。	1. 同国出身の知人や友人に相談した 2. 同じ国以外の外国籍の知人や友人に相談した 3. 養成校の教員に相談した 4. 日本人の知人や友人に相談した 5. 家族に相談した 6. ハローワークや外国人介護人材センターなどの相談窓口相談した 7. 自治体の相談窓口相談した 8. その他 () 9. 誰にも相談していない
就労先の変遷	39-3	設問37で2以上を選択	M	再就職するときに、仕事を探すために何を使いましたか。	1. インターネットの求人サイト、就職関連サイト 2. 求人情報誌やチラシなど 3. インスタグラムやフェイスブック 4. 友人や知人の口コミ 5. その他 () 6. 特になし
	39-4	設問37で2以上を選択	F	再就職するときに欲しかった支援	
必要な支援	40	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1を選択	M	介護福祉士として今後も働く上で必要な支援を3つまで選んでください。	1. 介護の知識・技能の取得のための支援 2. 介護現場で用いる日本語習得のための支援 3. 介護記録で用いる日本語習得のための支援 4. 日本での生活（食生活や住居の確保等）に関する支援 5. 定期的な面談による困りごとや悩みの把握 6. 母語による相談対応 7. 一時帰国・休暇取得への配慮 8. 信仰上の配慮 9. 地域の日本人との交流支援 10. 地域の外国人との交流支援 11. 同居する家族に対する支援 12. その他 () 13. 特になし

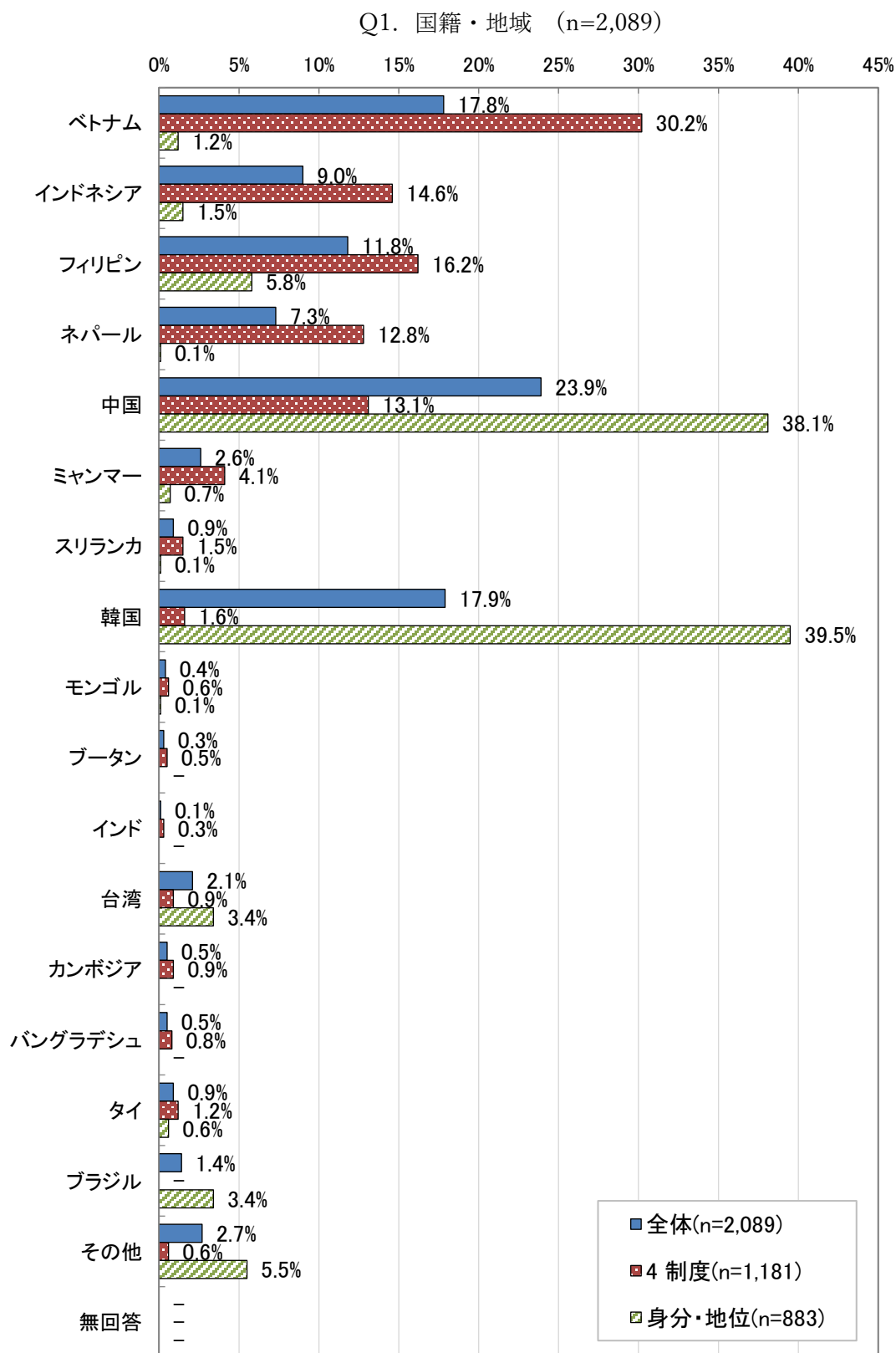
項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
これまでの就労先の状況について					
課題	41	設問2で1～8を選択	M	生活で困っていることはありますか。3つまで選んでください。	1. 地域の日本人と関係が悪い（開わりがない） 2. 地域の外国人（自分と同国籍も含む）と関係が悪い（開わりがない） 3. 職場までの通勤時間が長い 4. 家の環境が良くない、住んでいる場所が不便 5. 日本の生活習慣に慣れない 6. 信仰のうえで不便がある 7. 食べ物が美味しくない 8. 年金など日本の社会保障がわからない 9. 家族滞在で配偶者に28時間の就労制限がある 10. 日本の物価が高く生活費がかかる 11. 家賃が高い 12. 家族に十分な仕送りができない 13. その他 () 14. 特になし

項目1	設問No	回答者	S/M/N/F	設問	選択肢
これまでの就労先の状況について					
将来	42	設問2で1～8を選択 且つ 設問19で1を選択	S	介護福祉士として今後も働いていきたいですか。	1. 現在の職場で、介護の仕事を続けたい 2. 他の職場で、介護の仕事を続けたい 3. 介護以外の仕事をしたい（具体的にどんな仕事をしたいですか：）
将来	43	設問42で3を選択	M	介護以外の仕事をしたい理由を教えてください。	1. 介護の仕事に疲れたため 2. 賃金が安い 3. 職場に相談できる人がいないため 4. キャリアアップが期待できないため 5. その他（ ）
将来	44	設問2で1～4or8を選択	S	今後どれくらい日本で生活をしたいですか。	1. 5年未満 2. 5年以上10年未満 3. 10年以上 4. 永住したい 5. まだ決めていない、わからない
将来	45-1	設問44で2～4を選択	M	5年後は、日本でどのような仕事をしたいですか。	1. 介護職として介護の技術や能力を高めたい 2. 介護施設で、後輩の面倒を見たい 3. 介護施設で、現場のリーダーになりたい 4. 介護施設の施設員になりたい 5. 介護の会社・学校を作りたい 6. 介護の日本語を教えたい 7. 日本でケアマネジャー等、介護に関連する他の仕事をしたい 8. 介護以外の仕事をしたい（ ） 9. その他（ ）
将来	45-2	設問44で1を選択	M	5年後は、どこでどのような仕事をしたいですか。	1. 母国で介護の仕事をしたい 2. 母国で介護の会社・学校を作りたい 3. 母国で日本語を教えたい 4. 母国で介護以外の仕事をしたい（ ） 5. 日本・母国以外の国で介護の仕事をしたい 6. 日本・母国以外の国で介護の会社・学校を作りたい 7. 日本・母国以外の国で日本語を教えたい 8. 日本・母国以外の国で介護以外の仕事をしたい（ ） 9. その他（ ）
現在、「日本国外」に在住の場合					
現在	46-1	設問2で9を選択	S	現在、生活している国はどこですか。	ベトナム、インドネシア、フィリピン、ネパール、中国、ミャンマー、スリランカ、韓国、モンゴル、ブータン、インド、台湾、カンボジア、バングラデシュ、タイ、その他（ ）
現在	46-2	設問2で9を選択	S/F	現在、介護に関わる仕事をしていますか。仕事内容について教えてください。	1. はい 仕事内容（ ） 2. いいえ 仕事内容（ ） 3. 現在は働いていない
現在	46-3	設問2で9を選択	F	日本から離れた理由を教えてください。	

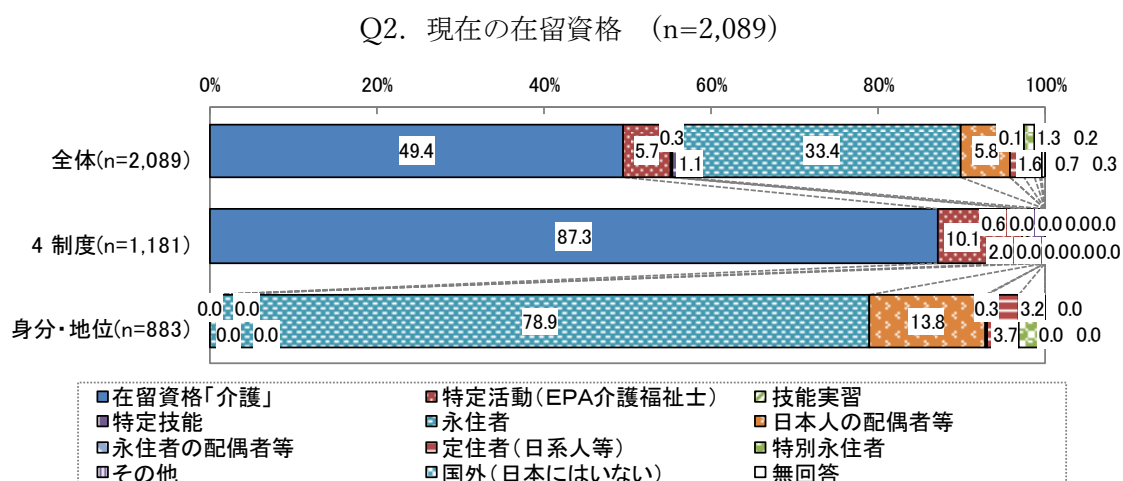
3 アンケート調査結果

<単純集計表 介護職の絞込無し>

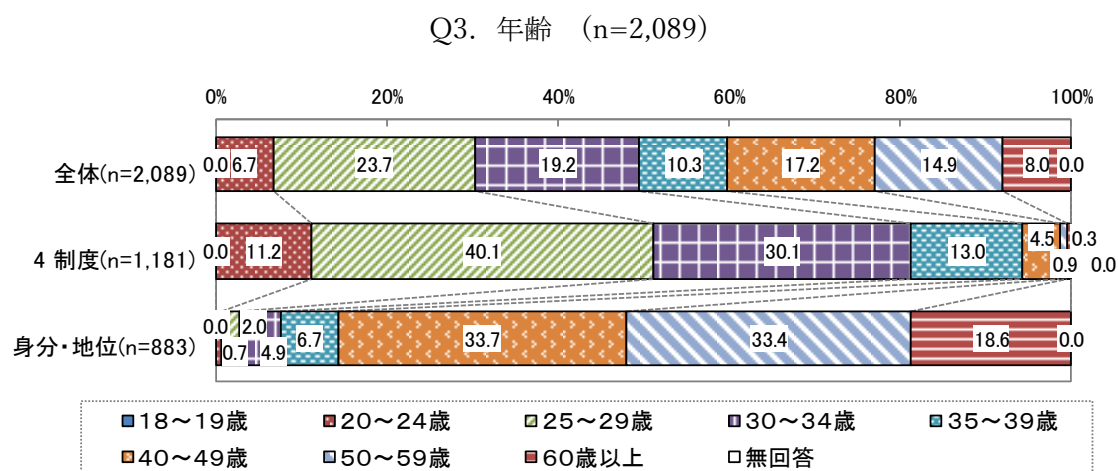
(1) Q1. 国籍・地域



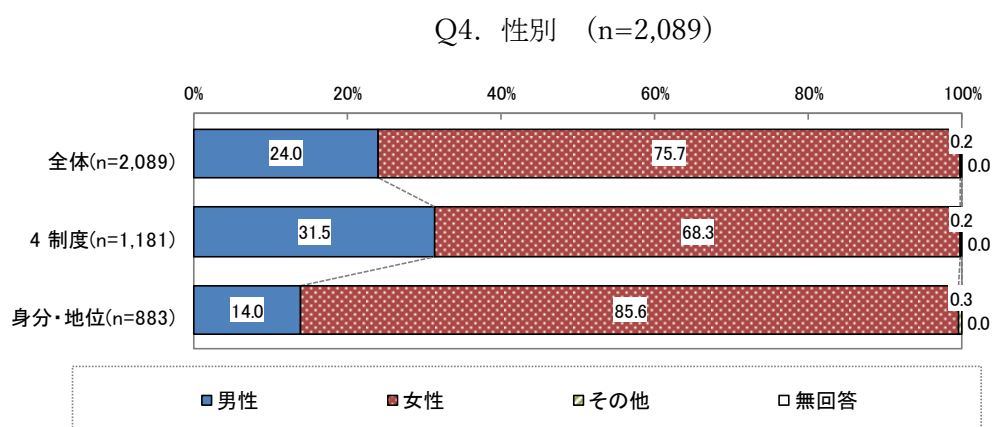
(2) Q2. 現在の在留資格



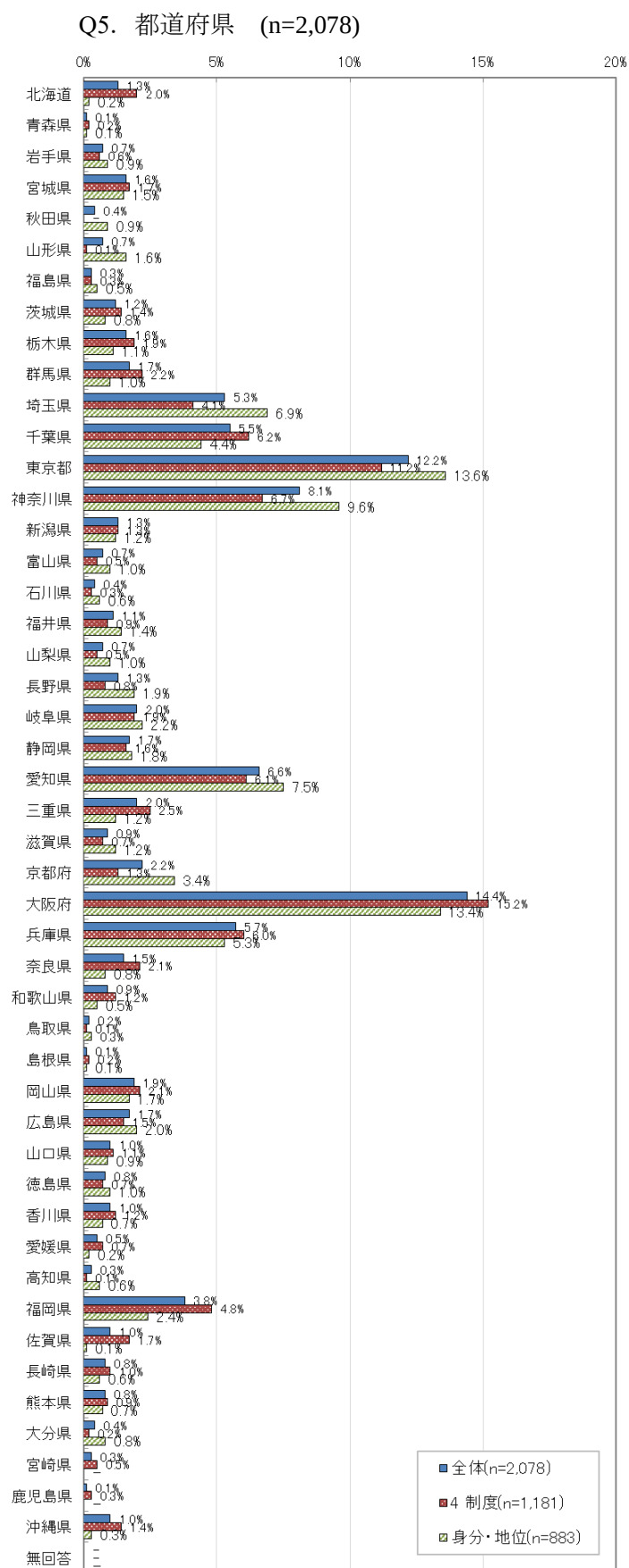
(3) Q3. 年齢 (2023 年 9 月 1 日時点)



(4) Q4. 性別

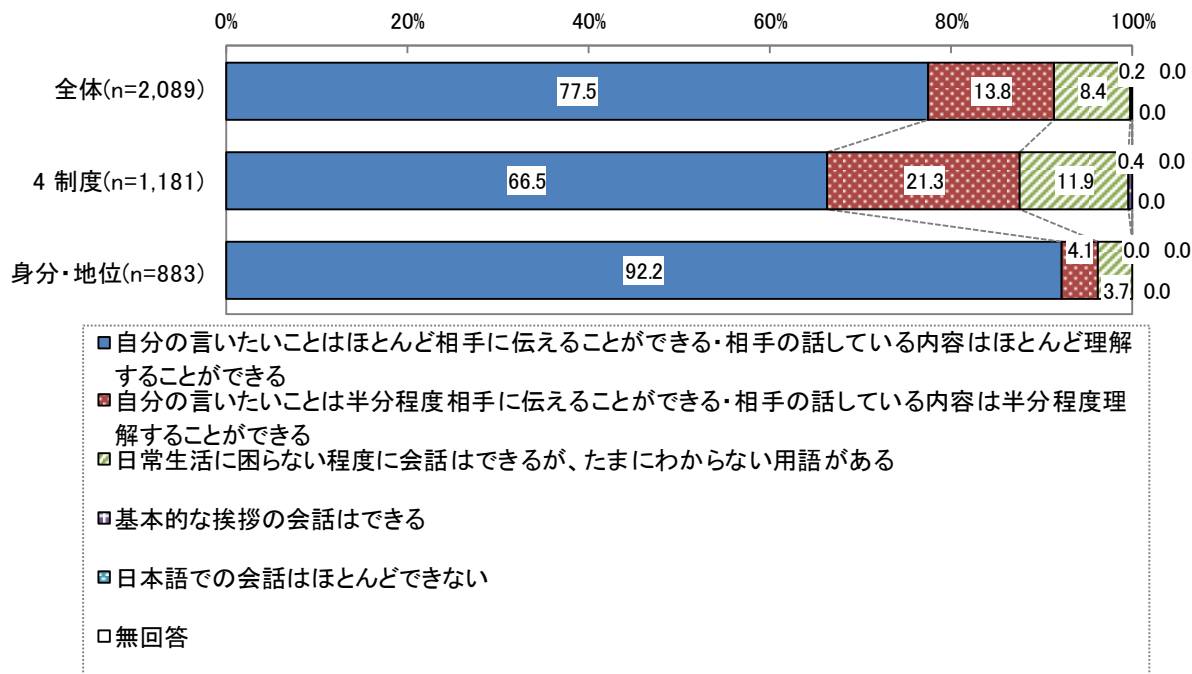


(5) Q5. 都道府県



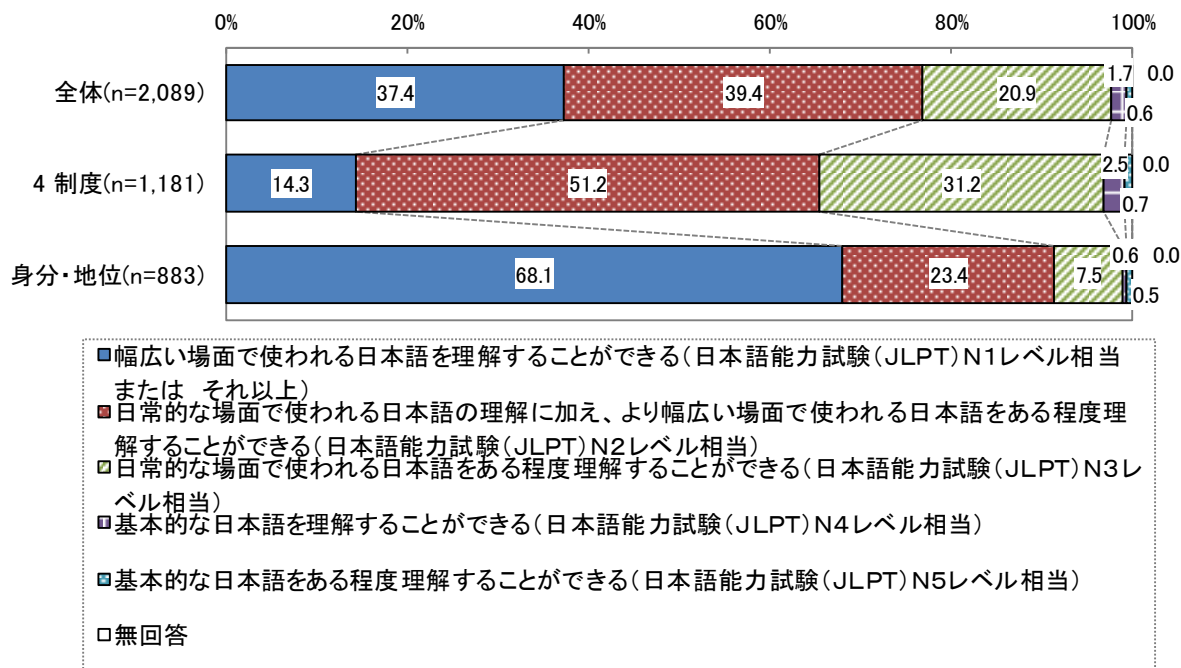
(6) Q6. 現在の日本語での会話力

Q6. 現在の日本語での会話力 (n=2,089)



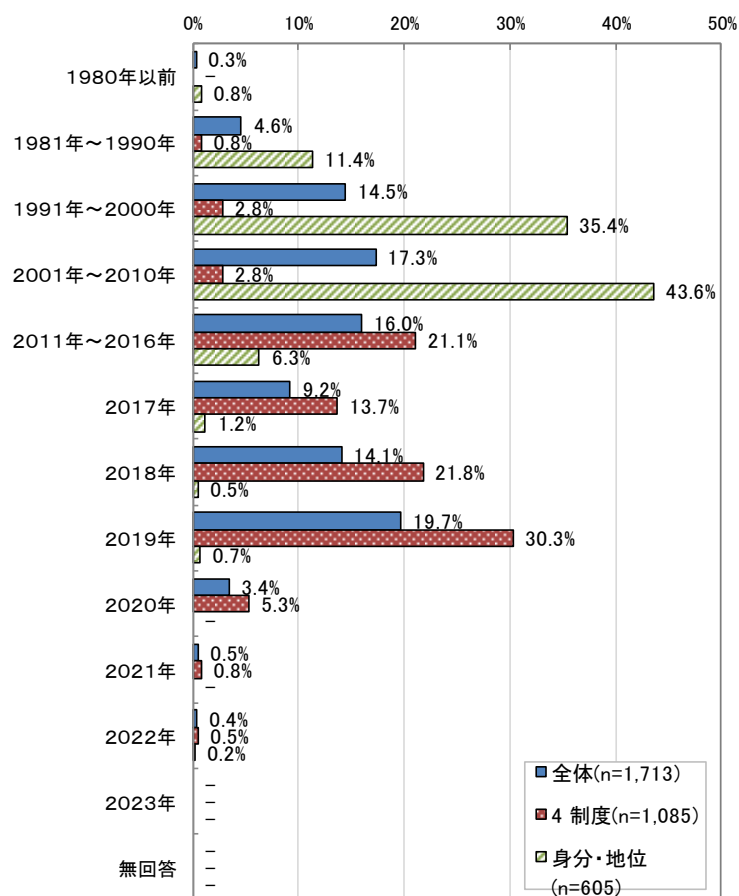
(7) Q7. 現在の日本語の文章力

Q7. 現在の日本語の文章力 (n=2,089)



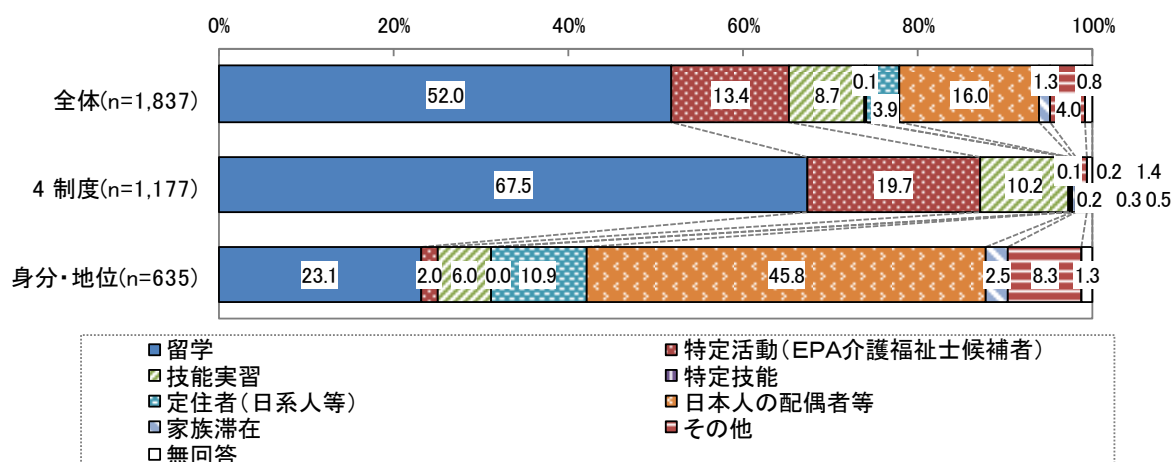
(8) Q8. 最初に来日した年

Q8. 最初に来日した年 (n=1,713)



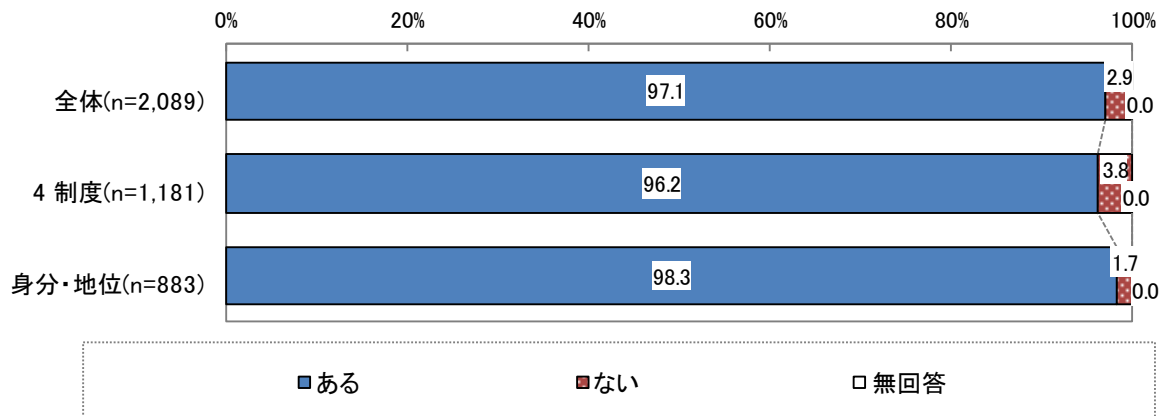
(9) Q9. 最初に来日したときの在留資格

Q9. 最初に来日したときの在留資格 (n=1,837)



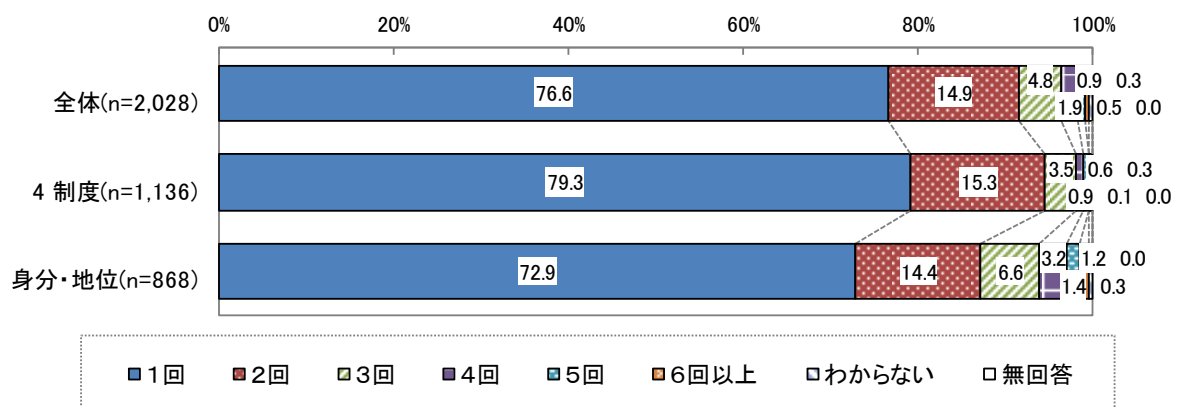
(10) Q10. (介護福祉士国家試験) 受験有無

Q10. 受験有無 (n=2,089)



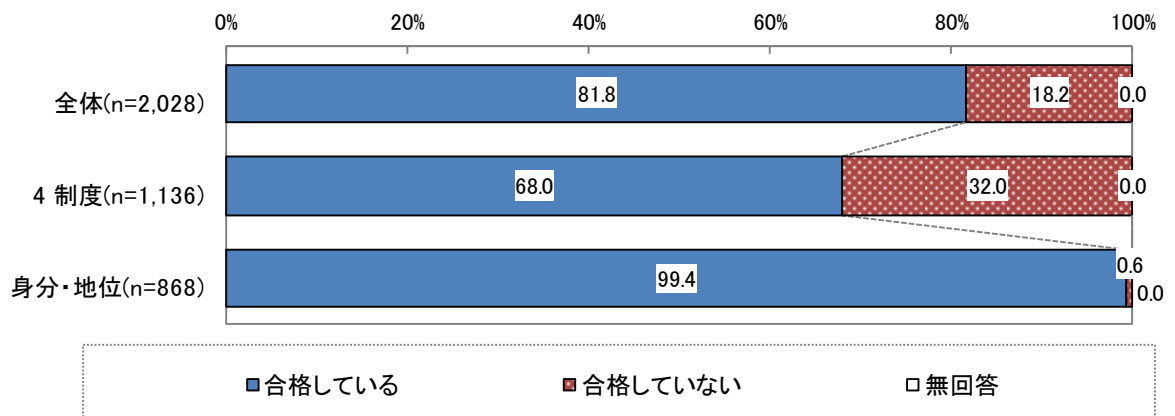
(11) Q10-1-1. (介護福祉士国家試験) 受験回数

Q10-1-1. 受験回数 (n=2,028)



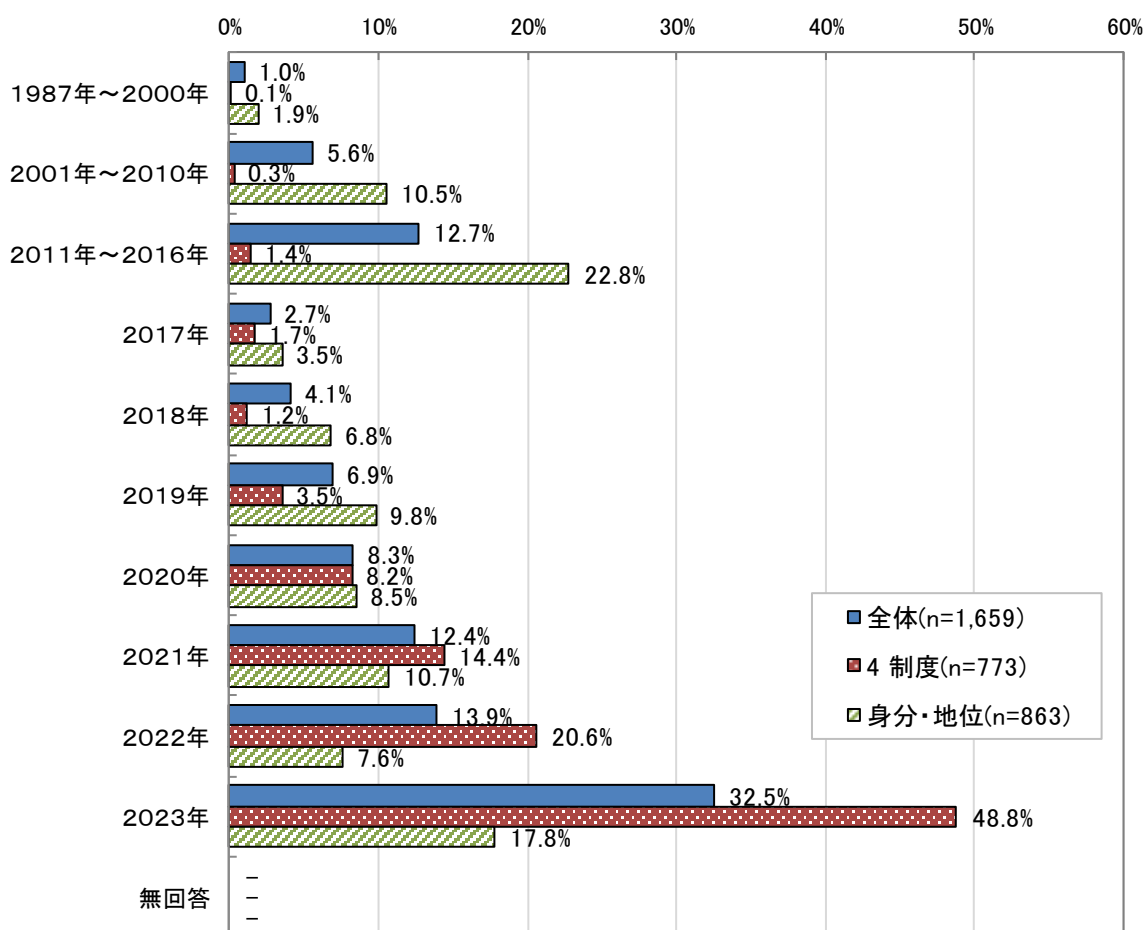
(12) (介護福祉士国家試験) Q10-1-2. 合格有無

Q10-1-2. 合格有無 (n=2,028)



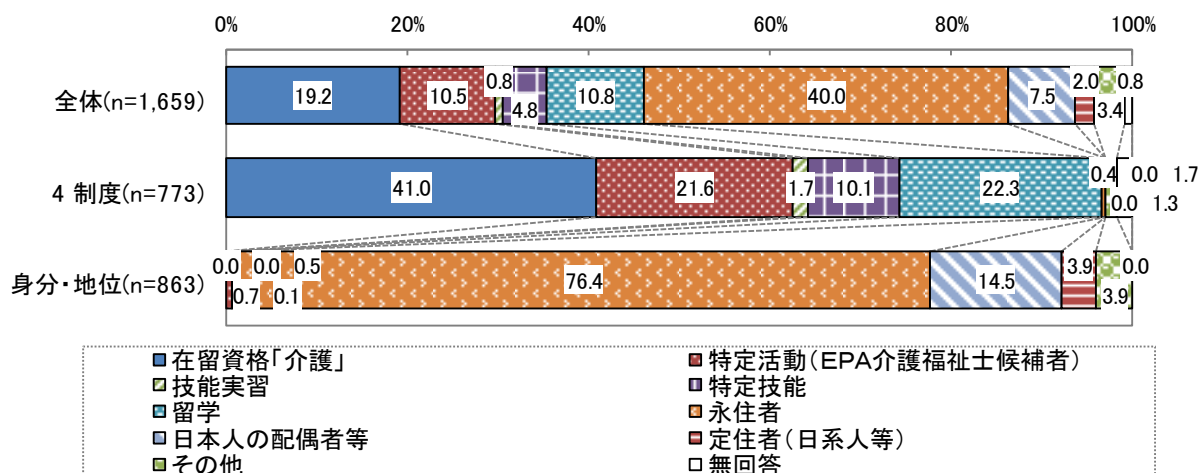
(13) Q10-1-3. 【合格者】合格・登録した年

Q10-1-3. 【合格者】合格・登録した年 (n=1,659)



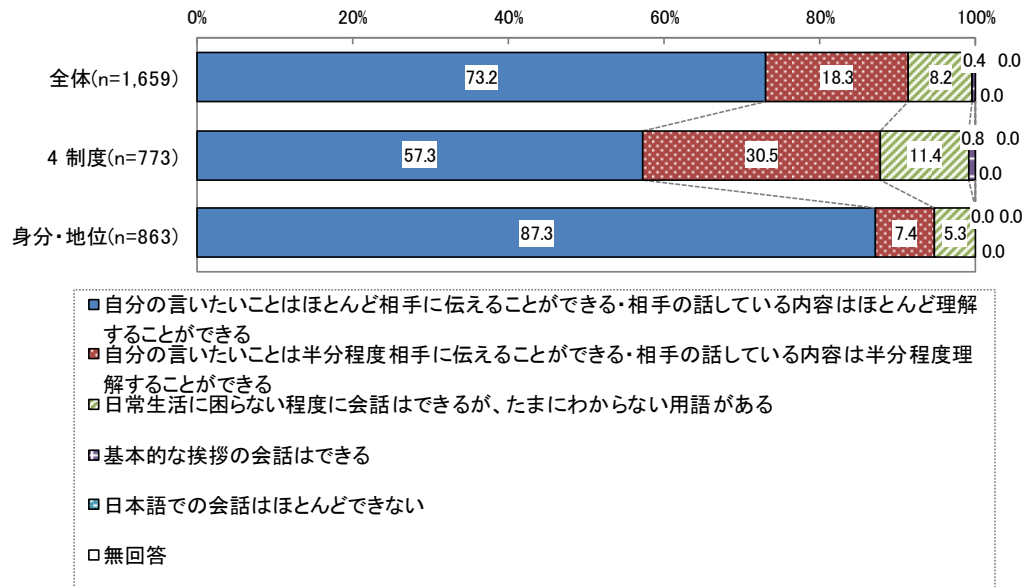
(14) Q10-1-4. 【合格者】合格時の在留資格

Q10-1-4. 【合格者】合格時の在留資格 (n=1,659)



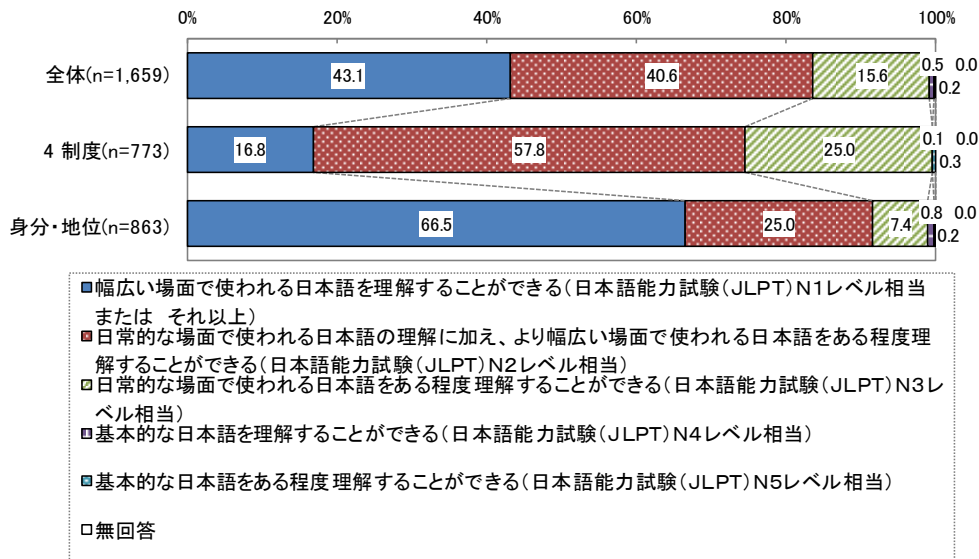
(15) Q10-1-5. 【合格者】合格・登録時の日本語での会話力

Q10-1-5. 【合格者】合格・登録時の日本語での会話力 (n=1,659)



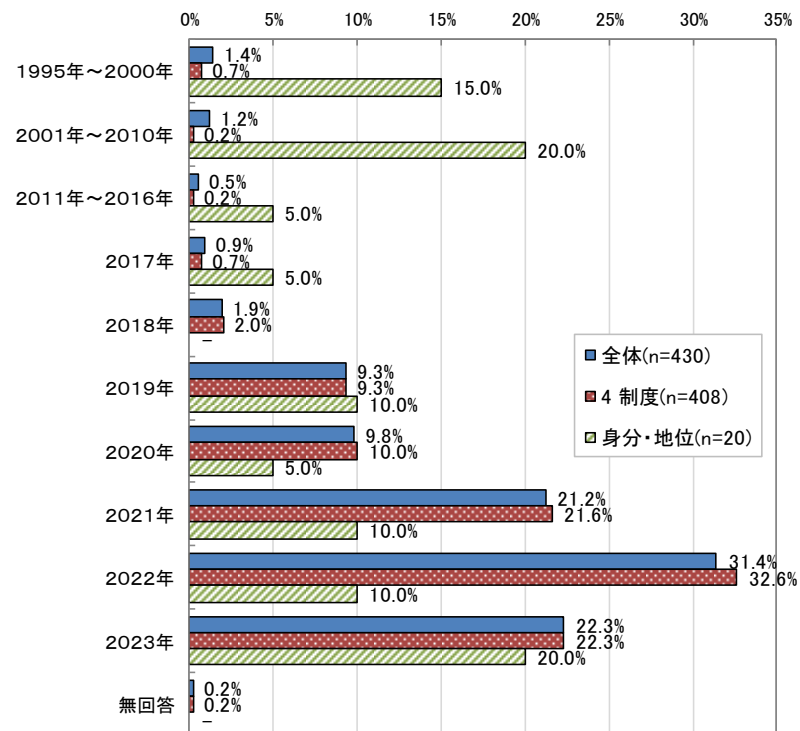
(16) Q10-1-6. 【合格者】合格・登録時の日本語の文章力

Q10-1-6. 【合格者】合格・登録時の日本語の文章力 (n=1,659)



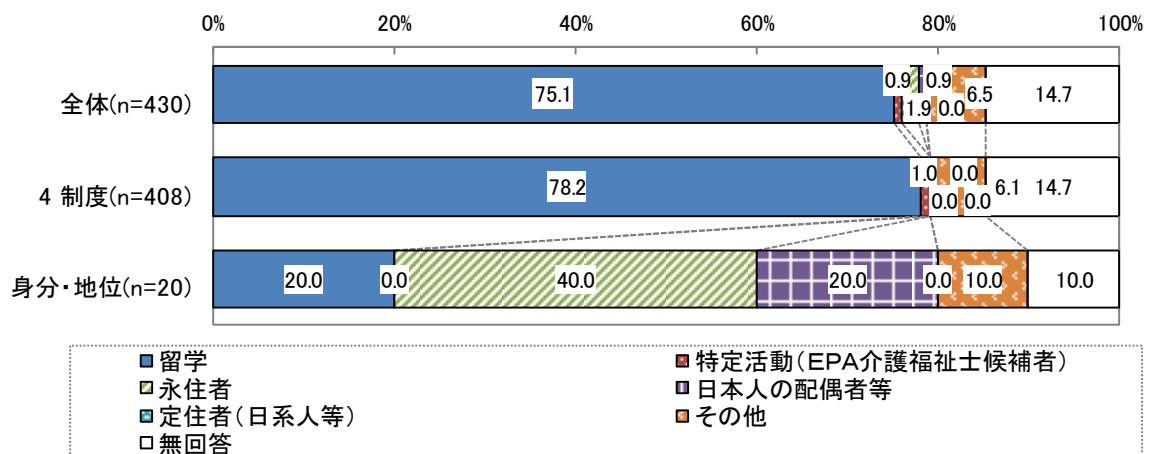
(17) Q10-2-1. 【未受験・不合格者】登録年

Q10-2-1. 【未受験・不合格者】登録年 (n=430)



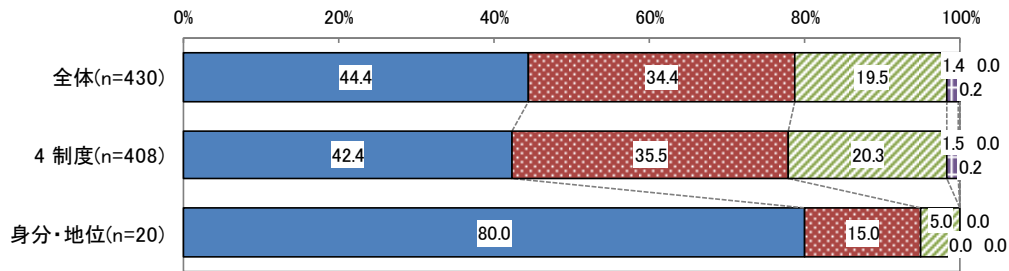
(18) Q10-2-2. 【未受験・不合格者】登録時の在留資格

Q10-2-2. 【未受験・不合格者】登録時の在留資格 (n=430)



(19) Q10-2-3. 【未受験・不合格者】登録時の日本語での会話力

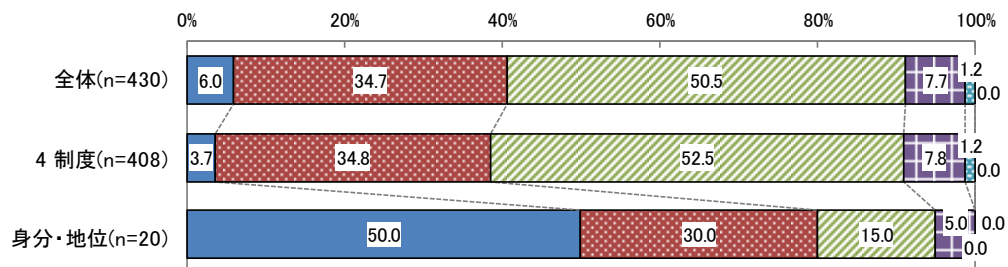
Q10-2-3. 【未受験・不合格者】登録時の日本語での会話力 (n=430)



- 自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・相手の話している内容はほとんど理解することができる
- 自分の言いたいことは半分程度相手に伝えることができる・相手の話している内容は半分程度理解することができる
- 日常生活に困らない程度に会話はできるが、たまにわからない用語がある
- 基本的な挨拶の会話はできる
- 日本語での会話はほとんどできない
- 無回答

(20) Q10-2-4. 【未受験・不合格者】登録時の日本語の文章力

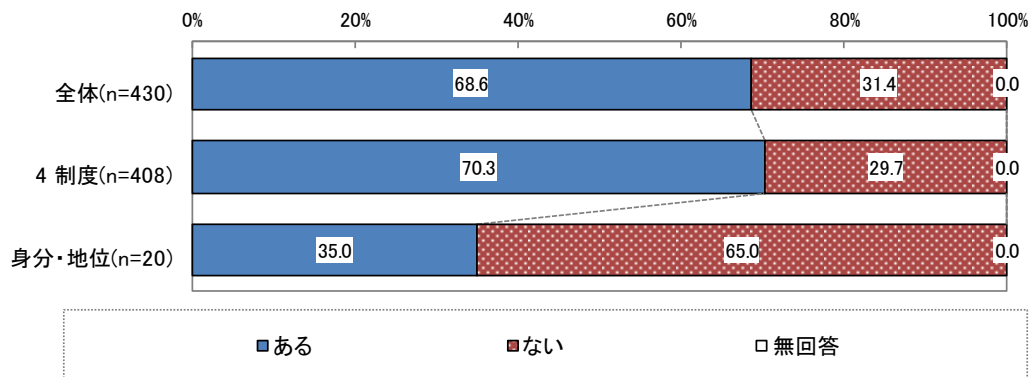
Q10-2-4. 【未受験・不合格者】登録時の日本語の文章力 (n=430)



- 幅広い場面で使われる日本語を理解することができる(日本語能力試験(JLPT)N1レベル相当またはそれ以上)
- 日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる(日本語能力試験(JLPT)N2レベル相当)
- 日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる(日本語能力試験(JLPT)N3レベル相当)
- 基本的な日本語を理解することができる(日本語能力試験(JLPT)N4レベル相当)
- 基本的な日本語をある程度理解することができる(日本語能力試験(JLPT)N5レベル相当)
- 無回答

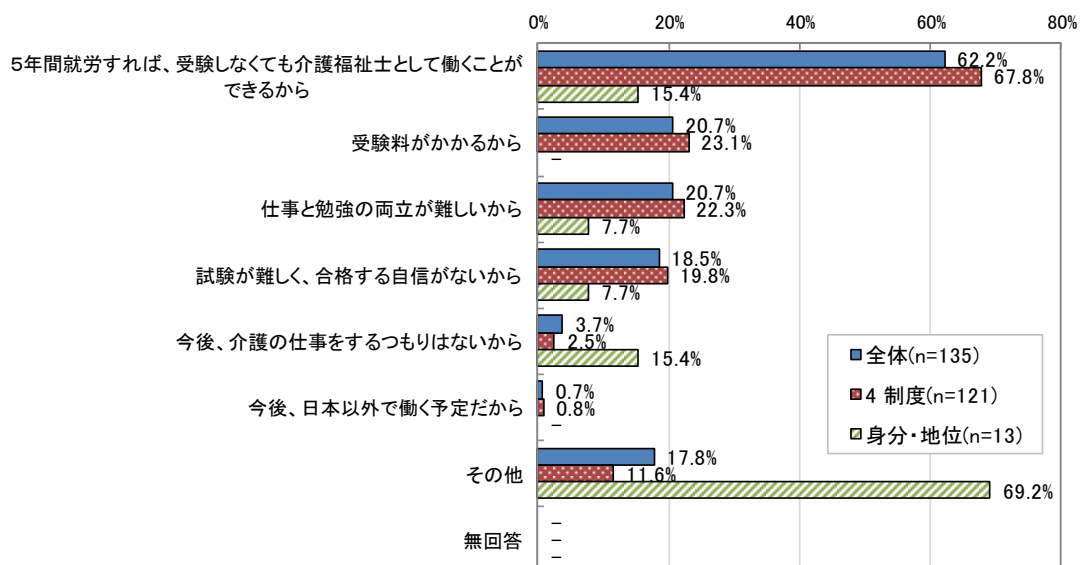
(21) Q10-2-5. 【未受験・不合格者】今後の受験予定

Q10-2-5. 【未受験・不合格者】今後の受験予定 (n=430)



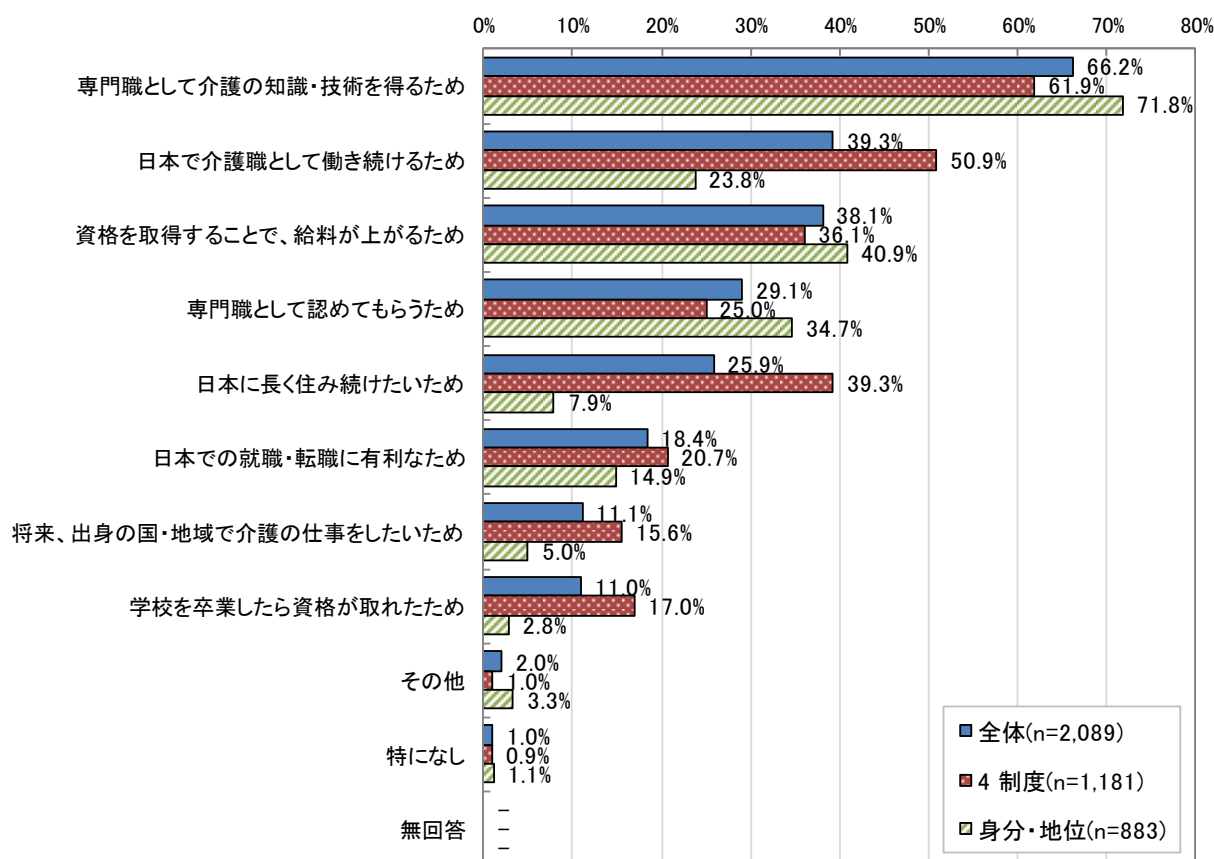
(22) Q10-2-6. 【未受験・不合格者】受験しない理由 (複数選択)

Q10-2-6. 【未受験・不合格者】受験しない理由 (複数選択) (n=135)



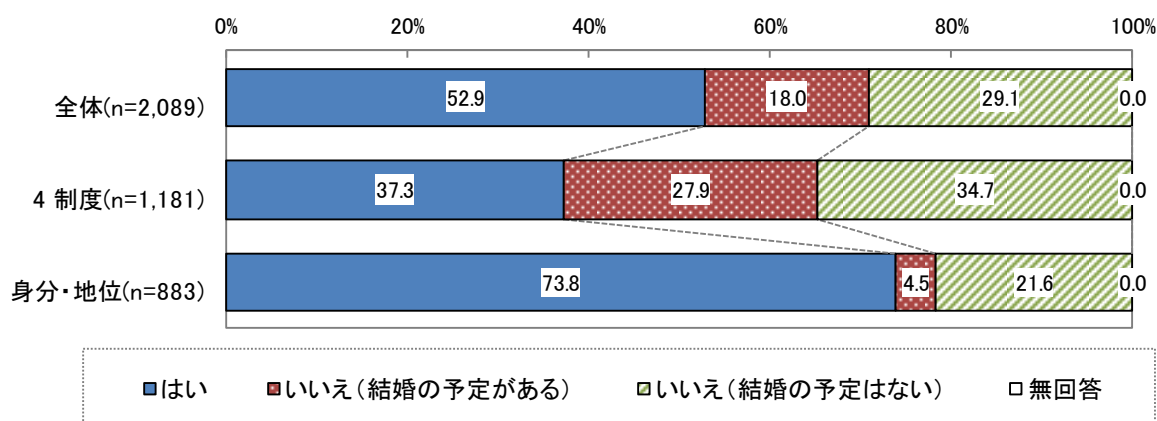
(23) Q11. 介護福祉士の受験または登録のきっかけ（複数選択）

Q11. 介護福祉士の受験または登録のきっかけ（複数選択）（n=2,089）



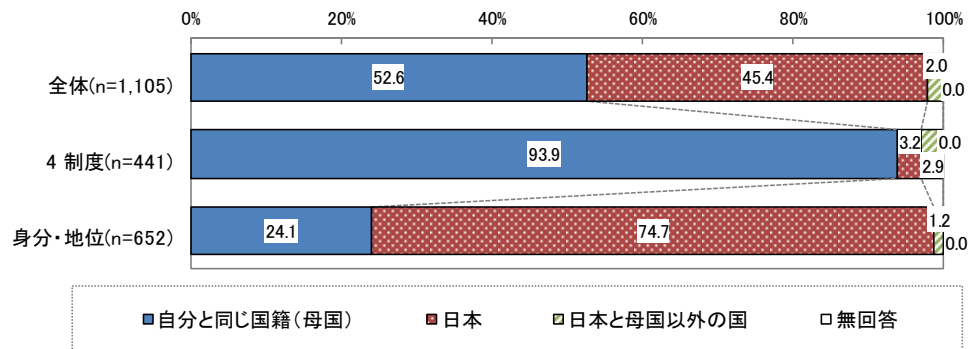
(24) Q12. 結婚の有無（9月1日時点）

Q12. 結婚の有無（9月1日時点）（n=2,089）



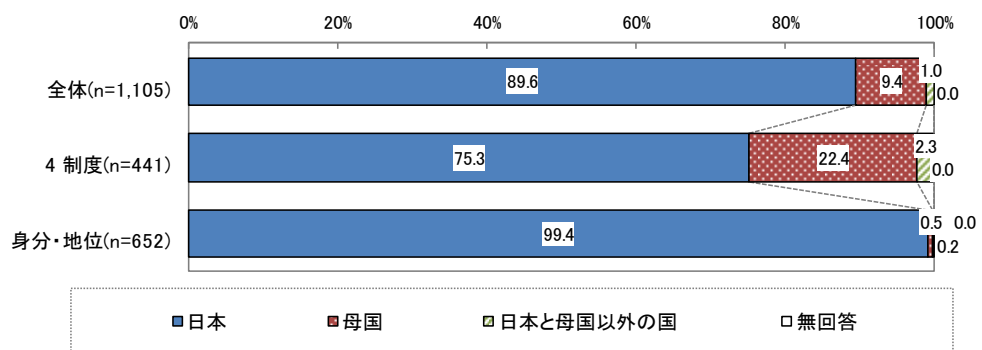
(25) Q13-1. 配偶者の国籍

Q13-1. 配偶者の国籍 (n=1,105)



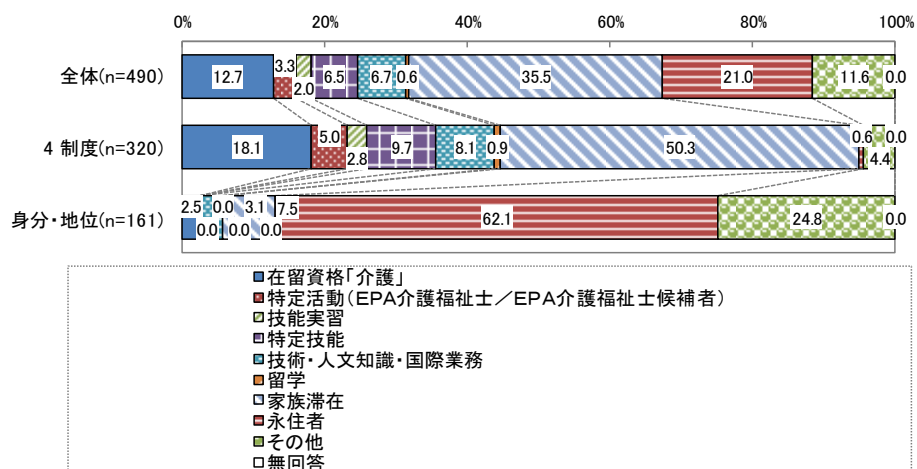
(26) Q13-2. 配偶者の住まい

Q13-2. 配偶者の住まい (n=1,105)



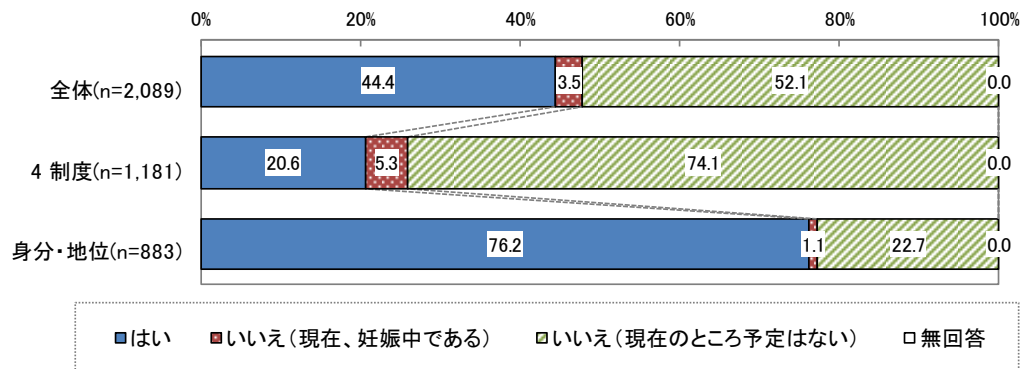
(27) Q13-3. 配偶者の在留資格

Q13-3. 配偶者の在留資格 (n=490)



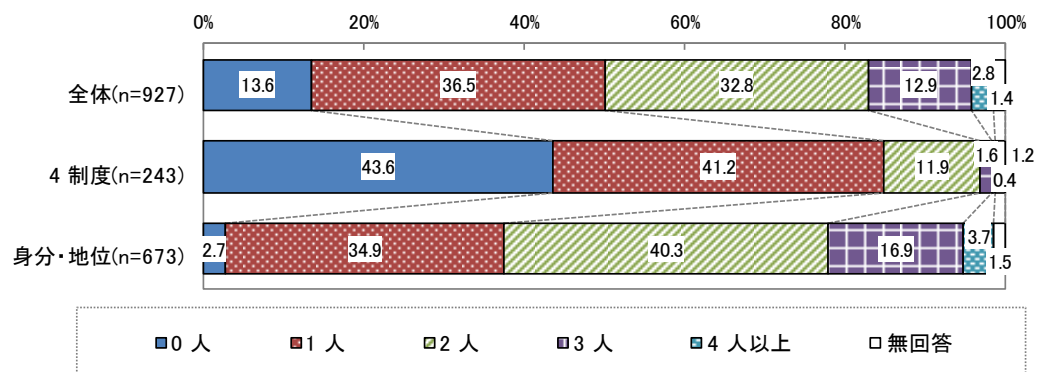
(28) Q14. 子どもの有無（9月1日時点）

Q14. 子どもの有無（9月1日時点）（n=2,089）



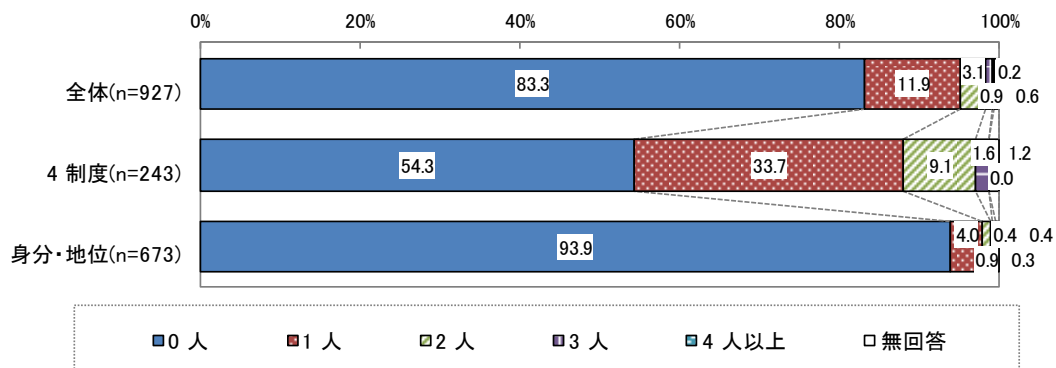
(29) Q15-1.1. 子どもの住まい（日本）

Q15-1.1. 子どもの住まい（日本）（n=927）



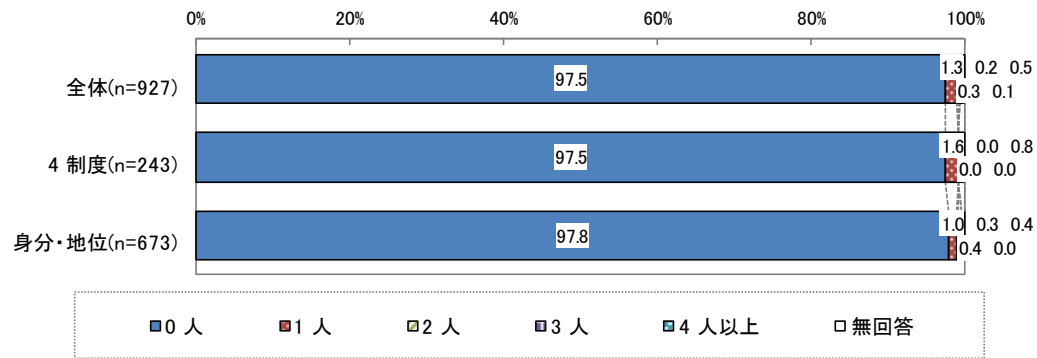
(30) Q15-1.2. 子どもの住まい（母国）

Q15-1.2. 子どもの住まい（母国）（n=927）



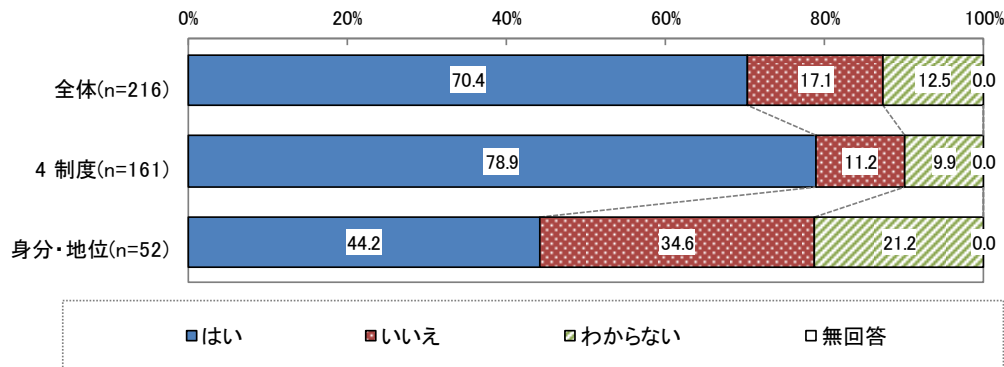
(31) Q15-1.3. 子どもの住まい（日本と母国以外の国）

Q15-1.3. 子どもの住まい（日本と母国以外の国）（n=927）



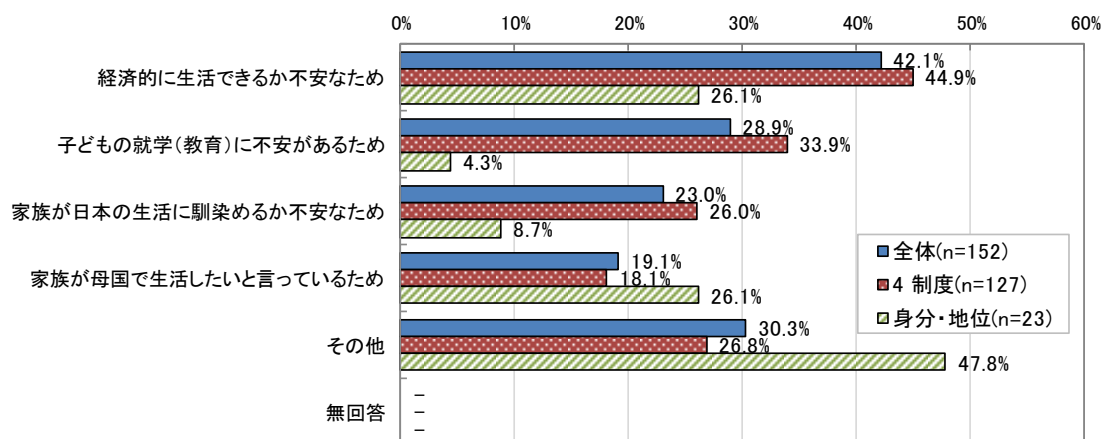
(32) Q15-2. 【有配偶者・有子者で生活を共にしていない方】家族の呼び寄せ希望

Q15-2. 【有配偶者・有子者で生活を共にしていない方】家族の呼び寄せ希望（n=216）



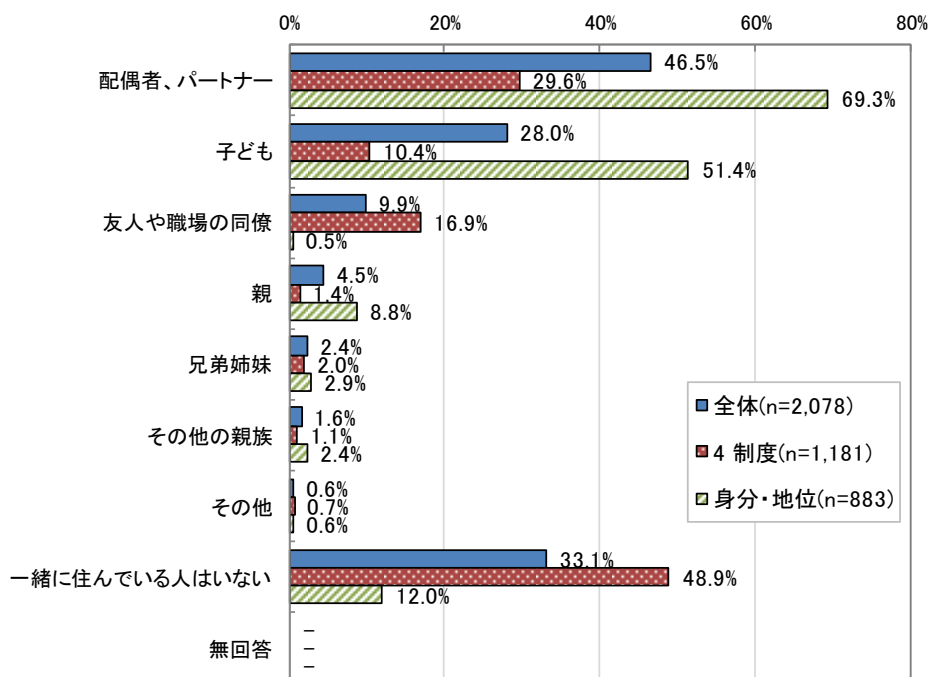
(33) Q15-3. 【有配偶者・有子者で生活を共にしていない方】家族の呼び寄せることができない理由
(複数選択)

Q15-3. 【有配偶者・有子者で生活を共にしていない方】家族の呼び寄せることができない理由 (複数選択) (n=152)



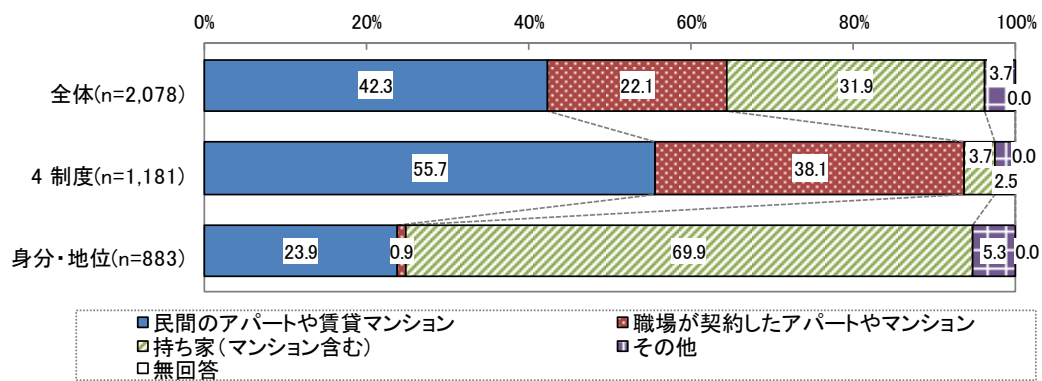
(34) Q16. 同居人 (複数選択)

Q16. 同居人 (複数選択) (n=2,078)



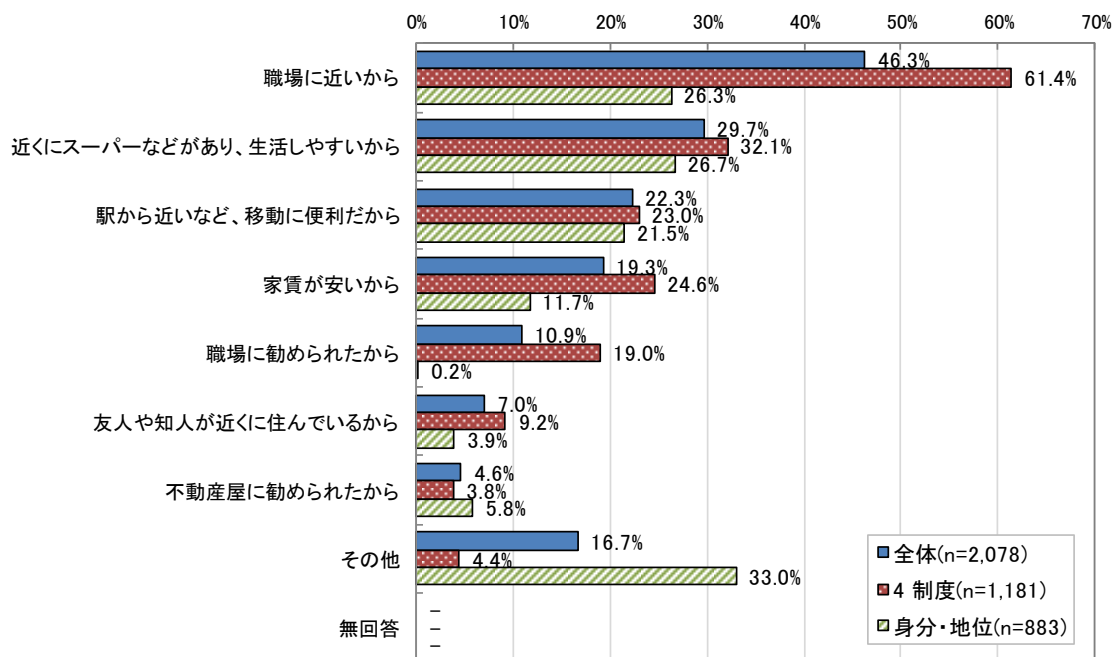
(35) Q17. 現在の住まい

Q17. 現在の住まい (n=2,078)

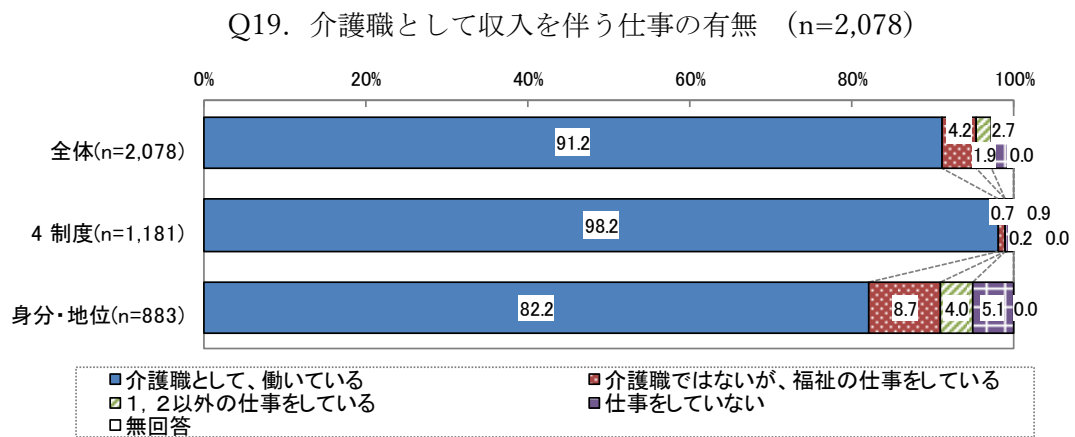


(36) Q18. 現在の住まいを選んだ理由 (複数選択)

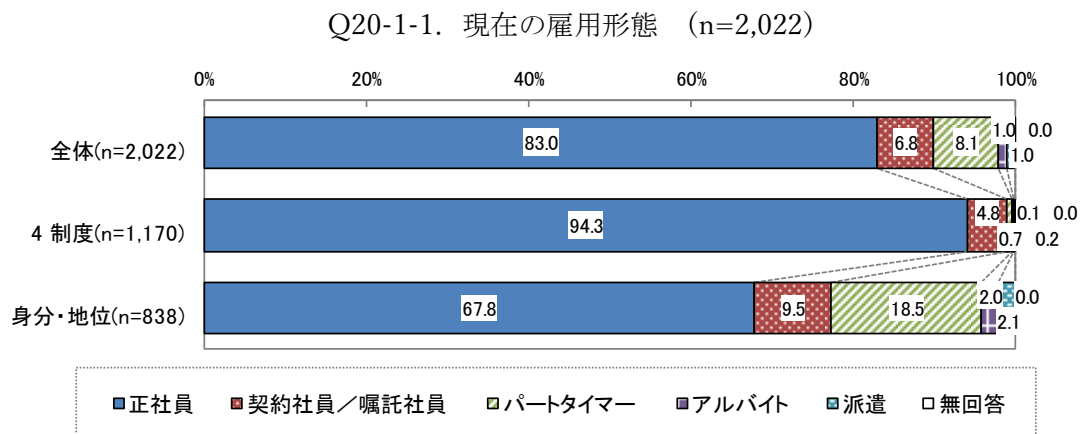
Q18. 現在の住まいを選んだ理由 (複数選択) (n=2,078)



(37) Q19. 介護職として収入を伴う仕事の有無

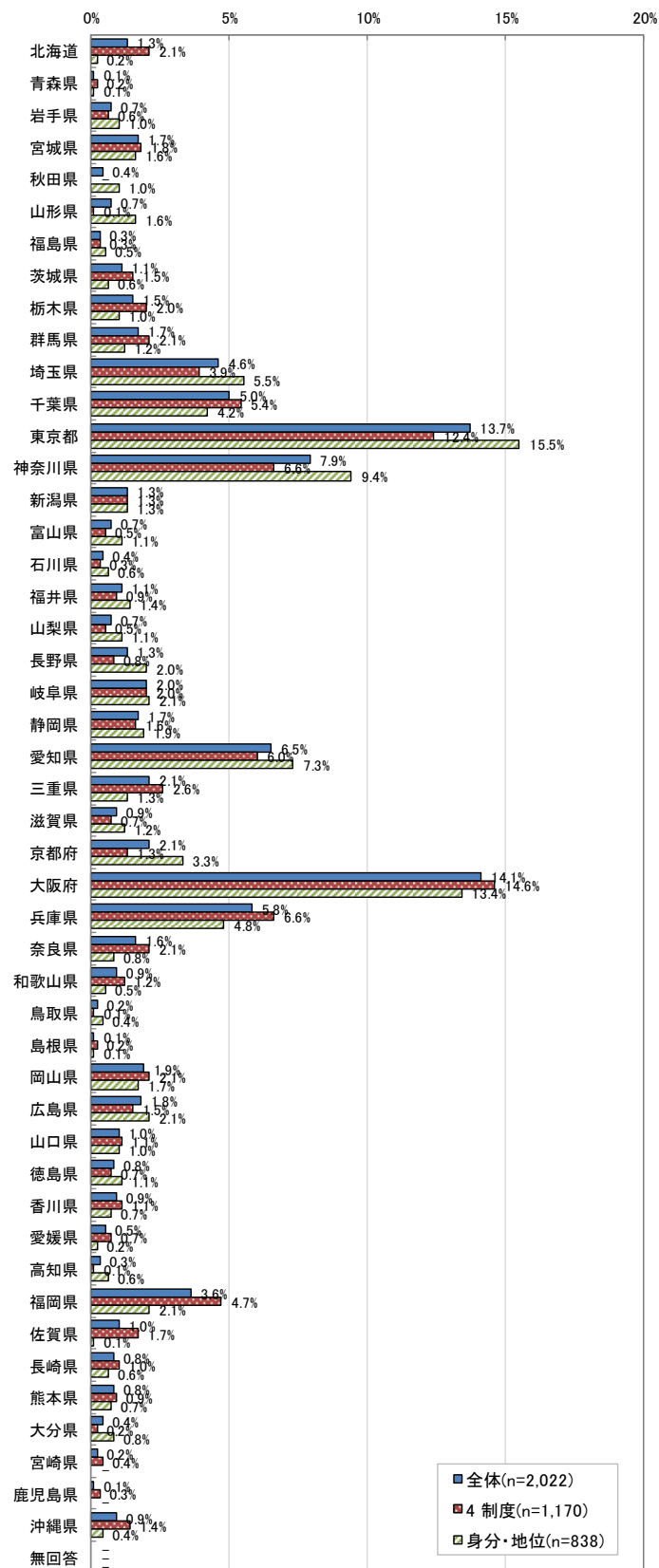


(38) Q20-1-1. 現在の雇用形態



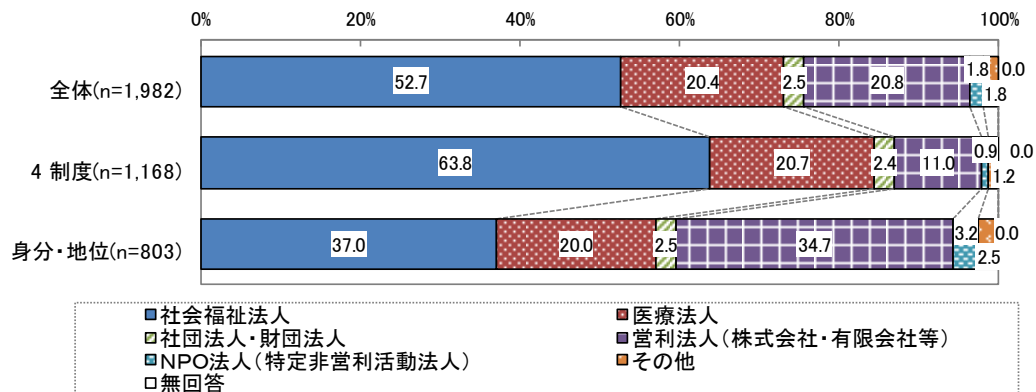
(39) Q20-1-2. 就労地域

Q20-1-2. 就労地域 (n=2,022)



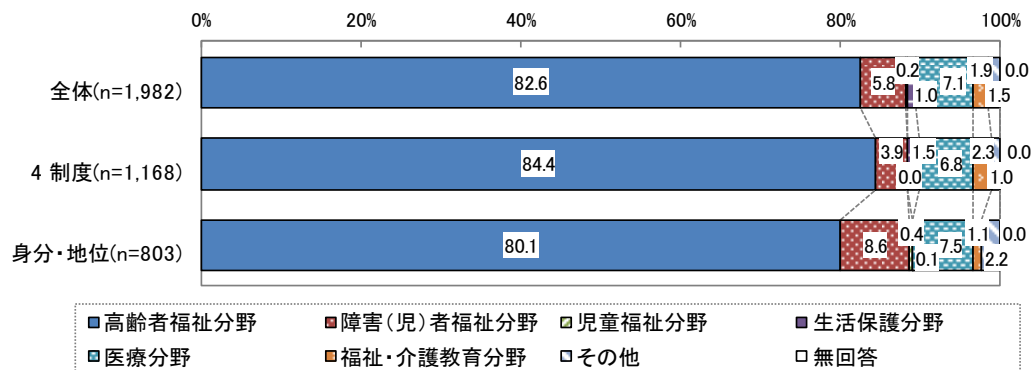
(40) Q20-1-3. 【介護・福祉職のみ】職場の法人格

Q20-1-3. 【介護・福祉職のみ】職場の法人格 (n=1,982)



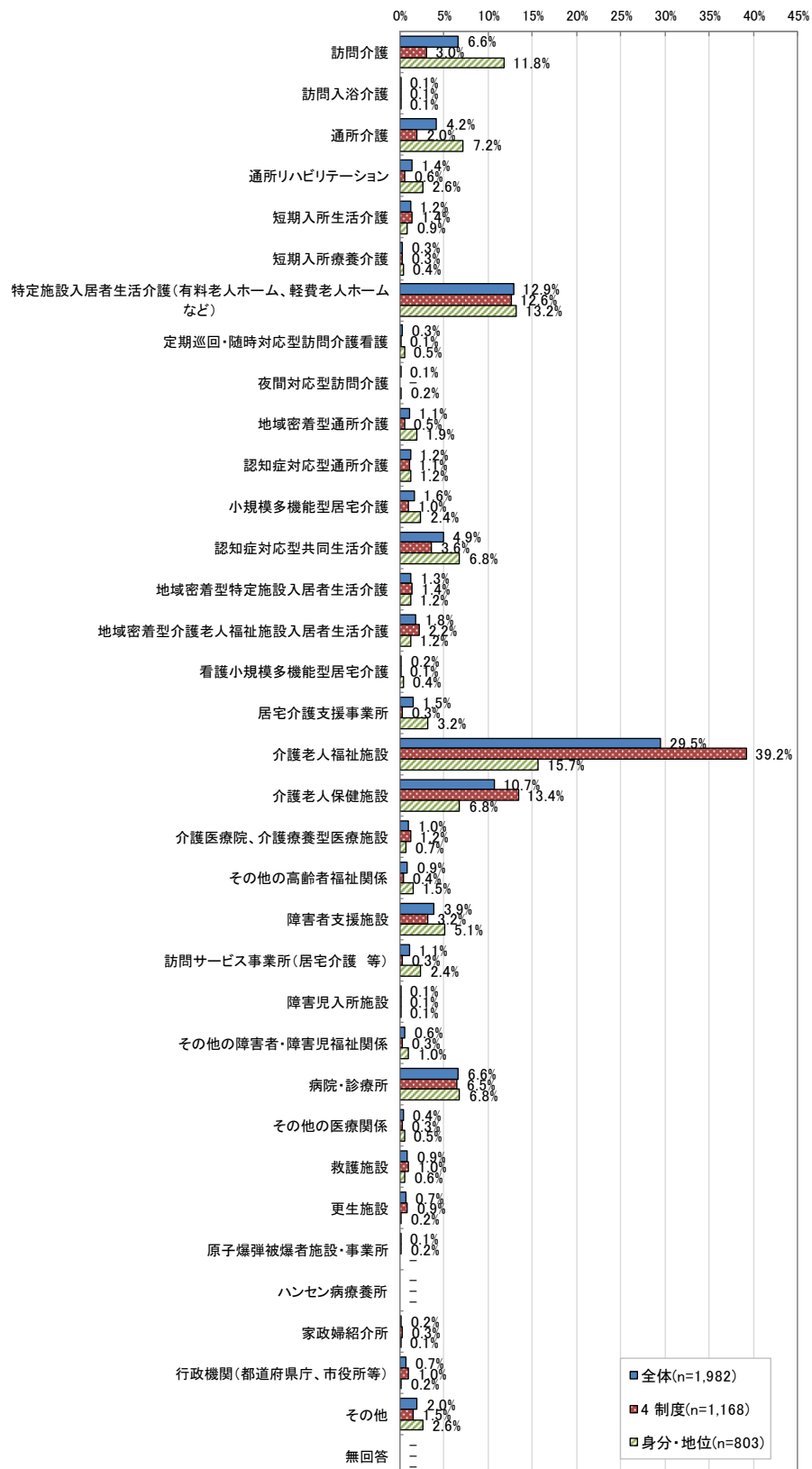
(41) Q20-1-4. 【介護・福祉職のみ】職場の分野

Q20-1-4. 【介護・福祉職のみ】職場の分野 (n=1,982)



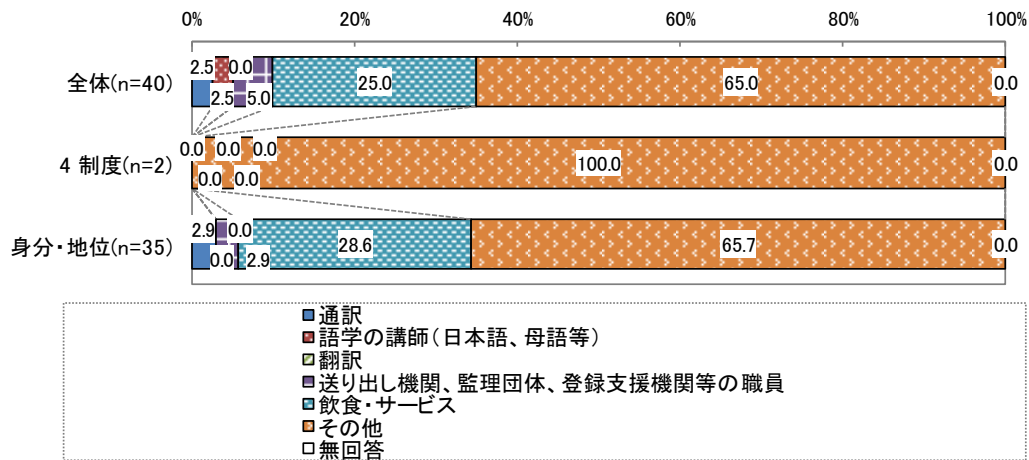
(42) Q20-1-5. 【介護・福祉職のみ】事業内容（サービス種別）

Q20-1-5. 事業内容（サービス種別）（n=1,982）



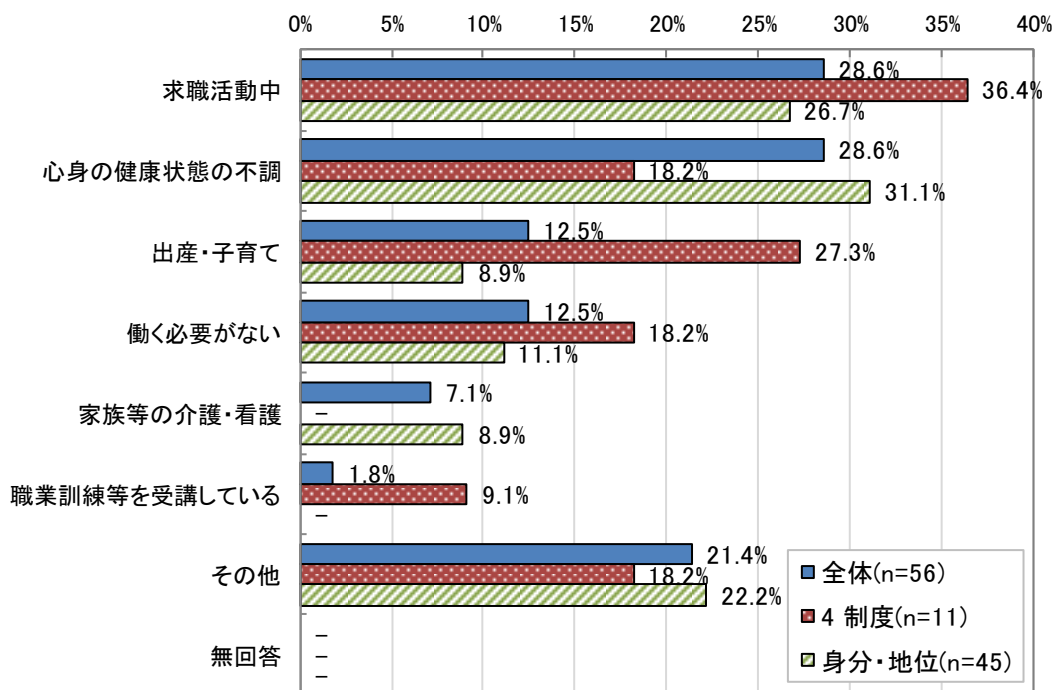
(43) Q20-1-6. 【介護職、福祉職以外】現在の主な仕事

Q20-1-6. 【介護職、福祉職以外・非就労者】現在の主な仕事 (n=40)



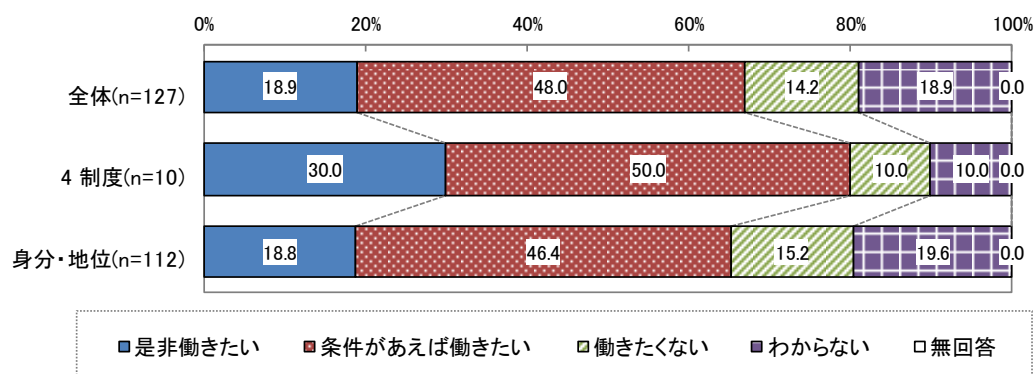
(44) Q20-2-1. 【非就労者】仕事をしていない理由(複数選択)

Q20-2-1. 【非就労者】仕事をしていない理由(複数選択) (n=56)



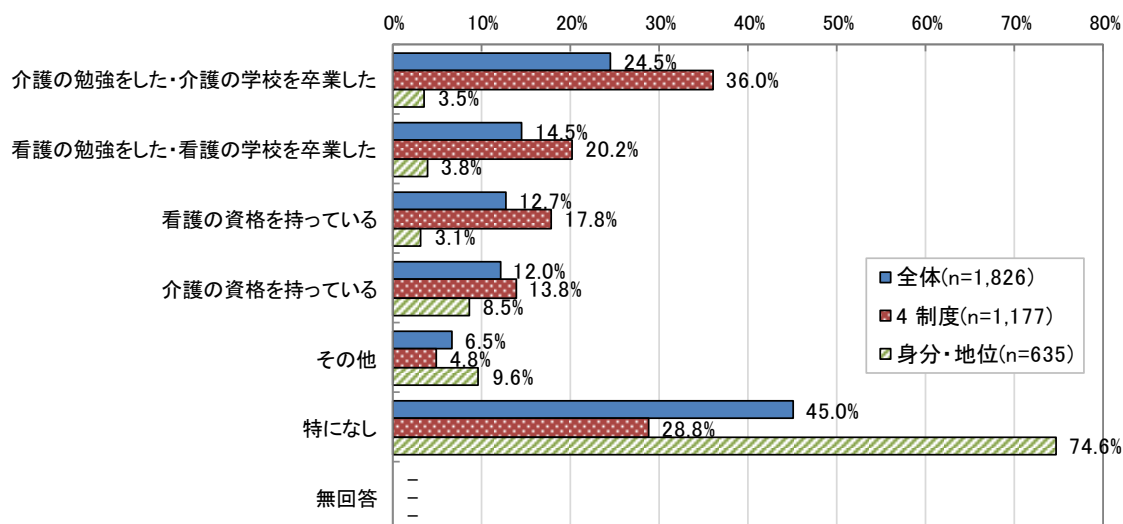
(45) Q20-2-2. 【介護職、福祉職以外・非就労者】介護職としての就労希望

Q20-2-2. 介護職としての就労希望 (n=127)



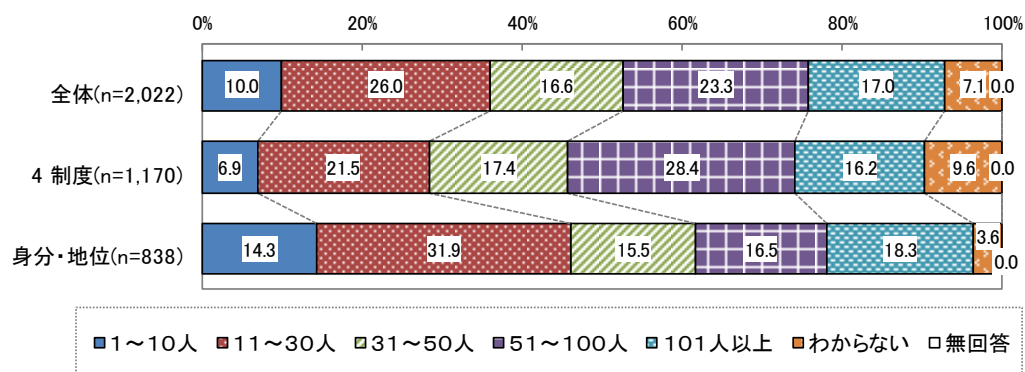
(46) Q21. 【日本以外で生まれた方】来日前に保有していた福祉・介護関係の資格等（複数選択）

Q21. 来日前に保有していた福祉・介護関係の資格等（複数選択） (n=1,717)



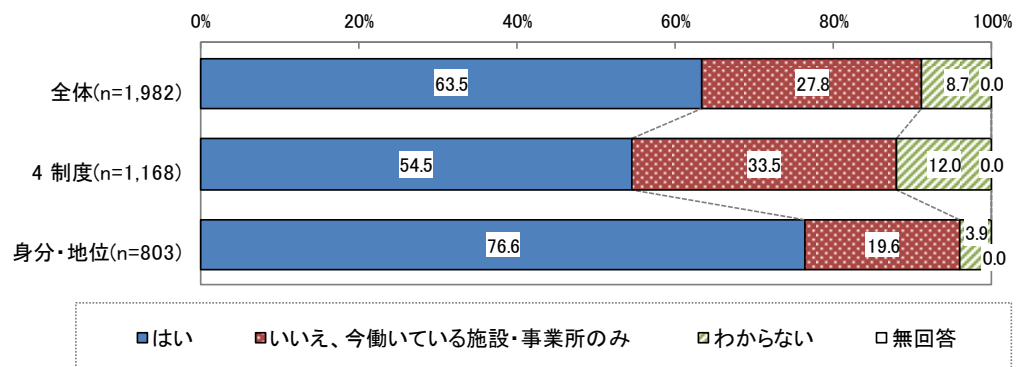
(47) Q22. 【現在、日本で就労中の方】現在働いている職場（施設・事業所等）の従業員数

Q22. 現在働いている職場（施設・事業所等）の従業員数 (n=2,022)



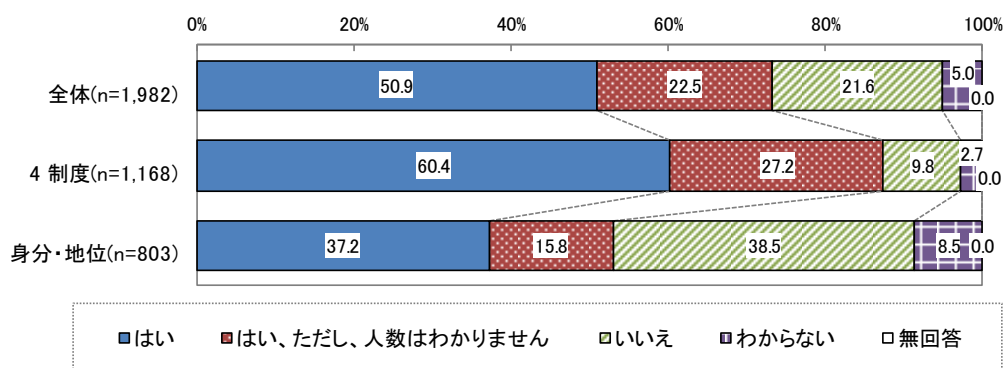
(48) Q23. 【介護・福祉職のみ】現在働いている職場（法人）での他の施設・事業所の有無

Q23. 【介護・福祉職のみ】現在働いている職場（法人）での他の施設・事業所の有無（n=1,982）



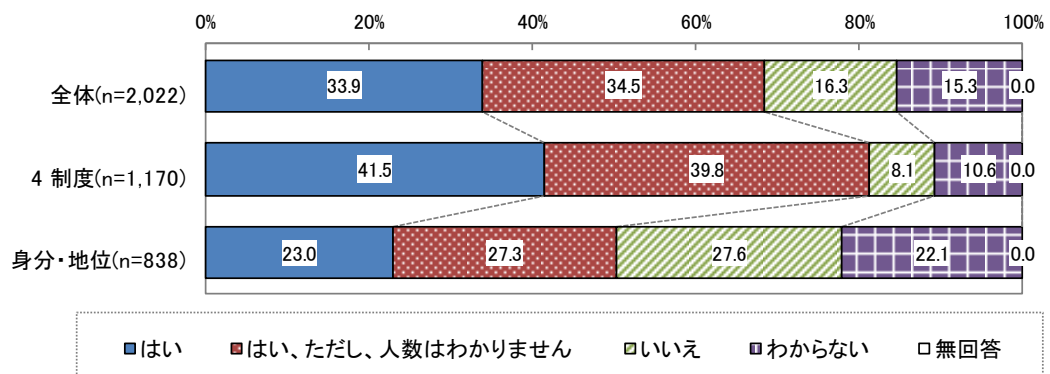
(49) Q24. 【介護・福祉職のみ】職場（施設・事業所）内の外国人職員の有無

Q24. 【介護・福祉職のみ】職場（施設・事業所）内の外国人職員の有無（n=1,982）



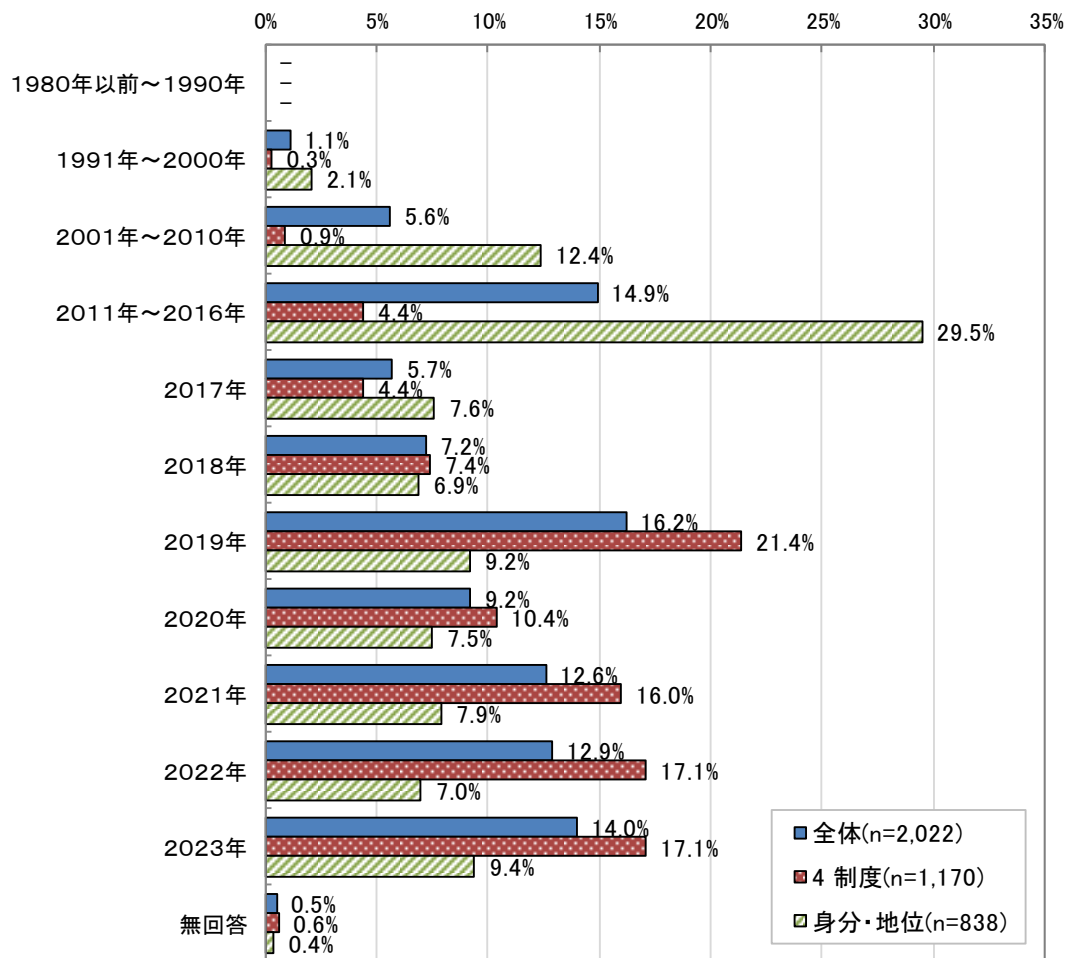
(50) Q25. 【介護・福祉職のみ】職場（法人）内の外国人職員の有無

Q25. 【介護・福祉職のみ】職場（法人）内の外国人職員の有無（n=2,022）



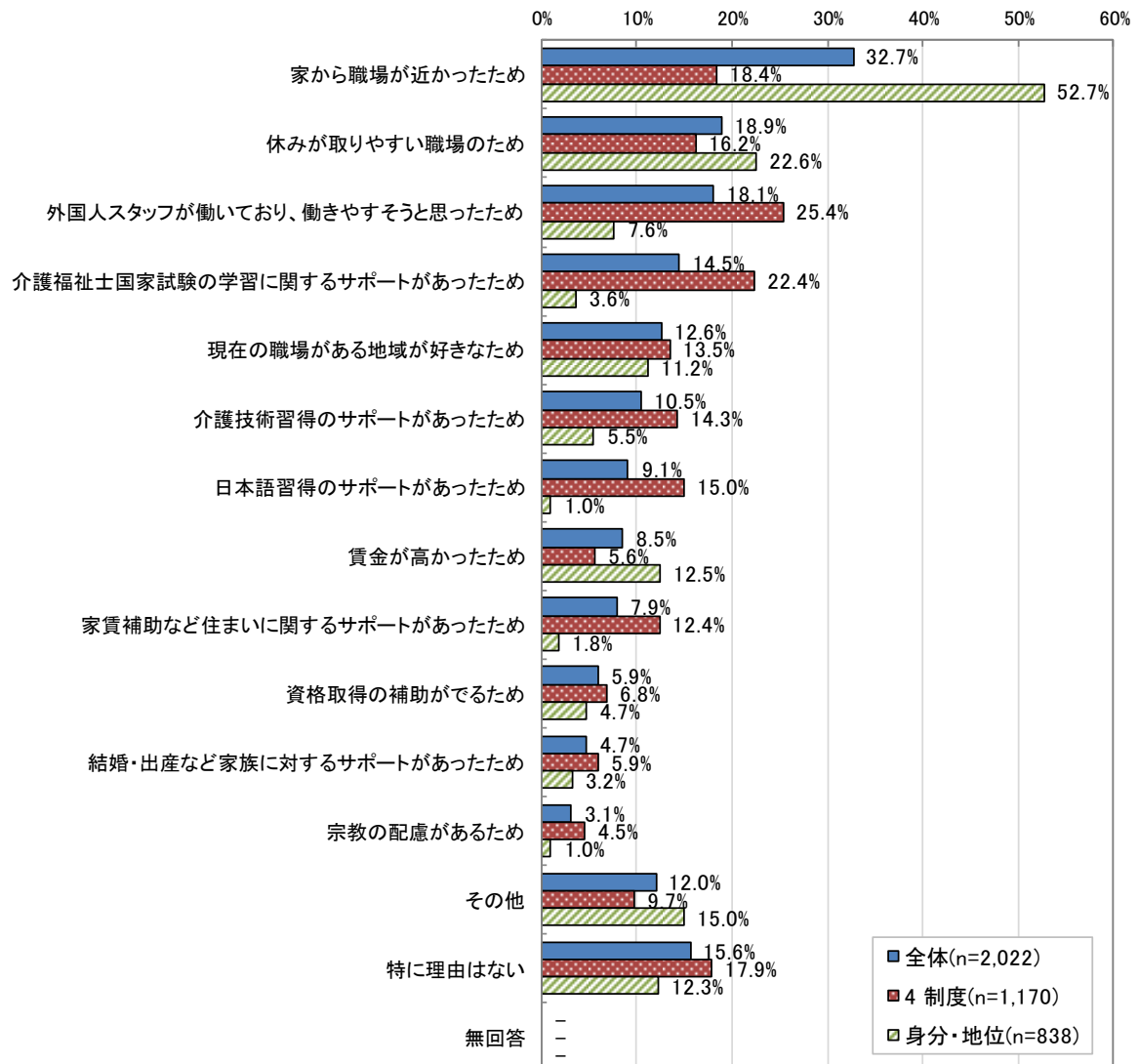
(51) Q26. 現在の職場で働き始めた年

Q26. 現在の職場で働き始めた年 (n=2,022)



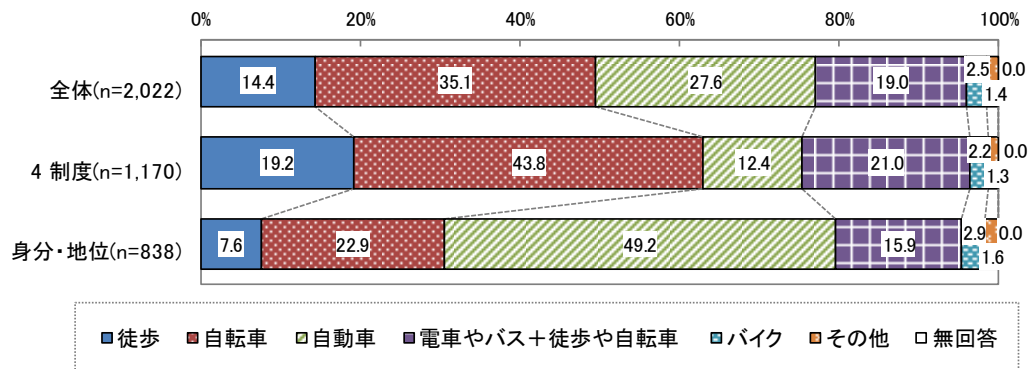
(52) Q27. 現在の職場を選んだ理由（3つまで選択）

Q27. 現在の職場を選んだ理由（3つまで選択）（n=2,022）



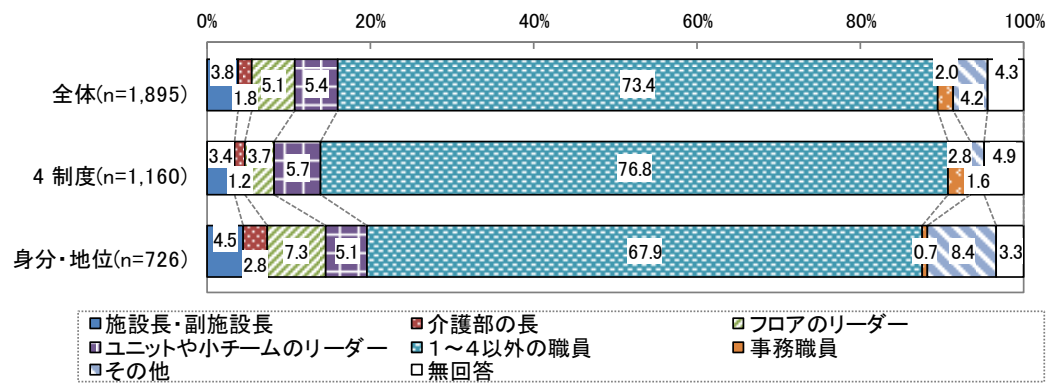
(53) Q28. 職場までの交通手段

Q28. 職場までの交通手段 (n=2,022)



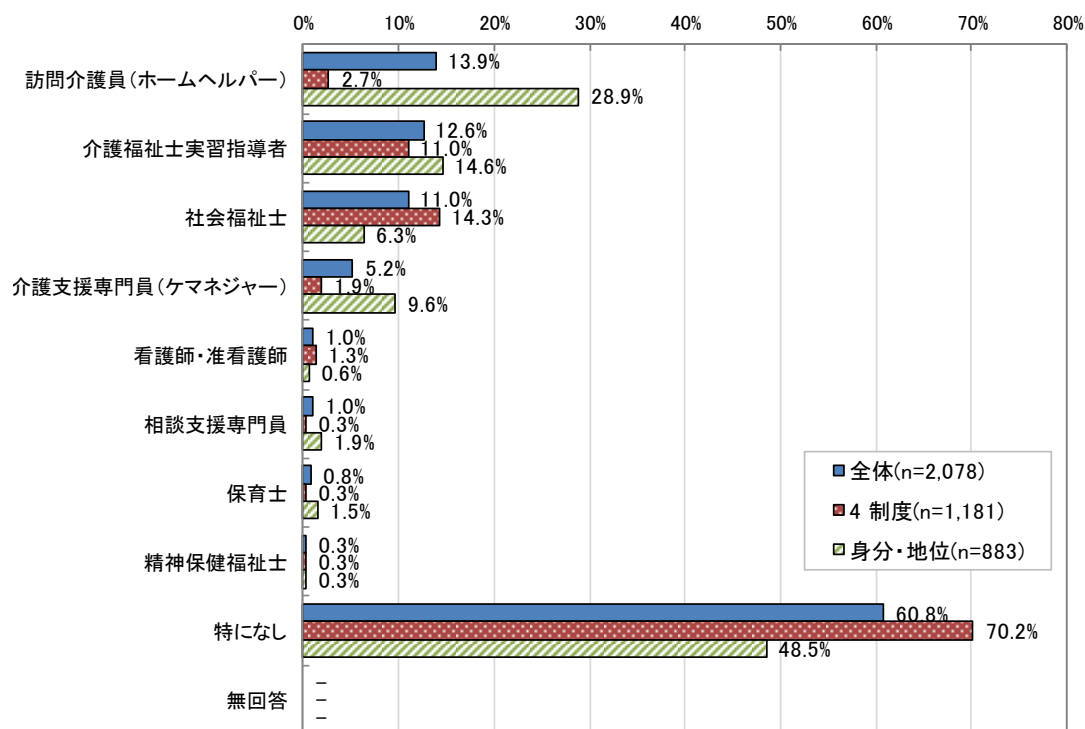
(54) Q29. 【介護・福祉職のみ】職場での立場

Q29. 【介護・福祉職のみ】職場での立場 (n=1,895)



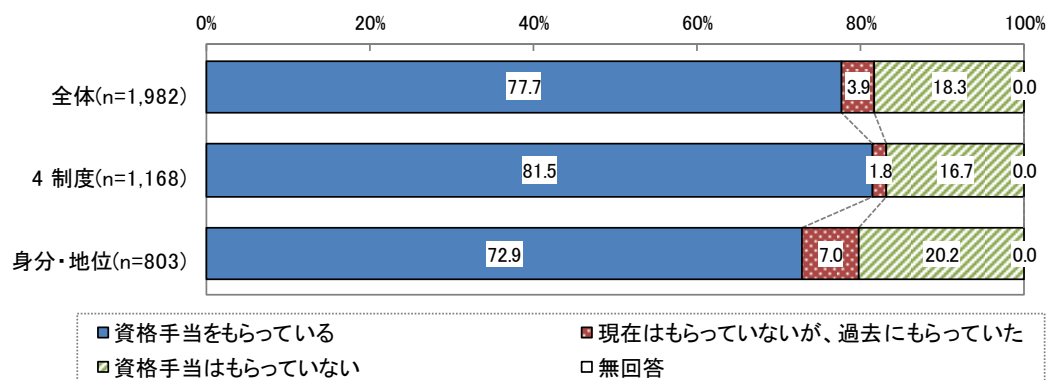
(55) Q30. 保有資格（複数選択）

Q30. 保有資格（複数選択）（n=2,078）



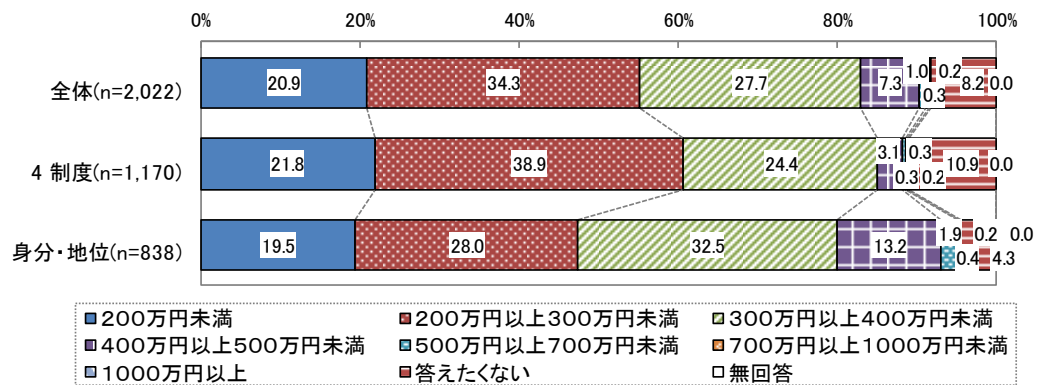
(56) Q31. 【介護・福祉職のみ】「介護福祉士」資格手当の支給の有無

Q31. 【介護・福祉職のみ】「介護福祉士」資格手当の支給の有無（n=1,982）



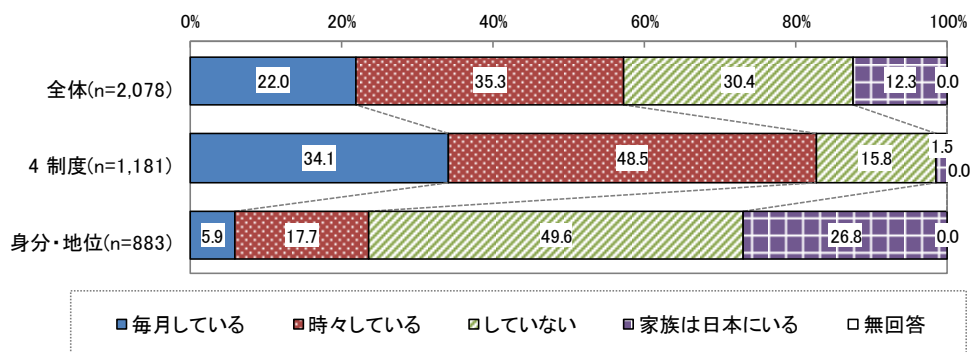
(57) Q32. 1年間の収入（2022年）

Q32. 1年間の収入（2022年）（n=2,022）



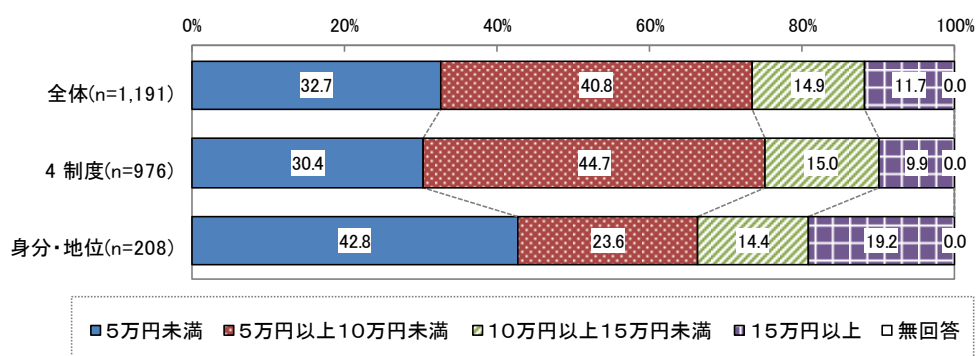
(58) Q33-1. 母国の家族への仕送り有無

Q33-1. 母国の家族への仕送り有無（n=2,078）

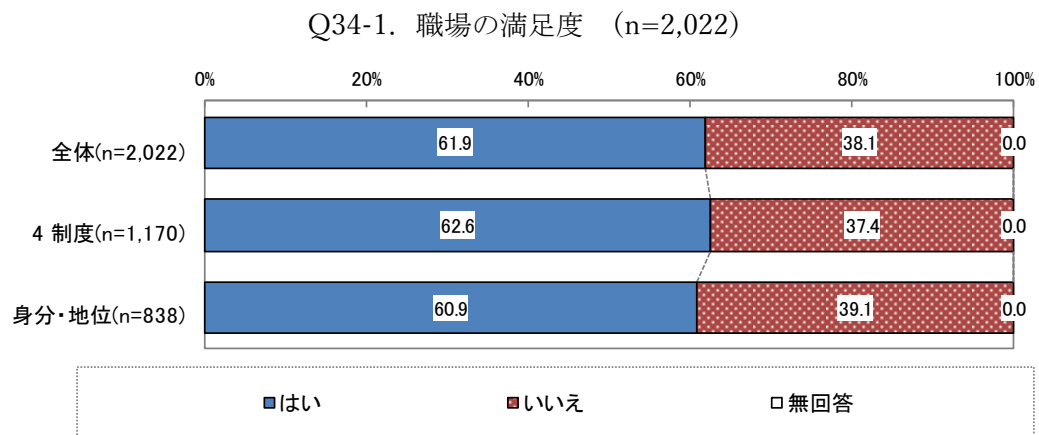


(59) Q33-2. 1回あたり平均仕送り（送金）金額

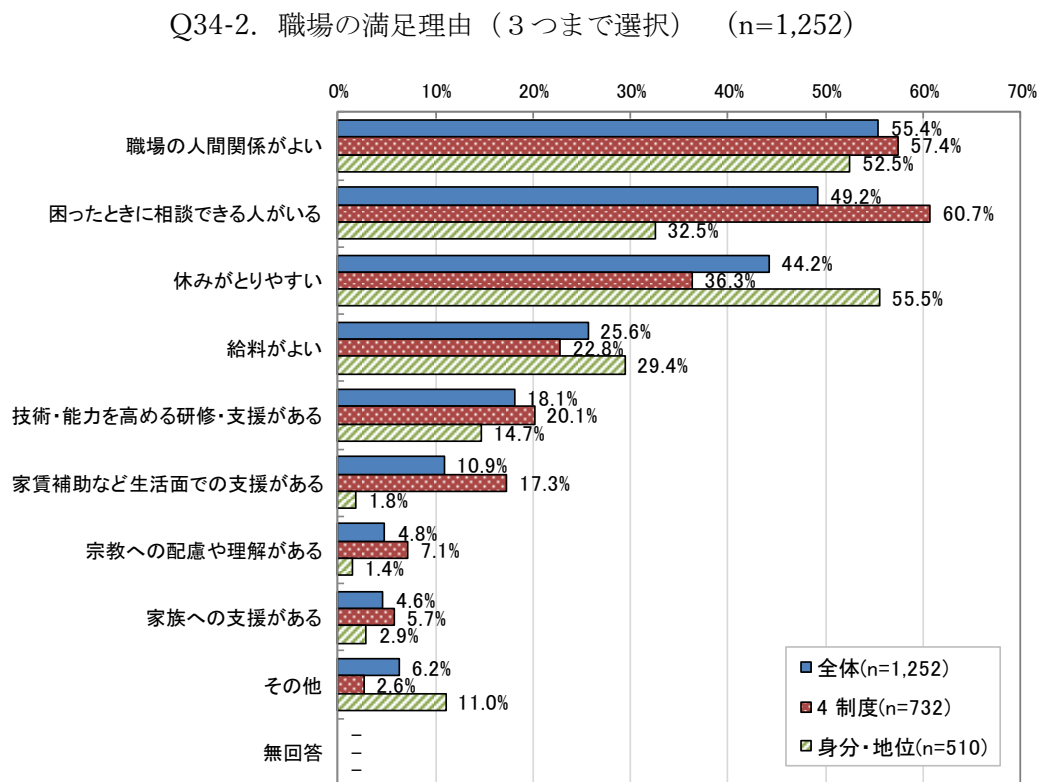
Q33-2. 1回あたり平均仕送り（送金）金額（n=1,191）



(60) Q34-1. 職場の満足度

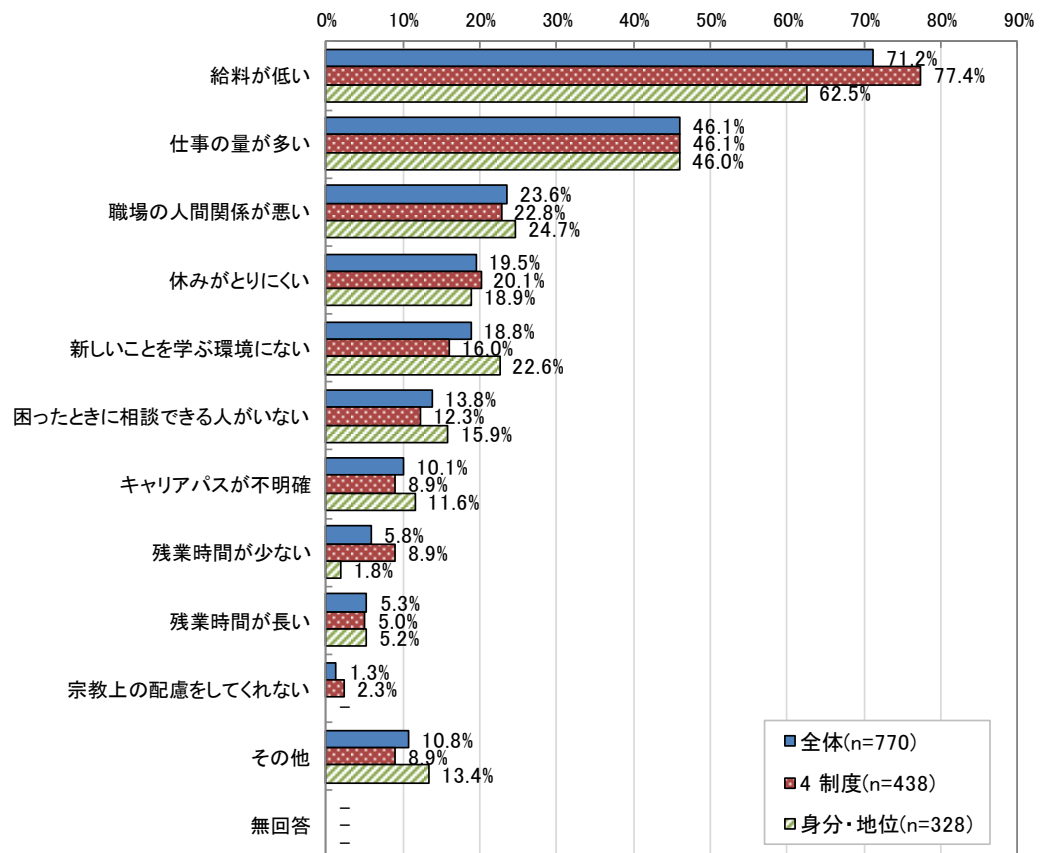


(61) Q34-2. 職場の満足理由 (3つまで選択)



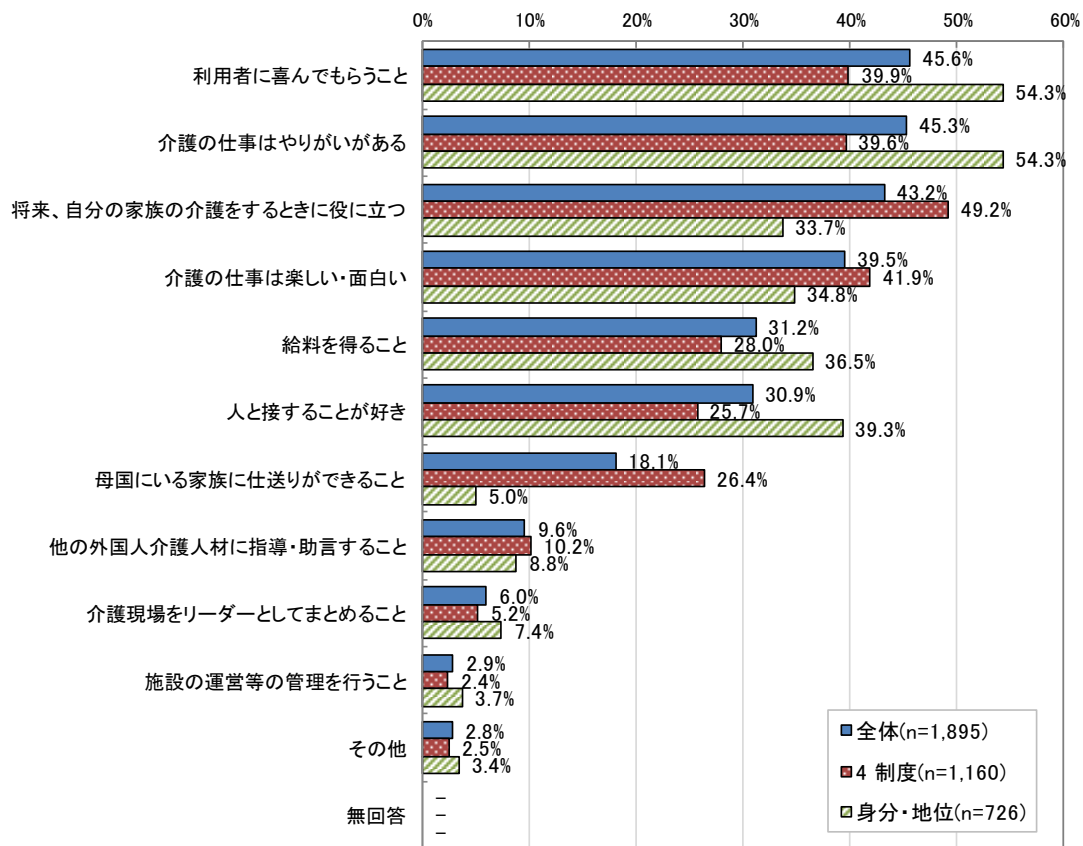
(62) Q34-3. 職場の満足していない理由（3つまで選択）

Q34-3. 職場の満足していない理由（3つまで選択）（n=770）



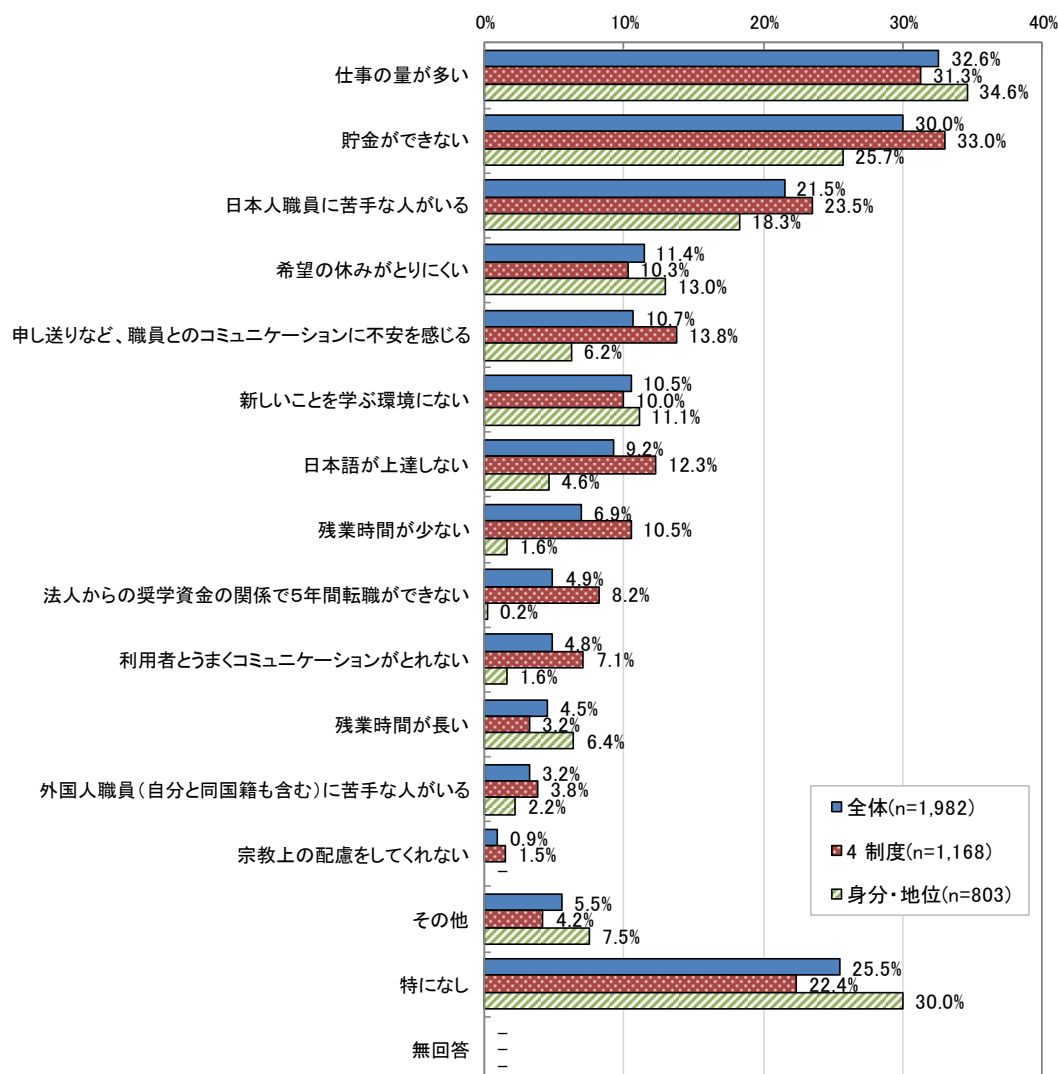
(63) Q35. 【介護・福祉職のみ】介護福祉士として働く上でのモチベーション（複数選択）

Q35. 【介護・福祉職のみ】介護福祉士として働く上でのモチベーション（複数選択）（n=1,895）



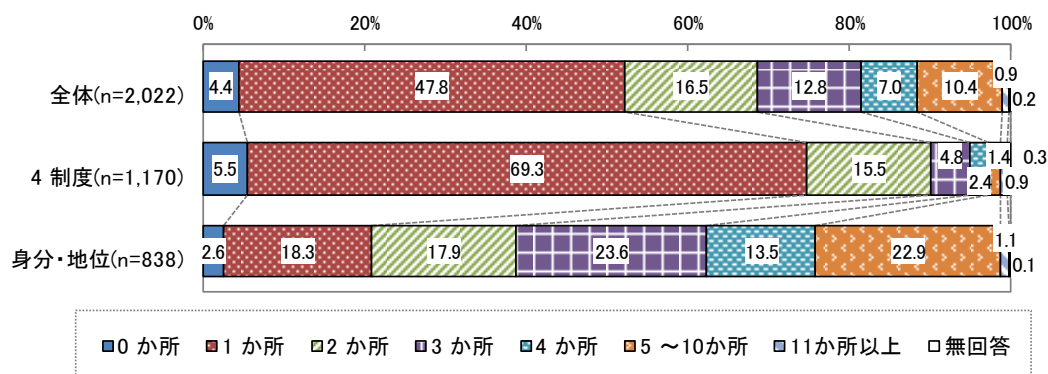
(64) Q36. 【介護・福祉職のみ】 仕事で困っていること（複数選択）

Q36. 【介護・福祉職のみ】 仕事で困っていること（複数選択） （n=1,982）



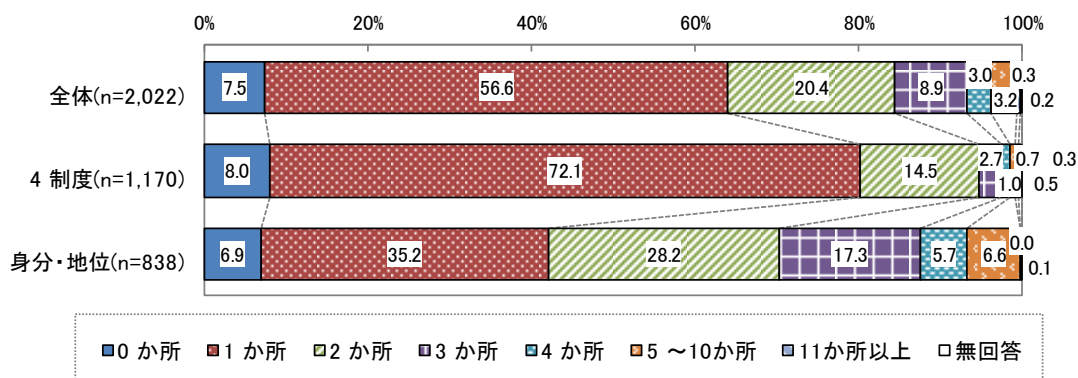
(65) Q37. 就労場所の数

Q37. 就労場所の数 （n=2,022）



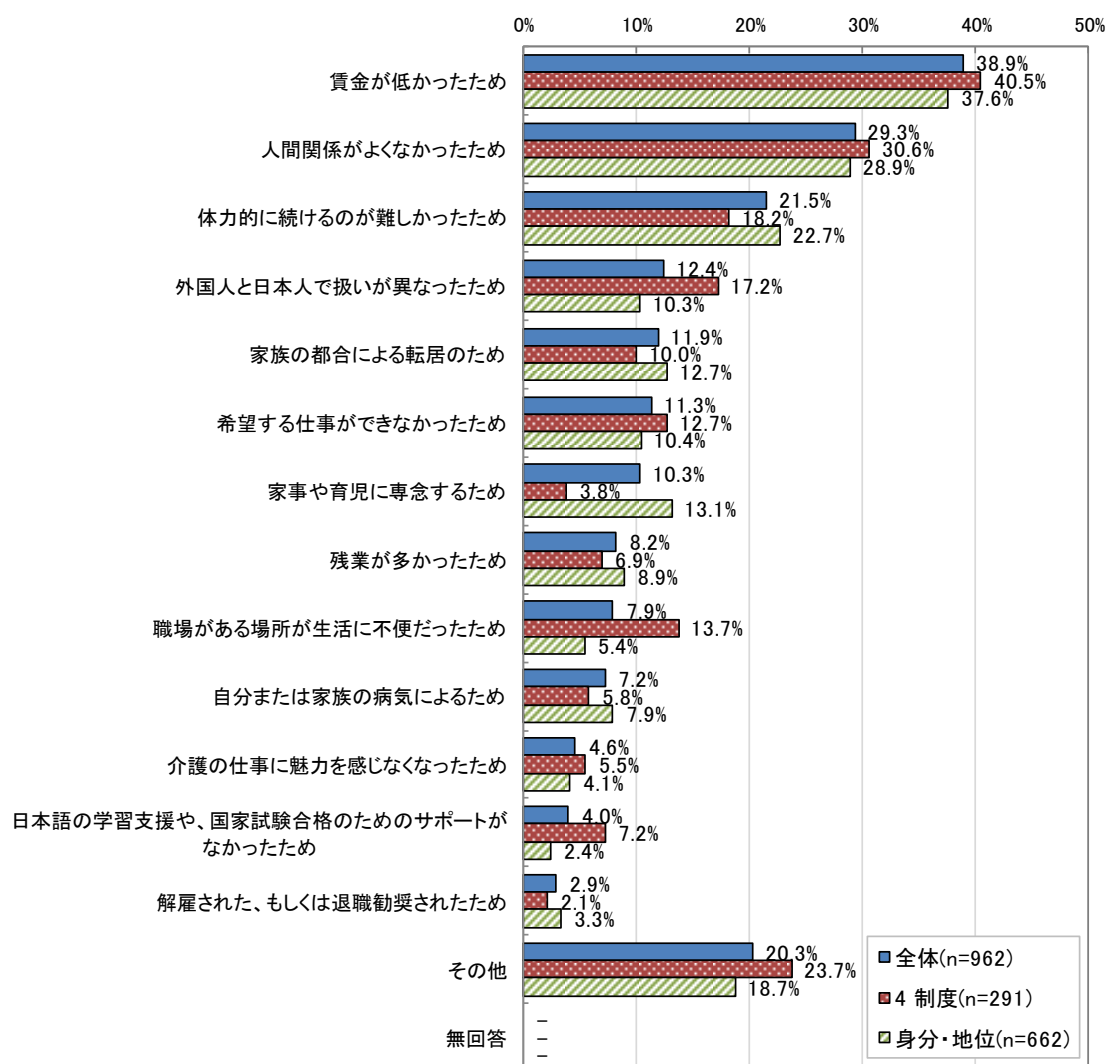
(66) Q38. 介護職としての就労場所の数

Q38. 介護職としての就労場所の数 (n=2,022)



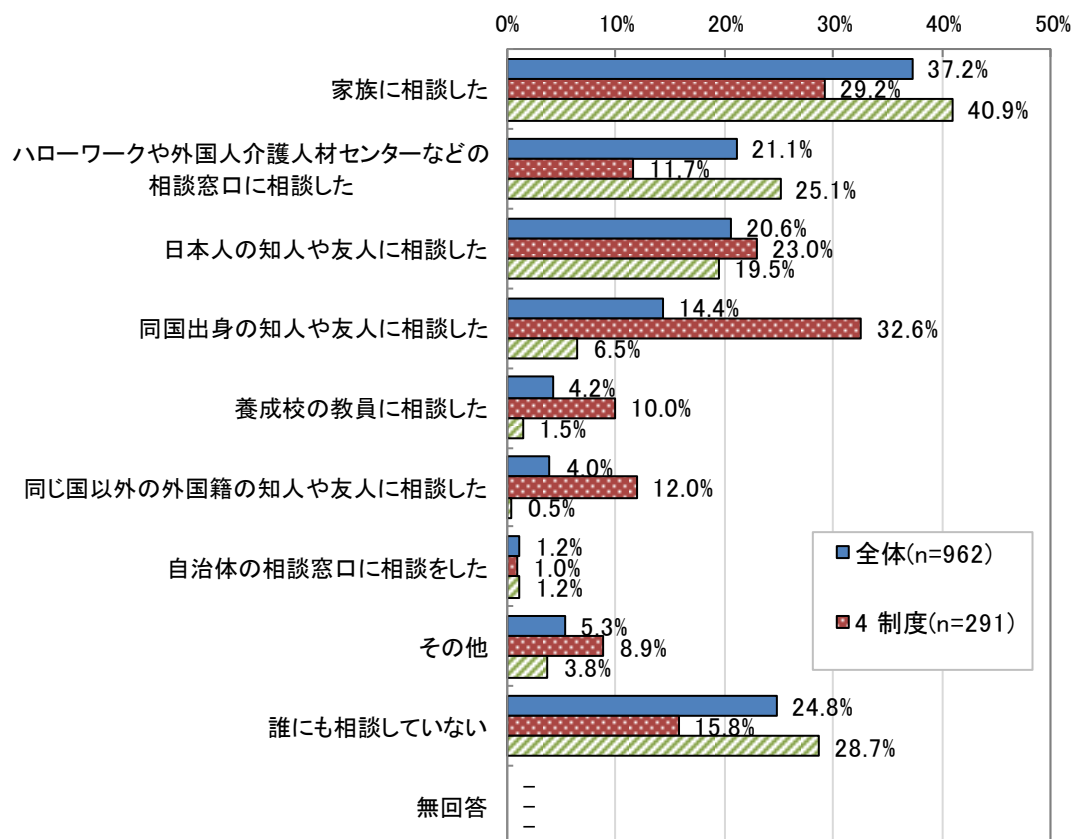
(67) Q39-1. 【2 か所以上で就労経験のある方】就労先を退職した理由（3 つまで選択）

Q39-1. 就労先を退職した理由（3 つまで選択） (n=962)



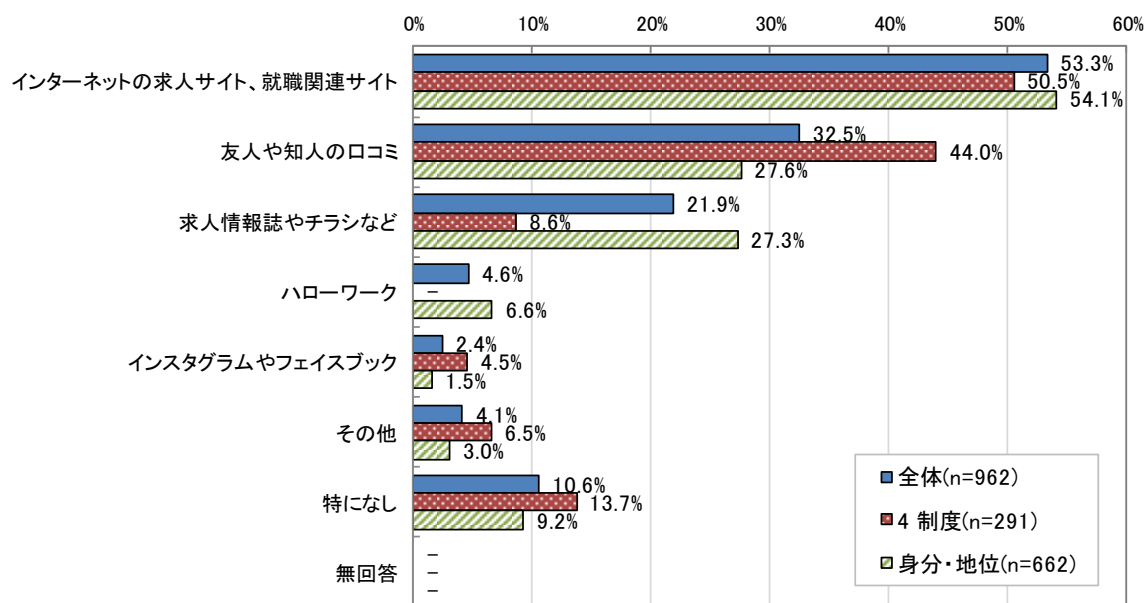
(68) Q39-2. 【2 か所以上で就労経験のある方】再就職するときの相談相手（複数選択）

Q39-2. 再就職するときの相談相手（複数選択）（n=962）



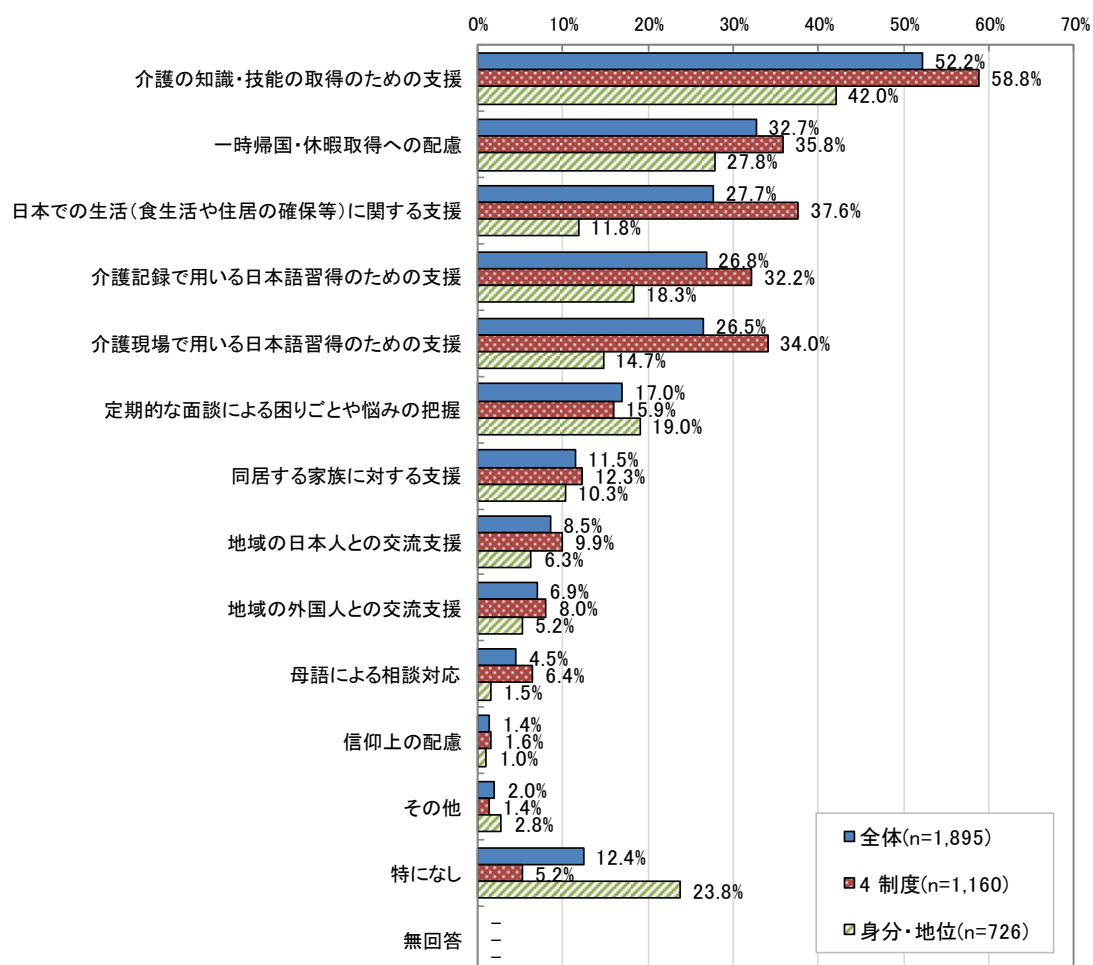
(69) Q39-3. 【2 か所以上で就労経験のある方】仕事を探すために使用した手段（複数選択）

Q39-3. 仕事を探すために使用した手段（複数選択）（n=962）



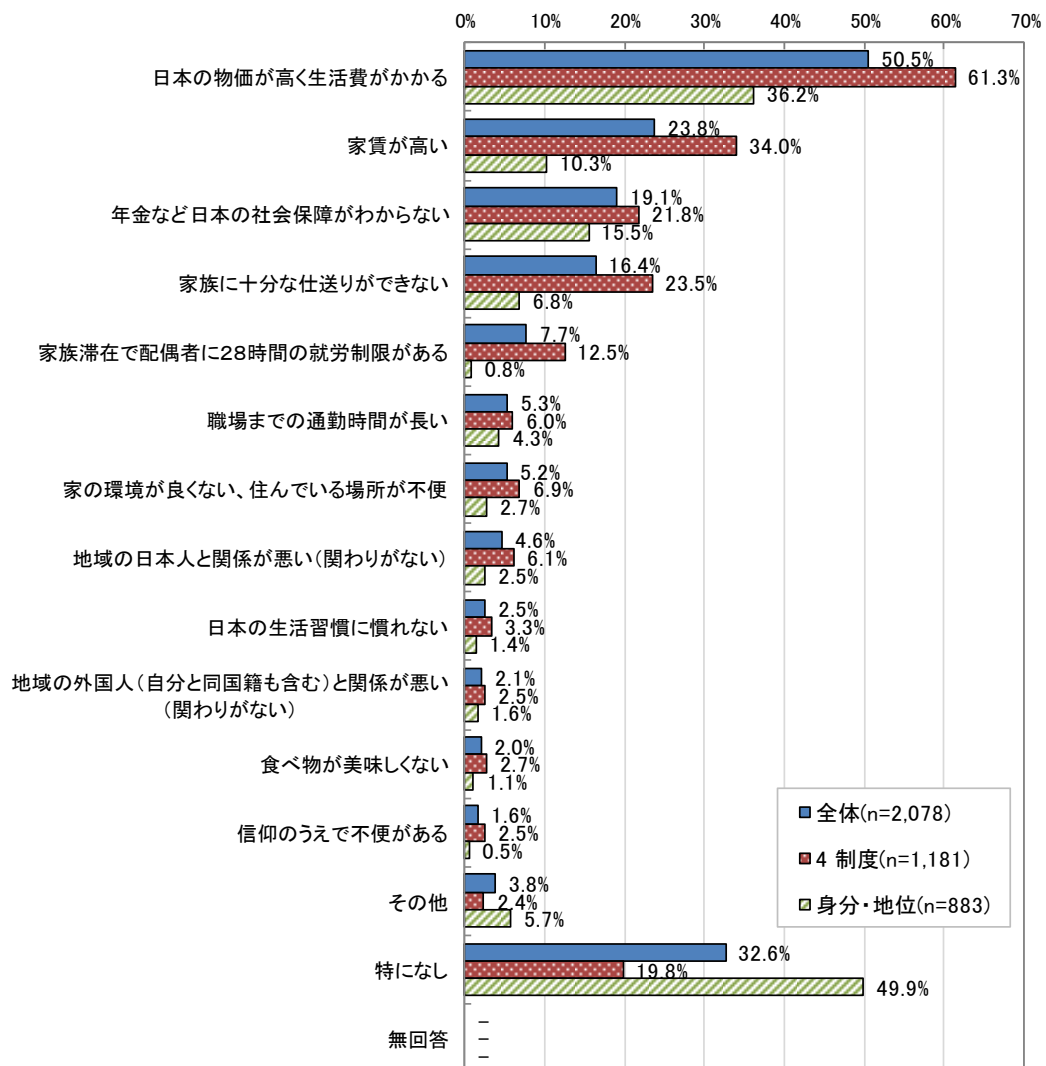
(70) Q40. 【介護職のみ】介護福祉士として今後も働く上で必要な支援（3つまで選択）

Q40. 【介護職のみ】介護福祉士として今後も働く上で必要な支援（3つまで選択）（n=1,895）



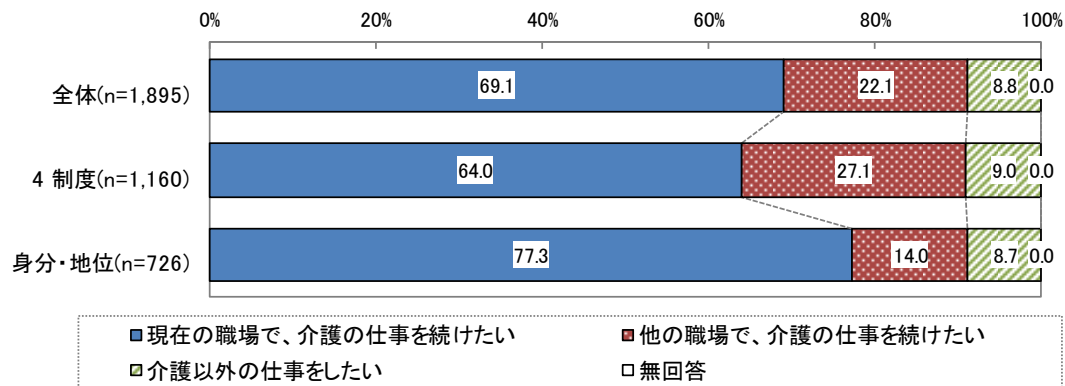
(71) Q41. 生活で困っていること（3つまで選択）

Q41. 生活で困っていること（3つまで選択）（n=2,078）



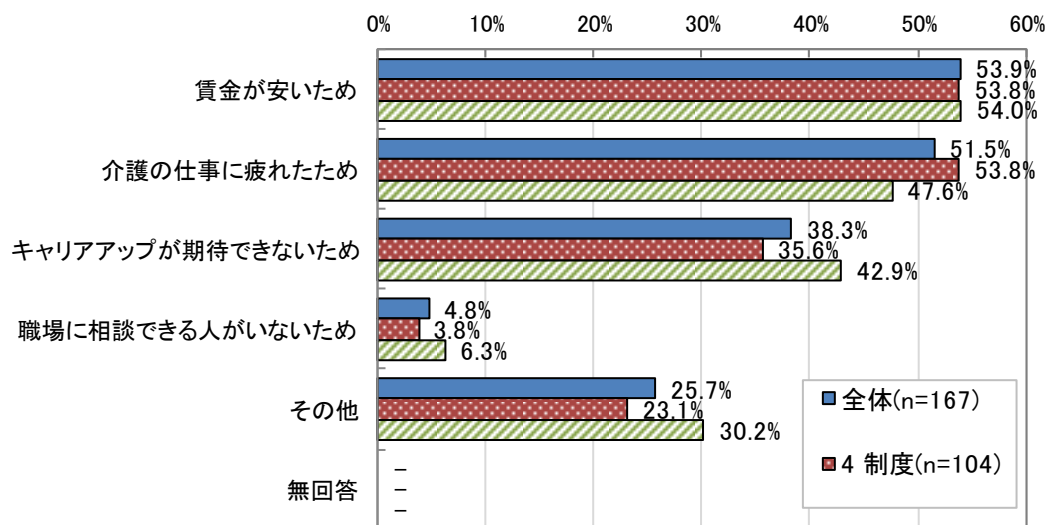
(72) Q42. 【介護職のみ】介護福祉士としての今後の就労希望

Q42. 【介護職のみ】介護福祉士としての今後の就労希望 (n=1,895)

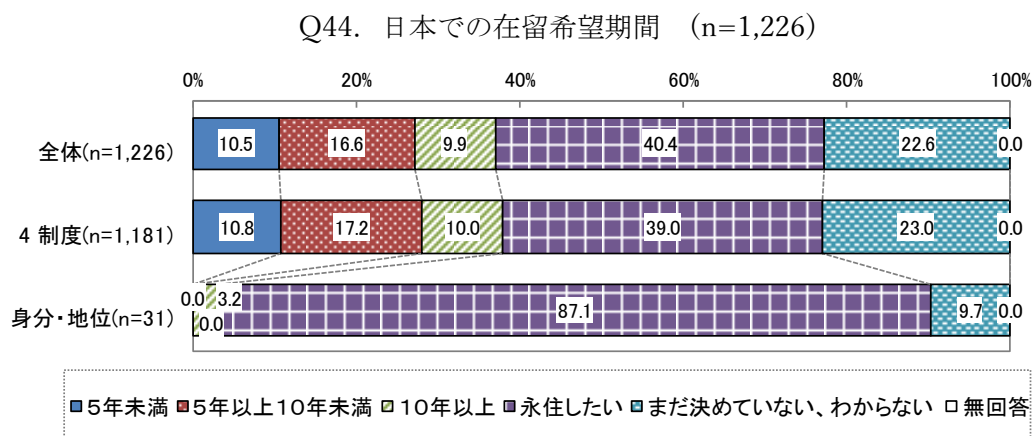


(73) Q43. 【Q42 で「介護以外の仕事したい」と答えた方】介護以外の仕事をしたい理由（複数選択）

Q43. 介護以外の仕事をしたい理由（複数選択） (n=167)

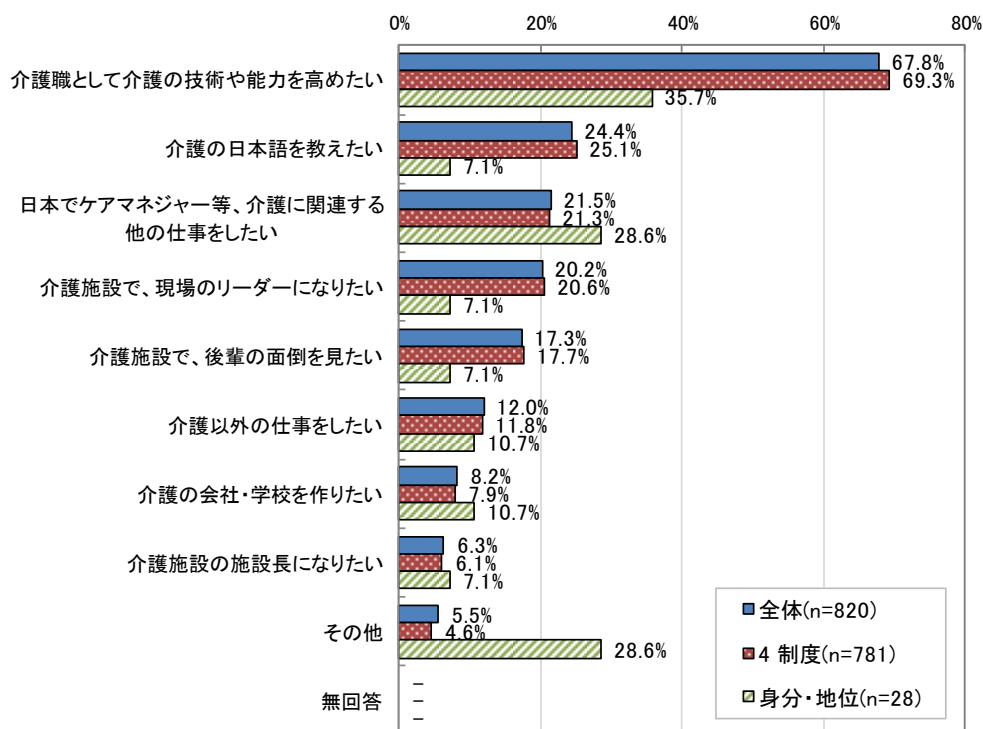


(74) Q44. 【現在の在留資格が、特定活動、介護、技能実習、特定技能、その他の方】日本での在留希望期間



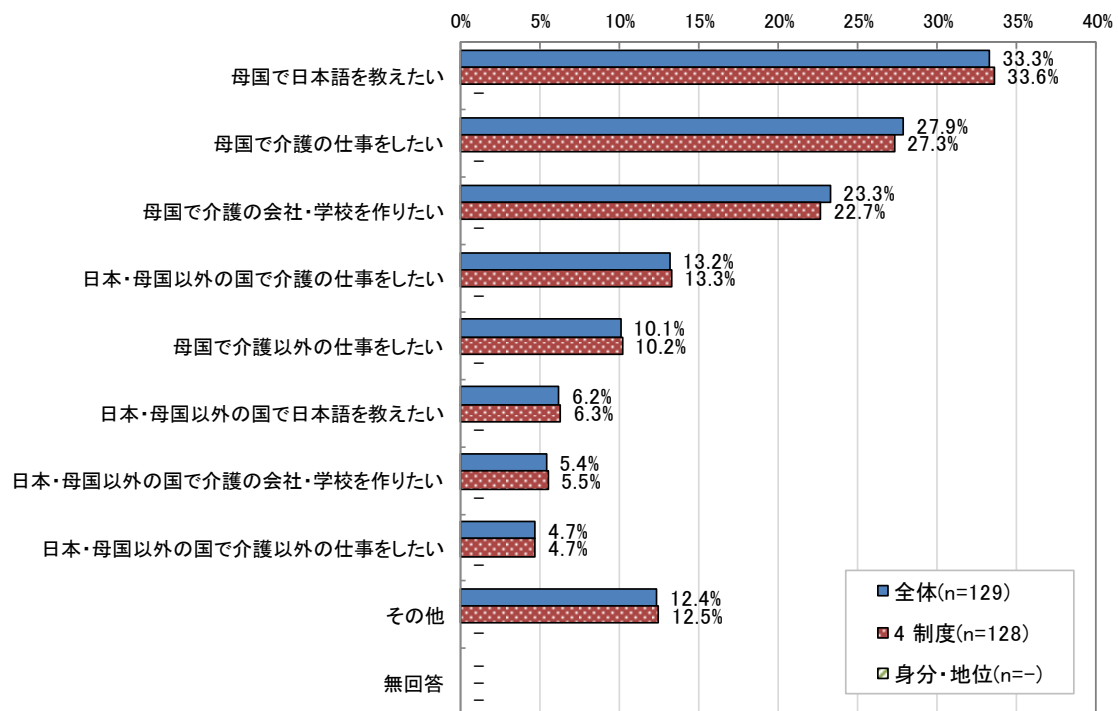
(75) Q45-1. 5年以上在留を希望する方の5年後に希望する仕事内容（複数選択）

Q45-1. 5年以上在留を希望する方の5年後に希望する仕事内容（複数選択） (n=820)



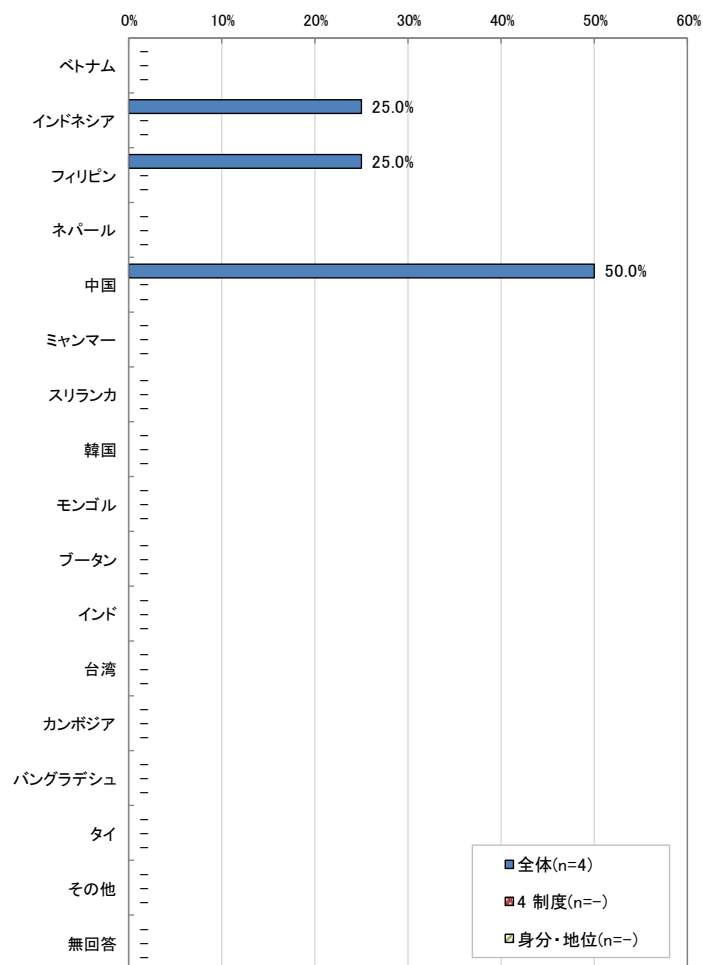
(76) Q45-2. 5年未満在留を希望する方の5年後に希望する仕事内容（複数選択）

Q45-2. 5年未満在留を希望する方の5年後に希望する仕事内容（複数選択）（n=129）



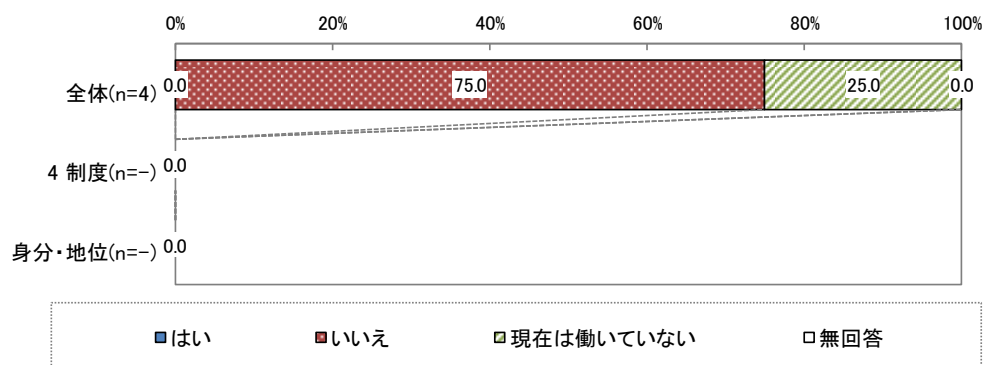
(77) Q46-1. 【国外居住者】生活している国

Q46-1. 生活している国(n=4)



(78) Q46-2. 【国外居住者】介護の仕事の有無

Q46-2. 介護の仕事の有無 (n=4)



<基本情報に関するクロス集計表>

(79) Q1. 国籍・地域×Q2. 現在の在留資格

Q1. 国籍・地域×Q2. 現在の在留資格

	全体	在留資格 「介護」	特定活動 (EPA介 護福祉士)	技能実習	特定技能	永住者	日本人の 配偶者等	定住者(日 系人等)	その他	国外(日本 にはいない)	不明
全体	2089 100%	1031 49.4%	119 5.7%	7 0.3%	24 1.1%	697 33.4%	122 5.8%	33 1.6%	45 2.2%	4 0.2%	7 0.3%
中国	499 100%	146 29.3%	—	1 0.2%	8 1.6%	270 54.1%	49 9.8%	13 2.6%	6 1.2%	2 0.4%	4 0.8%
韓国	373 100%	19 5.1%	—	—	—	293 78.6%	26 7.0%	7 1.9%	27 7.2%	—	1 0.3%
ベトナム	371 100%	337 90.8%	11 3.0%	2 0.5%	7 1.9%	5 1.3%	6 1.6%	—	3 0.8%	—	—
フィリピン	246 100%	122 49.6%	68 27.6%	1 0.4%	—	34 13.8%	14 5.7%	3 1.2%	2 0.8%	1 0.4%	1 0.4%
インドネシア	187 100%	128 68.4%	40 21.4%	2 1.1%	3 1.6%	6 3.2%	6 3.2%	1 0.5%	—	1 0.5%	—
ネパール	152 100%	150 98.7%	—	—	1 0.7%	1 0.7%	—	—	—	—	—
ミャンマー	54 100%	45 83.3%	—	—	3 5.6%	2 3.7%	2 3.7%	2 3.7%	—	—	—
台湾	43 100%	10 23.3%	—	—	1 2.3%	18 41.9%	10 23.3%	2 4.7%	2 4.7%	—	—
ブラジル	30 100%	—	—	—	—	23 76.7%	4 13.3%	3 10.0%	—	—	—
その他	134 100%	74 55.2%	—	1 0.7%	1 0.7%	45 33.6%	5 3.7%	2 1.5%	5 3.7%	—	1 0.7%

(80) Q1. 国籍・地域×Q3. 年齢

Q1. 国籍・地域×Q3. 年齢

	全体	18～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60歳以上	不明
全体	2089 100%	—	139 6.7%	495 23.7%	402 19.2%	215 10.3%	359 17.2%	311 14.9%	168 8.0%	—
中国	499 100%	—	18 3.6%	43 8.6%	54 10.8%	71 14.2%	191 38.3%	101 20.2%	21 4.2%	—
韓国	373 100%	—	—	4 1.1%	17 4.6%	14 3.8%	74 19.8%	139 37.3%	125 33.5%	—
ベトナム	371 100%	—	69 18.6%	195 52.6%	81 21.8%	19 5.1%	6 1.6%	—	1 0.3%	—
フィリピン	246 100%	—	8 3.3%	29 11.8%	87 35.4%	61 24.8%	39 15.9%	20 8.1%	2 0.8%	—
インドネシア	187 100%	—	15 8.0%	77 41.2%	74 39.6%	14 7.5%	5 2.7%	2 1.1%	—	—
ネパール	152 100%	—	17 11.2%	78 51.3%	47 30.9%	6 3.9%	2 1.3%	2 1.3%	—	—
ミャンマー	54 100%	—	3 5.6%	23 42.6%	12 22.2%	10 18.5%	1 1.9%	4 7.4%	1 1.9%	—
台湾	43 100%	—	—	3 7.0%	2 4.7%	4 9.3%	9 20.9%	19 44.2%	6 14.0%	—
ブラジル	30 100%	—	4 13.3%	2 6.7%	2 6.7%	3 10.0%	7 23.3%	8 26.7%	4 13.3%	—
その他	134 100%	—	5 3.7%	41 30.6%	26 19.4%	13 9.7%	25 18.7%	16 11.9%	8 6.0%	—

(81) Q1. 国籍・地域×Q4. 性別

Q1. 国籍・地域×Q4. 性別

	全体	男性	女性	その他	不明
全体	2089 100% 	502 24.0% 	1582 75.7% 	5 0.2%	—
中国	499 100% 	114 22.8% 	384 77.0% 	1 0.2%	—
韓国	373 100% 	73 19.6% 	298 79.9% 	2 0.5%	—
ベトナム	371 100% 	78 21.0% 	292 78.7% 	1 0.3%	—
フィリピン	246 100% 	43 17.5% 	202 82.1% 	1 0.4%	—
インドネシア	187 100% 	71 38.0% 	116 62.0% 	—	—
ネパール	152 100% 	49 32.2% 	103 67.8% 	—	—
ミャンマー	54 100% 	9 16.7% 	45 83.3% 	—	—
台湾	43 100% 	10 23.3% 	33 76.7% 	—	—
ブラジル	30 100% 	4 13.3% 	26 86.7% 	—	—
その他	134 100% 	51 38.1% 	83 61.9% 	—	—

(82) Q1. 国籍・地域×Q5. 都道府県

Q1. 国籍・地域×Q5. 都道府県

	全体	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
全体	2078	26	3	15	33	8	15	7	25	33	35
	100%	1.3%	0.1%	0.7%	1.6%	0.4%	0.7%	0.3%	1.2%	1.6%	1.7%
中国	493	4	1	4	5	5	7	3	5	6	11
	100%	0.8%	0.2%	0.8%	1.0%	1.0%	1.4%	0.6%	1.0%	1.2%	2.2%
韓国	372	2	—	3	6	1	5	1	2	3	4
	100%	0.5%	—	0.8%	1.6%	0.3%	1.3%	0.3%	0.5%	0.8%	1.1%
ベトナム	371	8	—	4	10	—	—	—	2	6	4
	100%	2.2%	—	1.1%	2.7%	—	—	—	0.5%	1.6%	1.1%
フィリピン	244	4	1	1	2	2	1	—	3	4	3
	100%	1.6%	0.4%	0.4%	0.8%	0.8%	0.4%	—	1.2%	1.6%	1.2%
インドネシア	186	2	—	1	1	—	—	1	3	1	4
	100%	1.1%	—	0.5%	0.5%	—	—	0.5%	1.6%	0.5%	2.2%
ネパール	152	—	—	—	3	—	—	2	7	6	3
	100%	—	—	—	2.0%	—	—	1.3%	4.6%	3.9%	2.0%
ミャンマー	54	1	—	—	1	—	—	—	1	—	—
	100%	1.9%	—	—	1.9%	—	—	—	1.9%	—	—
台湾	43	2	—	—	—	—	—	—	1	—	—
	100%	4.7%	—	—	—	—	—	—	2.3%	—	—
ブラジル	30	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
	100%	—	—	—	—	—	3.3%	—	—	—	—
その他	133	3	1	2	5	—	1	—	1	7	6
	100%	2.3%	0.8%	1.5%	3.8%	—	0.8%	—	0.8%	5.3%	4.5%

	全体	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
全体	2078	111	114	254	168	26	15	9	23	15	26
	100%	5.3%	5.5%	12.2%	8.1%	1.3%	0.7%	0.4%	1.1%	0.7%	1.3%
中国	493	34	26	76	50	6	12	3	9	3	10
	100%	6.9%	5.3%	15.4%	10.1%	1.2%	2.4%	0.6%	1.8%	0.6%	2.0%
韓国	372	19	20	46	29	2	—	—	5	4	4
	100%	5.1%	5.4%	12.4%	7.8%	0.5%	—	—	1.3%	1.1%	1.1%
ベトナム	371	19	14	41	19	11	—	2	7	3	5
	100%	5.1%	3.8%	11.1%	5.1%	3.0%	—	0.5%	1.9%	0.8%	1.3%
フィリピン	244	10	11	22	25	3	1	—	1	1	2
	100%	4.1%	4.5%	9.0%	10.2%	1.2%	0.4%	—	0.4%	0.4%	0.8%
インドネシア	186	14	17	17	31	1	1	1	—	2	—
	100%	7.5%	9.1%	9.1%	16.7%	0.5%	0.5%	0.5%	—	1.1%	—
ネパール	152	1	12	9	3	—	—	1	—	—	—
	100%	0.7%	7.9%	5.9%	2.0%	—	—	0.7%	—	—	—
ミャンマー	54	1	2	11	2	—	—	—	—	1	—
	100%	1.9%	3.7%	20.4%	3.7%	—	—	—	—	1.9%	—
台湾	43	5	5	11	2	—	1	—	1	—	1
	100%	11.6%	11.6%	25.6%	4.7%	—	2.3%	—	2.3%	—	2.3%
ブラジル	30	2	—	—	2	—	—	1	—	—	3
	100%	6.7%	—	—	6.7%	—	—	3.3%	—	—	10.0%
その他	133	6	7	21	5	3	—	1	—	1	1
	100%	4.5%	5.3%	15.8%	3.8%	2.3%	—	0.8%	—	0.8%	0.8%

	全体	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
全体	2078	41	35	138	42	19	45	300	119	32	18
	100%	2.0%	1.7%	6.6%	2.0%	0.9%	2.2%	14.4%	5.7%	1.5%	0.9%
中国	493	7	4	29	7	5	11	52	19	4	1
	100%	1.4%	0.8%	5.9%	1.4%	1.0%	2.2%	10.5%	3.9%	0.8%	0.2%
韓国	372	6	6	23	2	6	19	79	28	4	2
	100%	1.6%	1.6%	6.2%	0.5%	1.6%	5.1%	21.2%	7.5%	1.1%	0.5%
ベトナム	371	8	3	14	3	1	6	82	34	8	11
	100%	2.2%	0.8%	3.8%	0.8%	0.3%	1.6%	22.1%	9.2%	2.2%	3.0%
フィリピン	244	5	10	31	1	4	6	36	13	1	—
	100%	2.0%	4.1%	12.7%	0.4%	1.6%	2.5%	14.8%	5.3%	0.4%	—
インドネシア	186	3	3	13	4	—	—	16	9	2	3
	100%	1.6%	1.6%	7.0%	2.2%	—	—	8.6%	4.8%	1.1%	1.6%
ネパール	152	3	1	10	16	—	1	17	3	—	—
	100%	2.0%	0.7%	6.6%	10.5%	—	0.7%	11.2%	2.0%	—	—
ミャンマー	54	3	1	—	—	1	1	6	5	1	—
	100%	5.6%	1.9%	—	—	1.9%	1.9%	11.1%	9.3%	1.9%	—
台湾	43	—	—	3	—	—	1	5	2	1	1
	100%	—	—	7.0%	—	—	2.3%	11.6%	4.7%	2.3%	2.3%
ブラジル	30	2	4	7	2	2	—	—	1	1	—
	100%	6.7%	13.3%	23.3%	6.7%	6.7%	—	—	3.3%	3.3%	—
その他	133	4	3	8	7	—	—	7	5	10	—
	100%	3.0%	2.3%	6.0%	5.3%	—	—	5.3%	3.8%	7.5%	—

	全体	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
全体	2078	4	3	40	36	21	17	20	10	6	78
	100%	0.2%	0.1%	1.9%	1.7%	1.0%	0.8%	1.0%	0.5%	0.3%	3.8%
中国	493	2	1	8	12	6	7	6	2	3	13
	100%	0.4%	0.2%	1.6%	2.4%	1.2%	1.4%	1.2%	0.4%	0.6%	2.6%
韓国	372	1	—	6	10	4	1	—	—	1	12
	100%	0.3%	—	1.6%	2.7%	1.1%	0.3%	—	—	0.3%	3.2%
ベトナム	371	—	2	5	7	7	—	2	—	—	9
	100%	—	0.5%	1.3%	1.9%	1.9%	—	0.5%	—	—	2.4%
フィリピン	244	1	—	8	1	1	—	5	1	—	5
	100%	0.4%	—	3.3%	0.4%	0.4%	—	2.0%	0.4%	—	2.0%
インドネシア	186	—	—	7	6	2	7	4	3	1	4
	100%	—	—	3.8%	3.2%	1.1%	3.8%	2.2%	1.6%	0.5%	2.2%
ネパール	152	—	—	—	—	—	—	1	4	—	28
	100%	—	—	—	—	—	—	0.7%	2.6%	—	18.4%
ミャンマー	54	—	—	3	—	—	—	2	—	—	4
	100%	—	—	5.6%	—	—	—	3.7%	—	—	7.4%
台湾	43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	100%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.3%
ブラジル	30	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
	100%	—	—	—	—	—	3.3%	—	—	—	—
その他	133	—	—	3	—	1	1	—	—	1	2
	100%	—	—	2.3%	—	0.8%	0.8%	—	—	0.8%	1.5%

	全体	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	不明
全体	2078	21	17	17	9	6	3	20	—
	100%	1.0%	0.8%	0.8%	0.4%	0.3%	0.1%	1.0%	—
中国	493	2	3	3	6	—	—	—	—
	100%	0.4%	0.6%	0.6%	1.2%	—	—	—	—
韓国	372	—	1	2	1	—	—	2	—
	100%	—	0.3%	0.5%	0.3%	—	—	0.5%	—
ベトナム	371	1	2	3	—	2	3	3	—
	100%	0.3%	0.5%	0.8%	—	0.5%	0.8%	0.8%	—
フィリピン	244	1	—	1	1	3	—	12	—
	100%	0.4%	—	0.4%	0.4%	1.2%	—	4.9%	—
インドネシア	186	2	—	—	—	—	—	—	—
	100%	1.1%	—	—	—	—	—	—	—
ネパール	152	7	8	4	—	1	—	1	—
	100%	4.6%	5.3%	2.6%	—	0.7%	—	0.7%	—
ミャンマー	54	7	—	—	—	—	—	—	—
	100%	13.0%	—	—	—	—	—	—	—
台湾	43	—	—	—	—	—	—	—	—
	100%	—	—	—	—	—	—	—	—
ブラジル	30	—	—	—	1	—	—	—	—
	100%	—	—	—	3.3%	—	—	—	—
その他	133	1	3	4	—	—	—	2	—
	100%	0.8%	2.3%	3.0%	—	—	—	1.5%	—

(83) Q1. 国籍・地域×Q6. 現在の日本語での会話力

Q1. 国籍・地域×Q6. 現在の日本語での会話力

	全体	自分の言いたいことはほとんど相手に伝えることができる・相手の話している内容はほとんど理解することができる	自分の言いたいことは半分程度相手に伝えることができる・相手の話している内容は半分程度理解することができる	日常生活に困らない程度に会話ができるが、たまにわからない用語がある	基本的な挨拶の会話はできる	日本語での会話はほとんどできない	不明
全体	2089 100%	1620 77.5%	289 13.8%	175 8.4%	5 0.2%	-	-
中国	499 100%	407 81.6%	58 11.6%	33 6.6%	1 0.2%	-	-
韓国	373 100%	361 96.8%	7 1.9%	5 1.3%	-	-	-
ベトナム	371 100%	254 68.5%	72 19.4%	44 11.9%	1 0.3%	-	-
フィリピン	246 100%	132 53.7%	75 30.5%	36 14.6%	3 1.2%	-	-
インドネシア	187 100%	132 70.6%	37 19.8%	18 9.6%	-	-	-
ネパール	152 100%	109 71.7%	23 15.1%	20 13.2%	-	-	-
ミャンマー	54 100%	45 83.3%	4 7.4%	5 9.3%	-	-	-
台湾	43 100%	38 88.4%	5 11.6%	-	-	-	-
ブラジル	30 100%	29 96.7%	-	1 3.3%	-	-	-
その他	134 100%	113 84.3%	8 6.0%	13 9.7%	-	-	-

(84) Q1. 国籍・地域×Q7. 現在の日本語の文章力

Q1. 国籍・地域×Q7. 現在の日本語の文章力

	全体	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる(日本語能力試験(JLPT)N1レベル相当 または それ以上)	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる(日本語能力試験(JLPT)N2レベル相当)	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる(日本語能力試験(JLPT)N3レベル相当)	基本的な日本語を理解することができる(日本語能力試験(JLPT)N4レベル相当)	基本的な日本語をある程度理解することができる(日本語能力試験(JLPT)N5レベル相当)	不明
全体	2089 100%	782 37.4%	823 39.4%	437 20.9%	35 1.7%	12 0.6%	-
中国	499 100%	256 51.3%	187 37.5%	51 10.2%	3 0.6%	2 0.4%	-
韓国	373 100%	326 87.4%	40 10.7%	5 1.3%	1 0.3%	1 0.3%	-
ベトナム	371 100%	43 11.6%	217 58.5%	101 27.2%	5 1.3%	5 1.3%	-
フィリピン	246 100%	22 8.9%	103 41.9%	104 42.3%	17 6.9%	-	-
インドネシア	187 100%	13 7.0%	97 51.9%	77 41.2%	-	-	-
ネパール	152 100%	12 7.9%	75 49.3%	60 39.5%	5 3.3%	-	-
ミャンマー	54 100%	18 33.3%	31 57.4%	5 9.3%	-	-	-
台湾	43 100%	28 65.1%	13 30.2%	2 4.7%	-	-	-
ブラジル	30 100%	19 63.3%	7 23.3%	4 13.3%	-	-	-
その他	134 100%	45 33.6%	53 39.6%	28 20.9%	4 3.0%	4 3.0%	-

(85) Q1. 国籍・地域×Q8. 最初に来日した年

Q1. 国籍・地域×Q8. 最初に来日した年

	全体	1980年 以前	1981年 ～1990 年	1991年 ～2000 年	2001年 ～2010 年	2011年 ～2016 年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
全体	1713 100%	5 0.3%	78 4.6%	248 14.5%	297 17.3%	274 16.0%	158 9.2%	241 14.1%	338 19.7%	59 3.4%	9 0.5%
中国	477 100%	1 0.2%	12 2.5%	99 20.8%	190 39.8%	54 11.3%	21 4.4%	31 6.5%	55 11.5%	9 1.9%	1 0.2%
韓国	152 100%	1 0.7%	32 21.1%	61 40.1%	40 26.3%	13 8.6%	3 2.0%	— —	2 1.3%	— —	— —
ベトナム	347 100%	— —	1 0.3%	15 4.3%	7 2.0%	57 16.4%	47 13.5%	70 20.2%	120 34.6%	25 7.2%	5 1.4%
フィリピン	219 100%	— —	12 5.5%	17 7.8%	26 11.9%	53 24.2%	27 12.3%	39 17.8%	44 20.1%	1 0.5%	— —
インドネシア	165 100%	— —	1 0.6%	4 2.4%	10 6.1%	32 19.4%	21 12.7%	38 23.0%	53 32.1%	6 3.6%	— —
ネパール	136 100%	— —	— —	4 2.9%	3 2.2%	47 34.6%	17 12.5%	38 27.9%	25 18.4%	2 1.5%	— —
ミャンマー	54 100%	— —	1 1.9%	4 7.4%	2 3.7%	4 7.4%	2 3.7%	9 16.7%	22 40.7%	8 14.8%	— —
台湾	40 100%	1 2.5%	7 17.5%	14 35.0%	6 15.0%	6 15.0%	1 2.5%	1 2.5%	3 7.5%	1 2.5%	— —
ブラジル	22 100%	— —	8 36.4%	10 45.5%	4 18.2%	— —	— —	— —	— —	— —	— —
その他	101 100%	2 2.0%	4 4.0%	20 19.8%	9 8.9%	8 7.9%	19 18.8%	15 14.9%	14 13.9%	7 6.9%	3 3.0%
	全体	2022年	2023年	不明							
全体	1713 100%	6 0.4%	— —	— —							
中国	477 100%	4 0.8%	— —	— —							
韓国	152 100%	— —	— —	— —							
ベトナム	347 100%	— —	— —	— —							
フィリピン	219 100%	— —	— —	— —							
インドネシア	165 100%	— —	— —	— —							
ネパール	136 100%	— —	— —	— —							
ミャンマー	54 100%	2 3.7%	— —	— —							
台湾	40 100%	— —	— —	— —							
ブラジル	22 100%	— —	— —	— —							
その他	101 100%	— —	— —	— —							

(86) Q1. 国籍・地域×Q9. 最初に来日したときの在留資格

Q1. 国籍・地域×Q9. 最初に来日したときの在留資格

	全体	留学	特定活動 (EPA介 護福祉士 候補者)	技能実習	特定技能	定住者(日 系人等)	日本人の 配偶者等	家族滞在	その他	不明
全体	1837 100%	956 52.0%	246 13.4%	159 8.7%	1 0.1%	71 3.9%	294 16.0%	23 1.3%	73 4.0%	14 0.8%
中国	492 100%	200 40.7%	—	73 14.8%	—	34 6.9%	148 30.1%	14 2.8%	18 3.7%	5 1.0%
韓国	160 100%	56 35.0%	—	—	—	6 3.8%	66 41.3%	7 4.4%	24 15.0%	1 0.6%
ベトナム	369 100%	267 72.4%	43 11.7%	53 14.4%	—	—	2 0.5%	—	3 0.8%	1 0.3%
フィリピン	244 100%	102 41.8%	89 36.5%	3 1.2%	—	2 0.8%	32 13.1%	1 0.4%	12 4.9%	3 1.2%
インドネシア	186 100%	51 27.4%	114 61.3%	15 8.1%	—	2 1.1%	2 1.1%	—	1 0.5%	1 0.5%
ネパール	152 100%	149 98.0%	—	—	—	—	1 0.7%	—	1 0.7%	1 0.7%
ミャンマー	54 100%	41 75.9%	—	9 16.7%	—	—	2 3.7%	—	2 3.7%	—
台湾	42 100%	15 35.7%	—	—	1 2.4%	1 2.4%	19 45.2%	—	6 14.3%	—
ブラジル	25 100%	—	—	—	—	17 68.0%	6 24.0%	—	2 8.0%	—
その他	113 100%	75 66.4%	—	6 5.3%	—	9 8.0%	16 14.2%	1 0.9%	4 3.5%	2 1.8%

令和5年度 厚生労働省
老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

外国人介護福祉士の活動実態に関する調査研究事業 報告書

令和6年(2024年)3月

発行 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-9 JA 共済ビル 9階・10階
Tel 03-3221-7011(代表)
FAX 03-3221-7022